

2025 年度 シラバス (講義要綱)

2022 年度以前入学生
環境情報学部



四日市大学

目 次

【環境情報学部】卒業必要単位数

【2022年度以前入学生】

区分			卒業必要単位数						
全学共通教育科目	基礎科目		必修	6単位			50単位以上	全学共通教育科目・専門教育科目から自由に18単位以上	合計130単位以上
	語学科目		必修	4単位 留学生は日本語で4単位					
			選択	4単位以上 留学生は日本語で4単位以上					
	情報科目		必修	6単位					
			選択						
	地域科目		選択	4単位以上					
	一般教養科目	社会科学系列	選択	4単位以上					
		人文科学系列	選択	4単位以上					
		自然科学系列	選択	4単位以上					
	キャリア科目		必修	4単位					
			選択						
	※ 特別科目		選択						
スキル科目	社会調査士養成ユニット	選択	いずれかのユニットから10単位以上						
	公務員養成ユニット	選択							
	おもてなし経営ユニット	選択							
	英語力養成ユニット	選択							
	メディアデザインユニット	選択							
専門教育科目	学部基礎科目		必修	6単位			62単位以上		
	セミナー		必修	12単位					
	自然環境分野	選択必修	いずれかの分野を選択し、分野必修6単位と同じ分野から18単位以上	選択した以外の分野および分野共通科目から12単位以上	左記の条件を満たし、さらに8単位以上				
	メディア情報分野								
	自然環境分野	選択							
	メディア情報分野								
分野共通科目		選択							

※特別科目の他大学開放科目については、全学共通教育科目の必要単位数を超えて修得した科目として認定し、10単位まで含めることができる。

カリキュラム表の見方

区分	基礎や専門、専攻・分野・コースなどの区分を記載します。
授業科目名	科目の名称・サブタイトルを記載します。
単位数	科目ごとの単位数を記載します。丸付数字は必修科目を表します。
配当年次	科目が開講されている学年・学期を記載します。 ○ ……半期週1回開講 ◎ ……半期週2回開講 集 ……集中講義 ▲ ……その他の開講 ……不開講科目
講師区分	本学の教員かそうでないかを記載します。 兼 ……他学部所属教員 非 ……他大学、他組織所属教員 空白……本学部所属の教員
担当教員	科目を担当する教員名を記載します。
ページ	シラバス掲載ページを記載します。
備考	特記事項を記載します。

区分			2017～2022年度入学生 授業科目名	読み替え科目名	単位 数	配当年次								講 師 区 分	担当教員	ペ ー ジ	備考			
						1年次		2年次		3年次		4年次								
						前	後	前	後	前	後	前	後							
全学共通教育科目	基礎 科目	必修	「人間たれ」	「人間たれ」Ⅰ	②	○									鬼頭 浩文 他	1				
			入門演習Ⅰ	入門演習a	②	○									池田 幹男	2				
														黒田 淳哉						
														樋口 晶子						
														前川 督雄						
														柳澤 翔士	3					
	入門演習Ⅱ	入門演習b	②		○								池田 幹男							
												黒田 淳哉								
												樋口 晶子								
		必修	基礎英語Ⅰ	基礎英語Ⅰ	②	○										青木 陽子	4	留学生対象科目		
			基礎英語Ⅱ	基礎英語Ⅱ	②		○									樋口 晶子	5			
			基礎日本語Ⅰ	基礎日本語Ⅰ	②	◎										兼 加納 光	6			
			基礎日本語Ⅱ	基礎日本語Ⅱ	②		◎									非 伊藤 晴苗				
																兼 加納 光			7	
																非 伊藤 晴苗				
																兼 加納 光				
																非 伊藤 晴苗				
			選択	英語コミュニケーションⅠ	英語コミュニケーションⅠ	2			○								青木 陽子		8	留学生対象科目
				英語コミュニケーションⅡ	英語コミュニケーションⅡ	2				○							樋口 晶子		9	
				中国語Ⅰ	中国語Ⅰ	2				○							ゴードン リース		10	
				中国語Ⅱ	中国語Ⅱ	2					○						青木 陽子		11	
		ポルトガル語Ⅰ		ポルトガル語Ⅰ	2					○						樋口 晶子	12			
		ポルトガル語Ⅱ		ポルトガル語Ⅱ	2						○					兼 加納 光	13			
		海外語学研修a(英語)		海外語学研修a(英語)	2							▲				兼 加納 光	14			
		海外語学研修b(中国語)		海外語学研修b(中国語)	2											兼 加納 光	15			
		日本語中級Ⅰ		日本語中級Ⅰ	2				○							兼 加納 光	16			
		日本語中級Ⅱ		日本語中級Ⅱ	2					○						兼 加納 光	17			
		日本語上級Ⅰ		キャリアのための日本語力Ⅰ	2						○					兼 加納 光	18			
		日本語上級Ⅱ		キャリアのための日本語力Ⅱ	2							○				兼 加納 光	19			
		コンピュータリテラシー			④											兼 加納 光	20			
		情報倫理		技術者研究者倫理	②	○										兼 加納 光	21			
		情報科学		情報科学概論	2	○										兼 加納 光	22			
		情報と職業		地域社会とメディア情報	2			○								兼 加納 光	23			
		アプリケーション演習Ⅰ			2											兼 加納 光	24			
		アプリケーション演習Ⅱ		文書表現ツール2	2				○							兼 加納 光	25			
		地域 科目	四日市学	四日市学	2	○										柳澤 翔士	26	オンデマンド授業		
			地域社会の歴史		2	○										兼 岡 良浩 他	27			
			市民教育		2	○										兼 浅井 雅	28			
			人権論	「人間たれ」Ⅱ	2			○								兼 フェリペ フェハーリ	29			
			地域社会と環境	地域社会と環境	2	○										兼 小林 慶太郎 他	30			
			地域防災		2	○										兼 野呂 達哉	31			
			地域連携特別講義a	全学共通特別講義a	2			▲								兼 鬼頭 浩文	32			
			地域連携特別講義b		2											兼 倉田 英司	33			
			経営学		2			○								兼 前川 督雄	34			
			経済学	経済学概論	2			○								兼 野呂 達哉	35			
	政治学		政治学概論	2	○										兼 池田 幹男	36				
	社会学		社会学概論	2	○										兼 黒田 淳哉	37				
	一般 教養 科目	社会科学 系列	ジェンダー論		2			○								兼 柳瀬 元志	38	オンデマンド授業		
			メディアリテラシー	メディアリテラシー	2	○										兼 松本 彩月	39			
			社会福祉概論	社会福祉概論	2			○								兼 松本 彩月	40			
			日本国憲法	日本国憲法概論	2	○										兼 三田 泰雅	41			
			法学		2			○								兼 三田 泰雅	42			
			民法入門		2				○							兼 前川 督雄	43			
			倫理学		2			○								兼 松本 彩月	44			
哲学			哲学概論	2	○										兼 松本 彩月	45				
文学			文学概論	2	○										兼 中西 紀夫	46				
文章表現論				2	○										兼 中西 紀夫	47				
文化論				2			○								兼 富田 与	48				
教育学			教育学概論	2			○								兼 永井 博	49				
日本史概論		歴史学概論	2	○										兼 黒田 司	50					
世界史概論			2			○								兼 浅井 雅	51					
地理学概論		地理学概論	2			○								兼 浅井 雅	52					
地誌			2											兼 倉田 英司	53					
自然科学 系列		科学的思考論	河川環境学	2	○											大八木 麻希	54	オンデマンド授業		
		科学思想史		2																
		自然科学概論		2																
		数学概論	数学概論	2	○											非 金岩 稔	55			
		化学概論	化学概論	2	○											非 牧田 直子	56			
		地学概論	地学概論	2	○											非 森 康則	57			
		生物学概論	生物学概論	2			○									非 新井 優一	58			
		生物と進化	野生動物学	2			○									非 野呂 達哉	59			
	環境論	農業環境学	2			○									非 浦畑 夢	60				
	心理学	心理学概論	2			○									兼 フェリペ フェハーリ	61				
			2																	

区分		2017～2022年度入学生 授業科目名	読み替え科目名	単位 数	配当年次								講 師 区 分	担当教員	ペ ー ジ	備考
					1年次		2年次		3年次		4年次					
					前	後	前	後	前	後	前	後				
全学共通教育科目	アキ 科 ヤ リ	キャリア基礎Ⅰ	キャリア基礎b	②		○							三田 泰雅	60		
		キャリア基礎Ⅱ	キャリア基礎c	②			○						小林 慶太郎	61		
		キャリア基礎Ⅲ	キャリア基礎a(再)	2				○					小西 琴絵	62	オンデマンド授業	
	特 別 科 目	ボランティア活動a	ボランティア活動a	2	▲								高田 晴美	63		
		ボランティア活動b	ボランティア活動b	2	▲								松本 彩月	64		
		国際協力研修	国際協力研修	2	▲								松本 彩月	65		
		インターンシップ	インターンシップa	2			▲						永井 博	66		
		他大学開放科目a	他大学開放科目a	2			▲						岡 良浩			
		他大学開放科目b	他大学開放科目b	2			▲						兼 鬼頭 浩文			
		他大学開放科目c	他大学開放科目c	2			▲									
		他大学開放科目d	他大学開放科目d	2			▲									
		他大学開放科目e	他大学開放科目e	2			▲									
		公 務 員 養 成	公務のための数的推理	公務のための数的推理	2		○							兼 高田 晴美	67	
	公務のための判断推理		公務のための判断推理	2	○								兼 高田 晴美	68		
	公務のための現代文		公務のための現代文・資料解釈	2		○							兼 高田 晴美	69	オンデマンド授業	
	公務のための政治学		公務のための政治学	2				○					兼 小林 慶太郎	70		
	公務のための経済学		公務のための経済学	2				○					兼 鬼頭 浩文	71	オンデマンド授業	
	公務のための法学		公務のための法学	2				○					兼 中西 紀夫	72		
	公務のための人文科学		公務のための人文科学	2					○				兼 浅井 雅	73		
	公務のための自然科学		公務のための自然科学	2						○			兼 高田 晴美	74		
	公務のための英文理解		公務のための英文理解	2							○		兼 ゴードン リース	75	オンデマンド授業	
	公務のための論文・面接		公務のための論文・面接	2								◎	兼 松本 彩月	76		
	お も て な し 経 営	ビジネスマナー	ビジネスマナー	2		○							兼 石田 京子	77		
		サービス経営論	サービス経営論	2												
		販売士講座	販売士講座	2												
		ビジネスコミュニケーション	ビジネスコミュニケーション	2				○					非 石田 京子	78		
		グローバルコミュニケーション	文化人類学	2				○					兼 富田 与	79		
		オペレーション演習	オペレーション演習	2												
		ビジネスマネジメント	経営分析論	2					○				兼 二村 建也	80		
		マーケティング演習	マーケティング実践論	2					○				兼 川崎 綾子	81		
		おもてなし特別講義a	経営ケーススタディ	2					○				兼 岡 良浩	82		
		おもてなし特別講義b	おもてなし特別講義b	2									兼 川崎 綾子			
	英 語 力 養 成	観光英語Ⅰ	ビジネス英語e	2	○								兼 ゴードン リース	83		
		観光英語Ⅱ	観光英語Ⅱ	2												
		コンピュータ英語Ⅰ	ビジネス英語a	2	○											
		コンピュータ英語Ⅱ	ビジネス英語b	2		○							樋口 晶子	84		
		英語表現Ⅰ	ビジネス英語c	2			○						樋口 晶子	85		
		英語表現Ⅱ	ビジネス英語d	2				○					青木 陽子	86		
		ビジネス英語Ⅰ	ビジネス英語アドバンストⅠ	2				○					青木 陽子	87		
		ビジネス英語Ⅱ	ビジネス英語アドバンストⅡ	2					○				兼 ゴードン リース	88		
		検定英語Ⅰ	英語リーディングⅠ	2						○			樋口 晶子	89		
		検定英語Ⅱ	英語リーディングⅡ	2							○		樋口 晶子	90		
	メ デ ィ ア デ ザ ィ ン	メディアツールa	グラフィックツール1	2	○								兼 ゴードン リース	91		
		メディアツールb	グラフィックツール2	2		○							非 西尾 秀樹	92		
		メディアツールc	ビデオツール	2		○							非 山本 努武	93		
		メディアツールd	電子音楽ツール	2				○					非 西尾 秀樹	94		
		Webデザインa	Webデザインa	2									非 柳澤 翔士	95		
		Webデザインb	Webデザイン	2						○						
		Webプログラミングa	Webプログラミング1	2		○							非 山本 努武	96		
		Webプログラミングb	Webプログラミング1	2									池田 幹男			
		インターネット論	ITリテラシー	2			○						片山 清和			
		基礎数学	データサイエンスⅠ	2	○								柳澤 翔士	97		
	数 理 ・ 統 計 力 養 成	統計リテラシー	データ操作ツール1	2	○								古山 歩	98		
		確率基礎	データ操作ツール2	2			○						非 新井 優一	99		
		微分積分	データサイエンスⅡ	2				○					池田 幹男	100		
		線型代数	AI概論	2				○					古山 歩	101		
		データ分析の基礎	統計学入門	2					○				木藤 裕也	102		
		統計的分析	社会統計学	2				○					非 小西 凌	103		
		データ解析の技法	データ解析の技法	2					○				非 小西 凌	104		
		データ統計処理	データサイエンスⅢ	2					○				非 新井 優一	105		
		データサイエンスⅠ	データサイエンスⅢ	2						○			片山 清和	106		
		データサイエンスⅡ	データサイエンスⅢ	2												

区分		2017～2022年度入学生 授業科目名	読み替え科目名	単 位 数	配当年次								講 師 区 分	担当教員	ペ ー ジ	備考		
					1年次		2年次		3年次		4年次							
					前	後	前	後	前	後	前	後						
専門教育科目	学部基礎	必修	環境情報学概論Ⅰ	環境情報学概論Ⅰ	②	○								黒田 淳哉 他	108			
			環境情報学概論Ⅱ	環境情報学概論Ⅱ	②		○							黒田 淳哉 他	109			
			四日市公害論	都市環境学	②				集					非	森 康則	110		
														片山 清和	111			
	演習分野	必修	基礎演習a	基礎演習a	②										黒田 淳哉	112		
															黒田 淳哉			
															足立 明信			
															柳澤 翔士			
															柳瀬 元志	113		
															廣住 豊一			
															野呂 達哉			
			基礎演習b	基礎演習b	②										牧田 直子	114		
															片山 清和	115		
															黒田 淳哉			
															足立 明信			
															前川 督雄		116	
															柳瀬 元志			
															大八木 麻希			
			専門演習a	専門演習a	②											野呂 達哉	117	
															大八木 麻希	118		
															片山 清和	119		
															木藤 裕也	120		
															黒田 淳哉	121		
															野呂 達哉	122		
															廣住 豊一	123		
													古山 歩	124				
													前川 督雄	125				
													牧田 直子	126				
	専門演習b	専門演習b	②											柳瀬 元志	127			
													足立 明信	128				
													大八木 麻希	129				
													片山 清和	130				
													木藤 裕也	131				
													黒田 淳哉	132				
													野呂 達哉	133				
													廣住 豊一	134				
													古山 歩	135				
													前川 督雄	136				
	専門演習c		②											牧田 直子	137			
													柳瀬 元志	138				
													足立 明信	139				
													大八木 麻希	140				
													片山 清和	141				
													黒田 淳哉	142				
													野呂 達哉	143				
													廣住 豊一	144				
												古山 歩	145					
												前川 督雄	146					
専門演習d		②											牧田 直子	147				
												柳瀬 元志	148					
												足立 明信	149					
												大八木 麻希	150					
												片山 清和	151					
												黒田 淳哉	152					
												野呂 達哉	153					
												廣住 豊一	154					
												古山 歩	155					
												前川 督雄	156					
分野必修	環境基礎	地球環境学総論	地球環境学	2	○									牧田 直子	157			
		生態学		2			○							柳瀬 元志	158			
		環境保全学	環境保全学	2				○						廣住 豊一	159			
		環境化学	環境化学	2		○								大八木 麻希	160			
		環境化学実験		2										野呂 達哉	161			
		自然調査法	自然調査法	2										牧田 直子	162			
		地域環境論	地域連携環境講義	2	○			○										
		環境エネルギー論	環境エネルギー論	2					集					大八木 麻希	163			
		資源循環論	資源循環論	2										非	千葉 賢	164		
		地理情報システム論	環境データ処理	2										非	森 康則	165		
環境保全		環境倫理学	環境科学	2		○								非	森 康則	166	オンデマンド授業	
		環境政策	環境とまちづくり	2			○							野呂 達哉	167			
		環境保全とツーリズム	ツーリズム論	2				○						廣住 豊一	168			
		環境社会学	環境社会学	2					○					兼 浅井 雅	169			
		環境法	都市環境と法	2									兼 高田 晴美	170				
		都市環境論	都市計画論	2									兼 富田 与					
		海洋学	海洋環境学	2	○			○					非		平 春来里	171		
		生物分類学	海洋生物学	2				○						兼 中西 紀夫	172			
		海洋調査法	伊勢湾海洋実習	2				集						兼 倉田 英司	173			
		環境生態学		環境実験・調査a	環境実験・調査a	2				○						兼 倉田 英司		174
陸水学	陸水環境学			2					○					兼 千葉 賢	175			
森林学	森林環境学			2							集		非	古山 歩	176			
土壌学	土壌環境学			2						○				兼 古山 歩	177			
				2									大八木 麻希	178				
				2									廣住 豊	179				
												兼 大八木 麻希	180					
												兼 山田 容三	181					
												兼 廣住 豊一	182					

区分		2017～2022年度入学生 授業科目名	読み替え科目名	単位 数	配当年次								講 師 区 分	担当教員	ペ ー ジ	備 考	
					1年次		2年次		3年次		4年次						
					前	後	前	後	前	後	前	後					
専門教育科目	食糧と環境	食糧生産学	食糧生産学	2	○									廣住 豊一	181		
		食品微生物学	環境微生物学	2			○						非	刈田 修一	182		
		食品衛生学	生活環境学	2				○					非	刈田 修一	183		
		環境実験・調査b	環境実験・調査b	2			○							廣住 豊一	184		
		農産物流論	流通論	2						○			兼	大八木 麻希	185		
		農業経営論	農業経営論	2					○				兼	川崎 綾子	186		
	メディア情報分野	分野必修	メディア情報と文化	メディア情報と文化	2		○							前川 督雄	187		
			脳・音・光の科学Ⅰ	音と光の科学	2			○						前川 督雄	188		
			ソフトウェア論	ソフトウェア概論	2			○						池田 幹男	189		
			メディアの歴史	メディア概観	2	○								黒田 淳哉	190	オンデマンド授業	
			情報と感性		2												
			音楽とまちづくり		2												
		メディアと社会	脳・音・光の科学Ⅱ	メディア表現の科学	2				○					前川 督雄	191		
			グラフィックデザイン概論		2												
			コミュニケーションデザイン論		2												
			次世代メディア社会	次世代メディア情報	2					○				前川 督雄	192		
			コンピュータ音楽論	先進メディア技術	2					○				柳澤 翔士	193		
			コンピュータグラフィックス	コンピュータグラフィックス	2						○		非	山本 努武	194		
		スタジオと制作	ポップカルチャー論		2												
			感性と創造	感性と創造	2		○							黒田 淳哉	195		
			表現と思想	作品制作	2			○						柳瀬 元志	196		
			映像概論	映像概論	2			○						柳瀬 元志	197		
			照明概論	音響照明技術	2				集					足立 明信	198		
			音響概論	音響照明概論	2				○					黒田 淳哉	199	オンデマンド授業	
	情報	クリエイティブワークⅠ		2													
		クリエイティブワークⅡ		2													
		スタジオ技術論		2													
		イベント制作演習		2													
		ハードウェア論	ハードウェア概論	2		○							片山 清和	200			
		プログラミング	プログラミング実習応用1	2			○						足立 明信	201			
		コンピュータ動作論	ソフトウェア工学概論	2				○					池田 幹男	202			
		システム管理論	プログラミング実習応用2	2				○					足立 明信	203			
		データベースプログラミング	データベース実習	2						○			池田 幹男	204			
		情報システム論	データサイエンス実習	2						○			木藤 裕也	205			
	分野共通科目	メディア情報産業論	メディア情報産業論	2						○			前川 督雄	206			
		特別講義	環境情報特別講義Ⅰ	2													
		環境情報特別講義Ⅲ	2														
		環境情報特別講義Ⅲ	2														
		音楽史	2														
		生命・情報・環境	2														
文化論		日本文化論		2				○					兼	永井 博	207		
		出版文化論		2				○					兼	富田 与	208		
	アジア文化論		2					○				兼	加納 光	209			
		欧米文化論		2													

シラバスの見方

例

授業科目名	社会学概論 ①	科目コード	③ 181203	授業コード	④ 111301
担当教員	三田 泰雅 ②	科目ナンバリング		GLAS1004	⑤
配当年次	1 ⑥	開講学期	前学期 ⑦	単位数	⑧ 2.0
				必修／選択	選択 ⑨
授業の位置づけ ⑩	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい ⑪	この授業では社会学の基礎的な考え方を学びます。社会は人間が集まって作られますが、一方で人間は社会によって作られる側面もあります。私たちはどのように社会をつくっているのか、そして、私たちはいかにして社会に縛られているのか。こうした疑問を考えてゆく授業です。				
到達目標 ⑫	社会学的なものの見方や考え方を身につける				
授業計画 ⑬	第1講 ガイダンス 第2講 規範と価値 第3講 私（わたし）とは誰か 第4講 近代をスポーツから考える 第5講 人は集団をつくる 第6講 家族とは何だろうか 第7講 社会の中のジェンダー 第8講 格差と社会階層 第9講 なぜ学校に行くのか 第10講 都市と村落 第11講 国家と国民社会 第12講 まとめ① 第13講 環境を考える 第14講 社会的排除 第15講 まとめ② 定期試験				
テキスト・教材（参考文献含む） ⑭	<参考文献> 倉沢進・秋元律郎・岩永雅也，2001，『新訂 社会学入門』放送大学出版協会。 石黒格編，2018，『変わりゆく日本人のネットワーク』勁草書房。				
事前・事後学習 ⑮	新聞やニュースに目を通す（毎日20分）				
成績評価方法 ⑯	<評価> 小レポート30%， 中間試験15%， 期末試験55%				
授業内の課題・提出方法 ⑰	<課題> 毎回の授業で小レポートを提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法 ⑱	<フィードバック> 小レポートは翌週の授業で適宜コメントします。				
アクティブ・ラーニング ⑲	ディスカッション、ミニッツペーパー				
実務経験のある教員 ⑳	民間企業勤務、研究機関勤務経験あり。地方都市の社会生活を研究対象としています。				
担当者から一言 ㉑	学生諸君の積極的な参加を期待します。				

- ① 授業科目名：本年度開講の授業科目名です。
- ② 担当教員：授業科目担当者です。
- ③ 科目コード：カリキュラム内の科目ナンバーです。
- ④ 授業コード：時間割順を示すナンバーです。
- ⑤ 科目ナンバリング：別掲の科目ナンバリングを参照のこと。
- ⑥ 配当年次：学年（年次）は、その科目を履修することができる最低学年を表記しています。
- ⑦ 開講学期：授業科目がいつ開講されるかを表記しています。
- ⑧ 単位数：単位数を表記しています。
- ⑨ 必修/選択：「必修」は、卒業のために必ず単位修得しなければならない科目。「選択」は選択科目を表しています。各学部・各専攻で必要な科目かどうかは異なります。各自のカリキュラム表で確認してください。
- ⑩ 授業の位置づけ：卒業認定・学位授与の方針（D P）と当該授業科目の関連が記載されています。
- ⑪ 授業のねらい：どのような授業科目か、この授業の目的・意義を簡潔に示しています。
- ⑫ 到達目標：具体的に習得すべき知識や技能等について記載されています。授業の終了時点でどのような知識や技能（スキル）を身につけることが出来るか、教育目標としているかについて記載されています。
- ⑬ 授業計画：15回の授業について、各回の「テーマ」「内容」を明記しています。なお、授業の進行具合や受講学生の興味・関心に合わせて適宜変更する授業科目もあります。
- ⑭ テキスト・教材（参考文献含む）：テキストには、授業内で実際に使用する教科書を明記しています。授業開始前までに必ず準備してから授業に臨んでください。参考文献については、各授業担当にお尋ねください。
- ⑮ 事前・事後学習：事前・事後学習とは、毎回の授業に出席する際の予習及び復習と考えて取り組んでください。また、履修上他の科目を先行して履修することが望ましい科目がある場合は、こちらに『「○○○Ⅰ」を先行して履修していることが望ましい』など記載されています。
- ⑯ 成績 評価方法：定期試験 60 %、小テスト 40 %のように、評価（ポイント）基準を明記しています。
- ⑰ 授業内の課題・提出方法、⑱ フィードバック方法：授業内で課される課題の内容や提出方法、また、それらのフィードバック方法が記載されています。
- ⑲ アクティブラーニング：アクティブラーニングの要素（キーワード）が書かれています。
- ⑳ 実務経験のある教員：実務経験がある担当教員が、職種や実務経験を通じどのような授業を行うか等を記載しています。
- ㉑ 担当者から一言：履修上の注意の他、シラバスの他の項目で書ききれなかった内容を補足して記載しています。

授業科目名	「人間たれ」		科目コード	171001	授業コード	425101
担当教員	鬼頭 浩文、足立 明信、樋口 晶子、黒田 淳哉、大八木 麻希、柳瀬 元志		科目ナンバリング	GEF1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかねばならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。					
授業のねらい	本学に入学した環境情報・総合政策両学部の新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。					
到達目標	本学の建学の精神「人間たれ」を精神基盤に、「世界を見つめ地域を考える」グローバルな感覚で21世紀の地域社会をリードする人材としての基礎を学ぶ。					
授業計画	第1講 4/11 ガイダンス：建学の精神「人間たれ」と能登半島地震と学友会と 第2講 4/18 災害から学ぶ「人間たれ」①～東日本大震災～ 第3講 4/25 災害から学ぶ「人間たれ」②～熊本地震～ 第4講 5/9 災害から学ぶ「人間たれ」③～能登半島地震～ 第5講 5/16 被災地から学ぶ「人間たれ」①避難所運営を経験して（齋藤） 第6講 5/23 被災地から学ぶ「人間たれ」②自宅が被災して（鈴木&北村） 第7講 5/30 被災地から学ぶ「人間たれ」③小学生として避難所をどう見たか（雁部） 第8・9講 フィールドワーク：四日市公害と環境未来館 第10講 6/20 教員が語る「人間たれ」①（足立） 第11講 6/27 教員が語る「人間たれ」②（大八木） 第12講 7/4 教員が語る「人間たれ」③（黒田） 第13講 7/11 教員が語る「人間たれ」④（樋口） 第14講 7/18 教員が語る「人間たれ」⑤（柳瀬） 第15講 7/25 教員が語る「人間たれ」⑥（青木） ※ 講師の都合などによっては、講義の順序は変更になる場合があります。					
テキスト・教材（参考文献）	できるだけレジュメや資料を配布する。					
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題も積極的に触れるので、テレビでニュースを視聴する習慣をつけてください（1日30分以上）。					
成績評価方法	毎回提出いただく小レポート（60%）、期末試験（レポート）の成績（40%）により評価する。					
授業内の課題・提出方法	講義終了10分後までにノート写真撮影しMoodleに提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対するコメントをMoodleで学生に返す					
アクティブラーニング	フィールドワークと小レポート作成					
実務経験のある教員	被災地から学ぶの3回は、実際の災害対応について講義をする。					
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。					

授業科目名	入門演習 I		科目コード	171002	授業コード	422104
担当教員	樋口 晶子		科目ナンバリング	GEF1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかねばならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。					
授業のねらい	大学に慣れて、大学生活を順調に送ることができるよう担当教員がサポートします。 学生生活を進める上で必要な、以下のスチューデントスキル（四日市大学生として最低限身に付けておいてもらいたい基礎的な知識・技能など）を学びます。 1. 授業を受ける上で必要なスキル 2. 人間関係の基礎を作るスキル 3. 大学での学修を助けてくれる施設を知ること 4. 自分が所属する学部のことを知ること					
到達目標	四日市大学環境情報学部の学生としての自覚を得ること。 大学生として必要なスチューデントスキルを知り、実践してみること。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 シラバスを読み、自分の履修登録を点検する 第3講 スケジュール管理を身に着ける 第4講 授業の受け方、ノートの取り方① 第5講 授業の受け方、ノートの取り方② 第6講 （クラス独自課題）第7講 図書館（情報センター）の使い方 第8講 リーディング基本① 第9講 リーディング基本② 第10講 リーディング応用① 第11講 リーディング応用② 第12講 レポート作成基本① 第13講 レポート作成基本②／研究倫理 第14講 プレゼンテーション基本① 第15講 プレゼンテーション基本② （クラス担当教員の判断で、必要に応じて講義の順番・内容を変更します）					
テキスト・教材（参考文献）	「知へのステップ 第5版」（くろしお出版）（2019） 必要に応じて資料を配布します。 ノートを必ず用意してください。					
事前・事後学習	新聞の第一面を読む。（1日20分） 授業内容の資料を事前に読んでくる。（10分） ノートと使用したプリントなどを読む。（30分） 宿題となった課題を解く。（60分）					
成績評価方法	定期試験を行いません。 授業・課題への取り組みなどを100%で評価します。積極的な受講態度を心掛けて下さい。					
授業内の課題・提出方法	授業中に課題を与え、教室で提出してもらいます。 また、翌週までの宿題を出すこともあります。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の個別指導を行います。					
アクティブラーニング	調査・発表・議論などの演習を行います。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	大学で学んでいくための根幹となる必修科目です。積極的な授業参加を望みます。また、各種の連絡事項の伝達なども行ないます。毎回必ず出席してください。					

授業科目名	入門演習Ⅱ		科目コード	171003	授業コード	422504
担当教員	樋口 晶子		科目ナンバリング	GEF1003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかねばならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。					
授業のねらい	前期「入門演習 a」に引き続き、大学で学んでいくために必要な、以下のスタディースキル（四日市大学生として最低限身に付けておいてもらいたい学修技法など）を学びます。 1. 目標・目的を決め、情報を収集し、調べるスキル 2. 情報を整理し、資料を読みこなすスキル 3. 調べ、整理した情報をレポートにまとめるスキル 4. 資料を発表し、議論するスキル					
到達目標	大学生としての学修・研究活動へと進むために必要となる基本的なスタディースキルを獲得し、学修スタイルを確立すること。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 テーマを決める 第3講 調べる① 第4講 調べる② 第5講 読む① 第6講 読む② 第7講 まとめる① 第8講 まとめる② 第9講 まとめる③ 第10講 発表する① 第11講 発表する② 第12講 話し合う① 第13講 話し合う② 第14講 話し合う③ 第15講 学年プレゼン大会／まとめ／基礎演習について （クラス担当教員の判断で、必要に応じて、講義の順番・内容を変更します）					
テキスト・教材（参考文献）	「知へのステップ 第5版」（くろしお出版）（2019） 必要に応じて資料を配布します。 ノートを必ず用意してください。					
事前・事後学習	新聞の第一面を読む。（1日20分） 授業内容の資料を事前に読んでくる。（10分） 宿題となった課題を解く。（90分）					
成績評価方法	定期試験を行いません。 授業・課題への取り組みなどを100%で評価します。積極的な受講態度を心掛けて下さい。					
授業内の課題・提出方法	授業中に課題を与え、教室で提出してもらいます。 また、翌週までの宿題を出すこともあります。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の個別指導を行います。					
アクティブラーニング	調査・発表・議論などの演習を行います。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	「入門演習 a」に引き続き、大学で学んでいくための根幹となる必修科目です。積極的な授業参加を望みます。また、各種の連絡事項の伝達なども行います。毎回必ず出席してください。					

授業科目名	基礎英語 I		科目コード	171101	授業コード	123103
担当教員	樋口 晶子		科目ナンバリング	GEL1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	英語を総合的に高めることを第1のねらいにしています。2つ目には、教養的な要素として、外国文化に接し、多様な文化に触れることで異文化に対する興味・関心を高め、理解を磨き、自国文化との比較を通し、それぞれの文化への理解の深まりを促進します。3つ目には、企業が求める人材、マンパワーとして必要になる語学運用能力の向上を推進することもねらいとしています。					
到達目標	英語力を総合的に高め、実社会や実生活で英語を運用できる（日常生活で使える）力を構築する土台の形成を到達目標にしています。また、同時に、国際人としての教養を高め、文化的マナーの向上にも英語学習を通して貢献することを目標にしています。					
授業計画	各学部で複数の講座が並行して開講され、担当教員が異なります。授業計画は各講座によります（下記は例）。 第1 講義 ガイダンス 及び Unit 1 第2 講義 Unit 2 以下 第15 講義まで展開					
テキスト・教材（参考文献）	各担当教員がテキスト・教材を具体的に指示します。					
事前・事後学習	各担当教員の指示に従ってください。					
成績評価方法	各担当教員のガイダンス等に従ってください。					
授業内の課題・提出方法	各担当教員の指示に従ってください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	各担当教員の指示に従ってください。					
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、課題及び課題に対するフィードバックなど、各担当教員が具体的に指示します。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	高等学校までの英語学習からステップアップし、興味深い教材や授業展開に刺激を受け、新しい英語学習を始めましょう。					

授業科目名	基礎英語 II			科目コード	171102	授業コード	425802
担当教員	樋口 晶子			科目ナンバリング	GEL1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	基礎英語 I で修得した力を基礎として、さらに学修を深めます。英語力を総合的に高めることを第 1 のねらいにしています。2 つ目には、教養的な要素として、外国文化に接し、多様な文化に触れることで異文化に対する興味・関心を高め、理解力を磨き、自国文化との比較を通し、それぞれの文化への理解の深まりを促進します。3 つ目には、企業が求める人材、マンパワーとして必要になる語学運用能力の向上を推進することもねらいとしています。						
到達目標	英語力を総合的に高め、実社会や実生活で英語を運用できる（日常生活で使える）力を構築する土台の形成を到達目標にしています。また、同時に、国際人としての教養を高め、文化的マナーの向上にも英語学習を通して貢献することを目標にしています。						
授業計画	各学部で複数の講座が並行して開講され、担当教員が異なります。授業計画は各講座によります（下記は例）。 第 1 講義 ガイダンス 及び Unit 1 第 2 講義 Unit 2 以下 第 1 5 講義まで展開						
テキスト・教材（参考文献）	各担当教員がテキスト・教材を具体的に指示します。						
事前・事後学習	各担当教員の指示に従ってください。						
成績評価方法	各担当教員のガイダンス等に従ってください。						
授業内の課題・提出方法	担当者の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	担当者の指示に従ってください。						
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、課題及び課題に対するフィードバックなど、各担当教員が具体的に指示します。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	英語の言語能力（聞く・読む・話す・書く）に加え、伝える力・相手を理解する力を養ってコミュニケーション能力を高め、あらゆることに興味を持って視野を広げる気持ちで、積極的に授業に参加してください。						

授業科目名	基礎日本語 I			科目コード	171103	授業コード	423101
担当教員	加納 光			科目ナンバリング	GEL9001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	言語の四技能-読む、書く、聞く、話す-を学びながら、総合的な日本語能力を身につけます。この授業では特に大学の授業で必要となる専門用語や表現、レポートの書き方を学んでいきます。適切な専門用語や表現を用い、論理的でわかりやすいレポートの書き方を習得することを、この授業のねらいとします。また、加えて日本語能力試験対策の授業も行います。						
到達目標	この授業では大学の授業に必要な専門語彙や表現、レポートの書き方の習得を中心に、大学の授業を理解し、授業に積極的に参加するために必要となる日本語能力を身につけることを、到達目標とします。						
授業計画	第1講 ガイダンス レポート作成の基礎、読解、語彙① 第2講 レポート作成、読解、語彙② 第3講 レポート作成、読解、語彙③ 第4講 レポート作成、読解、語彙④ 第5講 能力試験対策模擬試験①、② 第6講 能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第7講 能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第8講 能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第9講 能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講 能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第11講 能力試験対策⑥（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第12講 能力試験対策⑦（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第13講 レポート作成、読解、語彙⑤ 第14講 レポート作成、読解、語彙⑥ 第15講 レポート作成、読解、語彙⑦ 定期試験 ※授業の進捗および内容は状況により、若干変更する場合があります。						
テキスト・教材（参考文献）	『読解厳選テーマ10 [中、中上級]』凡人社 清水 『日本語能力試験問題N1、2語彙 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池 『日本語能力試験問題N1文法 スピードマスター』〃 有田 『1回で合格 日本語能力試験 N2文法』ナツメ社 渡辺						
事前・事後学習	N 1 までの問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくこと。（30分） 毎日、継続的に新聞を読むこと。（30分） 事前に授業内容を調べ学習をしておくこと（90分） 授業後は、内容を復習し、確実に学習した日本語語彙、表現を使える ようにしておくこと（90分）						
成績評価方法	授業での積極性やレポート、小テスト（採点、添削後授業時に返却します）50%、期末試験50%。						
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますので、それに従ってください。						
アクティブラーニング	小レポート／小テスト						
実務経験のある教員							
担当者から一言	日本語学校やアルバイト先での日本語と大学で必要な日本語とは異なります。大学生に相応しい質の高い日本語が駆使できるよう、日頃から心がけてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用は、原則禁止します。真面目な態度で受講するように心がけて下さい。						

授業科目名	基礎日本語Ⅱ			科目コード	171104	授業コード	423501
担当教員	加納 光			科目ナンバリング	GEL9002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	言語の四技能-読む、書く、聞く、話す-を学びながら、総合的な日本語能力を身につけます。この授業では特に「聞く・話す」に焦点を当てて強化をはかります。聞いたことを理解するにとどまらず、相手の言いたいことをはかり、それを受けて返事をしたり行動したりする能力を身につけることがねらいです。また、加えて日本語能力試験対策の授業も行います。						
到達目標	この授業では、「聞く・話す」ことより相手の伝えたいことをくみ取り、どんな場合にでも対応できるコミュニケーション能力を身につけることを目標とします。						
授業計画	第1講 ガイダンス 日本を知る 論議、発表① 語彙学習① 第2講 日本を知る 議論、発表② 語彙学習② 第3講 能力試験対策模擬試験①、② 第4講 能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第5講 能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第6講 能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第7講 能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第8講 能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第9講 能力試験対策⑥（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講 能力試験対策⑦（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第11講 日本を知る 議論、発表③ 語彙学習③ 第12講 日本を知る 議論、発表④ 語彙学習④ 第13講 日本を知る 議論、発表⑤ 語彙学習⑤ 第14講 日本を知る 議論、発表⑥ 語彙学習⑥ 第15講 日本を知る 議論、発表⑦ 語彙学習⑦ 定期試験 ※授業の進度および内容は状況により、若干変更する場合があります。						
テキスト・教材（参考文献）	『読解厳選テーマ10 [中、中上級]』凡人社 清水 『日本語能力試験問題N1、2語彙 スピードマスター』Jリサーチ出版 菊池 『日本語能力試験問題N1文法 スピードマスター』〃 有田 『1回で合格 日本語能力試験 N2文法』ナツメ社 渡辺						
事前・事後学習	N 1 向けの問題集や参考書などで語彙や文法を身につけておくこと。（30分） 毎日、継続的に新聞を読むこと。（30分） 事前に授業内容を調べ学習をしておくこと（90分） 授業後は内容を復習し、確実に学習した日本語語彙、表現を使えるようにしていくこと（90分）						
成績評価方法	授業での積極性やレポート、小テスト（採点、添削後授業時に返却します）50%、期末試験50%。						
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますので、それに従ってください。						
アクティブラーニング	小レポート／小テスト						
実務経験のある教員							
担当者から一言	日本語学校やアルバイト先での日本語と大学で必要な日本語とは異なります。大学生に相応しい質の高い日本語が駆使できるよう、日頃から心がけてください。なお、遅刻、授業中の中座、飲食、私語、携帯電話の使用は、原則禁止します。真面目な態度で受講するように心がけて下さい。						

授業科目名	英語コミュニケーション I		科目コード	171105	授業コード	421402
担当教員	青木 陽子		科目ナンバリング	GEL1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	本授業では、「話す」「聞く」「読む」「書く」という技能を中心に、英語コミュニケーション能力の習得を目指します。文法の基礎を固め、さまざまな会話表現に触れ、実践的な英語力を養うことで、英語力を向上させます。授業で学んだ英語表現を実践の場で活かしながら、自分の意見を発信できるように、コミュニケーション能力の向上を目指します。					
到達目標	1. 文法を理解し、初級レベルの英語表現を習得する。 2. 英語の読解力・聴解力を高める。 3. 自分の意見・考えを英語で発信する力を身につける。					
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 第2講 Unit 1 It's nice to meet you. 第3講 Unit 1 It's nice to meet you. 第4講 Unit 2 Who are they talking about? 第5講 Unit 2 Who are they talking about? 第6講 Unit 3 When do you start? 第7講 Unit 3 When do you start? 第8講 Unit1~Unit3の復習、小テスト 第9講 Unit 4 Where does this go? 第10講 Unit 4 Where does this go? 第11講 Unit 5 How do I get there? 第12講 Unit 5 How do I get there? 第13講 Unit 6 What happened? 第14講 Unit 6 What happened? 第15講 総復習 定期試験 ＊授業内容及び進度は、クラスの状況により変更する場合があります。					
テキスト・教材（参考文献）	『English Firsthand 5th Edition Level 1 Student Book 』 Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown (Pearson) 定価：3, 630円（税込）					
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習をする（90分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う（90分）					
成績評価方法	小テスト 20% 課題・宿題 20% 定期試験 60%					
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題や提出物について、必要に応じて、各学生またはクラス全体の講評としてフィードバックします。					
アクティブラーニング	小テスト、課題・宿題					
実務経験のある教員						
担当者から一言	英語学習は、予習と復習が大事です。しっかり準備して授業に臨んで下さい。授業への積極的な参加を期待します。					

授業科目名	英語コミュニケーション I		科目コード	171105	授業コード	421202
担当教員	樋口 晶子		科目ナンバリング	GEL1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	基礎レベルの英語によるコミュニケーション能力の習得をめざします。相手（「読み手」「聞き手」など）があることを意識した英語の使用を実践的に学びます。スピーキング・リスニング・リーディング・ライティングの4技能に加え、異文化への理解も深めます。たとえば、映画などの英語を聞き取って内容を理解し、英語及び英語文化の理解を深めます。ペアワーク・グループワークを多く行い、積極的にコミュニケーションを取る姿勢を身につけます。					
到達目標	1. 教材やプリント、補助教材などをマスターする。 2. 英語の4技能を、受講開始時よりも伸ばす。 3. 積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢を習得する。 4. TOEIC(L/R) 400～450点程度に相当する英語力獲得をめざす。					
授業計画	テキストに加えて動画視聴や英語アクティビティを行い、多様な英語表現を身につけます。テキストの進行計画は下のとおりです。 第1講 ガイダンス Unit 1 What is Important to You? (2-1) 第2講 Unit 1 What is Important to You? (2-2) 第3講 Unit 2 My Morning Routine (2-1) 第4講 Unit 2 My Morning Routine (2-2) 第5講 Unit 3 Your Recommended Restaurant (2-1) 第6講 Unit 3 Your Recommended Restaurant (2-2) 第7講 Unit 4 The Best Film Ever (2-1) 第8講 Unit 4 The Best Film Ever (2-2) 第9講 Unit 5 What is a True Friend? (2-1) 第10講 Unit 5 What is a True Friend? (2-2) 第11講 Unit 6 The Best Pizza in Town (2-1) 第12講 Unit 6 The Best Pizza in Town (2-2) 第13講 Unit 7 An Ideal Private Tour Plan (2-1) 第14講 Unit 7 An Ideal Private Tour Plan (2-2) 第15講 Unit 8 Useful Apps for Your Smartphone 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	テキスト：『SPEAKING STEPS』（金星堂） 参考文献：英単語学習のための問題集 『英単語の語源図鑑』（かんき出版）、『英検でる順パス単』（旺文社）など自分の好きなものでよいです。 英和辞典・和英辞典など、辞書の使用を奨励します。					
事前・事後学習	テキストの内容は必ず予習・復習してください。毎日1時間程度の英語学習が必要です。 授業で出される課題や小テストは、必ず提出・試験準備をしてください。					
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題 60% （毎回、小テストを行います） 定期試験 40% コミュニケーションを取る意欲の涵養を重視する観点から、単に出席しているだけで、授業に積極的に参加しない場合は、欠席扱いにすることがあります。英語レベルにかかわらず、授業に取り組む姿勢を高く評価します。					
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などについて、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。					
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、小テスト、課題・宿題					
実務経験のある教員						
担当者から一言	学生主導型の授業です。出席しても授業に参加しない学生は、評価しません。得手不得手にこだわらず、コミュニケーションする気持ちを自分から示してください。					

授業科目名	英語コミュニケーション I		科目コード	171105	授業コード	421201
担当教員	ゴードン リース		科目ナンバリング	GEL1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	楽しく英語を勉強しながら学生の英語の聴解力と話す力を高める事がこの講座の狙いです。アクティブに英語を学んでもらうために学習者中心の授業をします。スキットやラジオドラマを利用して、『使える英語』を目指す。使用するテキストは、コミュニケーション能力を高めたり、英語の語彙を増やしたりするための構造があります。 The main goal is for participants to improve their English listening and speaking skills. This is a le					
到達目標	1. 英語の聴解力と話す力を高める。 2. 英語の語彙を増やす。 3. 人の前で英語で話す自信を身につける。 4. TOEIC(L/R) 350～425点に相当する英語力獲得を目指す。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 Unit 1- I'm a Big Fan 第3講 Unit 2- He's Kissing Her 第4講 Unit 3- I Don't Have Any Money 第5講 Unit 4- What Do You Do Every Day? 第6講 Unit 5- Wow! Is That Your Car 第7講 Unit 6- Be Careful! 第8講 Radio Thriller- radio drama 第9講 Radio Thriller- radio drama 第10講 Unit 7- Let's Meet at the Station 第11講 Unit 8- How Was Rome? 第12講 Unit 9- I Read It in a Magazine 第13講 Unit 10- What Did You Do on Sunday? 第14講 Unit 11- The Goats Were Dancing 第15講 復習 プレゼンテーション- 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	『English Charge!』 金星堂 市川泰弘 /Robert Hickling 著 978-4-7647-3890-4					
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習する。（30分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う。（60分）					
成績評価方法	学習態度 30% 課題・小テスト 30% スピーキングテスト・スキット 20% プレゼンテーション-定期試験 20%					
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。					
アクティブラーニング	ラジオドラマ、スキット					
実務経験のある教員						
担当者から一言	対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。 1. 5回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。 2. 履修者が18名を超えた場合は抽選あり。 3. テキストがないと欠席扱いになる。 4. 2回遅刻すると1回の欠席になる。					

授業科目名	英語コミュニケーションⅡ		科目コード	171106	授業コード	421802
担当教員	青木 陽子		科目ナンバリング	GEL1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	本授業では、「話す」「聞く」「読む」「書く」という技能を中心に、英語コミュニケーション能力の習得を目指します。文法の基礎を固め、さまざまな会話表現に触れ、実践的な英語力を養うことで、英語力を向上させます。授業で学んだ英語表現を実践の場で活かしながら、自分の意見を発信できるように、コミュニケーション能力の向上を目指します。					
到達目標	1. 文法を理解し、初級レベルの英語表現を習得する。 2. 英語の読解力・聴解力を高める。 3. 自分の意見・考えを英語で発信する力を身につける。					
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 第2講 Unit 7 I'd love that job. 第3講 Unit 7 I'd love that job. 第4講 Unit 8 What's playing? 第5講 Unit 8 What's playing? 第6講 Unit 9 What are you going to do? 第7講 Unit 9 What are you going to do? 第8講 Unit7~Unit9の復習、小テスト 第9講 Unit 10 How much is this? 第10講 Unit 10 How much is this? 第11講 Unit 11 How do you make it? 第12講 Unit 11 How do you make it? 第13講 Unit 12 Listen to the music. 第14講 Unit 12 Listen to the music. 第15講 総復習 定期試験 * 授業内容及び進度は、クラスの状況により変更する場合があります。					
テキスト・教材（参考文献）	『English Firsthand 5th Edition Level 1 Student Book 』 Marc Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown (Pearson) 定価：3, 630円（税込）					
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習をする（90分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う（90分）					
成績評価方法	小テスト 20% 課題・宿題 20% 定期試験 60%					
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題や提出物について、必要に応じて、各学生またはクラス全体の講評としてフィードバックします。					
アクティブラーニング	小テスト、課題・宿題					
実務経験のある教員						
担当者から一言	英語学習は、予習と復習が大事です。しっかり準備して授業に臨んで下さい。授業への積極的な参加を期待します。					

授業科目名	英語コミュニケーションⅡ			科目コード	171106	授業コード	421602
担当教員	樋口 晶子			科目ナンバリング	GEL1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	「英語コミュニケーションⅠ」で修得またはそれに相当する英語があることを前提に、さらにコミュニケーション能力を磨きます。相手があることを意識した実践的な英語スキル（スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング）に加え、異文化理解を深めることを重視します。たとえば、映画などの英語を聞き取って内容を理解し、英語及び英語文化の理解を深めます。ペアワーク・グループワークを多く行い、学生同士が積極的にコミュニケーションを取る姿勢を身につけます。意欲のある学生には、英語資格試験（TOEIC、IELTS、英検等）						
到達目標	1. 教材やプリント、補助教材などをマスターする。 2. 英語の4技能を、受講開始時よりも伸ばす。 3. 積極的にコミュニケーションを取ろうとする姿勢を習得する。 4. TOEIC(L/R) 400～450点程度に相当する英語力獲得をめざす。 5. 本授業を受講後に、英語資格試験（TOEIC、英検等）の受験をめざす。						
授業計画	テキストに加えて動画視聴や英語アクティビティを行い、多様な英語表現を身につけます。テキストの進行計画は下のとおりです。 第1講 ガイダンス Unit 8 Useful Apps for Your Smartphone 第2講 Unit 9 A Proposal for New Flavors (2-1) 第3講 Unit 9 A Proposal for New Flavors (2-2) 第4講 Unit 10 A Great Figure in the Business World (2-1) 第5講 Unit 10 A Great Figure in the Business World (2-2) 第6講 Unit 11 Cheese for Uncle David -Comedy- (2-1) 第7講 Unit 11 Cheese for Uncle David -Comedy- (2-2) 第8講 Unit 12 The Babysitter #1 -Horror- (2-1) 第9講 Unit 12 The Babysitter #1 -Horror- (2-2) 第10講 Unit 13 The Babysitter #2 -Horror- (2-1) 第11講 Unit 13 The Babysitter #2 -Horror- (2-2) 第12講 Unit 14 Unsent Letter #1 -Romance- (2-1) 第13講 Unit 14 Unsent Letter #1 -Romance- (2-2) 第14講 Unit 15 Unsent Letter #2 -Romance- (2-1) 第15講 Unit 15 Unsent Letter #2 -Romance- (2-2) 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキスト：『SPEAKING STEPS』（金星堂）【「英語コミュニケーションⅠ」と同じ】 参考文献：英単語学習のための問題集 『英単語の語源図鑑』（かんき出版）、『英検でる順パス単』（旺文社）など自分の好きなものでよいです。 英和辞典・和英辞典など、辞書の使用を奨励します。						
事前・事後学習	予習・復習として、毎日1時間程度の英語学習が必要です。授業で出される課題や小テストは、必ず提出・試験準備をしてください。						
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題 60% （原則として毎回、小テストを行います） 定期試験 40% コミュニケーションを取る意欲の涵養を重視する観点から、単に出席しているだけで、授業に積極的に参加しない場合は、欠席扱いにすることがあります。英語レベルにかかわらず、授業に取り組む姿勢を高く評価します。						
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などは、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。						
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、小テスト、課題・宿題						
実務経験のある教員							
担当者から一言	「英語コミュニケーションⅠ」と同様に、学生主導型の授業です。得手不得手にこだわらず、積極的にコミュニケーションする姿勢を身につけてください。出席しても授業に積極的に参加しない場合は、評価しません。英語資格試験受験を考えている方には、個別に相談に応じますので、担当教員にお尋ねください。						

授業科目名	英語コミュニケーションⅡ		科目コード	171106	授業コード	421601
担当教員	ゴードン リース		科目ナンバリング	GEL1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	「英語コミュニケーションI」で習得した英語コミュニケーション能力をさらに磨きます。楽しく英語を勉強しながら学生の英語の聴解力と話す力を高める事がこの講座の狙いです。アクティブに英語を学んでもらうために学習者中心の授業をします。スキットやリーダーズシアターを利用して、『使える英語』を目指します。 The main goal of this course is for participants to improve their English listening and speaking skills. T					
到達目標	1. 英語の聴解力と話す力を高める。 2. 英語の語彙を増やす。 3. 人の前で英語で話す自信を身につける。 4. TOEIC(L/R)375～450点に相当する英語力獲得を目指す。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 Unit 12- If Animals Could Talk 第3講 Unit 13- Been There, Done That 第4講 Unit 14 - It Starts at Eight 第5講 Unit 15- Studying Can Be Tiring 第6講 Unit 16- I Think I'll Go Shopping 第7講 Unit 17- A Cute Little Nose 第8講 Slow Food- リーダーズ・シアター 第9講 Slow Food- リーダーズ・シアター 第10講 Unit 18- He Speaks Romantically 第11講 Unit 19- You Must Be Home by Eleven 第12講 Unit 20- A Burger and Fries 第13講 Unit 21- Mom's Cheesecake Is Better 第14講 Unit 22- It's Made from Soy 第15講 復習 プレゼンテーション- 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	『English Charge!』 金星堂 市川泰弘 /Robert Hickling 著 978-4-7647-3890-4					
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習する。（30分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う。（60分）					
成績評価方法	学習態度 30% 課題・小テスト 20% リーダーズ・シアター・スキット 20% プレゼンテーション-定期試験 30%					
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。					
アクティブラーニング	リーダーズ・シアター、スキット					
実務経験のある教員						
担当者から一言	対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。 1. 5回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。 2. 履修者が18名を超えた場合は抽選あり。 3. テキストがないと欠席扱いになる。 4. 2回遅刻すると1回の欠席になる。					

授業科目名	中国語 I		科目コード	171107	授業コード	421203
担当教員	加納 光		科目ナンバリング	GEL1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	この授業では、「音声」「語彙」「文法」「表現」の各分野における基礎学習を通し、中国語の基礎的な運用能力を養成します。学期の前半は、主に「音声面」に重点を置き、声調（高低アクセント）と400余りの音節を正しく発音できるようにします。それを踏まえ、学期の後半から中国語の初級レベルの「語彙」「文法」「表現」を学習します。言語事情のほか、中国の社会や文化に関する解説も行い、中国および中国語に対する理解を深めることが、この授業のねらいです。なお、中国語母語話者の受講はできません。					
到達目標	この授業では、言語活動の中心をなす「話す」「聴く」「読む」の三要素の反復練習に多くの時間を費やしながらか、中国語の基礎をしっかりと身につけていきます。簡単な日常会話を話すことのできる初級レベルの語学力の習得を、この授業の到達目標とします。					
授業計画	第1講 ガイダンス・中国事情（概況） 第2講 中国語事情 第3講 声調（4）と単母音（7）の発音 第4講 複合母音（13）の発音 第5講 鼻母音（16）の発音 第6講 子音（21）の発音 第7講 発音、表記上の規則 第8講 発音のまとめ、小テスト 第9講 どうぞよろしく（point 1～4） 第10講 お名前は（point 1～4） 第11講 ご出身は（point 1～4） 第12講 飲み物は（point 1～4） 第13講 おいくつ（point 1～4） 第14講 和食はいかが（point 1～4） 第15講 復習とまとめ 定期試験 注 授業内容、進捗については、状況に応じて変更することもあります。毎回の発音・表現練習には積極的にチャレンジしてください。					
テキスト・教材（参考文献）	1）教材：相原茂他『日中いぶこみ交差点（エッセンシャル版）』（朝日出版 社）2, 400円＋税 2）参考書：『WHY?に答えるはじめての中国語の文法書』（相原茂） 3）辞書：『簡約現代中国語辞典』（光生館）					
事前・事後学習	毎回与えられる復習（90分）、予習（90分）のための課題や宿題を欠かさずに行い、中国語の基礎を着実に固めていってください。					
成績評価方法	①定期試験60% ②小テスト20% ③課題、宿題（評価した後返却します）20%により総合的に評価します。					
授業内の課題・提出方法	授業内の課題など提出方法はMoodleか、あるいは次回の授業時に直接手渡し of のいずれかの方法により提出していただきます。どちらの方法にするかは、授業の際に、そのつど指示します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	平常授業中に行われる書き取りテストは採点後返却し、フィードバックします。課題などの提出物も状況に応じて返却しフィードバックする予定です。					
アクティブラーニング	小テスト/小レポート					
実務経験のある教員						
担当者から一言	本講義では、平常授業中、ほぼ毎回書き取りテストを行い、会話暗記などの課題を課しますので、よく考えた上で、受講登録してください。必ずテキストを用意してください。					

授業科目名	中国語Ⅱ		科目コード	171108	授業コード	421603
担当教員	加納 光		科目ナンバリング	GEL1006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	この授業は中国語Ⅰを継続するものです。中国語Ⅰと同様、「書く」「聞く」「話す」の反復練習を通して、中国語の基礎学力の習得を目指します。また、引き続き、中国語初級文法の学習を進め、中国語の基礎固めをしていきます。 コミュニケーション能力の向上を目指し、初級語彙および初級文法を取り入れた会話練習に多く時間を割く予定です。中国語に対する理解をさらに深め、中国語の運用能力に磨きをかけることを、この授業のねらいとします。なお、中国語母語話者の受講はできません。					
到達目標	中国語の初級レベルの内容を理解し、それを書いたり、話したりすることができるようになることが、この授業の達成目標です。					
授業計画	「中国語Ⅰ」からの継続 第1講：ガイダンス、授業の概要、家庭訪問（1） 第2講：家庭訪問（2）、買い物（1） 第3講：買い物（2）、道案内（1） 第4講：道案内（2）、中秋節（1） 第5講：中秋節（2）、食事の前は（1） 第6講：食事の前は（2）、第1～5講の復習（1） 第7講：第1～5講の復習（2） 第8講：手作り料理（1） 第9講：手作り料理（2）、カニの季節（1） 第10講：カニの季節（2）、スキー場で（1） 第11講：スキー場で（2）、おみやげ（1） 第12講：おみやげ（2）、空港まで（1） 第13講：空港まで（2）、第6～12講の復習（1） 第14講：第6～12講の復習（2） 第15講：総復習とまとめ 定期試験 注 授業内容、進度はクラスの状況に応じて、変更する場合があります。 毎回実施する、発音、会話練習には積極的にチャレンジしてください。					
テキスト・教材（参考文献）	1）教 材：『日中いぶこみ交差点 エッセンス版』（朝日出版社）、相原茂 他 2）副教材：『中国語の文法書』（同学社） 3）辞 書：『中国語辞典』（光生館） 4）参考書：『中国語ははじめの一歩』（ちくま新書）					
事前・事後学習	授業の予習、復習、課題、宿題は必ず行ってください（予習90分＋復習90分）。加えて日頃から、中国語を聴いたり、話したりするように心がけてください（毎日30分以上）。					
成績評価方法	学期末試験60%、小テスト20%、課題、宿題（採点后返却します）20%をもとにして、総合的に評価します。					
授業内の課題・提出方法	授業内の課題や宿題は、Moodleないしは次回の授業の際に直接手渡し、いずれかの方法により提出していただきます。いずれの方法かは、授業時にその都度指示をします。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題、宿題などの提出物は採点后返却しフィードバックします。					
アクティブラーニング	小レポート／小テスト					
実務経験のある教員						
担当者から一言	予習、復習を欠かさないようにして積極的に講義に臨んでください。常に旺盛な勉強意欲を忘れずに、中国、中国語に対する興味、関心を持ち続けていってください。なお、授業中の私語、中座は原則禁止します。					

授業科目名	ポルトガル語 I		科目コード	171109	授業コード	421204
担当教員	フェリペ フェハリー		科目ナンバリング	GEL1007		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	日本は、1895年にブラジルと外交関係を樹立しましたが、ポルトガル人は1543年に初めて日本に上陸したので、日伯関係（日本-ブラジル間の交流関係）の歴史は450年以上に渡ると言えます。現在、ブラジルには世界最大の日系人居住地（約150万の日経ブラジル人がいます）です。同時に、日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育、医療や企業分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。					
到達目標	ポルトガル語の発音を習得し、すぐにでも実践の場で生かせるような平易な会話能力を身につけ、ポルトガル語話者とコミュニケーションが出来ること。 ポルトガル語話者への理解を深めるために、同言語圏の社会、歴史、習慣など背景知識について学び、異文化受容の態度を育むこと。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 アルファベットと発音 第3講 挨拶と自己紹介 第4講 名詞の性と数 第5講 冠詞と数字 第6講 ser動詞（1） 第7講 ser動詞（2） 第8講 所有表現（1） 第9講 所有表現（2） 第10講 所有表現（3） 第11講 gostar動詞 第12講 規則動詞（1） 第13講 規則動詞（2） 第14講 規則動詞（3） 第15講 まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	『ブラジルポルトガル語を話そう！改訂版』 重松由美・瀧藤千恵美・Felipe Ferrari（朝日出版社） （2, 300円＋税）ISBN 978-4-255-55505-8					
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで、授業で出された課題や宿題を行う（毎週約180分）。					
成績評価方法	受講態度：30% 小テスト：20% 定期試験：50% 注意①：新品の教科書を購入し、初回から毎回授業に持参してください。教科書を購入していない場合は単位が出ません。教科書を持参しない場合、「欠席」扱いになります。注意②：原則として携帯電話、スマホやタブレットなどの使用は禁止です。 注意③：小テストと定期試験には「語彙集」（単語リスト）が記載されています。「語彙集」以外のことが書かれている場合、不正行為とみなし、その試験は0点になります。注意④：この授業の人数が制限されています。					
授業内の課題・提出方法	授業で宿題を提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業で宿題のチェックを行います。					
アクティブラーニング	教科書／参考書により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習が行われます。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	ポルトガル語を勉強しながら、他国の文化を楽しく学びましょう！					

授業科目名	ポルトガル語Ⅱ		科目コード	171110	授業コード	421604
担当教員	フェリペ フェハリー		科目ナンバリング	GEL1008		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	本授業は前学期の「ポルトガル語Ⅰ」の続きです。日本は、1895年にブラジルと外交関係を樹立しましたが、ポルトガル人は1543年に初めて日本に上陸したので、日伯関係（日本－ブラジル間の交流関係）の歴史は450年以上に渡ると言えます。現在、ブラジルには世界最大の日系人居住地（約150万の日経ブラジル人がいます）です。同時に、日本には約20万人のブラジル人が住んでおり、ここ東海地方には多くの集住地域があることから、教育、医療や企業分野においてポルトガル語に対する関心が高まっています。					
到達目標	ポルトガル語の発音を習得し、すぐにも実践の場で生かせるような平易な会話能力を身につけ、ポルトガル語話者とコミュニケーションが出来ること。 ポルトガル語話者への理解を深めるために、同言語圏の社会、歴史、習慣など背景知識について学び、異文化受容の態度を育むこと。					
授業計画	第1講 前期の総合復習 第2講 前置詞 第3講 不規則動詞：ir 第4講 不規則動詞：terとfazer 第5講 不規則動詞：poder 第6講 不規則動詞：querer 第7講 estar動詞 第8講 ser動詞とestar動詞の違い 第9講 現在分詞と現在進行形 第10講 規則動詞の過去形（1） 第11講 規則動詞の過去形（2） 第12講 規則動詞の過去形（3） 第13講 様々な表現（1） 第14講 様々な表現（2） 第15講 まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	『ブラジルポルトガル語を話そう！改訂版』 重松由美・瀧藤千恵美・Felipe Ferrari（朝日出版社） （2, 300円＋税）ISBN 978-4-255-55505-8					
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで、授業で出された課題や宿題を行う（毎週約180分）。					
成績評価方法	受講態度：30% 小テスト：20% 定期試験：50% 注意①：新品の教科書を購入し、初回から毎回授業に持参してください。教科書を購入していない場合は単位が出ません。教科書を持参しない場合、「欠席」扱いになります。 注意②：原則として携帯電話、スマホやタブレットなどの使用は禁止です。 注意③：小テストと定期試験には「語彙集」（単語リスト）が記載されています。「語彙集」以外のことが書かれている場合、不正行為とみなし、その試験は0点になります。 注意④：この授業の人数が制限されています。					
授業内の課題・提出方法	授業で宿題を提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業で宿題のチェックを行います。					
アクティブラーニング	教科書／参考書により講義部分を授業外に事前学習させた上で、授業内でその事前学習にもとづく演習が行われます。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	ポルトガル語を勉強しながら、他国の文化を楽しく学びましょう！					

授業科目名	海外語学研修 a (英語)		科目コード	171111	授業コード	426503
担当教員	青木 陽子		科目ナンバリング	GEL1009		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	夏期や春期休業期間を利用し、海外の語学学校に短期留学することで、英語を学び、現地の社会や文化に直接触れることを目的としています。 なお、学生の参加応募状況や現地の社会情勢等によっては、やむを得ず変更や中止になる場合もあります。					
到達目標	1. 外国語によるコミュニケーション能力を高めます。 2. 外国の文化に直接触れます。 3. 異文化への理解を深めます。					
授業計画	海外語学研修参加の流れ 1. 説明会の開催 2. 参加の正式申し込み（航空券等の手配） 3. 渡航前の事前研修（語学、外国でのマナーなどの学習） 4. 現地学校での語学研修（社会見学を含む） 5. 帰国後のレポート提出 6. 単位認定					
テキスト・教材（参考文献）	渡航先の大学もしくは語学学校配布のものを使用します。					
事前・事後学習	事前学習：研修実施先の地理や文化、社会等について調べる。 事後学習：研修で学んだ内容を理解し、レポートを作成する。					
成績評価方法	国内での事前研修、現地での語学授業担当者の評価やコメント、引率教員の報告、帰国後のレポート提出等をもとに、総合的に評価します。 なお、本科目は単位認定科目のため、その評価は「認定」となります。					
授業内の課題・提出方法	海外語学研修終了後にレポートを提出					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	研修活動の振り返りの機会を設定します。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	本学教員が全行程を引率する予定です。研修参加希望者は説明会にご参加ください。					

授業科目名	日本語中級 I			科目コード	171113	授業コード	425301
担当教員	加納 光			科目ナンバリング	GEL9003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	言語の四技能—読む、書く、聞く、話す—を学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、読解能力の強化をおこないます。与えられた読み物より内容を読み取り、文章の意図を考え、内容分析を進めていきます。						
到達目標	著書やメールや手紙など、活字での提示の場合の内容理解を深め、相手の言いたいことをはかり知る能力を身につけることを目標とする。						
授業計画	第1講 合同ガイダンス 第2講 文章読解① 語彙学習① 第3講 文章読解② 語彙学習② 第4講 文章読解③ 語彙学習③ 第5講 文章読解④ 語彙学習④ 第6講 文章読解⑤ 語彙学習⑤ 第7講 能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第8講 能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第9講 能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講 能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第11講 能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第12講 文章読解⑥ 語彙学習⑥ 第13講 文章読解⑦ 語彙学習⑦ 第14講 文章読解⑧ 語彙学習⑧ 第15講 文章読解⑨ 語彙学習⑨ 定期試験 * 授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合があります。日本語能力試験のための文法、語彙、文型などについても必要に応じて学習して いきます。						
テキスト・教材（参考文献）	『日本語能力試験問題集 N1（N2）読解 スピードマスター』 Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著 『日本語能力試験問題集 N1（N2）語彙 スピードマスター』 Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。						
事前・事後学習	読み物にはいろいろな専門用語をはじめとする語彙、文法などが織り込まれています。授業後は、講義内容を振り返り、問題点や不明点などについてもう一度調べ直し、自分の考えをしっかりとめておきましょう（180分）。						
成績評価方法	授業での積極性や発表、議論、小テスト（採点后返却します）50%、期 末試験50%。						
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますので、それに従ってください。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	日頃から新聞やインターネットなど、様々な分野の記事を読むことを 心がけること。遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、 原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。						

授業科目名	日本語中級Ⅱ			科目コード	171114	授業コード	425701
担当教員	加納 光			科目ナンバリング	GEL9004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	言語の四技能―読む、書く、聞く、話す―を学びながら、総合的な日本語能力を身につけていきます。特にこの授業では、読解能力の強化をおこないます。与えられた読み物より内容を読み取り、文章の意図を考え、内容分析を進めていきます。						
到達目標	著書やメールや手紙など、活字での提示の場合の内容理解を深め、相手の言いたいことを活字からはかり知る能力を身につけることを目標とする。						
授業計画	第1講 合同ガイダンス 第2講 文章読解① 語彙学習① 第3講 文章読解② 語彙学習② 第4講 文章読解③ 語彙学習③ 第5講 能力試験対策①（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第6講 能力試験対策②（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第7講 能力試験対策③（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第8講 能力試験対策④（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第9講 能力試験対策⑤（聴解、文字・語彙、文法、読解から） 第10講 文章読解④ 語彙学習④ 第11講 文章読解⑤ 語彙学習⑤ 第12講 文章読解⑥ 語彙学習⑥ 第13講 文章読解⑦ 語彙学習⑦ 第14講 文章読解⑧ 語彙学習⑧ 第15講 文章読解⑨ 語彙学習⑨ 定期試験 * 授業の進度および内容はクラスの状況により、若干変更する場合があります。日本語能力試験のための文法、語彙、文型などについても必要に応じて学習して いきます。						
テキスト・教材（参考文献）	『日本語能力試験問題集 N1（N2）読解 スピードマスター』 Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著 『日本語能力試験問題集 N1（N2）語彙 スピードマスター』 Jリサーチ出版 菊池富美子 ほか著 その他各クラスの担当者が適宜、指示を出します。						
事前・事後学習	読み物にはいろいろな専門用語をはじめとする語彙、文法などが織り込まれています。授業後は、講義内容を振り返り、問題点や不明点などについてもう一度調べ直し、自分の考えをしっかりとまとめておきましょう（180分）。						
成績評価方法	授業での積極性や発表、議論、小テスト（採点后返却します）50%、期末試験50%。						
授業内の課題・提出方法	課題内容と提出方法は、各授業の担当講師の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバック方法については課題内容によって異なります。その都度、担当講師により案内をしますので、それに従ってください。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	日頃から新聞やインターネットなど、様々な分野の記事を読むことを心がけること。遅刻、授業中の中座、飲食、私語、必要時以外の携帯の使用などは、原則禁止します。真剣な授業への参加を期待します。						

授業科目名	日本語上級 I			科目コード	171115	授業コード	423203
担当教員	安田 由紀子			科目ナンバリング	GEL9005		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	本授業では、専門分野のレポートや論文など論理的な文章を読むための基礎的な読解技術を獲得することを目指します。また、発表やディスカッションを通して、日本語でのコミュニケーション力や豊かな表現力を身につけ、就職活動や卒業後のキャリアでも活用できる日本語運用力を身につけることを目標としています。						
到達目標	卒業後の進路（主に就職）に対応できるように、日本語の理解力や運用力の促進を図る。						
授業計画	第1講 1課「言葉の役割」 第2講 " 第3講 2課「イルカと超音波」 第4講 " 第5講 3課「地図の分類」 第6講 " 第7講 4課「睡眠時間」 第8講 " 第9講 日本語能力試験模擬試験 第10講 5課「日時計」 第11講 " 第12講 6課「研究者の2つのタイプ」 第13講 " 第14講 7課「地球温暖化」 第15講 " 定期試験 * 授業の進度および内容は、若干変更する可能性があります						
テキスト・教材（参考文献）	・『改訂版 大学・大学院 留学生の日本語①読解編』（アルク）アカデミック・ジャパンニーズ研究会 編 ・『ロールプレイ玉手箱』（ひつじ書房） 嶋田和子・西部由佳・酒井祥子 ・『留学生のためのアカデミックジャパニーズ 聴解』（スリーエーネットワーク）東京外国語大学留学生日本語教育センター						
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う読解文を読み、内容をつかみ、語彙や文法を確認しておく。(90分) 事後学習：読解文の要点を記述する。(90分)						
成績評価方法	授業参加度 20% 小テスト 30% 期末試験 50%						
授業内の課題・提出方法	課題ごとに提出方法を指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の内容によって、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。						
アクティブラーニング	小レポート・小テスト						
実務経験のある教員							
担当者から一言	日頃からインターネットなどを通じて、日本の社会や文化についての記事を読んでください。卒業後に日本の社会で活躍できるよう、日本語能力を高めましょう。						

授業科目名	日本語上級Ⅱ			科目コード	171116	授業コード	423602
担当教員	伊藤 晴苗			科目ナンバリング	GEL9006		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	本授業では、専門分野のレポートや論文など論理的な文章を読むための基礎的な読解技術を獲得することを目指します。また、発表やディスカッションを通して、日本語でのコミュニケーション力や豊かな表現力を身につけ、就職活動や卒業後のキャリアでも活用できる日本語運用力を身につけることを目標としています。						
到達目標	卒業後の進路（主に就職）に対応できるように、日本語の理解力や運用力の促進を図る。						
授業計画	第1講 8課「風呂場の戸」 第2講 " 第3講 9課「手で数を表す」 第4講 " 第5講 10課「文明はどのように伝わったかー1茶」 第6講 " 第7講 11課「文明はどのように伝わったかー2タとハタケ」 第8講 " 第9講 日本語能力試験模擬試験 第10講 日本語能力試験模擬試験 第11講 12課「カラスの自動車利用行動」 第12講 " 第13講 14課「人間とロボットの協調動作に関する研究」 第14講 " 第15講 " 定期試験 * 授業の進捗および内容は、若干変更する可能性があります						
テキスト・教材（参考文献）	・『改訂版 大学・大学院 留学生の日本語①読解編』（アルク）アカデミック・ジャパンニーズ研究会 編 ・『ロールプレイ玉手箱』（ひつじ書房）嶋田和子・西部由佳・酒井祥子 ・『留学生のためのアカデミックジャパンニーズ 聴解』（スリーエーネットワーク）東京外国語大学留学生日本語教育センター						
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う読解文を読み、内容をつかみ、語彙や文法を確認しておく。(90分) 事後学習：読解文の要点を記述する。(90分)						
成績評価方法	授業参加度 20% 小テスト 30% 期末試験 50%						
授業内の課題・提出方法	課題ごとに提出方法を指示します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の内容によって、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。						
アクティブラーニング	小レポート・小テスト						
実務経験のある教員							
担当者から一言	日頃からインターネットなどを通じて、日本の社会や文化についての記事を読んでください。卒業後に日本の社会で活躍できるよう、日本語能力を高めましょう。						

授業科目名	情報倫理		科目コード	171202	授業コード	423105
担当教員	前川 督雄、野呂 達哉		科目ナンバリング	GEI1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	環境情報学部で学ぶ皆さんは、環境・情報・メディアいずれかの領域で専門家（プロフェッショナル）となるための素養が求められます。一般人やユーザではなく、専門家として、どのような立ち位置で、どのようにものごとを見て、どのように振る舞うことが求められるか、多方面の観点から知り、考えてもらう講義です。					
到達目標	専門家・プロフェッショナルの立場からの倫理・責任を、できるだけ広く俯瞰して、当事者となっていく自覚をもつ。					
授業計画	第1講 ガイダンス／専門家とは 第2講 専門家として 個人情報への扱い 第3講 専門家として 著作権の扱い 第4講 専門家として AIの扱い 第5講 研究者として 科学体系の成り立ち／研究するとは／改竄・捏造が及ぼす影響 第6講 研究者として 実験における倫理 第7講 研究者として 社会に対する責任／共同や連携、学際研究を行う際の倫理 第8講 技術者として 安全確保と保守／社会に対する責任 第9講 技術者として 業界標準の意義／知的財産／企業秘密と守秘義務 第10講 環境技術者として 生態系のなかの人間活動 第11講 環境技術者として フィールドワークにおける倫理／地域や海外での活動倫理 第12講 メディア情報技術者として 表現するとは／表現における倫理 第13講 メディア情報技術者として 情報セキュリティと倫理 第14講 メディア情報技術者として オープンソースという貢献 第15講 まとめ 組織の一員であること／ダイバーシティへの配慮／ハラスメントの防止 （内容・順序を変更することがあります）					
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません。 必要に応じて資料を配布します。 講義中に、参考映像を視聴することがあります。					
事前・事後学習	次回の授業タイトルから内容を推測して、ネット検索などで予習を行って下さい（60分）。毎回の授業の後に復習するとともに、不明点を調べ、自分の思考・行動を振り返って考えを深めて下さい（120分）。					
成績評価方法	定期試験を行いません。 受講態度、学習意欲、小レポートを総合して評価します。					
授業内の課題・提出方法	授業内に小レポートを課し、原則として教室で提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートで示された重要な論点をその後の講義で採り上げます。					
アクティブラーニング	授業中に意見交換を行います。					
実務経験のある教員	担当教員は専門領域のプロフェッショナルとして実務に従事してきている。					
担当者から一言	新しく設立した科目です。試行錯誤しながら進めます。					

授業科目名	情報科学			科目コード	171203	授業コード	423202
担当教員	池田 幹男			科目ナンバリング	GEI1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	近年、デジタル化の急速な発展とインターネットによる高速な情報拡散によって、情報処理は急速に変化してきました。情報処理について理解することがますます重要になってきています。この授業では、パーソナルコンピュータ、スマートフォン、インターネットなどで行われている情報通信の現在の状況を学びます。						
到達目標	現代の情報処理技術の概要を理解する。						
授業計画	第1講 ガイダンス 人間はどうやって情報を伝えているか 第2講 情報メディア 第3講 身の回りの情報機器 第4講 コンピュータシステム 第5講 文字符号化 第6講 アナログからデジタルへ 第7講 マルチメディア（オーディオ、画像、ビデオ） 第8講 インターネット 第9講 WWW 第10講 SNS 第11講 ビッグデータと人工知能 第12講 生体認証 第13講 暗号化とセキュリティ 第14講 デジタルトランスフォーメーション（DX） 第15講 情報処理の将来 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	指定しない。教材はMoodleを通じて呈示します。						
事前・事後学習	教育支援システム(Moodle)に呈示されている資料や参考サイトを見て予習(90分)し、インターネットを通じて関連項目を調査して復習(90分)します。 関連科目：情報科学（環境情報学科専門科目）						
成績評価方法	教育支援システム(Moodle)を使用したディスカッション等での授業参加 30%、Moodleでの課題と小テスト30%、定期テスト40%で評価します。						
授業内の課題・提出方法	Moodleを通じて、ディスカッションしたり、課題を提出したりします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通じて評価等のフィードバックします。						
アクティブラーニング	Moodle でのディスカッション、ミニレポート						
実務経験のある教員							
担当者から一言	情報通信の発展と変化は非常に速いので、常に変化に対応できるように情報を集めるように心がけてください。						

授業科目名	情報と職業		科目コード	171204	授業コード	423805
担当教員	黒田 淳哉、柳瀬 元志		科目ナンバリング	GEI1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	講義の前半は自らが地域イベントにスタッフとして参加し、地域を体験的に理解することから始めます。後半は、メディアや情報関連で地域をフィールドに活躍、発信を行っている方々の声を聴きながら、地域におけるメディアや情報関連の職業についてを理解を深め、自らが地域で活躍する為の発見に繋げてもらう講義です。					
到達目標	・地域で活躍しているメディア情報関連の職業を知る。 ・この学びを、地域に関連した研究活動や将来のビジョンへと繋げる。					
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 第2講 地域と繋がる体験1（オンデマンド予定） 第3講 地域と繋がる体験2（オンデマンド予定） 第4講 地域と繋がる体験3（10/16木5限目予定） <イベント参加10/18(土)&10/19(日)予定> ※イベントスタッフとして2日間参加することが、第5～7講の講義になります。 第5講 地域と繋がる体験4 第6講 地域と繋がる体験5 第7講 地域と繋がる体験6 <ゲストを招いた講義> 第8講 地域のイベント 第9講 イベント業界と仕事について 第10講 放送業界と仕事について 第11講 地域の放送局 第12講 地域のメディア 第13講 地域のIT 1 第14講 地域のIT 2 第15講 地域のICT					
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）					
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提します。 予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを返すなど復習しておくこと（90分）。					
成績評価方法	定期試験は行いません。受講態度と講義で提出するレポートで評価し、合算します。					
授業内の課題・提出方法	授業内もしくはMoodleでミニツッペーパーやレポートを提出。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニツッペーパーへの質問等は次回以降の講義で適宜コメントします。					
アクティブラーニング	実習、ディスカッション、グループワーク					
実務経験のある教員	関連領域で実務経験を持つ教員がこの講義の進行を務めます。さらに、地域のメディア情報領域で活躍されている講師をゲストに招いて講義を進めます。					
担当者から一言	講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。					

授業科目名	アプリケーション演習Ⅱ		科目コード	171206	授業コード	424501
担当教員	柳澤 翔士		科目ナンバリング	GEI1006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「情報科目」では情報社会に必須の知識を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	Wordと使いこなす技術は、現代においては重要なスキルです。Word2019を使いこなす技術と知識の習得を目指す。					
到達目標	MOS word 365&2019エキスパート合格レベルの知識技術を習得する事を目指す					
授業計画	1.ガイダンス・基礎知識 2.文書のオプションと設定の管理1 3.文書のオプションと設定の管理2 4.文書のオプションと設定の管理3 5.編集機能・書式設定機能1 6.編集機能・書式設定機能2 7.編集機能・書式設定機能3 8.ドキュメント要素の作成1 9.ドキュメント要素の作成2 10.ドキュメント要素の作成3 11.高度なWord機能の利用1 12.高度なWord機能の利用2 13.MOS word 365&2019模擬試験問題1 14.MOS word 365&2019模擬試験問題2 15.MOS word 365&2019模擬試験問題3 定期試験 ※学習状況により変更の可能性があります					
テキスト・教材（参考文献）	佐藤 薫 著 「MOS攻略問題集Word 365&2019エキスパート」 日経BP ￥3300					
事前・事後学習	テキストでの予習(90分)講義で出た小課題の回答・予習(90分)					
成績評価方法	受講態度40%(レポート・小課題の提出状況・授業に取り組む姿勢) 試験60%					
授業内の課題・提出方法	学内サーバー指定フォルダを利用する場合と、Moodle・メールを利用する場合があります。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義の課題・質問等へのフィードバックは当日中か翌週に行う。					
アクティブラーニング	Word実習					
実務経験のある教員						
担当者から一言	Wordを使った文書作成において必要となる知識・技術について共に学び、MOS word365&2019エキスパート合格レベルを目指しましょう。					

授業科目名	四日市学	科目コード	171301	授業コード	425201
担当教員	岡 良浩、青木 陽子、倉田 英司、鬼頭 浩文、小林 慶太郎、永井 博	科目ナンバリング	GEC1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。				
授業のねらい	この講義は四日市大学の学びのフィールドである四日市市を対象として、地域を学ぶことを目的としています。具体的にはまず第1に、地域の社会・歴史・文化・自然・産業・環境など多面的に四日市について理解する機会とします。第2に、学生自身が四日市市内でフィールドワークを実施し、四日市の伝統・文化・芸術について触れる機会とします。これらを通じて、たんに地域を知るだけでなく、この地域の将来の発展方向を模索したり、課題を発見したり、市民・企業・行政を巻き込んでどのように解決するのかについて考えるきっかけとしていただきたいと思います。				
到達目標	講義は13回にわたる様々なテーマの座学とフィールドワークによって構成されます。この講義の到達目標は、以下の4点です。 1. 「四日市」を多面的に理解すること 2. フィールドワークを行うことによって実際の地域に触れること 3. 地域の課題を発見して考察を行うこと 4. 全体として地域から積極的に学んでいくという興味や意欲を持てるようになること				
授業計画	第1講(4/11) ガイダンス+フィールドワークの説明(岡) 第2講(4/18) 「四日市公害に向き合う」(鬼頭[司会]；四日市公害と環境未来館) 第3講(4/25) 「四日市の産業」(岡[司会]；四日市市商工農水部) 第4講(5/9) 「四日市の文学者たち」(永井[司会・講義]) 第5講(5/16) 「四日市の歴史」(永井[司会]；四日市市博物館学芸員) 第6講(5/23) 「四日市の多文化共生」(青木[司会]；四日市市多文化共生推進室) 第7講(5/30) 「四日市の食」(小林[司会・講義]) 第8講(6/6) 「四日市の都市計画」(倉田[司会]；四日市市都市整備部) 第9講(6/13) 「四日市の文化財」(鬼頭[司会]；四日市市文化課) 第10講(6/20) 「四日市市のシティプロモーション」(岡[司会]；四日市市シティプロモーション部) 第11講(6/27) 「四日市市の危機管理と防災」(鬼頭[司会]；四日市市危機管理統括部) 第12講(7/4) 「四日市市の子育て支援」(松本[司会]；四日市市こども未来部) 第13講(7/11) 「四日市市の行財政」(小林[司会]；四日市市財政経営部) フィールドワーク(第14・15講分) 四日市市博物館等でのフィールドワークを行い、ワークシートを完成させる。				
テキスト・教材(参考文献)	とくに設定しない。必要に応じて資料を配布する。(Moodleでの配布を予定)				
事前・事後学習	事前学習：講義の内容をシラバスの計画で確認し、WEBで関連する情報をみる準備学習(90分程度) 事後学習：講義中の課題を行う(90分程度)				
成績評価方法	以下の3つで総合評価します。 講義中の課題(リアクションペーパー) 各200字程度(60%) フィールドワークに関するレポート(20%) 学期末試験(20%)				
授業内の課題・提出方法	毎回、課題を設定し小レポートを提出(Moodleを使用予定)				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通して課題に対するフィードバックを行います。				
アクティブラーニング	毎回講義後に質疑・応答の時間を設ける予定です。積極的に質問し理解を深めることを期待します。				
実務経験のある教員	講義テーマによって四日市市からゲストスピーカーを招へいます。				
担当者から一言	四日市を深く知ることのできる貴重な科目です。しっかりと「四日市」を学んでいただきたいです。				

授業科目名	地域社会の歴史		科目コード	171302	授業コード	422203
担当教員	浅井 雅		科目ナンバリング	GEC1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。					
授業のねらい	地域社会の歴史・文化を知ること、政治だけでなく人々の営みを理解し、自分たちも未知なる社会に立ち向かう態度を先人たちの経験を追体験することにより養う。					
到達目標	1.地域社会の歴史・文化に関する知識を身につける。 2.知識を活用し、発信できる力を身につける。 3.地域社会から日本や世界の課題を探り、検討する姿勢を身につける。					
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 時代区分等歴史の基礎知識 第3回 考古 第4回 古代(1) 第5回 古代(2) 第6回 中世(1) 第7回 中世(2) 第8回 中世(3) 第9回 近世(1) 第10回 近世(2) 第11回 近世(3) 第12回 近世(4) 第13回 近代(1) 第14回 近代(2) 第15回 現代					
テキスト・教材（参考文献）	毎回、プリントを電子あるいは紙で配布する。 参考文献は授業内で提示する。					
事前・事後学習	事前学習については、新聞の地域面、タウン誌あるいは広報、行政のHP等を通して、日頃から地域情報・地域文化に関する情報に触れ、考える機会を設けること。(60分) 事後学習については、毎回の講義に関して不明点を残さないように調べておくこと。また、講義に関する事柄を自ら調べ、視野を広げる機会を設けてほしい。(60分)					
成績評価方法	毎回の授業の最後に提出してもらった小レポート（コメントペーパー）＝30% 期末レポート試験＝70% なお、病欠・公欠等は別途相談のこと。					
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーを授業のどこかのタイミングで電子または紙で提出してもらう。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 担当者から一言担当者から一言授業中に受講にふさわしくない態度・行為（スマホ・イヤホンなどを含む）をとった者は退室させることがあるので、あらかじめ了解しておくこと。					

授業科目名	市民教育		科目コード	171303	授業コード	423404
担当教員	フェリペ フェハリー		科目ナンバリング	GEC1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。					
授業のねらい	マイケル・サンデルによると、「公共哲学」の目的が日常生活にある政治的及び法的問題や矛盾を見出し、道徳哲学の立場から現代社会を分析することです。本講義の目的は、「哲学」の公共性の歴史の学びながら、倫理的な生活への道具としての「哲学」を考えることです。					
到達目標	哲学の立場から、現代社会の問題を議論すること。					
授業計画	第1講 ガイダンス・「公共哲学」とは何か 第2講 マイケル・サンデルにおける「公共哲学」 第3講 日常生活の哲学 第4講 道徳と倫理 第5講 エートス 第6講 「力」と「責任」 第7講 「民主主義」と「権威主義」と 第8講 ファシズムの脅威 第9講 『ウェイク』(Die Welle) 第10講 「悪の凡庸さ」 第11講 マイノリティー 第12講 動物の権利 第13講 人工知能のチャレンジ 第14講 これからの哲学の問題 第15講 まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	毎回、教員が資料を配布する。					
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで（毎週約180分）、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。					
成績評価方法	受講態度：30% ミニレポート：20% 最終レポート：50% 注意：原則として携帯電話、スマホやタブレットなどの使用は禁止です。					
授業内の課題・提出方法	授業でミニレポートを提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。					
アクティブラーニング	授業の最後に「学んだことを確認し、次へつなげる」ことを目的としてミニレポートを課します。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	真剣に哲学を教える人、学ぶ人、研究する人は必ず哲学的に生活していると思いますか？一緒に現代社会における哲学の価値と「公共哲学」の意味を探しましょう。					

授業科目名	人権論	科目コード	171304	授業コード	425501
担当教員	小林 慶太郎、浅井 雅、二村 建也、倉田英司、フェリペ フェハリー、永井 博	科目ナンバリング	GEC1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。				
授業のねらい	前学期の「人間たれⅠ」に引き続き、本学に入学した環境情報・総合政策両学部 of 全新入生が、本学の建学の理念、歴史・伝統を学ぶとともに、今後激変する社会に出る準備として大学で学ぶということ、大学での生活上の留意点、卒業後を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを本講義のねらいとします。				
到達目標	本学の建学の精神を理解するとともに、それを活かして今後の社会での生き方について理解を深める。				
授業計画	第1講（9/26）ガイダンス「人間たれⅡ」の進め方や意義・ねらいについて（小林） 第2講（10/3）情報リテラシーと犯罪対策（三重県警サイバー犯罪対策課） 第3講（10/10）日本の財政状況と税金（財務省 津財務事務所） 第4講（10/17）お金をうまく管理しよう①（二村） 第5講（10/24）お金をうまく管理しよう②（二村） 第6講（10/31）お金をうまく管理しよう③（二村） 第7講（11/7）先輩のライフヒストリーと「人間たれ」①（本学2期生 原田さん（津市職員）） 第8講（11/14）先輩のライフヒストリーと「人間たれ」②（ホック・モビヌルさん） 第9講（11/21）教員のライフヒストリーと「人間たれ」①（永井） 第10講（11/28）世界エイズデーを前に生と性について考えよう（小林） 第11講（12/5）教員のライフヒストリーと「人間たれ」②（倉田） 第12講（12/12）外国人研修生の日本での生活紹介および子供の森計画について（オイスカ） 第13講（12/19）教員のライフヒストリーと「人間たれ」③（浅井） 第14講（1/9）教員のライフヒストリーと「人間たれ」④（フェハリー） 第15講（1/16）教員のライフヒストリーと「人間たれ」⑤（小林） ※ 講師の都合などによっては、講義の順序・内容は変更になる場合があります。				
テキスト・教材（参考文献）	できるだけレジュメや資料を配布する。				
事前・事後学習	大学は社会に出るための準備期間です。講義の中では、時事問題にも触れるので、新聞を読む習慣をつけておいてください（1日30分以上）。				
成績評価方法	毎回提出の小レポート（60％）と、期末試験（レポート）の成績（40％）により評価する。				
授業内の課題・提出方法	毎回の小レポートは、授業時間内に記入し提出してもらう予定である。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートに書かれていた質問・意見については、翌週以降の授業内で応答していくものとする。				
アクティブラーニング	毎回、授業時間中に自分で考えて小レポートを書く。				
実務経験のある教員	学外からのゲストスピーカーの方々には、それぞれの実務経験等に基づいて講義いただきます。				
担当者から一言	私立大学には「建学の精神」というものがあります。本学の「建学の精神」＝「人間たれ」とその精神に由来する教育方針・教育課程の全体像を理解し、有意義な4年間を過ごすための基礎をこの講義を通じて、作り上げてください。				

授業科目名	地域社会と環境		科目コード	171305	授業コード	425307
担当教員	野呂 達哉		科目ナンバリング	GEC1005		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。					
授業のねらい	現代の地域社会はどのような問題を抱えているのか、その事例として「里山の衰退」と「獣害問題」、「外来生物問題」をとりあげます。これらの問題の背景や現状、また、地域でどのような取り組みが行われているのか理解することを目標とします。					
到達目標	農村の過疎化や都市への人口集中、通勤圏としての郊外の開発は「獣害問題」や「外来生物問題」、「生物多様性の減少」の背景ともなっています。これらは地域の問題というだけでなく全国的な課題でもあります。ディスカッションを通じて、身近な環境問題としてこれらを理解することを目指します。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 地域社会と環境問題 第3講 農村と里山 第4講 里山の自然と維持管理 第5講 里山の衰退と獣害問題 第6講 里山の再利用とエコツーリズム 第7講 郊外の自然と身近な生物の減少と消失 第8講 都市の自然と生物多様性 第9講 外来生物問題 第10講 ペットの遺棄と地域ネコ 第11講 グローバル化と感染症問題 第12講 都市化とエキゾチックペット由来の新たな外来生物 第13講 地域住民による外来生物対策 第14講 地域住民による生物調査と保全の取り組み 第15講 まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「里山の環境学（武内和彦ほか）東京大学出版会」、「都市で進化する生物たち（メノ・スヒルトハウゼン）草思社」など。					
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（1日平均30分）。					
成績評価方法	授業内課題（20%）、期末試験（80%）を元に総合的に評価します。					
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した身近な環境問題の題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、ディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。					
アクティブラーニング	複雑な問題について多様な意見を取り上げディスカッションします。					
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。					
担当者から一言	環境問題は複雑な現代社会を背景として生じてきた問題ですが、問題解決のためには地域社会とそこで生活する個人の参加が不可欠です。問題解決のために学生の積極的な参加を望みます。					

授業科目名	地域防災	科目コード	171306	授業コード	425306
担当教員	鬼頭 浩文	科目ナンバリング	GEC1006		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。				
授業のねらい	この講義では、NPO法人日本防災士機構が認証する防災士の資格取得を目指します。この資格は、消防・警察・行政などの公務員志望者にはぜひ取得してほしいです。講師には、行政・社協・自主防災隊・消防団など、さまざまな防災に関わる機関から招聘します。 *テキスト・受験料などの実費18,000円が必要です。 (この金額は変更の可能性があります)				
到達目標	この講義を通して、大規模災害時に自分や家族の命を守り、復旧・復興に向けた企業や地域などでの活動をリードできる人材になるのが目標である。				
授業計画	対面：ガイダンス(テキスト販売や書類配布)と週末に実施する第5～10講は対面 オンデマンド：テキスト解説の25講目はオンデマンド 1 4/11 ガイダンス(対面)／補講1；近年の災害／第15講；地震・津波／第16講；風水害／第11講；復旧・復興 2 4/18 第20講；災ボラ／第14講；事業継続／第6講；ハザードマップ 3 4/25 補講2；耐震／第12講；医療／第18講；避難所 4 各自 普通救命講習（市町の消防本部など） 自分の住む市町か、四日市市で、各自で申し込み受講し、修了証のコピーを提出する 5～7 5/24 防災士養成講座（会場研修）① 8～10 5/25 防災士養成講座（会場研修）② 11 5/24 第1講；地震・津波／第2講；気象災害／第3講；土砂災 12 5/31 第4講；火山／第5講；火災／第7講；情報と予報・警報 13 6/7 第8講；災害情報／第9講；行政／第10講；行政の対策 14 6/14 第13講；ライフライン／補講3；損害保険／第17講；自主防 15 6/21 第19講；多様性／第21講；防災士の役割／補講4；各種訓練 学期末試験：7/4 ★8月3日(日)午後に防災士試験を実施する。 ★日程は変更することがある。				
テキスト・教材（参考文献）	『防災士教本』日本防災士機構 テキスト代は、実費負担¥18,000に含まれる。				
事前・事後学習	OD動画は、講目ごとに分けてある。講目ごとに事前にテキストを30分ほどかけて読んでから動画の視聴をし、指示に従ってマーカーを引き、視聴後に重要箇所を履修確認レポートにまとめてもらう。また、週末の集中講義で学習したこともあわせ、期末試験や防災士試験までに必ず15～20時間の復習をすること。				
成績評価方法	講義で学んだことをまとめる履修確認レポート(60%)、期末試験(8月の防災士試験の模擬試験を兼ねる)の結果(40%)から、総合的に成績をつける。				
授業内の課題・提出方法	テキストの各項目について重要箇所をまとめる履修確認レポートを書き、Moodleで提出する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポートは内容を確認し、間違いなどがあれば訂正してフィードバックする。				
アクティブラーニング	会場研修において、避難所運営、救命講習、災害ボランティアセンター運営などのアクティブワークを行う。				
実務経験のある教員	防災対策の最前線に立つ外部講師を招聘し、実際の災害対応について学ぶ。				
担当者から一言	講義を履修するものは、防災士試験にチャレンジすることを条件とする。				

授業科目名	地域連携特別講義 a			科目コード	171307	授業コード	426505
担当教員	倉田 英司			科目ナンバリング	GEC1007		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。						
授業のねらい	食と観光に関して、三重県内でフィールドワークを交えた体験型実習を行う。観光客など地域への愛着を持つ者を増やすことで、地域で作られてきた食品や地域で育まれてきた食文化を継承し発展させていくことにつなげることができないかを考えていく。主体的に考え、グループワークにおいて所属や専門の異なる他者と議論し、生産者や観光客などに対してインタビューを行うなどといった一連のプロセスによって、地域イノベーションを实践する人材育成を目指す。						
到達目標	地域住民や観光客など自らとは異なる立場の人たちにインタビューし、その内容に対してグループ討議を経てそれぞれの専門性に則った意見を述べることで主体性を発揮できる。						
授業計画	10月上旬 「ガイダンス」 13：00-14：00 現状把握と課題解決の考え方 14：10-15：10 ご当地グルメを活用した町おこし 15：20-17：00 グループワーク 10月中旬 「三重県の基礎情報を学ぶ」 13：00-15：30 展示見学・講義 15：40-17：00 グループワーク 10月下旬 「食を活かした観光開発」 10：00-12：00 施設見学・体験 12：00-13：00 昼食・移動 13：00-14：00 農を活かした観光開発 14：10-16：10 グループワーク 11月下旬 「食と観光を踏査する」 10：00-16：10 フィールドワーク 12月上旬 「食と観光を考える」 13：00-17：00 グループワーク 12月中旬 「食と観光を発表する」 13：00-16：00 成果発表会 16：00-17：00 講評・まとめ ※ 受け入れ先の都合などによっては、変更になる場合があります。						
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて資料等を配布する場合があります。						
事前・事後学習	三重県内の食品生産や食文化の現状・課題や、観光業の現状・課題等について、事前に情報収集をし、考察を深めておく（36時間）。成果発表表に向けてグループの仲間と連絡を取り合いながら、時間外に準備を行う（9時間）。						
成績評価方法	①グループワーク等への取組姿勢 60% ②成果発表レポート 40% ※ 一部でも欠席した場合には、単位は与えられないので、日程管理に留意すること。 ※ グループワーク、フィールドワークにおいては、教員が適宜アドバイスする。グループワークなどで出された質疑にも教員が適宜回答する。						
授業内の課題・提出方法	成果発表の内容について、レポートを提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィールドワークで出た意見については、適宜コメントを行う。						
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、体験学習、グループワーク、ディベート、フィールドワーク						
実務経験のある教員	行政での委員経験があります。 講義では地方自治体やまちづくり関係者からお話をお伺いします。						
担当者から一言	三重県内の複数の高等教育機関との合同授業になります。グループワーク・プレゼンテーション等、学生諸君には相応の負担もかかりますし、現地学習などで費用もかかりますが、それに見合うだけの意義深い学習と経験ができるはずです。他校に友人関係を広げるチャンスにもなりますので、ぜひ積極的に参加してみてください。						

授業科目名	経営学		科目コード	171401	授業コード	423702
担当教員	小西 琴絵		科目ナンバリング	GLAS1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	人文・社会科学の広範な教養をそなえ、社会や地域の課題を発見し、原因を解明して解決方法を考える政策科学の学識をにつけている。					
授業のねらい	本講義のねらいは初学者が経営学の基礎的諸概念、基本用語、各理論の概要について理解することである。またこの知識を用いて社会や企業に潜む様々な課題を自ら発見し解決する能力を身につける。					
到達目標	本講義の到達目標は以下の3点である。 ① 経営学の基礎的概念、基本用語、各理論の概要について理解することができる。 ② 企業の仕組みやシステムについて説明することができる。 ③ 企業が直面する重要な経営課題を説明することができる。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 企業に関する基礎知識① 第3講 企業に関する基礎知識② 第4講 人的資源管理論① 第5講 人的資源管理論② 第6講 経営戦略論① 第7講 経営戦略論② 第8講 マーケティング論① 第9講 マーケティング論② 第10講 生産管理① 第11講 生産管理② 第12講 会計① 第13講 会計② 第14講 サプライチェーン・マネジメント 第15講 ラップアップ 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	【テキスト】 なし（講義資料を学内システム上で配布） 【参考文献】 ・加護野忠男・吉村典久（2012）『1からの経営学（第2版）』碩学舎。 ・北中英明（2020）『ブレストップ経営学 第2版』弘文堂。 ・上林憲雄・奥林康司・團泰雄・開本浩矢・森田雅也・竹林明（2018）『経験から学ぶ経営学入門（第2版）』有斐閣ブックス。					
事前・事後学習	予習（90分）：講義資料を熟読し、わからない言葉などを事前に辞書で調べておくこと 復習（90分）：講義資料と確認課題の内容を照らし合わせながら自身の理解度を把握すること					
成績評価方法	毎講義後の確認課題30%，中間課題30%，期末課題40%					
授業内の課題・提出方法	・毎講義後に、講義内容の理解度を確認する課題を提示する ・確認課題，中間課題はmoodleにて提出すること ・期末課題についてmoodleでの提出を予定している					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	・確認課題は提示した翌週に講評する ・中間課題は採点後に講評する					
アクティブラーニング	確認課題や中間課題の実施					
実務経験のある教員						
担当者から一言	・講義資料の紙での配布は原則しませんので各自で事前に印刷やダウンロード等して準備すること ・受講生の理解度や講義の進捗状況に合わせて、適宜レポートなどの追加課題を課すことがある					

授業科目名	経済学	科目コード	171402	授業コード	422801
担当教員	鬼頭 浩文	科目ナンバリング	GLAS1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	ここでは、経済学の基礎的考え方を学ぶため、映像による事例を紹介し、その背後にある経済の仕組みや動きについて説明していく。受講生には、映像や解説の内容をノートテイクするためのレジュメを配布する。映像や解説をメモしながら授業が進み、授業終了直後に完成したレジュメをスマホで撮影しMoodleに提出する。遅刻したり、他ごとをしていた部分は確実に減点されるので、90分の講義に集中しなければならない。また、できるだけ教室の中を動き、学生からの発言を求め、時にはディスカッションの時間を設ける。				
到達目標	経済学の基本的知識を映像から体感し、経済社会の背後にある仕組みを理解して将来の仕事や生活に役立つ知識を身に着けることが到達目標である。				
授業計画	1：ガイダンス、感染症が経済に与えた影響から経済の仕組みを学ぶ 2：コロナ禍で地域の金融機関が果たした事例から経済を知る 3：能登半島地震と経済① 4：中国の医療政策から学ぶ経済の仕組み① 5：中国の医療政策から学ぶ経済の仕組み② 6：日本の医療保険政策から学ぶ経済の仕組み① 7：日本の医療保険政策から学ぶ経済の仕組み② 8：税の仕組みを知る（四日市市税務署） 9：日本経済における「働き方」の変化 10：文化・スポーツなどの経済活動 11：企業経営の事例から経済を学ぶ 12：インバウンド・外国人と日本経済① 13：インバウンド・外国人と日本経済② 14：能登半島地震と経済② 15：復習と試験の説明				
テキスト・教材（参考文献）	テキストは購入しない。講義でプリントを配布する。				
事前・事後学習	この講義は、復習が重要である。講義後にプリントに書き込みをした内容を2～3時間かけて振り返り、理解できないところは次回の講義で必ず質問をすること。また、期末試験に向け、10時間ほどは振り返り学習をすること。				
成績評価方法	毎回Moodleに提出するレポート(75%)、対面・持ち込み不可で実施する学期末試験(25%)により、総合的に評価する。				
授業内の課題・提出方法	毎回レジュメにノートを取り、写真に撮影してMoodleに提出する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodle上で課題に対するフィードバックを行う。				
アクティブラーニング	毎回の授業において、レジュメへの書き込みを完成させ、授業終了後に自分の考えをまとめる課題を課す。				
実務経験のある教員					
担当者から一言	社会に出て役立つ経済の知識を獲得できる講義を目指す。				

授業科目名	政治学	科目コード	171403	授業コード	422201
担当教員	吉川 和狭	科目ナンバリング	GLAS1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	私たちは不可避に政治に出会うことになります。それは「政治」が、独りでは生きていけない私たちのあいだのルールを決める営みだからです。本講義ではこのような集会的意思決定としての政治について学習します。 本講義前半（4～10回）では政治制度や政治に参加する集団の行動原理について「利益」の観点から分析し、政治学の基礎的知識を身に着けます。 本講義後半（11～15回）では「利益」の観点から離れた別の視点から政治の世界を眺め、単なる利益闘争には還元できない政治学の側面を身に着けます。				
到達目標	・主に日本の政治制度についての基本的用語や知識を理解し、他の政治系科目を履修するための基礎知識を獲得する ・一人の市民として、各種媒体の政治ニュースについて理解できるようになる				
授業計画	01.ガイダンス／政治とは何か？ 02.政治のとらえ方 03.なぜ分け合う必要があるのか 04.国家という枠組み 05.政治体制 06.選挙と多数決 07.政党と政党システム 08.政権とアカウンタビリティ 09.政策過程と官僚制・利益団体 10.安全保障と平和 11.民主主義とは何か？ 12.「投票」だけが民主主義か？ 13.「私」のことも政治か？ 14.「市民である」とはどういうことか？① 15.「市民である」とはどういうことか？② 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	テキストは使用せず、必要に応じて配布資料を準備します。 【参考文献】 ・砂川庸介、稗田健志、多湖淳（2020『政治学の第一歩〔新版〕』有斐閣 ・田村哲樹、松元雅和、乙部延剛、山崎望（2017）『ここから始める政治理』有斐閣				
事前・事後学習	事前学習①：新聞やニュースに目を通し、政策・政治に関する問題を意識すること（毎日10分） 事前学習②：上記活動を通し、知らない単語・気になった話題などについて調べる（毎日5分） 事後学習①：レジュメ・ノートなどを見直し、不明点を整理、参考文献などで調べる（90分）				
成績評価方法	成績は以下の配分により評価します。 ・講義時に配布する小テスト/コメントシートの提出状況・授業態度：45% ・定期テスト（なんでも持ち込み可）：55%				
授業内の課題・提出方法	講義後半に数問の小テスト/コメントシートを配布・実施し、講義終了時に回収します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	回収した小テスト/コメントシートに関しては、次回以降の講義開始時にフィードバックを行います。				
アクティブラーニング	コメントシートの記載を通じた自主的な質問と、フィードバックを行う				
実務経験のある教員	自治体の計画策定業務支援経験あり				
担当者から一言	私語などの他受講生の学習を阻害する行為は原則禁止とし、退室を命じる場合があります。				

授業科目名	社会学		科目コード	171404	授業コード	421301
担当教員	三田 泰雅		科目ナンバリング	GLAS1004		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	この授業では社会学の基礎的な考え方を学びます。私たちは他者と関わり合って社会を作っています。一方で人間は社会によって作られる存在でもあります。私たちはどのように社会を作り、そして社会に作られているのか。この両面から社会の仕組みを考えてゆく授業です。					
到達目標	社会学的なものの見方や考え方を理解する					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 規範と価値 第3講 自分とは何か 第4講 スポーツから近代社会を考える 第5講 人は集団をつくる 第6講 家族を考える 第7講 ジェンダーとは 第8講 格差と社会階層 第9講 なぜ学校に行くのか 第10講 都市を生きる 第11講 国家と国民社会 第12講 医療と健康 第13講 環境を考える 第14講 社会的排除 第15講 社会学の誕生					
テキスト・教材（参考文献）	<参考文献> 出口剛司（2019）『大学4年間の社会学が10時間でざっと学べる』KADOKAWA.					
事前・事後学習	1日10分以上かけて新聞やニュースに目を通す					
成績評価方法	平常点45%，期末試験55%。 平常点は各回の授業の参加度とリアクションペーパーの内容で評価します。					
授業内の課題・提出方法	毎回の授業内でリアクションペーパーを作成し提出。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	各回の課題は翌週以降の授業内で適宜まとめてコメントします。					
アクティブラーニング	リアクションペーパー					
実務経験のある教員						
担当者から一言	学生諸君の積極的な参加を期待します。					

授業科目名	ジェンダー論		科目コード	171405	授業コード	422701
担当教員	松本 彩月、三田 泰雅		科目ナンバリング	GLAS1005		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	ジェンダーの問題とは、性差別的な問題から、差別とまではいかないけれども理不尽に思う人が出てくるという問題まで、様々あります。それだけに、解決方法も、制度やルールを変えていけば解決しうるものから、意識変革をしていかないと無理なものまで様々。社会通念や慣習の中でのジェンダーが、個人としての生きにくさにつながっていることをまずは知り、意識して、自分でも気づけるようになってもらいたい。その上で、ではどうすればいいのかを考えていきましょう。授業は2名の教員（松本・三田）で実施します。					
到達目標	1 ジェンダーとは何か、基本概念が説明できる。 2 社会の中にあるジェンダーに気づき、問題として意識することができる。 3 性別ではなく、個人を基礎とする考え方に立って行動できる。					
授業計画	第1講 ガイダンス、ジェンダーバイアス（松本） 第2講 近代社会とジェンダー（三田） 第3講 ジェンダーと表象（三田） 第4講 言葉とジェンダー（松本） 第5講 ジェンダーと家族（松本） 第6講 ジェンダーと政治（松本） 第7講 ジェンダーと法（松本） 第8講 ジェンダーと社会保障（松本） 第9講 ジェンダーと福祉（松本） 第10講 男性のジェンダー（三田） 第11講 ジェンダーとメディア（松本） 第12講 ジェンダーと教育（松本） 第13講 ジェンダーと暴力（松本） 第14講 ジェンダーとケア労働（松本） 第15講 ジェンダーとグローバリゼーション（松本） 講義の順番は入れ替わる可能性があります。また、ジェンダーにまつわるニュースがあった場合は、内容が変わる可能性もあります。					
テキスト・教材（参考文献）	毎回講義時に、教員が作成する資料を配布します。					
事前・事後学習	（授業前）日頃からニュースなどに目を通しておく。（毎日20分程度） （授業後）学んだ内容を復習し、世の中の様々な場面に、授業で取り上げた問題にひっかかることがないか見つけ、考える。（40分）					
成績評価方法	毎回の小レポート 50% 定期試験 50%					
授業内の課題・提出方法	毎回の講義の終わりに、小レポート（コメント）を書いて提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポート（コメント）については、適宜、講義でコメントを返し、さらなる深化をはかります。					
アクティブラーニング	回によってはディスカッションなど。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	「女性学」「男性学」の視点を持った2人の教員が、それぞれの専門や持ち味を生かして分担します。ジェンダーを多角的に学べるチャンスです。					

授業科目名	メディアリテラシー		科目コード	171406	授業コード	421407
担当教員	前川 督雄		科目ナンバリング	GLAS1006		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	メディアリテラシーとは社会に溢れる様々なメディアを読み解き、それぞれのメディアを介して伝えられる情報の背景や意味を評価できる能力を言う。そして、メディアを通じて適切にコミュニケーションをとることのできる能力でもある。 社会のなかでのメディアの有り様は、変革を続けている。今のメディア状況の概要を知るとともに、生まれ育った社会、世代、人生経験によって当たり前と思うことが互いに異なることに気づくこと、そして、メディアの向こうにある存在との付き合い方を考えることを手助けする授業となる。					
到達目標	現代社会に展開されている多様なメディアの特徴と危険性を知るとともに、自身が一個人として、社会人として責任あるメディア行動をとる見識を得る。					
授業計画	第1講 ガイダンス／メディアとは／メディアリテラシーとは 第2講 デジタルネイティブ 第3講 Society5.0／DX 第4講 AIとの付き合い方 第5講 国家・ネット企業が握る個人情報 第6講 メタバース 第7講 XR・VR・AR・MR 第8講 メディアエコロジー 第9講 スマホ依存 第10講 SNSでのふるまい 第11講 フェイクニュース 第12講 インターネットとマスメディア 第13講 メディアの身体性 第14講 コミュニケーションの実質 第15講 まとめ （内容・順序を変更することがあります）					
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません。 必要に応じて資料を配布します。					
事前・事後学習	次回の授業タイトルから内容を推測して、ネット検索などで予習を行って下さい（90分）。毎回の授業を受けて自分のメディア行動を振り返り、考えを深めて下さい（90分）。					
成績評価方法	定期試験を行いません。 受講態度、学習意欲、小レポートを総合して評価します。					
授業内の課題・提出方法	授業内に小レポートを課し、原則として教室で提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートで示された重要な論点をその後の講義で採り上げます。					
アクティブラーニング	授業中に意見交換を行います。					
実務経験のある教員						
担当者から一言						

授業科目名	社会福祉概論			科目コード	171407	授業コード	421605
担当教員	松本 彩月			科目ナンバリング	GLAS1007		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	本授業では、社会福祉に関する基本知識を身につけながら、現代社会の様々な問題について考察を深めていくことをねらいとします。社会福祉を学ぶ者としてより広い視野を持てるようになることを期待しています。						
到達目標	社会福祉の理念や歴史などの学習を通じて、社会福祉について正しく専門的な基礎知識を理解することを目標とします。						
授業計画	第1回 ガイダンス 授業の概要（社会福祉とは） 第2回 社会福祉の歴史的変遷 第3回 社会福祉の制度と人権 第4回 社会福祉の実施機関と福祉行財政 第5回 社会保障 小レポート-1 第6回 少子社会の展開 第7回 子ども家庭福祉 第8回 高齢者福祉 第9回 障がい者福祉 第10回 母子家庭及び父子家庭、ひとり親の福祉 小レポート-2 第11回 生活困窮者に対する福祉 第12回 社会福祉における相談援助 第13回 地域福祉 第14回 ボランティアとボランティア 第15回 まとめ 小レポート-3 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	毎回講義時に、教員が作成する資料を配布します。 ＜参考文献＞ 杉本敏夫他『社会福祉概論 社会福祉の原理と政策 第5版』勁草書房（2023年） 動画を視聴することもあります。						
事前・事後学習	毎週、参考文献、あるいは、新聞やウェブサイト（インターネットニュースも可）などで、社会福祉関係の記事など、授業内容に関連した資料から学習してください。（予習180分以上）						
成績評価方法	＜評価＞ 受講態度10%、コメントカード10%、小レポート30%（全3回）、期末試験50% コメントカードは毎回提出してもらいます。 意見交換や発言を促す場合もありますが、私語は厳禁です。						
授業内の課題・提出方法	＜課題＞ 毎回の授業でコメントカードを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	＜フィードバック＞ コメントカード、小レポートは翌週の授業で適宜コメントし、優良コメント・レポートを共有します。						
アクティブラーニング	コメントカード、ディスカッション						
実務経験のある教員	非営利団体に地域の子育て支援政策に携わった経験があります。						
担当者から一言	社会福祉の考え方をすることは今日においてとても重要です。身近なこととして考えられるようにしましょう。真面目に、楽しい授業にするために協力しましょう。遅刻・携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（＝欠席扱いとします）していただきます。						

授業科目名	日本国憲法			科目コード	171408	授業コード	422401
担当教員	中西 紀夫			科目ナンバリング	GLAS1008		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	憲法は、国内法では最高法規であり、すべての法律の基本法であるといえます。したがって、憲法を基本に法律や命令が作られるため、日本の法秩序の維持につながっているのです。また、憲法に違反する国の行為は違憲となりますので、最近では、日本版NSC（国家安全保障会議）の創設が国民の知る権利への侵害にならないか、あるいは、集団的自衛権の解釈変更による安保関連法制定の問題などが議論されています。このように、憲法も新たな局面を迎えていますので、しっかりと認識を深めてもらいたいと思っています。						
到達目標	大学での一般教養課程で履修対象の社会科学系列科目の中に「憲法」が加えられているのは、すべての法律の基本法というだけでなく、将来どの方向に進むにせよ、立派な社会人として世の中に貢献していくのに重要な教養であると考えられているからです。したがって、各項目の内容把握だけでなく、できるだけ多くの規定を認識できるようになってもらいたいと考えています。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 憲法の機能 第3講 天皇と国民の関係 第4講 国民の三大義務 第5講 基本的人権とその種類 第6講 環境権（判例的考察） 第7講 憲法上の権利と義務 第8講 法の下の平等 第9講 絶対平和主義 第10講 国家機密と国民の知る権利 第11講 平等な投票にするための権利義務 第12講 行政救済 第13講 国際私法 第14講 憲法改正問題 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	下記の著書のこの科目の部分を最新版に編集したものと、必要に応じて新聞などを印刷して配布します。なお、ほかに補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。 参考文献：中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院（2010年11月30日）						
事前・事後学習	毎回、予習90分と復習90分をお願いします。内容は、教材を読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、自分に合った六法を購入しておくといでしょう。						
成績評価方法	成績は、次のような評点配分です。 受講態度 30%：授業中に行う小テストの出来や出席状況も含む。 定期試験 70%：試験は論述形式で、すべて持込可です。						
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中に小テストを実施した場合は、5段階評価を付けて2週間以内に返却します。						
アクティブラーニング	必要に応じて、適語補充形式や択一式などの確認問題を実施して、講義内容を理解できたかどうかの確認をしてもらっています。						
実務経験のある教員	かつて本学の公務員講座で「憲法」を中心に法律科目を数年間担当しており、その経験をこの授業で生かすことができていると思います。						
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。						

授業科目名	法学		科目コード	171409	授業コード	425602
担当教員	中西 紀夫		科目ナンバリング	GLAS1009		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 専攻必修
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	法学の発達史を通して、法律と人との関わりについて学びます。すなわち、「法とは何か」という素朴な疑問から講義を始めていく予定です。講義形式は法に慣れ親しんでもらうため、特に六法（憲法・民法・商法・民事訴訟法・刑法・刑事訴訟法）の由来あたりから説明し、これらの法律の概要を歴史的経緯を踏まえて、現代社会の様々な問題と照らし合わせながら講義します。もちろん、骨子や規定の理解のために、一方的な講義形式のみの形にならないように工夫をしています。					
到達目標	社会科学系の学部で「法学」が中心的な教養科目に位置付けられているのが多いのは、各方面の指導者養成等のための単位取得要請科目であるというだけでなく、みなさんの将来の生活の糧となる学問であるということではないかと思っておりますので、その視点に立って講義を進めていきたいと考えています。最終的な到達目標としては、常に法律的な視点に立って物事を見れるようになることを目指します。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 六法の意味、社会規範 第3講 実定法と自然法、法源 第4講 制定法の体系、法の形式による分類 第5講 法の種別（国内法）、国内法と国際法 第6講 公法と私法、裁判による権利の実現 第7講 法の適用、法解釈における問題点 第8講 権利と義務、権利義務の主体と客体 第9講 罪刑法定主義 第10講 法と裁判（裁判の仕組み） 第11講 民事裁判、刑事裁判、行政裁判 第12講 司法権の独立と公開主義 第13講 自由心証主義、今日までの裁判の課題 第14講 裁判員制度とその課題 第15講 まとめ 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	下記の著書のこの科目の部分を最新版に編集したものと、必要に応じて新聞などを印刷して配布します。なお、ほかに補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。 参考文献：中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院（2010年11月30日）					
事前・事後学習	毎回、予習90分と復習90分をお願いします。内容は、教材を読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、自分に合った六法を購入しておくといでしょう。					
成績評価方法	成績は、次のような配点配分です。 受講態度 30%：授業中に行う小テストの出来や出席状況も含む。 定期試験 70%：試験は論述形式で、すべて持込可です。					
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中に小テストを実施した場合は、5段階評価を付けて2週間以内に返却します。					
アクティブラーニング	必要に応じて、適語補充形式や択一式などの確認問題を実施して、講義内容を理解できたかどうかの確認をしてもらっています。					
実務経験のある教員	かつて本学の公務員講座で法律科目を数年間担当しており、その経験をこの授業で生かすことができていると思います。					
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要になることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。					

授業科目名	倫理学		科目コード	171501	授業コード	423803
担当教員	フェリペ フェハリー		科目ナンバリング	GLAH1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	アリストテレスは『政治学』において、「人間は社会的な動物である」と述べました。それは人間が共存し、他の動物には見られない協力することができると意味です。本講義の目的が社会学の根本的な問題を学び、現代社会の問題を分析することです。					
到達目標	主な社会思想か、思想を学びながら、現代社会の特色を多面的・多角的に捉えます。					
授業計画	第1講 ガイダンス・社会学とは何か 第2講 社会学の目的 第3講 古代におけるポリス 第4講 国家の誕生 第5講 社会契約論 第6講 コントにおける「社会学」 第7講 実証主義と反実証主義 第8講 イデオロギー 第9講 資本主義の精神 第10講 社会的事実 第11講 社会思想は世界を変える 第12講 フランクフルト学派 第13講 人間解放 第14講 歴史の終わり 第15講 これからの社会思想					
テキスト・教材（参考文献）	毎回、教員が資料を配布する。					
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで（毎週約180分）、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。					
成績評価方法	受講態度：30% ミニレポート：20% 最終レポート：50% 注意：原則として携帯電話、スマホやタブレットなどの使用は禁止です。					
授業内の課題・提出方法	授業でミニレポートを提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。					
アクティブラーニング	授業の最後に「学んだことを確認し、次へつなげる」ことを目的としてミニレポートを課します。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	社会的動物として、授業で協力し社会思想史を勉強しましょう。					

授業科目名	哲学	科目コード	171502	授業コード	423201
担当教員	フェリペ フェハリー	科目ナンバリング	GLAH1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	哲学においては、過去・現代を問わず、同じ問題が異なった形で出て来ている。本講義の目的は、古代ギリシャ以降2500年以上にもおよぶ哲学（philosophia）の根本的な問題を様々な哲学者の立場から明らかにすることである。 また、本講義では哲学の立場から現在社会の問題を考え、自らの力で「哲学は何のためにあるのか」という問いの答えを探す。				
到達目標	現代社会の問題を考えながら、哲学の伝統的な問題について議論すること。				
授業計画	第1講 ガイダンス・「哲学」とは何か 第2講 哲学の起源 第3講 哲学の三つの伝統 第4講 西洋と東洋 第5講 ソクラテス：無知の知 第6講 プラトン：洞窟の比喻 第7講 アリストテレス：現実とは何か 第8講 中世哲学 第9講 中世から近代へ 第10講 近代哲学 第11講 近代から現代へ 第12講 カント：超越とは何か 第13講 弁証法 第14講 懐疑的解釈学の哲学者たち 第15講 言葉には力がある！				
テキスト・教材（参考文献）	毎回、教員が資料を配布する。				
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで（毎週約180分）、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。				
成績評価方法	受講態度：30% ミニレポート：20% 最終レポート：50% 注意：原則として携帯電話、スマホやタブレットなどの使用は禁止です。				
授業内の課題・提出方法	授業で小レポートを提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。				
アクティブラーニング	授業の最後に「学んだことを確認し、次へつなげる」ことを目的としてミニレポートを課します。				
実務経験のある教員					
担当者から一言	本当の知識は無知から生まれます。これは2400年以上前のソクラテスの考えです。世界を理解するには、私たちも同じように、まずは自分の心の中にある偏見や差別などをすべて捨て、絶対的な信頼さえも疑わなければなりません。				

授業科目名	文学		科目コード	171503	授業コード	421404
担当教員	永井 博		科目ナンバリング	GLAH1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	この講義では、近代日本、あるいは現代世界の反戦文学・反戦思想を取り上げる。安倍内閣による、いわゆる安全保障関連法案の参議院での可決・成立は2015年9月19日のことだった。日本はより戦争をしやすい国になっているのであり、平和憲法の理念が揺らいでいるのだ。そしてロシアのウクライナ侵攻は2022年2月、イスラエルのガザ地区侵攻は2023年10月のことだった。このような現代の状況の中で、近代日本、あるいは19世紀から20世紀の世界で唱えられた反戦文学・反戦思想を振り返ることで平和を構築する道について考えてみたい					
到達目標	近代の貴重な精神的遺産である反戦文学・反戦思想とともに読むことで、平和な世界をいかに実現していくかについての考え方を学ぶことが目標である。					
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 日露戦争概説 第3回 与謝野晶子「君死にたもうことなかれ」 第4回 陸羯南、主戦七博士の日露戦争主戦論 第5回 トルストイ「汝悔い改めよ」 第6回 幸徳秋水「戦争来」 第7回 内村鑑三の日露戦争非戦論 第8回 前半のまとめと復習（グループワーク） 第9回 ヴェトナム戦争概説 第10回 ボブ・ディラン「風に吹かれて」 第11回 武満徹・谷川俊太郎「死んだ男の残したものは」 第12回 日本国憲法第9条 第13回 加藤周一ほか「9条の会」 第14回 核戦争と「文学者の反核声明」 第15回 全体のまとめと復習（グループワーク） 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	プリントなどの資料を配布する。					
事前・事後学習	普段から新聞やテレビやインターネットなどで、日本、アジア、そして世界の現在の戦争に関する報道に接しておくこと。講義では明治から昭和までの反戦文学・反戦思想を取り上げるが、常に現代の状況にも注意を払う必要があるからである。（90分） また、講義で取り上げる与謝野晶子や内村鑑三などのテキストは、それぞれのテキストの原文の一部であることも多い。図書館などで簡単に読むことができるのでその全部を自分で読むこと。（90分）					
成績評価方法	受講態度50%、定期試験50%を目安に総合的に判断する。					
授業内の課題・提出方法	毎回ミニ・レポートを提出してもらう。提出方法は、ミニ・レポート用紙を配布するので、それを講義の終りに提出してもらう。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニ・レポートは、講義を聴いて書いたと思えないもの、何かが書いてあるか意味が分からないもの、また講義の内容を単にまとめただけのものなどは高く評価できない。講義の内容を踏まえ、それをもとに自分の考えを筋道立てて分かりやすく書いているレポートを高く評価する。毎回3点満点で評価し、その点数を記して翌週の講義の際にコメントとともに返却する。					
アクティブラーニング	毎回提出のミニ・レポート。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	この講義のテーマは反戦文学・反戦思想であり、取り上げる題材は主として日本の近代文学・現代文学である。しかし「日本」にも「文学」にもこだわるとりもりはない。「外国」や「音楽などの文学以外のいろいろな表現」も取り上げるつもりである。出席して坐っていれば単位が取れると安易に考えないでほしい。ノートをしっかり取る、関連する作品を自分でさがして読むなど、積極的に取り組んでほしい。					

授業科目名	文章表現論	科目コード	171504	授業コード	423206
担当教員	ゴードン リース	科目ナンバリング	GLAH1004		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	この講座では、パフォーマンスと映画制作をテーマに、楽しみながら英語を学びます！演劇やラジオドラマや映画を通じて英語を自然に使うことで、セリフを覚えたり感情を込めて話す練習ができ、発音や表現力が向上します。講座の前半では、英語の基礎を学びながら、スキットに関連する語彙やフレーズを練習します。そして、ペアやグループでそのスキットを演じます。次のステップでは、学んだ語彙やフレーズを活用しながら、短いスク립トを書き、オリジナルスキットを作成します。講座の後半では映画撮影の基本的なスキルを学びながら短編映画を制作				
到達目標	1. 英語での自然なコミュニケーション力の向上。 2. 英語の語彙を増やす。 3. 人の前で英語で話す自信を身につける。 4. チームワークや自己表現のスキルを身につける。 5. 基本的な撮影技術を学ぶ。				
授業計画	第1講 ガイダンス- Unit 1- Is it ok to play with fireworks? 第2講 Unit 1- Is it ok to play with fireworks? 第3講 Unit 1- Is it ok to play with fireworks? パフォーマンス 1 第4講 What time does the show start? 第5講 What time does the show start? パフォーマンス 2 第6講 ラジオドラマ- 『スリラー』 第7講 ラジオドラマ- 『スリラー』 パフォーマンス 3 第8講 『殺し屋』 - short story 第9講 『殺し屋』 - short story- ラジオドラマ 第10講 『殺し屋』 - ラジオドラマ パフォーマンス 4 第11講 短編映画制作 第12講 短編映画制作 第13講 短編映画制作 第14講 短編映画制作 第15講 短編映画制作 映画発表会- 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	『Performance』 David Harrington, Charles LeBeau Language Solutions Inc. 978-192-927-4338				
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習する。（30分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う。（60分）				
成績評価方法	学習態度 20% パフォーマンス(3) 30% 『殺し屋』 - ラジオドラマ 20% 短編映画の制作、演技、発表 30%				
授業内の課題・提出方法	クラスの担当教員の指示に従ってください。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。				
アクティブラーニング	パフォーマンス、スキット、ラジオドラマ				
実務経験のある教員					
担当者から一言	対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。 1. 5回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。 2. 履修者が18名を超えた場合は抽選あり。 3. テキストがないと欠席扱いになる。 4. 2回遅刻すると一回の欠席になる。				

授業科目名	文化論	科目コード	171505	授業コード	425603
担当教員	永井 博、富田 与	科目ナンバリング	GLAH1005		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	私たちの日常空間のほとんどは、誰かが何かを表現した表象で構成されています。この講義では、2人の担当教員がそれぞれの専門と関心から、図像（絵画、写真）、テキスト（小説、談話）そしてその組みあわせであるマンガ、アニメ、映画などを材料に、表象読解の理論（イコノロジー、記号論、ジェンダー論、フェミニズム論、テキスト理論など）と実践を紹介します。				
到達目標	表象文化の考え方を踏まえながら、言語や図像による表現を読み解く能力を身に付ける。				
授業計画	第1講：ガイダンス、表象文化とは 富田 第2講：表象の考え方 富田 第3講：「病のアレゴリー」「病」をめぐる表象 富田 第4講：「厄払い」「病」をめぐる表象 富田 第5講：「街路の表象 バンクシーを中心に」「病」と「戦争」をめぐる表象 富田 第6講：テキスト理論の基礎 永井 第7講：「戦陣訓」の捕虜言説 「戦争」をめぐる表象 永井 第8講：中島敦「文字禍」の捕虜言説 「戦争」をめぐる表象 永井 第9講：太宰治「冬の花火」の捕虜言説 「戦争」をめぐる表象 永井 第10講：中島敦「李陵」の捕虜言説（1） 「戦争」をめぐる表象 永井 第11講：中島敦「李陵」の捕虜言説（2） 「戦争」をめぐる表象 永井 第12講：井上哲次郎の捕虜言説（1） 「戦争」をめぐる表象 永井 第13講：井上哲次郎の捕虜言説（2） 「戦争」をめぐる表象 永井 第14講：竹山道雄「ビルマの竖琴」の捕虜言説 「戦争」をめぐる表象 永井 第15講：石野径一郎「ひめゆりの塔」の捕虜言説「戦争」をめぐる表象 永井 ＊講義の内容、順番は変更することがあります。				
テキスト・教材（参考文献）	テキストは特に指定しません。				
事前・事後学習	講義に関係する諸種の文章を読む。（事前・90分） 毎回ミニ・レポートを指定した期日までに提出する。（事後・90分）				
成績評価方法	毎回のミニ・レポートの評価45%と定期試験レポート55%で成績評価します。				
授業内の課題・提出方法	講義内にレポートを紙に書いて提出するか、後日に期限を決めてmoodleに提出するか、教員が指示します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義の中でミニ・レポートに対してコメントします。				
アクティブラーニング	毎回ミニ・レポートの提出を求めます。				
実務経験のある教員					
担当者から一言	講義に参加しながら教員が気づいていないことを見つけ、新しい見方を提案してみしてほしい。逆に、出席してただ坐っていれば単位が取れると安易に考えないでほしい。ノートをしっかり取る、関連する作品を自分でさがして読むなど、積極的に取り組んでほしい。				

授業科目名	教育学	科目コード	171506	授業コード	421606
担当教員	黒田 司	科目ナンバリング	GLAH1006		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	教育学概論は、教育に関するさまざまな事象や問題について考える学問です。教育は人間社会で固有の営みですが、決して学校だけで行われるものではありません。本講義では、教育についての歴史的な背景や思想、教育制度についての理解を深めていきます。その上で、身近に起こっている教育に関するテーマを取り上げ、理解を深めながら、教育学の基本的な知識習得を目指します。				
到達目標	本講義では、教育に関するさまざまな問題を理解し、それらについて説明できるようになることを目指していきます。人間にとって不可欠な営みである教育について、歴史的背景や思想、制度の変遷を理解し、さまざまな教育の問題について客観的に考察できる力を養います。				
授業計画	第1講 ガイダンス、教育とは 第2講 教育の歴史と思想 第3講 日本の教育制度と海外の教育制度 第4講 学歴社会の変貌と格差 第5講 いじめの問題 第6講 不登校の課題と対応 第7講 体罰の問題 第8講 情報社会と教育 第9講 インクルーシブ教育について 第10講 グローバル社会と教育 第11講 青年期と教育 第12講 キャリア教育①キャリア教育とは 第13講 キャリア教育②日本のキャリア教育政策 第14講 地域の教育と生涯学習 第15講 まとめ 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	講義毎にレジュメを配布します。 参考文献については、適宜指示します。				
事前・事後学習	【事前学習】テレビや新聞等で教育問題に意識すること（毎日20分以上） 【事後学習】各講義のレジュメを見直し、不明な点について調べる（90分）				
成績評価方法	定期試験（持ち込み不可）：60% 小レポート：40%				
授業内の課題・提出方法	講義毎に小レポートまたはコメントペーパー				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業にて適宜コメントします				
アクティブラーニング	小レポート及びコメントペーパー				
実務経験のある教員					
担当者から一言	一緒にさまざまな教育問題について考えていきましょう。積極的な授業参加を期待しています。				

授業科目名	日本史概論		科目コード	171507	授業コード	425304
担当教員	浅井 雅		科目ナンバリング	GLAH1007		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	歴史的事項を文化・思想などを中心として様々な面から捉え、その実態にアプローチし、当該時代の特質を理解するとともに、未知なる社会に挑んできた先人たちの知恵を追体験することにより、新たな見方を提供する。					
到達目標	1. 歴史と文化・思想のつながりを理解することができる。 2. 歴史を様々な側面から見ることで、新たな見識を得、未知なる社会への想像力を育み、視野を広げることができる。 3. 「常識」を疑い、自分の力で物事を考え、根拠をもって議論する力を持つことができるようになる。					
授業計画	第1回 講義のガイダンス、自己紹介 第2回 考古 第3回 古代(1) 第4回 古代(2) 第5回 古代(3) 第6回 中世(1) 第7回 中世(2)&近世(1) 第8回 中世(3)&近世(2) 第9回 近世(3) 第10回 近世(4) 第11回 近世(5) 第12回 近世(6) 第13回 近世(7) 第14回 近代(1) 第15回 近代(2)					
テキスト・教材（参考文献）	毎回、プリントを電子あるいは紙で配布する。 参考文献は授業内で提示するが、歴史の教科書があれば持参のこと。					
事前・事後学習	毎回の授業後に小レポート（コメントペーパー）を提出してもらう。（90分） 次回の授業までに前回の内容については復習し、不明点を残さないこと。（90分）					
成績評価方法	毎回の授業の最後に提出してもらう小レポート（コメントペーパー）＝45% 期末レポート試験＝55% なお、病欠・公欠等は別途相談のこと。					
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーを授業のどこかのタイミングで電子または紙で提出してもらう。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 授業中に受講にふさわしくない態度・行為（スマホ・イヤホンなどを含む）をとった者は退室させることがあるので、あらかじめ了解しておくこと。					

授業科目名	世界史概論			科目コード	171508	授業コード	422603
担当教員	浅井 雅			科目ナンバリング	GLAH1008		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	歴史を単なる為政者の歴史としてとらえるのではなく、様々な側面からとらえ、その実態にアプローチし、当該時代の特徴を理解するとともに新たな見方を発見していく。						
到達目標	歴史を暗記科目と考えるのではなく、そこにある因果関係や影響を考察し、さらには先人たちの営みや知恵を感じ取ること。また、それらを我々の生活・社会に活かしていくことが最終目標である。						
授業計画	第1回ガイダンス、歴史の基礎知識等 第2回 政治・行政の概要 第3回 戦前の政治・行政(1) 第4回 戦前の政治・行政(2) 第5回 戦前の政治・行政(3) 第6回 戦後の政治・行政(1) 第7回 戦後の政治・行政(2) 第8回 戦後の政治・行政(3) 第9回 産業・経済(1) 第10回 産業・経済(2) 第11回 社会・文化(1) 第12回 社会・文化(2) 第13回 社会・文化(3) 第14回 社会・文化(4) 第15回 社会・文化(5)						
テキスト・教材（参考文献）	毎回、プリントを電子あるいは紙で配布する。 参考文献は授業内で提示するが、歴史の教科書があれば持参のこと。						
事前・事後学習	毎回の授業後に小レポート（コメントペーパー）を提出してもらう。（90分） 次回の授業までに前回の内容については復習し、不明点を残さないこと。（90分）						
成績評価方法	毎回の授業の最後に提出してもらう小レポート（コメントペーパー）＝45% 期末レポート試験＝55% なお、病欠・公欠等は別途相談のこと。						
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーを授業のどこかのタイミングで電子または紙で提出してもらう。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。						
アクティブラーニング							
実務経験のある教員							
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 授業中に受講にふさわしくない態度・行為（スマホ・イヤホンなどを含む）をとった者は退室させることがあるので、あらかじめ了解しておくこと。						

授業科目名	地理学概論		科目コード	171509	授業コード	422501
担当教員	倉田 英司		科目ナンバリング	GLAH1009		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	地理学概論では、様々な国や地域に関して、歴史、文化、社会、自然、産業など様々な視点から幅広く学んでいきます。この授業を通して、地域の現状や課題の読み取り方、フィールドワークの手法、調査時資料の使い方について学習します。					
到達目標	地域の現状および課題に対する地理学的な見方や考え方を身につけ、問題を発見するまた新しい発想を生み出す力をつけることを目的とする。					
授業計画	1. ガイダンス 2. 地理学の概要 3. 世界の地形・気候 4. 日本の地形・気候 5. 資源と産業1 6. 資源と産業2 7. 人口問題 8. 都市・居住問題 9. 都市の地域構造 10. 日本の都市と課題 11. 世界の民族と衣食住 12. 地誌的考察（アジア、アフリカ） 13. 地誌的考察（ヨーロッパ、ロシア） 14. 地誌的考察（アメリカ、オセアニア） 15. まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて資料を配布します。					
事前・事後学習	各章のレポート作成（180分）。					
成績評価方法	以下のような配分で評価する。 ① 講義時に提示する課題への提出状況及び受講態度 70% ② 定期試験時に提出する(これまでの講義に即した)レポート課題 30% なお、毎回提出してもらう課題については、次週回において説明する。					
授業内の課題・提出方法	毎回の講義後にレポートを提出してもらう。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポートは次回講義時に、適宜コメントする。					
アクティブラーニング	ミニッツペーパー、プレゼンテーション、フィールドワーク					
実務経験のある教員						
担当者から一言	知識提供だけでなく、地域を読み解く力を養成します。 資料収集やフィールドワークも含めて幅広く調べることを心掛けるなど、積極的に参加してください。					

授業科目名	科学的思考論		科目コード	171601	授業コード	424301
担当教員	大八木 麻希		科目ナンバリング	GLAN1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	河川とその周辺環境が持つ多様な役割や課題を理解し、持続可能な管理と保全の方法を学ぶことです。具体的には、河川が生態系や水資源、地域社会に与える影響を科学的に分析し、気候変動や人間活動が引き起こす問題を解決するための知識を深めます。					
到達目標	本講義では、河川の生態系や水質保全の基礎知識を理解し、気候変動や人間活動による影響を評価し、持続可能な管理や保全策を提案できる力を養うことを到達目標とする。					
授業計画	第1講 ガイダンス、河川の基礎知識 第2講 河川の形成と地形 第3講 河川流路 第4講 源流域と上流域 第5講 河川中流域 第6講 河川下流域 第7講 河川水質（栄養塩） 第8講 河川水質（有機物） 第9講 河川生態系 第10講 水害被害 第11講 水害対策 第12講 治水 第13講 利水 第14講 河川利用 第15講 河川管理 レポート試験 簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。					
テキスト・教材（参考文献）	テキスト 身近な水の環境科学（第2版）、松本嘉孝ほか、朝倉書店、2022、2600円＋税 参考文献 総合河川学入門、末次忠司、鹿島出版会、2015、2200＋税					
事前・事後学習	授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。					
成績評価方法	小レポート 30% レポート 70%					
授業内の課題・提出方法	講義の最後に課題を提示して、時間内に回答して提出する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートについては、毎回採点し返却時に解説を行う。					
アクティブラーニング	実習、レポート					
実務経験のある教員						
担当者から一言	各講義では計算や簡易な実習を行うので積極的な学生の履修を望む。					

授業科目名	数学概論		科目コード	171604	授業コード	422202
担当教員	金岩 稔		科目ナンバリング	GLAN1004		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	高度な数学を学ぶための基礎力を養う講義です。 特に数学的な考え方を理解することに重点をおく。					
到達目標	（１）数学的な物の考え方ができるようになる。 （２）基礎的な数学を理解する。					
授業計画	1 ガイダンス 2 分離量と連続量 3 正と負 4 代数 5 図形 6 円 7 複素数 8 合同式 9 関数 1 10 関数 2 11 極限 1 12 極限 2 13 回転 1 14 回転 2 15 まとめと確認課題					
テキスト・教材（参考文献）	配布資料					
事前・事後学習	予習：講義の予定内容を高校までの教科書で予習する。 復習：講義中に行った演習を各自で完答できるようにする。					
成績評価方法	平常点（50％）課題（50％）					
授業内の課題・提出方法	講義時間中に配布・提出。 Moodle併用する場合もある。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	事後の講義やMoodleにて。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	なるべく数式を使わず、数学の面白さをわかってもらえたらと思います。					

授業科目名	化学概論		科目コード	171605	授業コード	421302
担当教員	牧田 直子		科目ナンバリング	GLAN1005		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	高校で化学を学んでいない、もしくは文系の学生向けの化学の授業ではあるが、高校では論理的な説明が成されず暗記科目になりがちな部分を大学の化学で補うことで、化学の考え方を学ぶ。化学は物質を扱う学問であり、「化学の目＝物質を見る目」を養うことがこの授業のねらいである。身の回りも自分自身も物質でできており、それらを学ぶ化学は実生活に役立つ実学である。健康で快適な生活のため、持続可能な社会の実現のために何を選ぶのか。物質面からの道標が化学であり、ぜひ学んでもらいたい。 関連科目は「環境化学」、「自然調査法」、「環境					
到達目標	「元素の周期表からの確かな情報を引き出す」 「化学の目＝物質を見る目」を養うためには、元素の周期表の学習は欠かせない。物質は元素で構成されており、元素の一覧表である周期表から非常に多くの情報を読み取ることができる。物質の構成元素わかれば、その物質の性質を予測する手がかりになる。周期表を使いこなせるようになろう。					
授業計画	第1講 ガイダンス、化学の学び方 第2講 物質とは何か 第3講 身の回りの物質 第4講 物質の性質 第5講 物質の状態 第6講 原子と電子軌道 第7講 電子配置と周期表 第8講 化学結合1 第9講 化学結合2、物質質量 第10講 気体と溶液の性質 第11講 化学反応 第12講 酸と塩基 第13講 酸化と還元 第14講 光 第15講 まとめ 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	教科書： 日本化学会 化学教育協議会「グループ・化学の本21」編「『化学』入門編 ― 身近な現象・物質から学ぶ化学のしくみ」化学同人（2007）、2160円（税込）					
事前・事後学習	化学は積み上げ科目であり、土台（先に学習したこと）が大事になる。教科書をよく読み、わからないままにしないことが重要である。 (1) 予習・復習のために宿題プリントを配るので、解答する（90分）。 (2) 教科書を読む（60分）。各回の講義に該当する教科書のページ数を記載した講義計画を初回の授業で配布する。予習のポイントは宿題プリントに記載する。 (3) ノートの見直し、まとめ（30分）。					
成績評価方法	宿題プリント（12回分）：30%、定期試験：70%					
授業内の課題・提出方法	(1) 演習プリント：その日の授業の理解度と出席を確認することが目的であり、毎回授業中に取り組む。 提出方法-授業終了後に教室で提出する。 (2) 宿題プリント：授業の復習と次回の予習を含めた内容で第2講から12回分課す。 提出方法-翌週の授業開始後10分以内に教室で提出する。遅れたものは受け取らない。欠席・遅刻の予定がある者は前日までに提出すればよい。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された演習プリントと宿題プリントは、翌週の授業で返却する。 宿題の評価は正解率ではなく、解答率（問題数に対する解答数）に準じて採点し、プリントに明記する。					
アクティブラーニング	課題・宿題					
実務経験のある教員						
担当者から一言	講義で分からなかったことは聞きましょう。授業後の質問、プリントの事前提出・受取は6号館4階6412室へ。					

授業科目名	環境化学		科目コード	371204	授業コード	424802
担当教員	牧田 直子		科目ナンバリング	EEB2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる					
授業のねらい	物質の成り立ちや化学反応を理解し、環境に関する事柄を化学的に考える力を養うことを目標とする。具体的には、資源、大気、酸性雨、オゾン層破壊、地球温暖化、燃料等の化学について学ぶ。物質を構成している原子や化学反応における量の関係、エネルギー、光の性質等について学習し、各種の反応や現象のメカニズムの理解へと発展させる。内容には物理化学および有機化学の基礎も含む。 関連科目は「化学概論」、「環境化学実験」など。					
到達目標	(1) 構造式や分子の形から、その物質の性質が考えられる。 (2) 燃焼反応などの化学反応式が書ける。 (3) オゾンや酸素の役割、温室効果のメカニズムなどが化学的に説明できる					
授業計画	第1講 ガイダンス、元素の周期表（復習） 第2講 原子の構造 第3講 携帯電話と資源循環 第4講 地球の空気と大気圏 第5講 大気汚染物質の化学 第6講 酸性雨の化学 第7講 太陽からの放射（光） 第8講 成層圏オゾンの生成 第9講 オゾン層の破壊と対策 第10講 炭素の化学・定量 第11講 分子の形 第12講 分子の振動と温室効果 第13講 燃焼とエネルギー 第14講 化学反応のエネルギー 第15講 燃料の化学 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	教科書：A Project of the American Chemical Society、大西洋、和田昭英訳「実感する化学上巻 原著第10版 地球感動編」(株)NTS（2025）、4、180円（税込み）					
事前・事後学習	化学は積み上げ科目であり、土台（先に学習したこと）が大事になる。教科書をよく読み、わからないままにしないことが重要である。 (1) 予習・復習のために宿題プリントを配るので、解答する（90分）。 (2) 教科書を読む（60分）。各回の講義に該当する教科書のページ数を記載した講義計画を初回の授業で配布する。 (3) ノートの見直し、まとめ（30分）。					
成績評価方法	宿題プリント（12回分）：30%、定期試験：70%					
授業内の課題・提出方法	(1) 演習プリント：その日の授業の理解度と出席を確認することが目的であり、毎回授業中に取り組む。 提出方法-授業終了後に教室で提出する。 (2) 宿題プリント：授業の復習と次回の予習を含めた内容で第2講から12回分課す。 提出方法-翌週の授業開始後10分以内に教室で提出する。遅れたものは受け取らない。欠席・遅刻の予定がある者は前日までに提出すればよい。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された演習プリントと宿題プリントは、翌週の授業で返却する。 宿題の評価は正解率ではなく、解答率（問題数に対する解答数）に準じて採点し、プリントに明記する。					
アクティブラーニング	課題・宿題					
実務経験のある教員						
担当者から一言	これまで使用していたテキストの改訂版が今年の2月出版される予定です。テキスト入手後に授業内容を再考するので、授業計画を変更する場合があります、ガイダンスでお知らせします。 講義で分からなかったことは聞きましょう。授業後の質問、プリントの事前提出・受取は6号館4階6412室へ。					

授業科目名	生物学概論		科目コード	171607	授業コード	423801
担当教員	新井 優一		科目ナンバリング	GLAN1007		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	自然科学のうち生物学が扱うことをはっきりさせて行きます。まず、生物の共通性と多様性について、次に、生物がどのように情報を処理するのか(生理学的な情報と遺伝学的な情報)を明らかにしていきます。					
到達目標	人類の諸問題を考える上で、土台となる人間についての知識を養うこと、人間の生物としての特徴が生活や社会にどのように影響するのか明らかにすることをこの講義の到達目標とします。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 生物の共通性と多様性 第3講 生物とエネルギー 第4講 代謝と酵素 第5講 光合成：エネルギーの生産 第6講 呼吸：エネルギーの活用 第7講 遺伝情報とDNA 第8講 遺伝情報とタンパク質の合成 第9講 情報の伝達 第10講 内分泌系とホルモン分泌の調節 第11講 体内環境の維持のしくみ 第12講 免疫の働き 第13講 植生と遷移 第14講 生態系と生物の多様性 第15講 生態系のバランスと保全 定期試験 持ち込み不可 授業の進捗によって適宜変更する可能性がある。					
テキスト・教材（参考文献）	教科書：なし、適宜資料を配布します					
事前・事後学習	講義終了後、講義内容のノートを見返し、メモした疑問点を調べる（60分） 講義の前日に前回の講義ノートを読み返して整理する（60分）					
成績評価方法	授業中の課題（50%）、定期試験（50%）					
授業内の課題・提出方法	適宜指示します					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義中の課題、必要に応じてフィードバックします					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	生物学は生命現象を研究する学問であり、生物学を学ぶことで自然界に生息する生物や人間である私たちの体についても深く理解することができます。					

授業科目名	生物と進化			科目コード	171608	授業コード	423505
担当教員	野呂 達哉			科目ナンバリング	GLAN1008		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	野生動物は現在絶滅の危機にあります。一方、野生動物と人間との間に生じる軋轢は年々増加する一方です。これらの対策に携わる人材に必要な野生動物に関する基礎的知識についての理解を深めます。						
到達目標	野生動物に関する基礎的知識について拾得しすることを目標とします。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 野生動物の系統と分類 第3講 日本の野生動物の特徴と生物地理 1 第4講 日本の野生動物の特徴と生物地理 2 第5講 野生動物の個体群と生息場所 第6講 野生動物の行動と社会 第7講 野生動物の繁殖生態 第8講 野生動物をめぐる現状と課題 第9講 飼育下の野生動物の活用 第10講 野生動物の死体の活用 第11講 野生動物の保護管理 第12講 生息場所の保全管理 第13講 種と個体群の保護管理 第14講 野生動物の保護管理に関係のある法律・条約 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「野生動物学概論（田名部雄一）朝倉書店」、「現代の哺乳類学（朝日稔）朝倉書店」、「林業と野生鳥獣との共存に向けて（石井信夫・由井正敏）日本林業調査会」、「野生動物問題への挑戦（羽山伸一）東京大学出版会」など。						
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（1日平均30分）。						
成績評価方法	授業内課題（20%）、期末試験（80%）を元に総合的に評価します。						
授業内の課題・提出方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、ディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、ディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
アクティブラーニング	複雑な問題について多様な意見を取り上げディスカッションします。						
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。						
担当者から一言	野生動物調査や保護の取り組みへの学生の積極的な参加を期待します。						

授業科目名	環境論	科目コード	171609	授業コード	422803
担当教員	浦畑 夢	科目ナンバリング	GLAN1009		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。				
授業のねらい	近年では、地球温暖化などの環境問題によって農業の持続性が危ぶまれている。その一方で、農業が環境に与える好影響と悪影響があり、また、農業による直接的な影響のみならず、農業を営むために整備されている設備等が環境に与える影響も存在する。本授業では、農業と環境の関係について技術（ハード）と政策（ソフト）の観点から幅広く学ぶ。				
到達目標	農業と環境の関係について学び、今後の農業の在り方について考えることができる。				
授業計画	第1講 地球を取り巻く環境問題 第2講 農業の近代化 第3講 農業に関連する環境政策 第4講 農業と水資源：歴史と現状 第5講 農業と水資源：三重県北部地域を例として 第6講 農業による食糧供給機能 第7講 農業が環境に与える影響 第8講 農業水利施設について 第9講 農業水利施設と環境（1） 第10講 農業水利施設と環境（2） 第11講 農村が担う役割（1） 第12講 農村が担う役割（2） 第13講 農業と再生可能エネルギー 第14講 農業と防災 第15講 これまでの内容の振り返り 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	なし				
事前・事後学習	シラバスの授業計画を確認し、関連する内容を参考文献などで予習する(90分)。各回の授業を復習し、次回授業の小テストに備える(90分)。				
成績評価方法	小テスト課題30%、レポート課題30%、定期試験40%とする。 毎回の授業冒頭で、前回授業の簡単な小テストを行う。レポート課題は2回の実施を予定している。				
授業内の課題・提出方法	毎回の授業内で理解度を深めるために、前回授業内容の簡単な小テストを行う。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストは採点して、次回授業に返却する。また、レポート課題についてはフィードバックと採点を行い、返却する。				
アクティブラーニング	レポート課題の実施				
実務経験のある教員					
担当者から一言	農業と環境は密接にかかわっており、環境に好影響を及ぼす側面がある一方で、悪影響を及ぼす側面もあります。農業と環境がどのように関連しているのかを学び、考える機会としてください。				

授業科目名	心理学		科目コード	171610	授業コード	423601
担当教員	フェリペ フェハリー		科目ナンバリング	GLAN1010		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。					
授業のねらい	古代から、人は宗教や哲学を通じて魂と心について考えてきました。啓蒙時代以来、多くの学者は人の心と行動を科学的に研究する学問として心理学を確立しました。この授業では、心理学とその歴史を学びながら、人間の行動や思考、感情、意識、性格、精神、意志などを研究します。					
到達目標	心理学の専門知識を高め、自分や周囲の人と良い関係の作り方について学びます。					
授業計画	第1講 ガイダンス・心理学とは何か 第2講 古代における「心」（プシュケー）の思考 第3講 心身二元論 第4講 啓蒙時代と心理学の誕生 第5講 「心」の哲学 第6講 行動主義 第7講 ゲシュタルト 第8講 精神分析 第9講 臨床心理学 第10講 認知心理学 第11講 発達心理学 第12講 心理学と社会 第13講 「私」と「汝」 第14講 心理学と現在 第15講 これからの心理学					
テキスト・教材（参考文献）	毎回、教員が資料を配布する。					
事前・事後学習	毎回の講義で配布した資料をしっかりと読んで（毎週約180分）、不明な点があれば、次の授業でミニレポート用紙に書いてください。					
成績評価方法	受講態度：30% ミニレポート：20% 最終レポート：50% 注意：原則として携帯電話、スマホやタブレットなどの使用は禁止です。					
授業内の課題・提出方法	授業でミニレポートを提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	学生自身が記入したミニレポートを講義中にコメントします。					
アクティブラーニング	授業の最後に「学んだことを確認し、次へつなげる」ことを目的としてミニレポートを課します。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	人間の心を科学の立場から一緒に勉強しましょう。					

授業科目名	キャリア基礎 I		科目コード	171701	授業コード	421701
担当教員	三田 泰雅、二村 建也、小西 琴絵、松本 彩月、岡 良浩、鶴田 利恵		科目ナンバリング	GECC1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。					
授業のねらい	この科目では卒業後の進路選択に向けて、「働くこと」や「仕事を選ぶこと」について考えます。前半では働くことをめぐる様々な知識を学び、講義の後半では、実際に社会で働いている卒業生や社会人の皆さんをお招きし、様々な職業キャリアについて話していただきます。世の中にどんな仕事があるのかを知り、自分は将来どんな仕事につきたいのかを、自分の言葉で考えられるようになることが授業のねらいです。					
到達目標	以下の3つの到達目標があります。 1. 世の中の仕事について知る 2. いろいろな仕事のつながりを知る 3. 将来つきたい仕事を自分の言葉で考えられる					
授業計画	1 ガイダンス 2 労働①キャリアとは 3 労働②キャリアを考えるには 4 労働③現代社会の職業 5 産業①さまざまな産業 6 産業②北勢地域と東海地方の産業 7 産業③世界の中の日本の産業 8 中間まとめ 9 キャリアデザイン①：民間企業1 10 キャリアデザイン②：民間企業2 11 キャリアデザイン③：公務 12 キャリアデザイン④：自営、起業、フリーランス 13 キャリアデザイン⑤：社会的起業、市民セクター 14 適性診断 15 キャリアサポートセンターについて					
テキスト・教材（参考文献）	別途指定します。					
事前・事後学習	新聞やニュースに目を通すこと（1日10分以上）					
成績評価方法	平常点45%、中間試験20%、期末試験35%。 平常点は各回の受講態度および課題への取り組み姿勢で評価します。					
授業内の課題・提出方法	毎回の小レポート。提出方法は各授業内で指示します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートに対しては授業内でまとめてコメントします。					
アクティブラーニング	小レポート					
実務経験のある教員	実際に社会で活躍している方々を講師にお招きし、キャリアデザインについて語っていただきます。					
担当者から一言	多くの人にとって働く期間と時間は人生の大部分を占めます。自分の仕事を探す手がかりをこの授業で学んでください。					

授業科目名	キャリア基礎Ⅱ		科目コード	171702	授業コード	423301
担当教員	小林 慶太郎、小西 琴絵		科目ナンバリング	GECC1002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。					
授業のねらい	この科目では、前の学期に引き続き、卒業後の進路選択に向けて、「働くこと」や「仕事を選ぶこと」について考えていきます。自分の「就きたい職業」や「働きたい業界」をどのように見つけ、そして、就職活動をどのように進めていったら良いのか、実践も交えながら探っていきます。現在の日本の就職事情等をしっかり把握し、自ら主体的に行動できるようになることをねらいとしていますので、進学等を予定しているなどで卒業後すぐに就職をしないつもりの方の学生にとっても、有益な授業になるはずです。					
到達目標	以下の3つの到達目標があります 1. なぜ、どのような仕事に就きたいのかを、自らの言葉で説明できるようになる（志望理由） 2. 自らがどんな人間であるのかを長所・短所も含めて客観視して説明できるようになる（自己PR） 3. 自らの大学生活を振り返り、どのようなことに取り組み、どのような力を育んできたのかを説明できるようになる（ガクチカ）					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 就職活動のすすめ方 第3講 インターンシップ・オープンカンパニーのすすめ 第4講 自己分析 第5講 エントリーシート・履歴書対策 第6講 業界・企業研究 第7講 面接対策 第8講 グループディスカッション対策 第9講 筆記試験対策 第10講 就職活動マナー 第11講 業界・企業セミナー① 第12講 業界・企業セミナー② 第13講 業界・企業セミナー③ 第14講 働く者の権利 第15講 まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	適宜、資料などを配布する予定です。					
事前・事後学習	新聞やニュース、特に自らの志望する業界などに関するものに、しっかり目を通すこと（1日20分以上）。しっかり復習をし、夏のオープンカンパニーや就職活動の開始に備えること。					
成績評価方法	日頃の課題等への取組状況：60% 期末試験：40%					
授業内の課題・提出方法	ゲストスピーカーによって異なるため、授業中に指示する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	翌週以降の授業中にコメントする。					
アクティブラーニング	実際に書類を書く練習をしたり、グループワークを行ったりする予定である。					
実務経験のある教員	ゲストスピーカーは、企業等において、就職活動等に関する情報を多く収集し、指導実績も豊富な方々です。					
担当者から一言	大学生活も振り返り点を過ぎました。自身の将来、卒業後の進路を見据えて、真剣に取り組んでいてください。					

授業科目名	キャリア基礎Ⅲ		科目コード	171703	授業コード	426506
担当教員	高田 晴美		科目ナンバリング	GECC1003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指します。					
授業のねらい	この科目では、大学生としても社会人としても常識として確実に身に付けておくことが求められる基礎学力の習得を目指します。教養としての数学は、文系・理系を問わず、使いこなせる必要があります。また、論理的に文章を読み取る国語の読解力は、あらゆる分野でなくてはならないものです。全15回の授業は、オンデマンドで行います。苦手とする単元は授業動画を繰り返し視聴し、確実に学力を養成していきましょう。					
到達目標	①数学の基礎学力を身に付ける。 ②新聞記事、時事的な文章、評論等の論理的な文章を読み解けるようになる。					
授業計画	第1講 ガイダンス、数学1 第2講 数学2 第3講 数学3 第4講 数学4 第5講 数学5 第6講 数学6 第7講 数学7 第8講 数学8 第9講 数学9 第10講 読解1 第11講 読解2 第12講 読解3 第13講 数学10 第14講 数学11 第15講 数学12 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	「キャリア基礎a」用テキストを使用します。					
事前・事後学習	まずはテキストの問題を試しに解いてみる（90分）。 次に、授業動画を視聴しながら、動画の指示に従って、テキストの問題を改めて解く。 復習として、問題を完璧に解けるようになるまで解き直す（90分）。					
成績評価方法	期末試験 100%					
授業内の課題・提出方法	テキストの各章末の確認テスト問題を課題とします。 Moodleに解答を掲示しますので、それを見て自分で答え合わせをしてください。					
授業内の課題・提出物の フィードバック方法	課題の解答・解説はMoodleにて示します。 課題や授業内容などについて、疑問がありましたら、メール等で受け付け、返信します。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員	担当者の高田は、複数の大学や再就職希望社会人向けの就職試験対策講座や公務員試験対策講座の担当経験あり。					
担当者から一言	大学で何を専門的に学ぶにせよ、大学卒の社会人に期待される最低限の学力、特に、多くの人が苦手としがちな数学は身に付けておいた方がよいです。この科目では「やれるまでやる」「基礎学力に自信が持てるようになる」つもりで取り組みましょう。					

授業科目名	ボランティア活動 a		科目コード	171801	授業コード	426105
担当教員	松本 彩月		科目ナンバリング	GES1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。					
授業のねらい	社会貢献活動は、地域まちづくり活動、国際協力活動、災害支援活動、環境保全活動など様々である。これらの活動にボランティアとして参加することは、生きた活動を学べるまた自分自身で携われる貴重な機会であると共に、地域社会への貢献となるなど、大きな意義を持つ。四日市大学では、多くの学生の参加促進のため、一定の手続きを経て単位認定を行う。 ※ボランティア活動aの単位修得後、bを取得する。					
到達目標	1. 現場での体験を通じて、社会のさまざまな課題を理解する。 2. 主体的な行動力を身に付け、社会を良くするために考察する力をつける。 3. 地域の人々との交流により、より豊かな人間性を身につける					
授業計画	1 対象となる活動 ① ボランティアセンターで紹介するボランティア活動 ② 別に大学の審査により認められたボランティア活動 2 単位認定に必要な活動時間 実労働時間60時間以上（複数の活動や、年度を超えた活動でもよい。） 3 活動時期 授業や大学行事に支障がないと判断される時期 4 事前申請 参加予定の1か月前、既に参加した場合は終了後1か月後に「ボランティア活動内容書」（教学課に置いてある）を教学課に提出すること。 5 単位認定申請 実労働時間が60時間を予想されるか、超えた場合であって、単位認定を希望する場合は、教学課に下記の書類を提出すること。（卒業年次の1月末日まで） ① ボランティア活動a単位認定申請書 ② ボランティア活動団体発行の証明書 ③ 活動日誌・レポート（様式自由、1000字程度） 注）活動の経験を三重県内の地域でどう活かすかを言及すること。					
テキスト・教材（参考文献）	なし					
事前・事後学習	（事前）参加する活動や団体に関する情報を収集し、内容を理解しておくこと。（90分）。 （事後）学んだ内容を復習し、関連する情報にも目を通すこと（90分）。					
成績評価方法	「ボランティア活動団体の証明書」「活動日誌・レポート」の内容により単位認定する。評価は「認(認定)」となる（履修制限単位に含まれない）。					
授業内の課題・提出方法	参加した社会貢献活動について、活動日誌とレポートを提出してもらう					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内の課題・提出物のフィードバック方法 提出した活動日誌やレポートについてコメント、希望により面談を行う。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	ボランティアセンターのボランティア情報を活用し、どのような社会貢献活動があるのかを探してみましょう。積極的に参加されることを期待しています。					

授業科目名	ボランティア活動 b		科目コード	171802	授業コード	426106
担当教員	松本 彩月		科目ナンバリング	GES1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。					
授業のねらい	社会貢献活動は、地域まちづくり活動、国際協力活動、災害支援活動、環境保全活動など様々である。これらの活動にボランティアとして参加することは、生きた活動を学べるまた自分自身で携われる貴重な機会であると共に、地域社会への貢献となるなど、大きな意義を持つ。四日市大学では、多くの学生の参加促進のため、一定の手続きを経て単位認定を行う。 ※ボランティア活動aの単位修得後、bを取得する。					
到達目標	1. 現場での体験を通じて、社会のさまざまな課題を理解する。 2. 主体的な行動力を身に付け、社会を良くするために考察する力をつける。 3. 地域の人々との交流により、より豊かな人間性を身につける					
授業計画	1 対象となる活動 ① ボランティアセンターで紹介するボランティア活動 ② 別に大学の審査により認められたボランティア活動 2 単位認定に必要な活動時間 実労働時間60時間以上（複数の活動や、年度を超えた活動でもよい。） 3 活動時期 授業や大学行事に支障がないと判断される時期 4 事前申請 参加予定の1か月前、既に参加した場合は終了後1か月後に「ボランティア活動内容書」（教学課に置いてある）を教学課に提出すること。 5 単位認定申請 実労働時間が60時間を予想されるか、超えた場合であって、単位認定を希望する場合は、教学課に下記の書類を提出すること。（卒業年次の1月末日まで） ① ボランティア活動a単位認定申請書 ② ボランティア活動団体発行の証明書 ③ 活動日誌・レポート（様式自由、1000字程度） 注）活動の経験を三重県内の地域でどう活かすかを言及すること。					
テキスト・教材（参考文献）	なし					
事前・事後学習	（事前）参加する活動や団体に関する情報を収集し、内容を理解しておくこと。（90分）。 （事後）学んだ内容を復習し、関連する情報にも目を通すこと（90分）。					
成績評価方法	「ボランティア活動団体の証明書」「活動日誌・レポート」の内容により単位認定する。評価は「認(認定)」となる（履修制限単位に含まれない）。					
授業内の課題・提出方法	参加した社会貢献活動について、活動日誌とレポートを提出してもらう					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内の課題・提出物のフィードバック方法 提出した活動日誌やレポートについてコメント、希望により面談を行う。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	ボランティアセンターのボランティア情報を活用し、どのような社会貢献活動があるのかを探してみましょう。積極的に参加されることを期待しています。					

授業科目名	国際協力研修		科目コード	171803	授業コード	426504
担当教員	永井 博		科目ナンバリング	GESCI003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。					
授業のねらい	青年海外協力隊、NGO（非政府組織）、国際ボランティアなどの海外における社会貢献活動など、国際協力について現地で体験的に学ぶことをねらいとします。NPO論が主として地域を中心とする社会貢献活動を対象とするのに対し、この授業では海外における社会貢献活動が対象です。 海外で実際に行われている社会貢献活動に参加することによって、国際的な視野を広げることを目的とします。					
到達目標	1 国際的な社会貢献活動について理解を深めます。 2 国際感覚を身につけます。					
授業計画	1 単位認定の対象となる活動 大学の審査により認められた国際協力活動（事前審査が必要です）。 2 活動時期 大学の授業、行事等に支障がないと判断された時期に活動を認めます。 3 単位認定の手続き ①事前審査が必要なため、活動参加の3ヶ月前までに教学課に申請して下さい。 ②単位認定を申請する場合は、海外研修から帰国後1か月以内に教学課に以下の書類を提出してください。 （ア）「国際協力研修単位認定申請書」 （イ）「活動団体発行の証明書」 参加者の氏名、活動内容、活動期間が明記されているもの。 （ウ）「活動日誌」 研修・活動期間中の日々の活動内容、感想などが具体的に明記されているもの。 （エ）「レポート」 研修・活動の成果、全体の感想などが明記され、研修・活動の経験を今後どう活かすかについて言及されているもの。参加した学生が作成。字数1,200字程度。様式は自由、パソコン（word）使用のこと。					
テキスト・教材（参考文献）	【参考情報】 公益財団法人オイスカ・ホームページ（https://oisca.org/） 外務省ホームページ（研修先の国の情報を調べて下さい。）					
事前・事後学習	事前：参加する活動や団体、研修実施国に関する資料を収集し、よく内容を理解しておくこと。（90分） 事後：学んだ内容を理解し、関連する情報にも目を通すこと。（90分）					
成績評価方法	「活動日誌」（50%）、「レポート」（50%）					
授業内の課題・提出方法	海外研修終了後に、「活動日誌」と「レポート」を提出。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	「活動日誌」と「レポート」に対してコメントします。					
アクティブラーニング	海外で国際協力活動、フィールド・ワークに参加する。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	研修は学生が自分で活動を探し、参加して下さい。 参加費や渡航費も自分でまかなう必要があります。渡航先の状況にはくれぐれも注意して下さい。					

授業科目名	インターンシップ		科目コード	171804	授業コード	426104
担当教員	鬼頭 浩文、岡 良浩		科目ナンバリング	GES1004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。					
授業のねらい	大学の長期休暇などで、5社以上のオープンカンパニー（1社3時間以上）に参加する。これにより、働くことについて深く理解することが本講義のねらいである。安易な受講は避けてほしいが、社会人になる準備の科目ととらえ、積極的に履修してほしい。					
到達目標	仕事・業界について知り、働くことへの理解を深める。					
授業計画	★日程については掲示板で発表するので、日ごろから掲示板を確認すること ★詳細は、履修要綱に記載 5月（10月）説明会/申込 6月（11月）事前学習 7月（12月）事前研修 8月～9月（2月～3月） オープン・カンパニー 10月（3月）事後学習 11月（3月）単位認定 *（ ）は春季スケジュール					
テキスト・教材（参考文献）	なし					
事前・事後学習	講義計画に記述した通り、研修前に十分な準備学習が必要となる。原則として、準備学習において一度でも遅刻・欠席があった場合は、研修を認めない。まずは説明会に出席し、面談を受けたら実習に向けて準備学習を進めてほしい。					
成績評価方法	事前研修での評価、就業体験時の勤務状況、就業体験後に提出するレポートにより評価する。					
授業内の課題・提出方法	インターンシップにおいて毎日を振り返って日報を書いたり、終了後にレポートを書いたりする。詳しくはガイダンスで説明する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	インターンシップの事前に面談を行い、研修の内容について助言を与える。事後においても、日報などを確認し、学生にフィードバックを行う。					
アクティブラーニング	オープンカンパニーは、会社の説明や実際に働く人たちの日常を知る機会であるが、ときにはディスカッションやプレゼンテーション、グループワークなどを求めることもある。					
実務経験のある教員	単位認定は教員が行うが、インターンシップでは研修先の実務担当者が指導にあたる。					
担当者から一言	気軽にチャレンジしてほしいが、安易な考えで受講することは、しないでほしい。なお、オープンカンパニーは平日昼に実施されることが多い。当然、アルバイトやクラブ活動でドタキャンすることは認められない。					

授業科目名	公務のための数的推理		科目コード	172201	授業コード	425803
担当教員	高田 晴美		科目ナンバリング	GSPO1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	皆さんが苦手としがちな科目であり、しかし、出題数も多く、公務員 1 次試験を突破するには絶対に得点源にしなければならない重要科目が「数的推理」です。数学というと難しく感じるかもしれませんが、数的推理に必要な数学の知識は、ほとんどが中学レベルです。努力すれば手ごたえを得やすい科目でもありますから、粘り強くコツコツと学習を積み重ねていくことが重要です。この講義では、数的推理のほとんどのテーマについて、基本から中級レベルまで、解法のインプットから始めて問題を実際に解くというアウトプットまで行います。					
到達目標	1 数的推理の出題パターンとその解法を知る。 2 今後、自力で学習を進めていくためのベースとなる学力を身に付ける。					
授業計画	第 1 講 ガイダンス、整数の性質① 第 2 講 整数の性質② 第 3 講 方程式と不等式 第 4 講 比と割合 第 5 講 濃度 第 6 講 仕事算、ニュートン算 第 7 講 年齢算、損益算 第 8 講 平均算、魔法陣 第 9 講 速さ① 第 10 講 速さ② 第 11 講 速さ③ 第 12 講 場合の数 第 13 講 確率 第 14 講 n 進法 第 15 講 数列 定期試験 順番は入れ替わる可能性があります。					
テキスト・教材（参考文献）	畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベストNEO 数的推理／資料解釈』エクスピア出版（2021 年）1, 650 円					
事前・事後学習	講義までに、前の週でやった単元について、以下のことをしておくこと。 ・課題（30 分） ・講義で扱った問題の解きなおし（60 分） ・講義では飛ばした問題を解く（90 分） 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。					
成績評価方法	毎回の課題 30% 定期試験（資料持ち込み不可）70%					
授業内の課題・提出方法	毎回の授業で、課題を出します。 課題はMoodleに提出してください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は、次回の授業等で行います。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員	複数の大学で、公務員講座担当の経験あり。					
担当者から一言	この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。					

授業科目名	公務のための判断推理		科目コード	172202	授業コード	421205
担当教員	高田 晴美		科目ナンバリング	GSPO1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	公務員試験の教養科目のうち、「判断推理」は、高校までの学習内容からは外れた、公務員試験独特の科目です。理数系ではありますが、パズルのような問題が大部分であるため、解法の知識も必要ですが、それとともに、試行錯誤しながら論理的に考えていく思考力と粘り強さが要求されます。また、時間をかけずに要領よく解答するためのコツも必要であり、様々なタイプの問題に慣れておく必要もあります。講義では、各テーマについて基本的な解法を示した上で、実際に問題演習にあたり、自力で解くための学力を養成します。					
到達目標	1 判断推理の解法を一通り身に付ける。 2 論理的な思考能力と、解答のために試行錯誤をする力を養う。 3 今後、自力で学習を進めていけるだけのベースとなる学力を身に付ける。					
授業計画	第1講 ガイダンス、順序関係 第2講 順序関係 第3講 位置関係 第4講 対応関係 第5講 試合 第6講 数量関係 第7講 命題と論理 第8講 真偽 第9講 暗号と規則性 第10講 操作・手順 第11講 パズル問題 第12講 移動と軌跡 第13講 立体図形 第14講 展開図 第15講 サイコロと位相 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベスト NEO 判断推理』エクスピア出版（2021年）1, 650円					
事前・事後学習	講義までに、前の週でやった単元（授業でやったあたり）について、以下のことをしておくこと。 ・課題（30分） ・講義で扱った問題の解きなおし（60分） ・講義では飛ばした問題を解く（90分） 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。					
成績評価方法	毎回の課題 30% 定期試験（資料持ち込み不可） 70%					
授業内の課題・提出方法	毎回、授業の終わりに課題を出します。 課題はMoodleに提出してください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は、次回の授業等で行います。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員	複数の大学で、公務員講座の担当経験あり。					
担当者から一言	この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。					

授業科目名	公務のための現代文		科目コード	172203	授業コード	425704
担当教員	高田 晴美		科目ナンバリング	GSPO1003		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	公務員試験科目のうちの「文章理解（国語）」の「現代文」のところで「資料解釈」の2科目について、問題演習を行います。「文章理解（国語）」では出題パターンの紹介とともに、どういうところに着目すべきかを解説します。「資料解釈」は出題数は少ないですが、出題タイプに限られるので、対策を取れば確実に得点源にできます。採用試験だけでなく、その後の公務員の仕事にも必要な能力でもありますから、得意科目にしていきたいと思います。					
到達目標	1 「文章理解（国語分野）」の出題パターンと解法のコツを身に付ける。 2 「資料解釈」の出題パターンと解法のコツを身に付ける。					
授業計画	第1講 ガイダンス、現代文①——内容把握 第2講 現代文②——内容把握 第3講 現代文③——要旨把握 第4講 現代文④——要旨把握 第5講 現代文⑤——文章整序 第6講 現代文⑥——文章整序 第7講 現代文⑦——空欄補充 第8講 資料解釈①——実数 第9講 資料解釈②——実数 第10講 資料解釈③——割合・構成比 第11講 資料解釈④——割合・構成比 第12講 資料解釈⑤——指数・増加率 第13講 資料解釈⑥——指数・増加率 第14講 資料解釈⑦——特殊な問題 第15講 資料解釈⑧——特殊な問題 定期試験 なお、この科目はオンデマンドで行います。					
テキスト・教材（参考文献）	● 瀧口雅仁『公務員試験 文章理解 すぐ解ける〈直観ルール〉ブック〔改訂版〕』実務教育出版（2020年） ● 畑中敦子『畑中敦子の初級 ザ・ベストNEO 数的推理／資料解釈』エクシア出版（2021年）（「公務のための数的推理」と同テキスト）					
事前・事後学習	講義までに、前の週でやった単元（授業でやったあたり）について、以下のことをしておくこと。 ・（特に「資料解釈」では）講義で扱った問題の解きなおし（90分） ・講義では飛ばした問題を解く（90分） 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。					
成績評価方法	毎回の課題 30% 定期試験（資料持ち込み不可）70%					
授業内の課題・提出方法	課題は講義の中で説明します。 Moodleに提出してください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は、授業もしくはMoodleで示します。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員	複数の大学で、公務員試験対策講座の担当経験あり。					
担当者から一言	この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象としています。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。					

授業科目名	公務のための政治学		科目コード	172204	授業コード	422602
担当教員	小林 慶太郎		科目ナンバリング	GSPO1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	わたしたちが、役所の人（公務員）に何かをして貰おうとする時、それはどのような仕組みに基づいて、どのように進められるのでしょうか。そしてその背景には、どのような国の仕組みや権力構造、プロセス、歴史があるのでしょうか。 この授業ではこうした、地域で公務につく際に必要となってくる政治的な知識について、学生諸君が、過去の公務員採用試験などの問題を解きながら身につけていくことを、ねらいとしています。将来、公務員になろうと考えている学生にとっては、特に役に立つ演習になるはずですから、必ず受講するよう強くお勧めします					
到達目標	市役所・警察・消防等の公務員採用試験の政治的分野の問題を、確実に解ける程度の知識を身につけることが、この授業の到達目標です。					
授業計画	第1講 ガイダンス：この授業の進め方 第2講 三権分立と法の支配 第3講 議院内閣制 第4講 国会 第5講 内閣 第6講 官僚制と行政 第7講 裁判所 第8講 地方自治 第9講 直接請求権 第10講 選挙 第11講 政党政治 第12講 政治理論 第13講 各国の政治制度 第14講 国際政治 第15講 時事問題 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	資格試験研究会編「大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学〔改訂第3版〕」実務教育出版（2022年）1, 500円＋税 ※ このテキストは、公務のための法学・政治学・経済学の3科目共通です。このほかにプリントも配布することがあります。					
事前・事後学習	必ず予習・復習（各90分）をしてください。なお、講義内容の理解のためにも、出来るだけ、この講義の履修に先立って全学共通教育科目の「政治学」を履修するようにしてください。また、日頃から、テレビや新聞の政治ニュースに目を通すことを心掛けてください。					
成績評価方法	無断欠席者には原則として単位を与えません。成績は次のような配分により評価します。 ・講義時に指示する小テストの提出状況：30% ・定期試験（持込不可）：70%					
授業内の課題・提出方法	原則として毎回、小テストを実施し、授業中に回収します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された小テストは採点し、次回の授業時に返却・解説を行います。					
アクティブラーニング	原則として毎回、小テスト（問題演習）を行います。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	遅刻や、講義中の中座、飲食、私語、携帯電話の鳴動などは、原則禁止します。これらのことが守れない者には、退室を命ずることがあります。出席する以上は、真剣な態度で受講して下さい。また、講義中に指名されたら、元気に返事をするようにして下さい。					

授業科目名	公務のための経済学		科目コード	172205	授業コード	422404
担当教員	鬼頭 浩文		科目ナンバリング	GSPO1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	この講義では、公務員や金融機関、大学院などをを目指す学生に対して、経済学の知識をわかりやすく伝授する。具体的には、職業人として必要な経済を見る力を身につけることと、企業の就職試験や公務員の教養試験における経済学分野の問題を解くための勉強を行う。できる限り、受験テクニックだけでなく、実際の社会の仕組みについても学ぶ。					
到達目標	経済学の基本的知識を理論的に理解し、試験問題の解答を導き出す能力を身につけることが到達目標である。					
授業計画	教学課の課題提出ポスト横のテーブルに、全ての回のレジュメ冊子を置きますので、1回目の授業の前に入手してください。講義はオンデマンド型授業になります。OD授業を一時停止や複数再生しながら内容を理解し、レジュメにノートテイクしてください。なお、課題はテキストの指定した範囲の説明部分を自分なりにノートにまとめ、問題は解くだけでなく解答をみて重要なポイントをノートにまとめてください。課題は、それぞれB5ノートで5ページ以上になるよう、しっかりとまとめてください。 1. ガイダンス 2. 無差別曲線と消費者の行動① 3. 無差別曲線と消費者の行動②＜課題①＞ 4. 企業の行動① 5. 企業の行動②＜課題②＞ 6. 需要の価格弾力性① 7. 需要の価格弾力性②＜課題③＞ 8. 市場メカニズムと安定性＜課題④＞ 9. 公共財の供給 10. 外部効果(外部経済・不経済) 11. その他の経済学の問題演習＜課題⑤＞ 12. 財政政策・金融政策①＜課題⑥＞ 13. 財政政策・金融政策②＜課題⑦＞ 14. 比較優位の理論① 15. 比較優位の理論②					
テキスト・教材（参考文献）	資格試験研究会編「大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学〔改訂第3版〕」実務教育出版（2022年）1, 500円＋税 ※ このテキストは、公務のための法学・政治学・経済学の3科目共通です。このほかにプリントも配布することがあります。					
事前・事後学習	指示した練習問題にトライして、理解できない問題は次回の講義で質問できるように準備をしておくこと。7回の課題には、各3～5時間ほどを要するので、計画的に取り組むこと。この講義は、全学共通教育科目の「経済学概論」単位取得後の受講が好ましい。					
成績評価方法	授業を理解した上で課題(7回を予定)を提出すること。その上で、課題50%、期末試験50%の割合で総合的に評価する。					
授業内の課題・提出方法	独学で勉強するテキストの個所を精読し、ノートにまとめを書き、練習問題を解くだけでなく解説の重要個所もまとめ、写真にしてMoodleに提出する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対してMoodleを経由してフィードバックを行う。					
アクティブラーニング	毎回の授業において、レジュメへの書き込みを完成させ、授業終了後に自分の考えをまとめる課題を課す。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	公務員試験・社会科学系大学院では、経済学の知識は必須である。内容はとても難しいが、パワーポイントなどで分かりやすく解説する。オンデマンド型授業であるが、毎週のOD講義を決まった曜日・時間帯に視聴し、すぐにノートを提出、課題にも計画的に取り組むこと。					

授業科目名	公務のための法学		科目コード	172206	授業コード	423205
担当教員	中西 紀夫		科目ナンバリング	GSPO1006		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	公務員試験対策の法学という形ではありますが、法理論や法制度の基礎的知識はもちろんのこと、憲法上の権利等も問題を解きながら認識を深めていきます。本講義では、大卒程度の警察官や消防官を対象としたテキストを使用しますが、必要に応じて市役所等の試験に出題される問題にも対応したいと思います。当然、たくさん問題を解いていきますが、答え合わせでも出来るだけ分かりやすい解説になるように工夫をしていきたいと思っています。					
到達目標	法学や憲法の基本的な内容を論理的に理解したうえで、公務員試験の問題に対応できる能力を身につけることです。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 法の特質、法の分類、法の支配、法の解釈 第3講 大日本国憲法と日本国憲法の特徴、国民主権、平和主義、憲法改正の手続き 第4講 人権の発達、基本的人権の原理 第5講 日本国憲法における基本的人権の種類 第6講 人権の享有主体性、平等権、自由権、社会権 第7講 参政権と請求権、新しい人権と国民の義務 第8講 要約（これまでの確認） 第9講 民法、刑法、その他の法律 第10講 主な社会学者とその業績、社会集団の分類、現代社会の諸特質 第11講 労働三権、労働三法、近年の労働事情と労働問題 第12講 社会保障、高齢社会、少子社会 第13講 地球環境問題 第14講 資源・エネルギー問題 第15講 要約（これまでの確認） 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	資格試験研究会編『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 社会科学〔改訂第3版〕』実務教育出版（2022年）1, 650円（税込）必要に応じて、プリントでも補足します。 ※ このテキストは、公務のための経済学・政治学・法学の3科目共通です。					
事前・事後学習	その日に扱う内容は出来るだけテキストを事前に読んでおくと、もう一度説明を聞くことで更に頭に入りやすいですし問題の正解率も上がりますので、是非、お願いしたいと思います。ニュース、新聞記事のチェックも忘れないようにしましょう。（毎回の予習90分と復習90分）					
成績評価方法	小テスト 30%：授業中に行う小テストは採点をして2週間以内に返却します。受講態度等も含みます。 定期試験 70%：択一式や用語を書く問題が中心で、テキストや資料等の持込は不可です。					
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。					
アクティブラーニング	学生さん自身が理解度を確認できるように、テキストの問題だけでなく別の本などの問題も解いてもらうようにしています。また、タイミングを見計らいながら、テキストの復習もしています。					
実務経験のある教員	かつて本学の公務員講座で法律科目を数年間担当しており、その経験をこの授業で生かすことができていると思います。					
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要になることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。					

授業科目名	公務のための人文科学		科目コード	172207	授業コード	422802
担当教員	浅井 雅		科目ナンバリング	GSPO1007		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	幅広い人文科学の知識を問題演習を通じて学ぶ。公務員試験を目指す者のみならず、様々な業種の就職試験における一般教養も学べる授業となる。					
到達目標	教養としての人文科学を十分に理解し、確実に身につける。					
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 日本史(1) 第3回 日本史(2) 第4回 日本史(3) + 世界史(1) 第5回 世界史(2) 第6回 世界史(3) 第7回 世界史(4) 第8回 地理(1) 第9回 地理(2) 第10回 地理(3) + 国語(1) 第11回 国語(2) 第12回 思想(1) 第13回 文学・芸術(1) 第14回 文学・芸術(2) 第15回 まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	『大卒程度警察官・消防官新スーパー過去問ゼミ人文学改訂第3版』実務教育出版、2022年、1500円＋税 その他、電子もしくは紙でプリントを配布する場合もある。					
事前・事後学習	事前に次回の授業に向け、当該範囲を予習しておく。(60分) 事後には、授業の内容・範囲について理解を深める。(60分)					
成績評価方法	毎回の授業の最後に提出してもらおう小レポート（コメントペーパー）＝30% 期末試験＝70% なお、病欠・公欠等は、別途相談のこと。					
授業内の課題・提出方法	コメントペーパーを授業のどこかのタイミングで電子または紙で提出してもらおう。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出してもらった小レポート（コメントペーパー）はすべて目を通し、全体で共有すべきことがあれば次回の授業の最初にフィードバックする時間を設ける。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	授業内容・計画は時事的状況や受講生の興味・関心等で変更する場合がある。 担当者から一言担当者から一言授業中に受講にふさわしくない態度・行為（スマホ・イヤホンなどを含む）をとった者は退室させることがあるので、了解しておくこと。					

授業科目名	公務のための自然科学		科目コード	172208	授業コード	425403
担当教員	高田 晴美、浦畑 夢		科目ナンバリング	GSPO1008		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	公務員試験の「自然科学」の内容は高校レベルの「物理」「化学」「生物」「地学」です。これらは特に文系の受験生にとっては元々知識があまりないため学習困難なのですが、丸々捨てるわけにもいきません。しかし、的を絞って学習すれば、それなりに得点ができるようにはなれます。この講義では、自然科学の頻出テーマについて、特に自力では学習しづらい単元を中心に、広く（浅く）知識のインプットをした上で、過去問の演習を行います。					
到達目標	公務員試験の自然科学の問題のうち、簡単なものなら解ける程度の知識、学力を身に付ける。					
授業計画	第1講 ガイダンス、物理① 第2講 物理② 第3講 物理③ 第4講 生物① 第5講 生物② 第6講 生物③ 第7講 生物④ 第8講 地学① 第9講 地学② 第10講 地学③ 第11講 地学④ 第12講 化学① 第13講 化学② 第14講 化学③ 第15講 化学④ 定期試験 物理と地学は高田が、生物と化学は浦畑が担当します。 講義の順番は入れ替わる可能性があります。					
テキスト・教材（参考文献）	『大卒程度 警察官・消防官 新スーパー過去問ゼミ 自然科学 改訂第3版』実務教育出版（2018年）1,650円（税込）					
事前・事後学習	次週の講義までに、前の週でやった単元について、以下のことをしておくこと。 ・課題を解く（30分） ・講義で扱った問題の解きなおし（60分） ・講義では飛ばした問題を解く（90分） 自力で解けるようになるまで何度もやり直してください。					
成績評価方法	定期試験（資料持込不可） 70% 課題 30%					
授業内の課題・提出方法	授業で課題を示します。 提出方法は、各担当教員が指示します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解答解説は、授業で示します。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員	複数の大学で、公務員試験対策講座の担当経験あり。					
担当者から一言	この科目は、公務員試験を受ける予定の学生のみを対象とした、真面目に学習しないと単位取得が困難な科目です。授業中も自ら問題演習に取り組み、授業時間中に解法を確実に自分のものにしてやるという覚悟がある学生のみ、受講して下さい。					

授業科目名	公務のための英文理解		科目コード	172209	授業コード	424604
担当教員	ゴードン リース		科目ナンバリング	GSPO1009		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	現在、日本では公務員試験のための決まった英語カリキュラムは存在しません。この講座では公務員試験によく出るテーマ、自然科学、経済、社会、についての英語の動画を毎回観たり、記事を毎回読んだりします。この講座のテキストは英語の4技能を高めるための構造をしています。CEFR 「ヨーロッパ言語共通参照枠」基準で作成された質が高く、興味深い動画を利用しています。この動画は"authentic video"です。Authentic videoは「外国語学習として意図的に作られた教材ではなく、実際の英語の動画を音声教材					
到達目標	1. 英語の読解力と聴解力を向上させる。 2. 英語の語彙を増やす。 3. 英文法の基礎を身につける。 4. TOEIC(L/R)400～500点に相当する英語力獲得を目指す。					
授業計画	第1講 ガイダンス/ Unit 1 Holidays at Home <Free Time> 第2講 Unit 1 Holidays at Home <Free Time> 第3講 Unit 2 Soccer in Soweto <Sports & Culture> 第4講 Unit 2 Soccer in Soweto <Sports & Culture> 第5講 Unit 3 Hannah's Van <Life> 第6講 Unit 3 Hannah's Van <Life> 第7講 Unit 4 Bionic Boots <Inventions> 第8講 Unit 4 Bionic Boots <Inventions> 第9講 Unit 5 Sophie's Costume <Culture> 第10講 Unit 5 Sophie's Costume <Culture> 第11講 Unit 6 Marvelous Mountain Biking <Sports> 第12講 Unit 6 Marvelous Mountain Biking <Sports> 第13講 Unit 7 A Family's History <Family> 第14講 Unit 7 A Family's History <Family> 第15講 プレゼンテーション プレゼンテーション・定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	『Expanding Horizons』 南雲堂 Charles Browne/Yuji Tanabe 著 978-4523-179214 『Grammar in Practice 2』 Roger Gower Cambridge University Press 978-0-521-66566-7					
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習する。（30分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う。（60分）					
成績評価方法	学習態度 30% 課題・小テスト 40% 定期試験・プレゼンテーション 30% 授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。					
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。					
アクティブラーニング	プレゼンテーション、スピーチ、スキット					
実務経験のある教員						
担当者から一言	オンデマンド授業を予定しています。 1. 5回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。 2. 履修者が18名を超えた場合は抽選あります。					

授業科目名	公務のための論文・面接			科目コード	172210	授業コード	425102
担当教員	松本 彩月			科目ナンバリング	GSPO1010		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	わたしたちが、役所の人（公務員）に何かをして貰おうとする時、それはどのように伝えられ、どのように進められるのでしょうか。どのように伝えれば、間違いが生じにくいのでしょうか。 この授業では、こうした地域で公務につく際に必要となってくるコミュニケーションスキルについて、実際に小論文を書いたり面接の練習をしたりしながら身につけていくことを、ねらいとしています。将来、公務員になろうと考えている学生は受講しましょう。						
到達目標	市役所・警察・消防等の公務員採用試験の論文や面接試験を、確実にクリアできる程度のスキルを身につけることが、この授業の到達目標です。						
授業計画	第1講 ガイダンス この授業の進め方 第2講 文章の書き方（実習） 第3講 面接の心構え（実習） 第4講 論文①（実習） 第5講 面接①（実習） 第6講 論文②（実習） 第7講 面接②（実習） 第8講 論文③（実習） 第9講 面接③（実習） 第10講 論文④（実習） 第11講 面接④（実習） 第12講 論文⑤（実習） 第13講 面接⑤（実習） 第14講 論文⑥（実習） 第15講 面接⑥（実習）						
テキスト・教材（参考文献）	プリントを配布します。						
事前・事後学習	毎回宿題を課しますので、必ずやってきてください（60分）。なお、より良い論文や面接への応答のためにも、出来るだけ、日頃から、テレビや新聞のニュースに目を通し、社会に広く目を向けることを心掛けてください（毎日20分以上）。						
成績評価方法	課題等への取り組み状況：45% 講義時に指示する宿題の提出状況：30% 受講態度：25%						
授業内の課題・提出方法	宿題は授業の冒頭で提出してもらいます。 また、授業中にも、口頭で応える課題や書いてもらう課題を課します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	口頭での課題に対しては、その場で適宜指導します。 文書で提出された課題・宿題は、毎回添削して返却します。						
アクティブラーニング	ディスカッション、ペアワーク、面接実践練習						
実務経験のある教員	非営利団体にて地域の子育て支援政策に携わった経験があります。						
担当者から一言	この講義は、公務員試験に間に合うよう、6月上旬までの期間に集中して週2回連続で実施します。履修の際には注意してください。なお、履修する以上は、真剣な態度で受講して下さい。真面目に、楽しい授業にするために協力しましょう。遅刻、携帯電話の使用は禁止です。私語、携帯電話の使用をやめない場合は退出（＝欠席扱いとします）していただきます。						

授業科目名	ビジネスマナー			科目コード	172301	授業コード	425601
担当教員	石田 京子			科目ナンバリング	GSHM1001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	ビジネスコミュニケーションの初級者として、様々な理論や技術の基礎を学びます。経済産業省は「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎力」として「社会人基礎力」を2006年に提唱しました。社会人基礎力とは「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）です。主体的に明るくイキイキと経済活動をする企業人には、この社会人基礎能力が求められます。講義はとりわけビジネスマナーやビジネススキルを中心に、実社会に必要な相手目線（顧客）を意識した自己表現力を磨き、身						
到達目標	1. 社会人としてのマナーの基本を学び習得することで、社会生活の様々なシーンで適切な基本的実践行動ができるようになることです。 2. 人間関係の土台であるコミュニケーションスキルを基本的に学び、そのエビデンスである心理学を理解し考察することで、相手目線に立ち、その場と関わりに応じた適切な自己表現ができるようになることです。						
授業計画	第1講 ガイダンス 挨拶の基本 第2講 マナーとコミュニケーション概論 第3講 一般的なマナー①表情・声・身体表現 第4講 一般的なマナー②敬語 第5講 ビジネスマナー①職場のルール・報連相・電話応対 第6講 ビジネスマナー②受付・案内・席次・名刺交換 第7講 ビジネスマナー③ビジネス文書・ビジネスメール 第8講 第一印象力 第9講 話す力 第10講 聴く力 第11講 考える力（主体的論理的思考） 第12講 クレーム対応・ハラスメント基礎・アンガーマネジメント基礎 第13講 プレゼンテーション原稿づくり 第14講 プレゼンテーション個人発表 第15講 総まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	講義内容資料・プリント・心理学テストプリントなどを配ります。						
事前・事後学習	授業内で宿題として、事前学習（予習）と事後学習（復習）を指示します。 予習：次回の講義の予習準備として出されたプリント等を自宅演習してきます。 また、次回講義内容に関係した課題をあらかじめ調べたり、レポート記入したりすることもあります。 復習：毎回、その講義で学んだ内容を、配布資料を見て再確認・再読・レポート作成・実技練習などをして、習熟できるよう復習します。						
成績評価方法	定期テスト50%、小テスト25%、出席時の積極的態度と発言25%。						
授業内の課題・提出方法	授業内容に基づいた小テストを毎回実施します。その回の講義の理解度を図るためです。 小テストは、授業終了前に実施し、解答を示したのち、解説をします。 丸付け採点したその小テスト用紙は回収し、点数を記録保管します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業の始めに、前回授業内容の重要事項を再確認するための「振り返り授業」の時間をとります。任意に学生を指名して質問し解答していただいたり、提出レポート内容から学生たちの理解度を確かめたりします。また、個人発言やグループディスカッションを通じて、その定着度を確認するときもあります。						
アクティブラーニング	毎回の講義内容により、学習の形態を変えます。実技練習、コメントシート、心理テスト、ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション原稿作成、プレゼンテーション発表があります。						
実務経験のある教員	民間企業経営者。心理カウンセラー。人材育成・進路進学指導・キャリア形成指導・未来教育指導・民間企業の社員研修に携わる。						
担当者から一言	豊かな人間関係は社会生活の重要な要です。周りの人々と心から繋がりが合い、互いに良い影響を与え合う人間関係を構築しましょう。意欲的で実行力のある学生の受講を望みます。						

授業科目名	ビジネスコミュニケーション			科目コード	172304	授業コード	422402
担当教員	石田 京子			科目ナンバリング	GSHM1004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	ビジネスコミュニケーションの上級者をめざして様々な技術を実践的に学びます。経済産業省は「職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎力」として「社会人基礎力」を2006年に提唱しました。社会人基礎力とは「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」の3つの能力（12の能力要素）です。主体的に明るくイキイキと経済活動をする企業人にはこの社会人基礎能力が求められます。講義は笑顔とホスピタリティ溢れる接客技術や、説明力・説得力・プレゼンテーション力などを含む会話術を中心に行います。こ						
到達目標	①ビジネス社会において、人間関係の土台であるコミュニケーションスキルの理論と実践を応用的に学び習得することで、様々なビジネスシーンで相手とその関係性において適切な自己表現行動ができるようになることです。 ②接客技術や会話術を、エビデンスと実践練習で学び習得することで、主体的に考え、判断し、有言実行し、地域社会に貢献できるスキルをもつようになることです。						
授業計画	第1講 ガイダンス 仕事の意義・挨拶の基本 第2講 コミュニケーション概論・ホスピタリティ理論 第3講 パフォーマンス心理学 場と関わりの自己表現 第4講 第一印象力・電話応対 第5講 接客力・名刺交換 第6講 ビジネス文書・ビジネスメール 第7講 コンプライアンス・リスク管理・ハラスメント 第8講 心理学 セルフコーチング 第9講 心理学 交流分析 第10講 心理学 アサーティブコミュニケーション 第11講 合意形成（コンセンサス） 第12講 論理的思考力・説明力・説得力 第13講 プレゼンテーション1 第14講 プレゼンテーション2 第15講 総まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	講義内容資料・プリント・心理学テストプリントなどを配ります。						
事前・事後学習	授業内で宿題として、事前学習（予習）と事後学習（復習）を指示します。 予習：次回の講義の予習準備として出されたプリント他を自宅演習してきます。 また、次回講義内容に関係した課題をあらかじめ調べたり、レポート記入したりすることもあります。 復習：毎回、その講義で学んだ内容を、配布資料を見て再確認・再読・レポート作成・実技練習などをして、習熟できるよう復習します。						
成績評価方法	定期テスト50%、小テスト25%、出席時の積極的態度と発言25%。						
授業内の課題・提出方法	授業内容に基づいた小テストを毎回実施します。その回の講義の理解度を図るためです。 小テストは、授業終了前に実施し、解答を示したのち、解説をします。 丸付け採点したその小テスト用紙は回収し、点数を記録保管します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業の始めに、前回授業内容の重要事項を再確認するための「振り返り授業」の時間をとります。任意に学生を指名して質問し解答していただいたり、提出レポート内容から学生たちの理解度を確かめたりします。また、個人発言やグループディスカッションを通じて、その定着度を確認するときもあります。						
アクティブラーニング	毎回の講義内容により、学習の形態を変えます。実技練習、コメントシート、心理テスト、ペアワーク、グループワーク、グループディスカッション、プレゼンテーション原稿作成、プレゼンテーション発表があります。						
実務経験のある教員	民間企業経営者。心理カウンセラー。人材育成・進路進学指導・キャリア形成指導・未来教育指導・民間企業の社員研修。就活の面接指導。						
担当者から一言	豊かな人間関係は社会生活の重要な要です。心から繋がりがあい、互いに良い影響を与え合う人間関係を構築するために、自身のスキルや人間力を磨きましょう。周りと共に生き、なりたい自分になるために切磋琢磨する学生を望みます。						

授業科目名	グローバルコミュニケーション		科目コード	172305	授業コード	421102
担当教員	富田 与		科目ナンバリング	GSHM1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	この講義では、「遠く」に住む人あるいは「遠く」から来た人と、自分の「近く」でコミュニケーションを行うための考え方を見ていきます。ここで「遠く」、「近く」というのは必ずしも空間的距離の問題だけではなく、価値観、生活様式、宗教など生活世界を構成する様々な局面での距離感も含まれます。文化人類学の考え方を手掛かりに、他者との対話を継続していくための方策を考えていきたいと思います。					
到達目標	文化人類学の理論を対話の実践に応用する能力を身に付ける。					
授業計画	第1講：ガイダンス、コミュニケーションとは 第2講：自然と知識 第3講：技術と環境 第4講：呪術と科学 第5講：現実と異世界 第6講：モノと芸術 第7講：贈り物と負債 第8講：貨幣と信用 第9講：国家とグローバリゼーション 第10講：戦争と平和 第11講：子どもと大人 第12講：親族と名前 第13講：ケアと共同性 第14講：市民社会と政治 第15講：まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	『文化人類学の思考法』（村松圭一郎、中川理、石井美保編）世界思想社 1800円					
事前・事後学習	毎回、予習用の課題を出すのでテキストに従って課題を作成してください。（180分）					
成績評価方法	講義への参加度（発言等）：30% 講義期間中のレポート：30% 最終レポート：40%					
授業内の課題・提出方法	講義期間中の予習課題は、講義中に指名して発表してもらおうのでいつでも発表できるように準備しておいてください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義内での発表にその都度コメントします。指名時に発表の準備ができていない場合は、その時間は欠席扱いとします。					
アクティブラーニング	課題の回答に関して毎回議論します。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	コミュニケーション技術の発達は、お互いの理解促進よりむしろ対立の顕在化を引き起こしているように見えます。技術では克服しにくい距離感の存在とそれへの対応を考えてみましょう。					

授業科目名	ビジネスマネジメント		科目コード	172307	授業コード	425202
担当教員	二村 建也		科目ナンバリング	GSHM1007		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	この「経営分析論」では企業の決算書（財務諸表）などを使って分析することを学びます。第4講までで財務諸表のなかでも特に重要な貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の要点を理解しましょう。次に経営（財務）分析の手法や指標の意味・使い方を観点ごとに学びます。第10講以降は、実存する企業の公開されている財務諸表を使って分析します。ライバルである企業どうしの比較などで経営分析についての理解を深め定着させてください。					
到達目標	(1) 財務諸表の要点を理解する。 (2) 経営分析の手法を財務諸表の各項目の意味と合わせて理解する。 (3) 企業の財務諸表だけでなく、ビジネスモデルや競争戦略なども考慮して経営分析ができる。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 貸借対照表 第3講 損益計算書 第4講 キャッシュ・フロー計算書 第5講 経営分析のための準備 第6講 安全性の分析 第7講 収益性の分析 第8講 効率性の分析 第9講 成長性の分析 第10講 ケース（1）連結決算 第11講 ケース（2）セグメント情報とビジネスモデル 第12講 ケース（3）小売・飲食・サービス 第13講 ケース（4）IT 第14講 ケース（5）メーカー 第15講 まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	テキストは指定しません。資料は適宜配布します。 参考文献：桜井久勝「財務諸表分析 第9版」中央経済社（2024年）、定価：3740円（税込）					
事前・事後学習	「経営分析論」の履修には「会計学総論」「財務諸表論」のいずれかを先行して履修していることが望ましいですが、必須とはしません。 事後学習として授業の内容を配布資料とともに復習してください。そのうえで、上場企業の財務諸表をはじめとしたIR資料（投資家向け資料）に接し、授業で学んだことがどのように使われているか考えてください。また日本経済新聞やビジネス系雑誌などで、企業の業績などに関する記事を読むようにしてください。わからない用語はメモしておき、週に1度は図書館などで複数の文献で調べてください（180分）。					
成績評価方法	(1) 小テスト・平常点（受講態度など）：30% (2) 課題（2回）：30%（15%×2） (3) 定期試験：40%					
授業内の課題・提出方法	小テストを3回（第5講・第8講・第10講予定）実施します。課題はMoodleまたはメールで提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストと課題については全体の講評を授業で行います。					
アクティブラーニング	関心のある企業を選んで、その企業と他の企業を財務・ビジネスモデル・競争戦略などの比較するレポートを作ってもらいます。					
実務経験のある教員	経営コンサルティングの国家資格である中小企業診断士という資格で長年、多くの企業に携わってきました。企業のリアルな姿を数多く見て（診て）きましたので、そうした経験を織り交ぜた授業を目指します。					
担当者から一言	授業時間中の私語、スマホ使用、他者の迷惑となる行為は禁止です。これらを守れない者には退室を命じます。 毎回、電卓を持参してください。					

授業科目名	マーケティング演習		科目コード	172308	授業コード	422405
担当教員	川崎 綾子		科目ナンバリング	GSHM1008		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	本講義では、成功企業の事例を理解した上で、企業のマーケティング戦略について考察する。考察を通じて、実践的なマーケティングの理解を深めることを、本講義のねらいとする。					
到達目標	成功企業の事例について学んだ上で、その企業を成功に導いた根本的な理由について考察する。その上で、他のビジネスへの応用可能性について検討する。既存のマーケティング戦略の改善案や新たな戦略案を提示できる。					
授業計画	第1回 4/8 ガイダンス 第2回 4/15 マーケティングの基本的な考え方 第3回 4/22 マーケティングの分析軸 第4回 4/29 事例研究① 第5回 5/13 事例研究② 第6回 5/20 中間レポートの発表①（予定） 第7回 5/27 中間レポートの発表②（予定） 第8回 6/3 中間レポートの発表③（予定） 第9回 6/10 事例研究③ 第10回 6/17 事例研究④ 第11回 6/24 事例研究⑤ 第12回 7/1 事例研究⑥ 第13回 7/8 最終レポートの作成と発表① 第14回 7/15 最終レポートの作成と発表② 第15回 7/22 最終レポートの作成と発表③ ※外部講師によるご講義の回を予定しています。 （第1回のガイダンス時に詳細を説明予定です） ただし川崎による講義に代える場合があります					
テキスト・教材（参考文献）	教科書（テキスト） 大崎孝徳（2016）『すごい差別化戦略』日本実業出版社 ISBN-13：978-4534053480					
事前・事後学習	マーケティングや企業経営に関するニュースに目を通すことを心がけること（30分程度、週2日以上）。講義内容を復習し、既存のマーケティング戦略の長所や短所について考える時間をもつことが望ましい（1時間程度）。					
成績評価方法	中間レポートと発表 50% 最終レポート（レポート試験）と発表 50% ※レポートの内容だけでなく、発表態度や発表を聴く態度も含む。 受講者数が多く、発表の時間が取れない場合は レポートの内容と聴講態度で評価する					
授業内の課題・提出方法	①毎回の出席確認の質問への解答は、講義中にmoodleから提出すること ②中間レポートと最終レポートも、moodleから提出してもらう予定。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間レポートについては、講義中にコメントします。 履修者数が多く、全員の発表時間が取れない場合は 優秀な中間レポートを、前のスクリーンで紹介する予定です。					
アクティブラーニング	出席確認の課題についても、優秀な解答は講義中に紹介する場合がある。					
実務経験のある教員	ゲストスピーカーとして企業のかたにご講義いただく予定です					
担当者から一言	実践的なマーケティングを学ぶ機会になれば幸いです。自ら進んで学ぶ姿勢をもって取り組める人は、是非受講してください。 ※2回以上、私語の注意を受けた人には原則、単位を認めません。 また許可された時間以外にスマホを使用した場合、 2回目の注意を受けた時点でその日は原則、欠席扱いとなります。					

授業科目名	おもてなし特別講義 a		科目コード	172309	授業コード	423605
担当教員	岡 良浩、川崎 綾子		科目ナンバリング	GSHM1009		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	本講義は、企業経営の成功事例を、総合的に理解することを目的とします。 企業経営の成功は、個々の技術要素というより、マネジメント力や企画力などの総合力が勝っているからだと思われます。このような総合力を見ることがこの講義のねらいです。 具体的には「三重のサステナブル経営アワード」をとりあげ、受賞企業をお招きし、ケーススタディを学んでいただきます。またこの制度を含めた中小企業振興施策を実施されている三重県庁の方や、教員からみた経営のケーススタディについてもお話する予定です。 全体として成功の要因について、共通する点・他企業・他業態への応用の可能性など普遍化できるかを考察していきたいと思います。					
到達目標	・ 企業経営の成功事例を理解する。 ・ 成功事例から、成功の要因や他事業への応用（普遍化）を考察する。					
授業計画	第1回 9/24 ガイダンス 第2回 10/1 外部講師による講義（三重県） 第3回 10/8外部講師（企業経営者）による講義① 第4回 10/15外部講師（企業経営者）による講義② 第5回 10/22中間レポート1 第6回 10/29 外部講師（企業経営者）による講義③ 第7回 11/5外部講師（企業経営者）による講義④ 第8回 11/12外部講師（企業経営者）による講義⑤ 第9回 11/19 中間レポート2 第10回 11/26外部講師（企業経営者）による講義⑥ 第11回 12/3 外部講師（企業経営者）による講義⑦ 第12回 12/10 外部講師（企業経営者）による講義⑧ 第13回 12/17中間レポート3 第14回 1/7 まとめ1 第15回 1/14まとめ2 ※外部講師の講演企業・日程などの詳細は、適宜、講義中にお知らせします。					
テキスト・教材（参考文献）	テキストは使用せず、毎回、資料を配付します。					
事前・事後学習	日頃から、企業経営、サステナブル経営に関するニュースに目を通すようにして下さい（30分、週3日以上）。授業内容を復習して、さらに他の事例研究もおこなってください（90分）。					
成績評価方法	講義への参加態度（含む質疑） 40% 中間レポート 30% 定期試験（レポート試験） 30%					
授業内の課題・提出方法	毎回の授業の感想を簡単に提出いただきます。 授業中に中間レポートを作成します。 （いずれもMoodleを利用予定）					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業時に提出した課題については、Moodle内でコメントをつけてフィードバックします。					
アクティブラーニング	講義中に、質疑やグループディスカッション等が求められることがあります。積極的に参加することが求められます。					
実務経験のある教員	ゲストスピーカーとして三重県庁や企業の方々を招へいします。					
担当者から一言	この講義は公開授業とする予定です。一般の方と一緒に受講していただきます。履修者は、社会人としてのマナーを守って受講してください。					

授業科目名	観光英語 I			科目コード	172401	授業コード	421303
担当教員	ゴードン リース			科目ナンバリング	GSET1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	新社会人が入社後に初めて任された仕事に取り組むストーリーを通して、日常表現と優しいビジネス表現や基本文法を学びます。英語の4技能を養成することを目的としています。が、簡単なビジネスプレゼンテーションスキルも学んで、受講生は講座中2回英語プレゼンテーションを挑戦します。 The textbook follows a new university graduate in his first year of working at a small advertising company. Students will						
到達目標	この講座の目標は、受講生の英語でのビジネスコミュニケーション力を向上させることです。電話の使い方、アポイントの取り方、プレゼンテーション、メール作成などの実践的スキルを養います。TOEIC(L/R)425～475点に相当する英語力獲得を目指します。 The main goal of this class is for students to improve their business communication level and develop skills necessary for work in						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 Unit 1- Nice to Meet You 第3講 Unit 2- Getting Started 第4講 Unit 3 -Office Tour 第5講 Unit 4- First Work Assignment 第6講 Unit 5- Small Talk with Co-Workers 第7講 プレゼンテーション 1- preparation 第8講 プレゼンテーション 1- preparation 第9講 プレゼンテーション- Demonstration Speech 第10講 Unit 6- First Contact with a Client 第11講 Unit 7- Client Meeting Preparation 第12講 Unit 8- Final Preparations 第13講 プレゼンテーション 2- preparation 第14講 プレゼンテーション 2- preparation 第15講 プレゼンテーション 2- A Memorable Experience プレゼンテーション 2- 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	『English Spark!』 金星堂 Robert Hinkling 著 978-4-7647-4216-1						
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習する。（30分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う。（60分）						
成績評価方法	学習態度 30% 課題・小テスト 20% プレゼンテーション 1 20% 定期試験- プレゼンテーション 2 30% 注意 1. 5回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。 2. 履修者が18名を超えた場合は抽選あり。 3. テキストがないと欠席扱いになる。 4. 2回遅刻すると1回の欠席になる。						
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。 詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
アクティブラーニング	プレゼンテーション、スキット						
実務経験のある教員							
担当者から一言	この科目は本気で英語を取得したい学生の為にある。授業の内容は容易ではありません。対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。						

授業科目名	コンピュータ英語 I			科目コード	172403	授業コード	423204
担当教員	樋口 晶子			科目ナンバリング	GSET1003		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	ビジネスの場で英語を使える力を身につけるスタート段階は、世の中のいろいろなことに対して、自分の意見を持ち、それをことばで表現することです。そのための基礎的な英語スキル（スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング）を磨きます。題材はビジネスに限定せず、文化・自然・科学など、広い分野を対象とし、わかりやすい英語を通じて内容を理解します。また、将来、TOEIC、英検などの試験問題に挑戦することに備え、その出題形式を知ることが目的として、試験概要を説明します。グループワークやペアワークを毎回行います。						
到達目標	1. 教材やプリント、補助教材などをマスターする。 2. 英語で読んだり聞いたりして、内容を理解する。 3. 簡単な自分の意見を英語で伝える。 4. TOEIC、英検等、英語資格試験の出題形式を知る。 5. TOEIC(L/R) 400～450点程度に相当する英語力獲得をめざす。						
授業計画	テキストに加えて、動画視聴や英語アクティビティを行い、多様な英語表現を身につけます。テキストの進行計画は下のとおりです。 第1講 ガイダンス Introduction、Unit 1/ Weather 第2講 Unit 2/ The Internet 第3講 Unit 3/ Animals 第4講 Unit 4/ Friends 第5講 Unit 5/ Helping Others 第6講 Unit 6/ Traveling 第7講 Unit 7/ Collections and Gifts 第8講 Unit 8/ Careers 第9講 Unit 9/ European Cultures 第10講 Unit 10/ Gifted Children 第11講 Unit 11/ Restaurants 第12講 Unit 12/ Transportation 第13講 Unit 13/ Homes 第14講 Unit 14/ Space 第15講 Unit 15/ Personality 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキスト：『Reading Links 2』（南雲堂） テキスト以外に授業で使用する教材はプリントとして配布します。 参考文献：各種英語試験対策のための問題集 『英検過去6回全問題集』（旺文社）、『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 8』（ETS）など、自分のレベルに合ったものを選んでください。四日市大学情報センターで各種問題集を貸し出しています。実際に受験する人は、内容を見て購入することをお勧めします。						
事前・事後学習	テキストは必ず予習し、わからない単語などは受講前に調べておいてください。復習も欠かさず行ってください。毎日1時間程度の英語学習が必要です。授業ではテキストの内容を逐一説明することはないので、わからない点を質問できるように準備して授業に参加してください。授業で出される課題や小テストは、必ず提出・試験準備をしてください。						
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題 50％ （原則として毎回、小テストを行います） 定期試験 50％ コミュニケーションを取る意欲の涵養を重視する観点から、単に出席しているだけで、授業に積極的に参加しない場合は、欠席扱いにすることがあります。英語レベルにかかわらず、授業に取り組む姿勢を高く評価します。						
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などは、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。						
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、小テスト、課題・宿題						
実務経験のある教員							
担当者から一言	学生主導型の授業です。出席しても授業に参加しない学生は、評価しません。自分やクラスメートの英語レベルに拘泥せず、コミュニケーションする気持ちを自分から示してください。英語資格試験受験を考えている方には、個別に相談に応じますので、担当教員にお尋ねください。						

授業科目名	コンピュータ英語Ⅱ			科目コード	172404	授業コード	423603
担当教員	樋口 晶子			科目ナンバリング	GSET1004		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	ビジネスの場で英語を使える力を身につける第二段階は、自分の意見を持ち、それをことばで表現する力をブラッシュアップすることです。「ビジネス英語a」で獲得またはそれに相当する英語力を前提に、自分の意見を英語を伝えるための基礎的な力（スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング）をさらに伸ばします。題材はビジネスに限定せず、文化・自然・科学など、広い分野を対象とし、わかりやすい英語を通じて内容を理解します。「ビジネス英語a」に引き続き、将来のTOEIC、英検などの受験を念頭に、出題形式を知るために問題を						
到達目標	1. 教材やプリント、補助教材などをマスターする。 2. 英語で読んだり聞いたりして、内容を理解する。 3. ある程度まとまった自分の意見を英語で伝える。 4. TOEIC、英検等、英語資格試験の出題形式を知る。 5. TOEIC(L/R) 400～450点程度に相当する英語力獲得をめざす。						
授業計画	テキストに加えて、動画視聴や英語アクティビティを行い、多様な英語表現を身につけます。テキストの進行計画は下のとおりです。 第1講 ガイダンス Introduction、Unit 1/ Nature 第2講 Unit 2/ Music 第3講 Unit 3/ Hobbies 第4講 Unit 4/ Culture 第5講 Unit 5/ Interesting Places 第6講 Unit 6/ Animals 第7講 Unit 7/ Art and Design 第8講 Unit 8/ Weather 第9講 Unit 9/ Traveling 第10講 Unit 10/ Entertainment 第11講 Unit 11/ Friends 第12講 Unit 12/ Africa 第13講 Unit 13/ Self-Improvement 第14講 Unit 14/ Sports 第15講 Unit 15/ Transportation 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキスト：『Reading Links 3』（南雲堂）【「ビジネス英語a」と違うテキストですので、ご注意ください。】 テキスト以外に授業で使用する教材はプリントとして配布します。 参考文献：各種英語試験対策のための問題集 『英検過去6回全問題集』（旺文社）、『公式TOEIC Listening & Reading 問題集 8』（ETS）など、自分のレベルに合ったものを選んでください。四日市大学情報センターで各種問題集を貸し出しています。実際に受験する人は、内容を見て購入することをお勧めします。						
事前・事後学習	テキストは必ず予習し、わからない単語などは受講前に調べておいてください。復習も欠かさず行ってください。毎日1時間程度の英語学習が必要です。授業ではテキストの内容を逐一説明することはしないので、わからない点を質問できるように準備して授業に参加してください。授業で出される課題や小テストは、必ず提出・試験準備をしてください。						
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題 50％ （原則として毎回、小テストを行います） 定期試験 50％ コミュニケーションを取る意欲の涵養を重視する観点から、単に出席しているだけで、授業に積極的に参加しない場合は、欠席扱いにすることがあります。英語レベルにかかわらず、授業に取り組む姿勢を高く評価します。						
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などについて、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。						
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、小テスト、課題・宿題						
実務経験のある教員							
担当者から一言	学生主導型の授業です。出席しても授業に参加しない学生は、評価しません。自分やクラスメートの英語レベルに拘泥せず、コミュニケーションする気持ちを自分から示してください。英語資格試験受験を考えている方には、個別に相談に応じますので、担当教員にお尋ねください。						

授業科目名	英語表現 I		科目コード	172405	授業コード	423401
担当教員	青木 陽子		科目ナンバリング	GSET1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	ビジネスの場で使える英語を4技能（リスニング、スピーキング、リーディング、ライティング）の観点から学びます。実際に遭遇することの多いさまざまなビジネスシーンを取り上げながら、英語の表現力の向上を目指します。ライティング練習では、ビジネスコミュニケーションの中心となるEメールを取り上げ、フォーマルな表現からカジュアルな表現まで、さまざまな表現方法を学びます。					
到達目標	1. 英語の読解力・聴解力を高める。 2. 基礎的な英語を用い、自分の意見を相手に伝える力を習得する。 3. コミュニケーション相手に合わせた英語表現の使い分けを理解する。					
授業計画	第1講 ガイダンス、Unit 1 Introducing Yourself 第2講 Unit 1 Introducing Yourself 第3講 Unit 2 Introducing Companies 第4講 Unit 2 Introducing Companies 第5講 Unit 3 Explaining Your Role 第6講 Unit 3 Explaining Your Role 第7講 Unit 4 Introducing Products 第8講 Unit1~Unit3の復習、小テスト 第9講 Unit 4 Introducing Products 第10講 Unit 5 Checking Information 第11講 Unit 5 Checking Information 第12講 Unit 6 Giving Your Opinion 第13講 Unit 6 Giving Your Opinion 第14講 Unit 7 Making Requests 第15講 総復習 定期試験 ＊授業内容及び進度は、クラスの状況により変更する場合があります。					
テキスト・教材（参考文献）	『Go Global? グローバル時代のビジネスコミュニケーション』 Garry Pearson, Graham Skerritt, 吉塚弘（成美堂） 定価：2, 640円（税込）					
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習をする（90分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う（90分）					
成績評価方法	小テスト 20% 課題・宿題 20% 定期試験 60%					
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題や提出物について、必要に応じて、各学生またはクラス全体の講評としてフィードバックします。					
アクティブラーニング	小テスト、課題・宿題					
実務経験のある教員						
担当者から一言	英語学習は、予習と復習が大事です。しっかり準備して授業に臨んで下さい。授業への積極的な参加を期待します。					

授業科目名	基礎英語 II			科目コード	171102	授業コード	425801
担当教員	青木 陽子			科目ナンバリング	GEL1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	「語学科目」では英語を中心とした外国語を、幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。						
授業のねらい	基礎英語 I で修得した力を基礎として、さらに学修を深めます。英語力を総合的に高めることを第 1 のねらいにしています。2 つ目には、教養的な要素として、外国文化に接し、多様な文化に触れることで異文化に対する興味・関心を高め、理解力を磨き、自国文化との比較を通し、それぞれの文化への理解の深まりを促進します。3 つ目には、企業が求める人材、マンパワーとして必要になる語学運用能力の向上を推進することもねらいとしています。						
到達目標	英語力を総合的に高め、実社会や実生活で英語を運用できる（日常生活で使える）力を構築する土台の形成を到達目標にしています。また、同時に、国際人としての教養を高め、文化的マナーの向上にも英語学習を通して貢献することを目標にしています。						
授業計画	各学部で複数の講座が並行して開講され、担当教員が異なります。授業計画は各講座によります（下記は例）。 第 1 講義 ガイダンス 及び Unit 1 第 2 講義 Unit 2 以下 第 1 5 講義まで展開						
テキスト・教材（参考文献）	各担当教員がテキスト・教材を具体的に指示します。						
事前・事後学習	各担当教員の指示に従ってください。						
成績評価方法	各担当教員のガイダンス等に従ってください。						
授業内の課題・提出方法	担当者の指示に従ってください。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	担当者の指示に従ってください。						
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、課題及び課題に対するフィードバックなど、各担当教員が具体的に指示します。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	英語の言語能力（聞く・読む・話す・書く）に加え、伝える力・相手を理解する力を養ってコミュニケーション能力を高め、あらゆることに興味を持って視野を広げる気持ちで、積極的に授業に参加してください。						

授業科目名	ビジネス英語 I	科目コード	172407	授業コード	422403
担当教員	ゴードン リース	科目ナンバリング	GSET1007		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	プレゼンテーションを通じて、学生の英語でのビジネスコミュニケーション能力の向上を図る事がこの講座の狙いです。アクティブに英語を学んでもらうために学習者中心の授業をします。スキットやロールプレイを利用して、『使える英語』を目指します。 In this course students will work on improving their business communication and English presentation skills. A textbook will be utilized				
到達目標	1. 英語の4技能 (reading, writing, listening, speaking)を高める。 2. ビジネス英語の語彙を増やす。 3. 人の前で英語で話す自信を身につける。 4. 英語の基礎的なプレゼンテーションスキルを身に付ける。 5. TOEIC(L/R)475～575点に相当する英語力獲得を目指す。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 Unit 4- Life Counseling / Job Hunting 第3講 Unit 4- Life Counseling / Job Hunting 第4講 Unit 6 -Poverty / Australia- Help for Job Seekers 第5講 Unit 6- Poverty / Australia- Help for Job Seekers 第6講 プレゼンテーション 1- Preparation- Job Interview 第7講 プレゼンテーション 1- Preparation- Job Interview 第8講 プレゼンテーション 1- Job Interview- Role Play 第9講 Unit 12- Women's Rights / AI 第10講 Unit 12- Women's Rights / AI 第11講 Unit 14- Lifestyle-Ways to Get Out of the Busyness Trap 第12講 Unit 14- Lifestyle-Ways to Get Out of the Busyness Trap 第13講 プレゼンテーション 2- Preparation- 第14講 プレゼンテーション 2- Preparation- 第15講 プレゼンテーション 2- News Story プレゼンテーション 2- 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	INTEGRITY Intermediate (中級) - 金星堂 Vitalize Your English Studies with Authentic Videos Osamu Takeuchi/Tomoko Yabukoshi / Yukie Shinhara 著 978-4-7647-4175-1				
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習する。（30分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う。（60分）				
成績評価方法	学習態度 30% 課題・小テスト 20% プレゼンテーション 1 20% 定期試験 -プレゼンテーション 2 30%				
授業内の課題・提出方法	クラスの担当教員の指示に従ってください。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。				
アクティブラーニング	プレゼンテーション、スキット、ロールプレー				
実務経験のある教員					
担当者から一言	対面授業を予定している。しかし、新型コロナウイルスの感染状況によって、担当教員の判断でオンデマンド型授業に変えることがある。 1. 5回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。 2. 履修者が18名を超えた場合は抽選あり。 3. テキストがないと欠席扱いになる。 4. 2回遅刻すると一回の欠席になる。				

授業科目名	ビジネス英語Ⅱ			科目コード	172408	授業コード	422601
担当教員	樋口 晶子			科目ナンバリング	GSET1008		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	英語によるプレゼンテーション能力を身につけることが目的です。単に英語でおしゃべりができることとは違い、論理的に相手に伝え、説得し、聞いた人に何らかのアクションを起こさせるプレゼンテーションをするためには、そのテーマに関する知識とプレゼンテーション技術に加え、何度も練習することが必要です。その活動を通じて、話す・聞く・読む・書く力に加え、やり取りする能力や理解力、共感性など多様な力を高めます。さらに授業をクラスメートと協力しながら学ぶスタイルで進めることにより、複数のグループワークやペアワークを頻繁に行うこ						
到達目標	与えられたテーマや自分が設定したテーマについて、わかりやすい英語を使って自分の意見をまとめ、文章を作り、それを論理的かつ明確に他者に伝えること、他者の意見を聞きそれに対する自分の意見を述べられる力を身につけることをめざします。それらの活動を通じて思考力を高め、多様性を前提とした国際社会で通用するコミュニケーション力を磨きます。目標とする英語レベルはTOEIC(L/R) 475～575点相当です。						
授業計画	第1講 ガイダンス Unit 1/ Conversation 1 挨拶 第2講 Unit 2/ Conversation 2 出身地 第3講 Unit 3/ Conversation 3 習慣 第4講 Unit 4/ Conversation 4 過去のできごと 第5講 Unit 5/ Conversation 5 未来や予定 第6講 Unit 6/ Discussion 1 自分の意見を述べる 第7講 Unit 7/ Discussion 2 同意・反論 第8講 Unit 8/ Presentation 1 プレゼンテーションの基本構造 第9講 Unit 9/ Presentation 2 プレゼンテーションの内容 第10講 Unit 10/ Presentation 3 グラフを使う 第11講 Unit 11/ Simplified Debate 1 ディベート① 第12講 Unit 12/ Simplified Debate 2 ディベート② 第13講 Unit 13/ Simplified Debate 3 ディベート③ 第14講 Unit 14/ Simplified Debate 4 ディベート④ 第15講 Unit 15/ Simplified Debate 5 ディベート⑤ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	テキスト：『Speak Easy』（金星堂） テキスト以外に授業で使用する教材はプリントとして配布します。						
事前・事後学習	予習・復習が重要です。わからない単語を調べるなど、事前に行えることは予習段階で全部済ませて授業に臨んでください。毎日1時間程度の英語学習が必要です。自己紹介など身近で易しい内容から始めますが、講義中盤以降では英語によるディスカッションやディベートなど難度が高くなります。第1講から第15講まで、確実に積み重ねる学習を怠らないようにしてください。						
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題 50% （適宜、小テストを行います） 定期試験 50% 学習者同士が協力して学び合うスタイルの授業です。単に出席しているだけで、授業に積極的に参加しない場合は、欠席扱いにすることがあります。英語レベルにかかわらず、授業に取り組む姿勢を高く評価します。						
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などは、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。						
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、小テスト、課題・宿題						
実務経験のある教員							
担当者から一言	学生主導型の授業です。出席しても授業に参加しない学生は、評価しません。クラスで前に出て発表したり自分のスピーチを録画するなど、実践型の授業ですので、心配や不安がある人は個別に担当教員に相談してください。クラスメートと協力し合うことを楽しみ、英語力をの向上を通じて思考力を身につけてください。						

授業科目名	検定英語 I			科目コード	172409	授業コード	421405
担当教員	樋口 晶子			科目ナンバリング	GSET1009		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	読むことは知識を得るだけでなく、思考力・判断力・表現力を深めることにつながります。表面的な英語訳読を超えて、総合的な学力・人間力を高めることをめざし、ある程度の長さのある様々な分野の論理的・学術的な文章を精読します。読んだ文章を本当に理解することを重視するため、読むことに加え、要約や読んだ内容についてのクラスメートと意見交換を通じて（読む・書く・聞く・話す・やりとりする）、理解の度合いを深めます。IELTS、英検などの英語能力測定試験の読解問題にも挑戦しますが、高得点の取得が目的ではなく、あくまでも内容を						
到達目標	英語で書かれた様々な文章を読んで理解し、そこに書かれた内容についての知識を得ると共に、その内容を要約し、テーマに対する自分の意見をまとめます。リーディングが中心ですが、読む力を高めるためのリスニング、ライティングやディスカッション等を行い、総合的に英語理解を深めます。それらの活動を通じて国際人としての教養を身につけ、多様性を前提とした異文化理解を促進します。TOEIC(L/R) 525～600点程度に相当する英語読解力獲得をめざします。						
授業計画	第1講 ガイダンス Unit 1/ Smartphone Addiction 第2講 Unit 2/ Congestion at the Cafeteria 第3講 Unit 3/ Infectious Diseases 第4講 Unit 4/ Universal Design 第5講 Unit 5/ Column 1 第6講 Unit 6/ Student Stress 第7講 Unit 7/ Black Baito 第8講 Unit 8/ Older Drivers 第9講 Unit 9/ Plastic Waste 第10講 Unit 10/ Column 2 第11講 Unit 11/ Overtourism 第12講 Unit 12/ Esportse 第13講 Unit 13/ Sleep Deprivation 第14講 Unit 14/ AI 第15講 Unit 15/ Column 3 定期試験 ※テキストに加え、プリントを配布します。プリントは、その回のテキストのテーマにかかわらず多様な分野からリーディング教材を選びます。						
テキスト・教材（参考文献）	テキスト：『Let's Find a Solution! PBL(問題解決型学習)ではじめる総合英語-学習者から探究者へ-』（南雲堂） テキスト以外に授業で使用する教材はプリントとして配布します。						
事前・事後学習	授業内容は必ず予習し、わからない単語などは調べておいてください。毎日1時間程度の英語学習が必要です。授業ではパッセージの内容を逐一説明するわけではないので、わからない点を質問できるように準備して授業に参加してください。授業で出される課題や小テストは、必ず提出・試験準備をしてください。						
成績評価方法	学習態度・小テスト・課題 50% （適宜、小テストを行います） 定期試験 50% 学習者同士が協力して学び合うスタイルの授業です。単に出席しているだけで、授業に積極的に参加しない場合は、欠席扱いにすることがあります。英語レベルにかかわらず、授業に取り組む姿勢を高く評価します。						
授業内の課題・提出方法	課題ごとに、提出方法を説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出課題の添削や小テストの結果などは、必要に応じて、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。						
アクティブラーニング	グループワーク・ペアワーク、小テスト、課題・宿題						
実務経験のある教員							
担当者から一言	学生主導型の授業です。出席しても授業に参加しない学生は、評価しません。授業は原則として日本語で行うので、一定の日本語能力が必要です。大学院入試を考えている方には、個別相談にも応じますので、担当教員にお尋ねください。						

授業科目名	検定英語Ⅱ			科目コード	172410	授業コード	421702
担当教員	ゴードン リース			科目ナンバリング	GSET1010		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。						
授業のねらい	『英語リーディングⅡ』は、学生がTOEICスコア525～600を目指し、英語の語彙力や読解力を高めることを目的としています。特に大学卒業後の大学院進学を目指す学生を対象に、アカデミックな読解力の向上に重点を置き、実際の英語文献を通じて専門的な知識の習得をサポートします。リーディング中心のコースですが、総合的なアプローチをします。この講座のテキストは海外メディアの独自目線で作られた映像を用いて、4技能の多彩なタスクを展開します。2～3分程度の動画を観て4技能を伸ばします。動画の内容を確認し、掘り下げられた						
到達目標	1. 英語の読解力を高める。 2. 英語の基礎的なプレゼンテーションスキルを身につける。 3. 英語の語彙を増やす。 4. TOEIC(L/R)525～600点に相当する英語力獲得を目指す。						
授業計画	第1講 ガイダンス- Unit 1- Alternative Meat 第2講 Unit 1- Alternative Meat 第3講 Unit 2- Zero Emissions 第4講 Unit 2- Zero Emissions 第5講 Unit 3- Health / Social Media 第6講 Unit 3- Health / Social Media 第7講 プレゼンテーション1- preparation 第8講 プレゼンテーション1- preparation 第9講 プレゼンテーション1- リーダーズ・シアター 第10講 Unit 7- Nature / Life 第11講 Unit 7- Nature / Life 第12講 Unit 8- Health / British Society 第13講 Unit 8- Health / British Society 第14講 Unit 10- Food Waste / Education 第15講 Unit 10- Food Waste / Education プレゼンテーション 2- 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	INTEGRITY Intermediate-（中級） 金星堂 Vitalize Your English Studies with Authentic Videos Osamu Takeuchi/Tomoko Yabukoshi / Yukie Shinhara 著 978-4-7647-4175-1						
事前・事後学習	事前学習：授業で扱う内容をテキストで確認し事前に予習する。（30分） 事後学習：テキストや配布資料を活用しながら授業内容を復習し、課題を行う。（60分）						
成績評価方法	学習態度 30% 課題・小テスト 20% プレゼンテーション1- リーダーズ・シアター 20% プレゼンテーション 2- 定期試験 30%						
授業内の課題・提出方法	担当教員の指示に従ってください。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要の都度、各学生またはクラス全体への講評としてフィードバックします。詳細はガイダンス（第1講）及び課題などの提示時に説明します。						
アクティブラーニング	プレゼンテーション、スキット、リーダーズ・シアター						
実務経験のある教員							
担当者から一言	以下のルールを注意して下さい。 1. 5回以上欠席した学生には原則として単位を与えません。 2. テキストがないと欠席扱いになります。 3. 2回遅刻すると1回の欠席になります。 * 履修者が18名を超えた場合は抽選となります。						

授業科目名	メディアツールa		科目コード	172501	授業コード	425203
担当教員	西尾 秀樹		科目ナンバリング	GSMD1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	Web/DTPなど様々なメディアでビジュアル作成に利用されるAdobe Illustratorを使ったグラフィックアプリケーションの入門コースです。 授業は講義と実践（課題）を繰り返し、アプリケーションの基礎技術と各メディアの特徴や各メディアに適したデータ作成方法も理解を深めます。 デジタル環境では、Webを中心とし資料作りや掲示物などもadobe系アプリケーションを使用することによってクオリティを上げることができます。メディアコミュニケーション力アップを目的としたスキル習得していきます。					
到達目標	将来業務でアプリケーションを使用しようと思った時にスムーズにスタートできる程度の基本スキルを身につけ、且つビジュアルコミュニケーション能力アップにも努める。					
授業計画	1.ガイダンス 2.基本操作（何ができるのか解説）・描画の基本（図形ツール・レイヤー・カラーパレット など） 3.色の基本（CMYK/RGB・面と線・グラデーションなど）・選択ツールの使い方 4.自由曲線1（ベジェ曲線の基本/イラスト作成1） 5.ツールについて（効果・フィルター・整列・パスファインダなど） 6.自由曲線2（描画したパスを編集/イラスト作成2） 7.文字の入力・アウトライン（ロゴタイプ作成） 8.自由曲線3（下絵をトレースして着色） 9.Webデータと印刷用データについて 10.画像の配置とレイアウト（Photoshopとの連動） 11.デザイン・レイアウトの実践1（サンプルに基づいてデータ作成） 12.デザイン・レイアウトの実践2（サンプルに基づいてデータ作成） 13.オリジナル作品作成1 14.オリジナル作品作成2（13-14でじっくり多機能を駆使した作品を作成） 15.合評会					
テキスト・教材（参考文献）	実習内容に応じて、教員からデータを配布します。					
事前・事後学習	デザインやレイアウトのヒントや参考は、広告物やWebサイトなど世の中に溢れています。 意識して眼にするだけでも自分自身の引き出しへの蓄積は変わってきますので、良いと思ったもののストックや自分ならどうするかを考えて接してください。具体的な事前準備が必要な場合は指示します。					
成績評価方法	授業内提出課題の3-12番まで50%、13-14番の合評会用データ50%					
授業内の課題・提出方法	授業終了時に、クラウドの指定ディレクトリにアップロード					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の講評によってフィードバックします。					
アクティブラーニング	実習を行います。					
実務経験のある教員	実習するアプリを用いた実務経験があります。					
担当者から一言	思考をグラフィック的に具現化できると表現も広がりますし、将来、クリエイティブ専門の業種ではなくても、広告・告知物・プレゼンテーション資料作りなど多岐にわたり活用できるスキルですので、多くの学生が身につけてもらえればと思います。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。					

授業科目名	メディアツールb		科目コード	172502	授業コード	425605
担当教員	西尾 秀樹		科目ナンバリング	GSMD1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	Web/DTPなど様々なメディアでビジュアル作成に利用されるAdobe Photoshopを使ったグラフィック（画像処理）アプリケーションの入門コースです。 授業は講義と実践（課題）を繰り返し、アプリケーションの基礎技術と各メディアの特徴や各メディアに適したデータ作成方法も理解を深めます。 デジタル環境では、Webを中心とし資料作りや掲示物などもadobe系アプリケーションを使用することによってクオリティを上げることができます。メディアコミュニケーション力アップを目的としたスキル習得していきます。					
到達目標	将来業務でアプリケーションを使用しようと思った時にスムーズにスタートできる程度の基本スキルを身につけ、且つビジュアルコミュニケーション能力アップにも努める。					
授業計画	1.ガイダンス 2.基本操作（何ができるのか解説）・解像度について（Web/DTPデータの違い・カラーモードなど） 3.色調整・サイズ調整 4.画像修正（削除ツール・生成塗りつぶし・スタンプツール など） 5.選択範囲作成1（画像の切り抜き） 6.選択範囲作成2（背景変更・合成 など） 7.画像修正・コラージュ・変形・拡大縮小 8.ペイント・色変換 9.文字入力・加工/フィルター・その他ツール 10.デザインの実践1（バナーデザインなど） 11.デザインの実践2（illustratorとの連動） 12.デザインの実践3（サンプルに基づいてデータ作成） 13.オリジナル作品作成1（自身のスマートフォンで撮影した画像を使用） 14.オリジナル作品作成2（13-14でじっくり多機能を駆使した作品を作成） 15.合評会					
テキスト・教材（参考文献）	実習内容に応じて、教員から画像データを配布します。					
事前・事後学習	綺麗な画像や加工された画像は、広告物やWebサイトなど世の中に溢れています。 「これ面白い画像だな」とか「どうやって作ったんだろう」という気付きが作品の幅を広げますので、眼にした画像から何かを感じる習慣を意識してみてください。具体的な事前準備が必要な場合は指示します。					
成績評価方法	授業内提出課題の4-12番まで50%、13-14番の合評会用データ50%					
授業内の課題・提出方法	授業終了時に、クラウドの指定ディレクトリにアップロード					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の講評によってフィードバックします。					
アクティブラーニング	実習を行います。					
実務経験のある教員	実習するアプリを用いた実務経験があります。					
担当者から一言	Webの活用には画像は重要な要素です。画像の加工・修正ができるだけでも使用できる画像は格段に増えます。将来、クリエイティブ専門の業種ではなくても、Webサイト更新・広告・告知物・プレゼンテーション資料作りなど多岐にわたり活用できるスキルですので、多くの学生が身につけてもらえればと思います。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。					

授業科目名	メディアツールc		科目コード	172503	授業コード	424101
担当教員	瀬瀬 智英		科目ナンバリング	GSMD1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	この授業は、Adobe Premiere Proを使用し、動画編集の基本技術を習得することを目指します。初心者や基礎から学び直したい方を対象に、編集ソフトの操作方法や映像編集の手法を学びながら、映像制作の基礎力を身につけます。					
到達目標	・ Adobe Premiere Proの基本的な操作を習得する。 ・ 動画編集に必要な基本的技術や手法を理解する。 ・ タイムラインの編集やエフェクトの活用など、編集ソフトの機能を適切に活用できる。					
授業計画	第1回：ガイダンス 第2回：初期設定・ワークスペースの理解・基本操作 第3回：素材の取り込みと整理 第4回：タイムラインと基本編集操作 第5回：映像の接続とトランジションの適用 第6回：簡易なアニメーション・キーフレーム操作 第7回：テロップ（字幕・タイトル）の挿入 第8回：頻度の高いエフェクトの利用① 第9回：頻度の高いエフェクトの利用② 第10回：オーディオ素材の取り扱いと編集基礎 第11回：オーディオ素材のエフェクト 第12回：色調整とカラーグレーディング 第13回：書き出しとレンダリング 第14回：全体のワークフロー理解と実践演習 第15回：実践演習内容のおさらい					
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じてプリントを配布します。					
事前・事後学習	予習：課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分） 復習：配布資料や講義ノートを返すなど復習しておくこと（90分）					
成績評価方法	・ 講義内で実施する数回の習熟度テスト（70%） ・ 課題への取り組み姿勢（30%）					
授業内の課題・提出方法	授業内の課題提出は授業内で、提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題等のフィードバックは講義時に適宜コメントします。					
アクティブラーニング	実習					
実務経験のある教員	映像制作業 代表。現場にて必要とされる基礎的なスキルをわかりやすく指導します。					
担当者から一言	Premiere Proの基礎を楽しくしっかり学び、みなさんが自信を持って映像編集にチャレンジできる環境づくりをサポートします。共に成長し、充実したクリエイティブライフを始めましょう。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。					

授業科目名	メディアツールd		科目コード	172504	授業コード	422604
担当教員	柳澤 翔士		科目ナンバリング	GSMD1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	本講義では、Macをつかった音楽制作についてgarageBandや、LogicProXといったアプリケーションを使って第一歩から学びます。					
到達目標	コンピュータを使った音楽制作の基礎知識と、作品制作における技術を身に着ける。					
授業計画	・講義ではMac(GarageBand, Logic Pro X)を用いた実習を行います。 (※はMac実習) 1.ガイダンス・基礎知識 2.コンピュータをつかった音楽制作とは 3.音楽の基礎 4.ループ音源を組み合わせる1※ 5.ループ音源を組み合わせる2※ 6.楽譜を音にする1※ 7.楽譜を音にする2※ 8.エフェクトとは 9.MixDownとは※ 10.生音の加工1※ 11.生音の加工2※ 12.効果音の世界1※ 13.効果音の世界2※ 14.音作品製作1※ 15.音作品製作2※ 定期試験 ※※授業計画は受講者の理解・技術習得に合わせて内容・順序を変更することがあります。					
テキスト・教材（参考文献）	データ保存用にUSBメモリーや外付けSSD(16GB USB3.0規格以上推奨)を必ず用意してください。 必要な資料は適時配布します。					
事前・事後学習	実習ではMacを使用します。Windowsとは操作が異なるので、Mac教室(5201)で実際に使用して予習を行ってください。授業中にできなかった課題をすることで、早く慣れる事ができるでしょう(90分) 音楽をしっかり聴きこみ、どういう音で構成されているのかというのを気にしておく事。分析しながら曲を聴きこむ(90分)					
成績評価方法	受講態度30%(課題に取り組む姿勢・受講の態度) 作品提出30% レポート・定期試験40%					
授業内の課題・提出方法	学内サーバーの指定フォルダに提出 授業外では、Moodleやメールを利用。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講評が必要なものは、当日・翌週に講評。 質問などのフィードバックは適時行う。					
アクティブラーニング	Mac実習					
実務経験のある教員	ダンス音源制作・パフォーマンスグループ動画音源制作編集等の業務に従事経験有					
担当者から一言	音楽制作は難しいイメージがありますが、第一歩から音楽制作を学びます。 共に音楽を学びましょう。 ※20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。					

授業科目名	Webデザインb	科目コード	172506	授業コード	421607
担当教員	山本 努武	科目ナンバリング	GSMD1006		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	ブラウザベースで動作するプログラミングに関する技術を身につけます。html / css / js / php / mySQL を使って、私達が普段利用しているスマホサイトやWeb アプリケーションがどのような技術によって支えられているかを演習形式でトレースしてゆきます。また、これからのソフトウェア環境に適したデザインをインターフェイスの観点から考察し実装します。				
到達目標	今わたしたちが利用しているWebやインターネットを使ったさまざまなサービスやアプリは、いくつもの技術を使って複雑に組み上げられています。ですが、最終的には必ずブラウザ上にhtmlで表示されています。つまり、htmlをある程度理解すれば、上記のような複雑なWebやインターネットの仕組みを理解することができます。この授業では、html/cssの基本をおさらいしながら、phpとmySQLを用いてCMSサイトを構築する基礎を習得します。				
授業計画	第1回 導入 html/cssの復讐 第2回 html/css ① 主要素、marginとpadding、font 第3回 html/css ② divとdisplay 第4回 html/css ③ displayとposition 第5回 html/css ④ displayとflex 第6回 js ① 変数と関数、構文 第7回 js ② jquery 第8回 js ③ jquery plugin 第9回 cms ① webサーバ、wpインストール 第10回 cms ② wp開発 第11回 cms ③ wp開発 第12回 cms ④ wp開発 第13回 cms ⑤ wp開発 第14回 cms ⑥ wp開発 第15回 まとめ（学生受講調査アンケート記入）				
テキスト・教材（参考文献）	教員が適宜スライドや教材を用意します。				
事前・事後学習	「Webプログラミング1」「Webプログラミング2」を履修済みであること。 授業で使用するアプリケーション"vscode"は無料でインストールすることができますので、授業で行った操作の復習を毎週45分～1時間程度行うことをお勧めします。				
成績評価方法	① コード習熟度 ... 20% ② デザイン習熟度 ... 20% ③ 成果物の完成度 ... 40% ④ 授業期間で養われたセンス ... 20%				
授業内の課題・提出方法	学内ファイルサーバへデータを提出				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	LINE、Zoomなどを用いて適宜質問やフィードバックに応じます。				
アクティブラーニング	作品制作				
実務経験のある教員					
担当者から一言	20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。				

授業科目名	Webプログラミングa		科目コード	172507	授業コード	424602
担当教員	池田 幹男		科目ナンバリング	GSMD1007		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	ホームページ作りを通してWebの仕組みとプログラミングの基礎を学びます。具体的には、HTMLの基本タグを使うことでホームページの論理構造を記述し、スタイルシートを使うことでホームページのレイアウト・デザインを記述することを学びます。					
到達目標	HTMLの基本タグやスタイルシートを使った簡単なホームページが作れる。					
授業計画	第1講 ガイダンス、WWWとWeb 第2講 HTML概要 第3講 画像とリンク 第4講 箇条書き 第5講 表組み 第6講 入力フォーム 第7講 CSS概要 第8講 見出しと段落 第9講 boxモデル 第10講 ヘッダー 第11講 表のスタイリング 第12講 問合せフォーム 第13講 Webサイト制作（1） 第14講 Webサイト制作（2） 第15講 Webサイト制作（3）					
テキスト・教材（参考文献）	<テキスト> 赤間公太郎、狩野咲、鈴木清敬 「世界一わかりやすい HTML5 & CSS3コーディングとサイト制作の教科書 [改訂2版]」 技術評論社 ￥2,948（税込）					
事前・事後学習	講義前には、該当部分のテキストを読んで理解して来ること（60分） 講義後には、学習した内容を復習し、もう一度演習を行うこと（120分）。 本講義の内容をふまえ、発展した内容を「Webプログラミング2」で学習します。					
成績評価方法	<評価> 提出物55%、作品45%					
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業で作成したコードを提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> 提出物はその場でチェックし、問題点のある提出物は受理しません。					
アクティブラーニング	課題、実習					
実務経験のある教員						
担当者から一言	プログラミングはコンピュータの基本を学ぶために必須です。 各講義では演習問題を解きます。授業中に終わらない場合は宿題となります。 積み重ねの内容なので、演習問題をしっかり行い、理解してから進むようにしてください。					

授業科目名	インターネット論		科目コード	172509	授業コード	423402
担当教員	柳澤 翔士		科目ナンバリング	GSMD1009		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	WebサイトやWebアプリを制作・開発するにあたって持っておきたい、Webの基礎知識と原理を学びます。Webデザイン技能検定3級レベルの知識を得る事を目標とします。					
到達目標	インターネットの概要理解と、ネットワークの動作原理の理解、セキュリティを理解し、WebサイトやWebアプリ制作に活かせる知識の習得を目標とする。					
授業計画	1. ガイダンス・Webの概要1 2. Webの概要2 3. Webサイトの技術1 4. Webサイトの技術2 5. Webサーバーとファイル1 6. Webサーバーとファイル2 7. ネットワーク・TCP/IP 8. ネットワーク・HTTP 9. セキュリティ1 10. セキュリティ2 11. Webサイトの設計1 12. Webサイトの設計2 13. Webサイトの運用1 14. Webサイトの運用2 15. まとめ 定期試験 ※学習状況により変更の可能性があります					
テキスト・教材（参考文献）	増井 敏克 著 「基礎からのWeb開発リテラシー」 技術評論社 ￥2300＋税					
事前・事後学習	テキストでの予習(30分)授業ノートの整理(60分)講義で出た小課題の回答・予習(90分)					
成績評価方法	受講態度40%(レポート・小課題の提出状況・授業に取り組む姿勢) 定期試験60%					
授業内の課題・提出方法	対面提出・学内サーバー指定フォルダを利用する場合と、Moodle・メールを利用する場合があります。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義の課題・質問等へのフィードバックは当日中か翌週に行う。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員	Webサイト制作業務経験有					
担当者から一言	Webは身近な存在で、必要不可欠レベルの存在となっています。身近だけど知らないWebの技術や歴史を共に学びましょう。					

授業科目名	基礎数学		科目コード	172601	授業コード	423406
担当教員	古山 歩		科目ナンバリング	GSMS1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	研究においては、調査・実験によって得られたデータを解析し、適切にその結果を示すことが求められる。グラフによるデータの可視化や平均値などによるデータの要約は、データを示す方法として非常に一般的かつ有効である。しかし、グラフや代表値には様々な種類があり、収集したデータに不適切なものを使用してしまうと、データの傾向を明確に示すことが出来なかったり、間違った解釈をすることにつながってしまう。本授業では、記述統計学に重点を置き、収集したデータを適切に表す方法を学ぶ。					
到達目標	(1) 基本的なデータ分析法を身につける。 (2) データに合わせた適切なグラフの作成・基本統計量の計算を行えるようになる。 (3) データの傾向を正しく読み取ることができるようになる。					
授業計画	1. ガイダンス・データ分析の意義 2. データ分析のための調査・研究計画法（データの取得とデータ分析の流れ） 3. データの種類と値の性質・様々な代表値 4. データのバラツキと分散、標準偏差 5. グラフによるデータ構造の把握（箱ひげ図等） 6. グラフによるデータの比較、関係性・変化の図示（散布図、折れ線グラフ等） 7. Excelの基本操作・Excelでのデータ集計 8. Excelを用いたグラフの作図 9. 相関係数 10. 回帰分析① 11. 回帰分析② 12. 順列・組み合わせ 13. 確率・条件付き確率 14. 試行と事象 15. 実技演習 期末試験 授業の進捗によって適宜変更する可能性がある。					
テキスト・教材（参考文献）	教科書：なし、適宜資料を配布する 参考書：長谷川勝也著「イラスト図解 確率・統計のしくみがわかる本」技術評論社（2000年） 宮川公男著「基礎統計学 第4版」有斐閣（2015年）					
事前・事後学習	予習：次の授業のキーワードについて文献やインターネットで調べる（60分） 復習：授業中の実習課題の見直しと不備の修正を行う（30分）					
成績評価方法	授業中の課題および実技演習（50%）、期末試験（50%）で評価する。 授業は毎回の出席を原則とする。授業における課題および第15回目の実技演習については、特段の事由がない限り、欠席者を考慮しない。					
授業内の課題・提出方法	授業中の課題プリントは手渡しで提出 実習で用いたエクセルファイルはMoodleにて提出					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業の冒頭、あるいはMoodle上でフィードバックします。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	データの解析は卒業研究を行うにあたって必須のスキルです。普段の授業においても今後の研究を意識して、積極的に実習等に取り組んでください。					

授業科目名	統計リテラシー		科目コード	172602	授業コード	423403
担当教員	新井 優一		科目ナンバリング	GSMS1002		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	Microsoft Excelは実社会では、表やグラフ作成だけでなく、簡単な文書作成にも使われていて、必須のアプリケーション・ソフトウェアとなっています。したがって、社会で活躍するためには、Excelを道具として使いこなす能力が必要となります。この講義では、Excelの資格試験（Microsoft Office Specialist）を受験するための演習を行います。					
到達目標	MOS Excel の資格試験の準備が整うようにします。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 ワークシートやブックの作成と管理（1） 第3講 ワークシートやブックの作成と管理（2） 第4講 ワークシートやブックの作成と管理（3） 第5講 セルやセル範囲の作成（1） 第6講 セルやセル範囲の作成（2） 第7講 テーブルの作成 第8講 数式や関数の適用（1） 第9講 数式や関数の適用（2） 第10講 グラフやオブジェクトの作成 第11講 模擬試験演習（1） 第12講 模擬試験演習（2） 第13講 模擬試験演習（3） 第14講 模擬試験演習（4） 第15講 模擬試験演習（5） 授業の進捗によって適宜変更する可能性がある。					
テキスト・教材（参考文献）	土岐順子「MOS攻略問題集Excel 365」 日経BP社 ￥2, 200					
事前・事後学習	大学や個人所有のPCで、テキストの練習問題の予習・復習およびテキストの模擬試験を繰り返し行ってください。（週180分）					
成績評価方法	毎回の課題（60％）、模擬試験演習（40％）で評価します。 定期テストは実施しません。					
授業内の課題・提出方法	Moodle を通じて課題を提出します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義中、もしくはMoodle を通じて適宜フィードバックします。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	人数制限があるので、初回は必ず出席してください。					

授業科目名	確率基礎	科目コード	172603	授業コード	424201
担当教員	池田 幹男	科目ナンバリング	GSMS1003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	Microsoft Excelは実社会では、必須のアプリケーション・ソフトウェアとなっています。したがって、社会で活躍するためには、Excelを道具として使いこなす能力が必要となります。この講義では、「データ操作ツール1」よりも高度な Excel の利用法について学び、高度なExcelの資格試験（Microsoft Office Specialist Expert）を受験するための演習を行います。				
到達目標	MOS Excel の資格試験の準備が整うようにします。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 ブックのオプションと設定の管理 第3講 データの管理、書式設定（1） 第4講 データに管理、書式設定（2） 第5講 高度な機能を使用した数式およびマクロの作成（1） 第6講 高度な機能を使用した数式およびマクロの作成（2） 第7講 高度な機能を使用した数式およびマクロの作成（3） 第8講 高度な機能を使用したグラフやテーブルの管理（1） 第9講 高度な機能を使用したグラフやテーブルの管理（2） 第10講 模擬試験演習（1） 第11講 模擬試験演習（2） 第12講 模擬試験演習（3） 第13講 模擬試験演習（4） 第14講 模擬試験演習（5） 第15講 まとめ				
テキスト・教材（参考文献）	土岐順子「MOS攻略問題集Excel 365 エキスパート」 日経BP社 ￥3, 300				
事前・事後学習	大学や個人所有のPCで、テキストの練習問題の予習・復習およびテキストの模擬試験を繰り返し行ってください。（週180分）				
成績評価方法	毎回の課題（50%）、模擬試験演習（50%）で評価します。定期テストは実施しません。				
授業内の課題・提出方法	Moodle を通じて課題を提出します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodle を通じて適宜、提出物にコメントを付けてフィードバックします。				
アクティブラーニング	毎回の実習課題提出				
実務経験のある教員					
担当者から一言	人数制限があるので、初回は必ず出席してください。				

授業科目名	微分積分	科目コード	172604	授業コード	425606
担当教員	古山 歩	科目ナンバリング	GSMS1004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。				
授業のねらい	研究の遂行には、目的に沿った適切なデータのサンプリング、得られたデータの整理と評価、そして、統計学的なデータの解析が必要となります。統計学的手法を適切に用いれば、データの持つ傾向や特性を検証し、得られたデータや結果に関して、統計学的根拠に基づいた判断を下すことができるようになります。この授業では、データのサンプリングから集計、統計的仮説検定等の実行までを実践的に学び、卒業研究に向けてのデータ解析スキルや統計学的な考え方の習得を目指します。				
到達目標	(1) 統計的仮説検定について理解し、実行することができるようになる。 (2) データの特性や目的に沿った解析手法の選択ができるようになる。 (3) 解析結果を適切に評価できるようになる。				
授業計画	1. ガイダンス・推測統計学とは 2. 母集団と標本 3. 確率分布 4. 不偏推定・点推定と区間推定 5. 推測統計のための実験計画 6. 統計的仮説検定の流れと考えた方 7. 統計的仮説検定① 8. 統計的仮説検定② 9. 統計的仮説検定③ 10. 統計的仮説検定④ 11. 統計的仮説検定⑤ 12. 統計的仮説検定⑥ 13. クラスター分析・主成分分析 14. まとめ 15. 実技演習 期末試験 授業の進捗によって適宜変更する可能性がある。				
テキスト・教材（参考文献）	教科書：なし、適宜資料を配布する 参考書：長谷川勝也著「イラスト図解 確率・統計のしくみがわかる本」技術評論社（2000年） 宮川公男著「基礎統計学 第4版」有斐閣（2015年）				
事前・事後学習	予習：次の授業のキーワードについて文献やインターネットで調べる（60分） 復習：授業中の実習課題の見直しと不備の修正を行う（30分）				
成績評価方法	授業中の課題および実技演習（50%）、期末試験（50%）で評価する。 授業は毎回の出席を原則とする。授業における課題および第15回の実技演習については、特段の事由がない限り、欠席者を考慮しない。				
授業内の課題・提出方法	授業中の課題プリントは手渡しで提出 実習で用いたエクセルファイルはMoodleにて提出				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業の冒頭、あるいはMoodle上でフィードバックします。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員					
担当者から一言	前期のデータサイエンスⅠで取り扱う記述統計に関しては概ね理解しているものとして授業を実施します。多少の復習は行いますが、基本的には受講者はデータサイエンスⅠを履修していることが望ましいです。				

授業科目名	線型代数		科目コード	172605	授業コード	425309
担当教員	木藤 裕也		科目ナンバリング	GSMS1005		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	AI（人工知能）は、現代社会のあらゆる分野で活用され、産業構造に大きな変革をもたらしています。この授業では、AI技術の基本的な概念、歴史、主要な技術（機械学習や深層学習など）を学び、さらに各分野で用いられている応用モデルや最先端の技術にも触れます。また、AIがもたらす社会的影響や産業への応用事例を学ぶことで、AI技術を多角的に理解し、自らの専門分野で活用する視点を涵養します。AIの基礎から応用までを幅広く学び、AIの可能性と課題を深く理解することを目指します。					
到達目標	1. AI技術の基本的な仕組みや主要な技術を理解し、それを簡潔に説明できる力を身につける。 2. AI技術の応用事例を理解し、各分野での活用方法や可能性を把握する。 3. 学んだ知識を活かして、自身の専門分野や実社会でAI技術を活用する視点を養い、新たな価値を創出する基礎力を身につける。 4. AI技術が抱える倫理的課題（バイアス、公平性、プライバシーなど）を理解し、社会的に責任ある形でAIを活用するための視点を身につける。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 人工知能（AI）とは 第3講 人工知能の歴史と基本的なしくみ 第4講 データとAI 第5講 機械学習の基礎 第6講 ディープラーニングの基礎 第7講 さまざまなAIと応用技術：大規模言語モデル 第8講 さまざまなAIと応用技術：自然言語・音声処理 第9講 さまざまなAIと応用技術：マルチモーダルAI 第10講 さまざまなAIと応用技術：自動運転・ゲームAI 第11講 AIの社会実装：医療AI 第12講 AIの社会実装：ロボットAI 第13講 AIと倫理・解釈性 第14講 未来のAIと人間の仕事 第15講 まとめ 定期試験 （必要に応じて内容・順序を変更する場合があります）					
テキスト・教材（参考文献）	三津村 直貴「図解まるわかり AIのしくみ」翔泳社（2022年）1848円（税込み）					
事前・事後学習	授業中に指示したテキストの範囲の予習とこれまでの内容の復習（120分）。 授業後に学習した内容の復習（60分）。					
成績評価方法	次の配分で総合評価します。 ・受講態度、学習意欲、小レポート等（20%） ・小テスト（30%） ・定期試験（50%）					
授業内の課題・提出方法	毎回の授業の最後にGoogleフォームでコメントシートを提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	コメントシート、小テストの内容は講義中にフィードバックをします。					
アクティブラーニング	コメントシート、小テスト。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	AIは現代の技術分野における花形であり、社会や産業に大きな変革をもたらしています。一方で、「AI」という言葉はしばしば独り歩きしており、その実態や具体的な技術を正しく理解することが重要です。この授業を通して、AIを正しく理解し、自身の専門分野で活用する視点を育てていただければと思います。					

授業科目名	データ分析の基礎		科目コード	172103	授業コード	425705
担当教員	小西 凌		科目ナンバリング	GSSR1003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	公的統計や簡単な調査報告・フィールドワーク論文が読めるための基本的知識を学びます。単純集計、度数分布、代表値、散布度、クロス集計などの記述統計データの読み方や、グラフの読み方、また、それらの計算や作成のしかた。さまざまな質的データの読み方と基本的なまとめ方を明らかにしていきます。社会調査士認定に関するC科目に相当します。					
到達目標	相関係数など基礎的統計概念、疑似相関の概念などを身に付けて、実際のデータに適用できるようにします。また、因果関係と相関関係が区別できるようにします。					
授業計画	第1講 ガイダンス：統計学とは 第2講 記述統計（1）：単純集計と度数分布 第3講 記述統計（2）：中央値と最頻値 第4講 記述統計（3）：分散と標準偏差 第5講 記述統計（4）：標準化と偏差値 第6講 相関係数と因果関係 第7講 回帰分析 第8講 中間テスト 第9講 中間テスト振り返り 第10講 確率 第11講 条件付き確率とベイズの定理 第12講 ベイズの定理 第13講 期待値 第14講 統計資料の扱い方 第15講 まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	講義ごとにレジメを配布します。					
事前・事後学習	授業内でお伝えします。					
成績評価方法	中間テスト30点、期末レポート50点、コメントペーパー20点（予定）					
授業内の課題・提出方法	授業内でお伝えします。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	コメントペーパーに感想や疑問を書いてもらい、次の授業でお答えする形式を取る予定です					
アクティブラーニング	コメントペーパーを通じて、学生の皆さんとディスカッションできればと思います。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	数学に苦手意識がある方でも大丈夫です。「統計って役に立つ」と思ってもらえるように尽力します。					

授業科目名	統計的分析		科目コード	172104	授業コード	425305
担当教員	小西 凌		科目ナンバリング	GSSR1004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたいでに即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	統計的データをまとめたり分析したりするために必要な、推測統計学の基礎的な知識を学びます。確率論の基礎、基本統計量、検定・推定、理論とその応用(平均や比率の差の検定、独立性の検定)、サンプリングの理論、属性相関係数(クロス表の統計量)、相関係数、偏相関係数、変数のコントロール、回帰分析の基礎などを明らかにしていきます。社会調査士認定に関するD科目に相当します。					
到達目標	クロス集計、回帰分析などの概念などを身に付けて、実際のデータに適用できるようにします。					
授業計画	第1講 ガイダンス：授業進行や評価方法について 第2講 標本抽出：標本と母集団、無作為抽出 第3講 標本分布：標本統計量と標本分布 第4講 度数分布：度数分布表 第5講 クロス集計：カイ二乗検定 第6講 クロス集計：多重クロス表 第7講：確率論の基礎：確率変数と正規分布 第8講：中間テスト 第9講：2つの平均の差を検定する：t検定 第10講：複数の平均の差を検定する：分散分析 第11講：一次関数と相関係数：相関係数の性質 第12講：回帰分析の基礎：回帰分析の性質 第13講：重回帰分析とダミー変数 第14講：因果関係と相関関係 第15講：まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	講義ごとにレジュメを配布します。					
事前・事後学習	授業内でお伝えします。					
成績評価方法	中間テスト30点、期末レポート50点、コメントペーパー20点（予定）					
授業内の課題・提出方法	授業内でお伝えします。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	コメントペーパーに感想や疑問を書いてもらい、次の授業でお答えする形式を取る予定です。					
アクティブラーニング	コメントペーパーを通じて、学生の皆さんとディスカッションできればと思います。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	数学に苦手意識がある方でも大丈夫です。「統計って役に立つ」と思ってもらえるように尽力します。					

授業科目名	データ解析の技法		科目コード	172105	授業コード	423701
担当教員	新井 優一		科目ナンバリング	GSSR1006		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	現代社会には様々なデータが溢れている。様々なデータを統計的に解析することは非常に重要であり、適切なデータ解析を行えば、物事の傾向や変化に関して一定の根拠に基づいた統計的指標による科学的な判断を下すことが可能になる。本授業ではデータ解析の基本的な考え方や代表的な技法の本質を理解し、それらを活用するための基礎力を身につけることを目的とする。					
到達目標	(1) データ解析に必要な基礎力を身につける。 (2) 回帰分析をはじめとした主要な解析法について理解する。 (3) 回帰分析をはじめとした主要な解析法を実行し、結果を適切に評価できるようになる。					
授業計画	1. ガイダンス・社会におけるデータ解析の意義 2. エクセル基本操作 3. データの表し方：代表値の種類と特性 4. データの表し方：分散と標準偏差 5. データの表し方：グラフ・ヒストグラム、箱ひげ図、散布図 6. データの表し方：グラフ・折れ線グラフ、円グラフ、その他グラフ 7. 事象の発生確率・確率分布 8. 母集団と標本集団，データのサンプリング 9. 基本統計量の算出とグラフの作成 10. 統計的仮説検定の考え方 11. 統計的仮説検定の実行 12. 回帰分析1 回帰分析の考え方・単回帰の実行 13. 回帰分析2 回帰分析の精度評価 14. 重回帰分析 15. まとめ・実技演習 授業の進捗によって適宜変更する可能性がある。					
テキスト・教材（参考文献）	教科書：なし、適宜資料を配布する 参考書：倉田博史著「大学4年間の統計学が10時間でざっと学べる」KADOKAWA（2017年） 栗原伸一・丸山敦史著「統計学図鑑」オーム社（2018年）					
事前・事後学習	予習：次の授業のキーワードについて文献やインターネットで調べる（60分） 復習：授業中の実習課題の見直しと不備の修正を行う（30分）					
成績評価方法	授業中の課題（50%）、テスト課題（50%） 授業は毎回の出席を原則とします。1/3(5回)を超えて欠席した場合、評価の対象になりません。					
授業内の課題・提出方法	授業中に実習で用いたエクセルファイルをMoodleにて提出					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業の冒頭、あるいはMoodle上でフィードバックします。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	データ解析は、社会のあらゆるところで行われています。本講義では様々なデータ解析手法についてパソコンのExcelを用いた実践を通して、解析スキルの習得を目指します。					

授業科目名	データ統計処理		科目コード	172606	授業コード	421304
担当教員	片山 清和		科目ナンバリング	GSMS1009		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。					
授業のねらい	現在、自然科学の分野だけでなく、人文／社会科学の分野でも数字データが用いられています。それらの数字データを分析する道具として、統計学が用いられています。特に近年では、ビッグデータと呼ばれる大規模データを統計処理して、社会生活に役立てる試みがさかんに行われています。そのため、統計学はより身近になっており、統計学なくして社会生活が成り立たないと言っても言い過ぎではありません。 この講義では、Excelの関数を用いて大規模なデータに対して統計処理を行う方法と、様々な場面を想定したデータを用いた推定や検定を行う方					
到達目標	Excelを用いて大規模なデータに対して統計処理ができる。					
授業計画	第1講 ガイダンス、統計学とは 第2講 1次元データの整理（1） 第3講 1次元データの整理（2） 第4講 2次元データの整理（1） 第5講 2次元データの整理（2） 第6講 確率分布（1） 第7講 確率分布（2） 第8講 確率分布（3） 第9講 推定（1） 第10講 推定（2） 第11講 推定（3） 第12講 検定（1） 第13講 検定（2） 第14講 検定（3） 第15講 まとめ 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	<テキスト> 長谷川勝也 「イラスト図解 確率・統計のしくみがわかる本」 技術評論社 ¥1,738（税込） <参考文献> 宮川公男 「基礎統計学 第5版」 有斐閣 ¥3,190（税込） 「基礎統計学Ⅰ 統計学入門」 東京大学出版会 ¥3,080（税込）					
事前・事後学習	講義前には前回までの内容を復習しておくこと（60分）。 講義後には復習を行い、演習問題をしっかり解くこと（120分）。 「基礎数学」「統計リテラシー」「確率基礎」「微分積分」「線形代数」「データ分析の基礎」「統計的分析」を履修していることが望ましい。					
成績評価方法	<評価> 提出物40%、定期試験60%					
授業内の課題・提出方法	<課題> 毎回の授業で演習課題を行って提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> 教育支援システム（Moodle）に提出した課題は、100点満点で採点し、コメントを付加してMoodleを介して返却します。					
アクティブラーニング	課題					
実務経験のある教員						
担当者から一言	学習支援システム（Moodle）を利用します。 積み重ねの講義なので、欠席しないようにしてください。					

授業科目名	環境情報学概論 I			科目コード	371001	授業コード	423302
担当教員	黒田 淳哉、片山 清和、足立 明信、廣住 豊一、牧田 直子、野呂 達哉、木藤 裕也、大八木 麻希、柳瀬 元志、柳澤 翔士、古山 歩、池田 幹男、前川 督雄			科目ナンバリング	EFC1001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている						
授業のねらい	環境情報学部での学びの全体像を概観する講義です。環境科学専攻とメディア情報専攻の多様な授業を交互に配置し、両専攻の学問の特徴を伝えるとともに、自身の専攻を選択する際の指針となるようサポートします。授業はオムニバス形式で多数の教員が担当するため、1年次配当科目を担当していない教員を知る機会としても有意義です。さらに、進路選択や学修機会に関わる情報を提供する場としても活用します。						
到達目標	・環境科学専攻とメディア情報専攻の両専攻の学問・実践の特徴を理解する。 ・環境情報学部の全体像を把握し、学修内容や進路の可能性を具体的にイメージできる。 ・学部内の専門性の多様性を認識し、自身の興味・関心を広げる機会を得る。 ・主体的に学びを進める意識を身につける。						
授業計画	第1講 ガイダンス～学部紹介（黒田） 第2講 里山と竹林保全（牧田） 第3講 竹山保全実習（牧田） 第4講 地域農業と環境：地域資源を農業に活かす取り組み（廣住） 第5講 Web技術を使った情報処理（片山） 第6講 水資源と地域の水環境（大八木） 第7講 プログラミング（魔方陣を解法を例として）（池田） 第8講 鯨類学：三重県周辺に生息するイルカ・クジラ類（古山） 第9講 表現の伝統文化とテクノロジー（前川） 第10講 アナログとデジタルでのモノづくり（柳澤） 第11講 北勢地域の野生動物（野呂） 第12講 音響技術体験（足立） 第13講 メディアと私たち（柳瀬） 第14講 AI深層学習：課題を解決する分野横断の技術（木藤） 第15講 環境「政策」とは？それって本当に、エコ？（鬼頭）						
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	環境情報学部の概要を知り、大学での専門教育の出発点となる講義・実習です。興味を持った点について積極的に教員を訪ね、自分で探索するなどしてさらに理解を深めてください（180分）。						
成績評価方法	定期試験をいません。各回の講義・実習ごとに、取り組み態度と成果で評価し、合算します。						
授業内の課題・提出方法	授業ごとにレポートなどを課し、授業内やMoodleで提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleや翌週の講義でフィードバックを行います。疑問に思ったことは積極的に発言・質問して下さい。						
アクティブラーニング	実習・体験を交えて実践的に学ぶ機会に富む科目です。						
実務経験のある教員	担当教員の1/3は関連領域の実務経験を持ちます。						
担当者から一言	幅広い領域にわたりますが、全て欠席することなく積極的に参加してください。毎回担当する教員がれ替わりますが、とりまとめは黒田（6号館6510）です。						

授業科目名	環境情報学概論Ⅱ		科目コード	371002	授業コード	423703
担当教員	黒田 淳哉、足立 明信、大八木 麻希		科目ナンバリング	EFC1002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	・地域の持続的発展のために貢献できる。・多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。					
授業のねらい	本講義は、地域のオープンデータを活用した実践的な学びを通じて、データ解析や情報活用のスキルを習得するとともに（情報技術領域の学び）、地域イベント（メディア表現領域の学び）の参加や四日市港クルーズ（環境科学専攻の学び）の見学を通じて、地域社会の仕組みや課題を体験的に理解することを目指します。環境情報学部での学びに対する理解を深め、それぞれの専攻の特性や役割を認識するとともに、地域社会への理解を深めることをねらいとしています。					
到達目標	・データ解析や情報活用の基本的なスキルを身につける。 ・地域社会の仕組みや課題を理解する。 ・環境情報学部で学ぶ各専攻の特性や役割を具体的に理解する。 ・地域社会と自らの学びを結びつける視点を身につける。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 オープンデータの活用1（オンデマンド） 第3講 オープンデータの活用2（オンデマンド） 第4講 オープンデータの活用3（オンデマンド） 第5講 オープンデータの活用4（オンデマンド） 第6講 ポスター発表イベントへの参加（大学祭） 第7講 地域イベントの見学（10/18 or 10/19予定） ※10月18日または19日に予定されている地域イベントの見学が、第7講の講義。 第8講 四日市港クルーズ説明会 第9講 四日市港クルーズ（12/24 or 12/25 or 12/25予定） ※見学参加が、第9～11回の講義になります。 第12講 四日市港クルーズ 第13講 四日市港クルーズ 第14講 四環展見学 第15講 まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）					
事前・事後学習	興味を持った点について積極的に教員を訪ね、自分で探索するなどしてさらに理解を深めてください（180分）。					
成績評価方法	定期試験はありません。各回の講義・実習ごとに、取り組み態度と成果で評価し、合算します。					
授業内の課題・提出方法	授業ごとに課題を課しますので、講義時やMoodleで提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleや翌週の講義でフィードバックを行います。疑問に思ったことは積極的に発言・質問して下さい。					
アクティブラーニング	実習・体験を交えて実践的に学ぶ機会に富む科目です。					
実務経験のある教員	担当教員の2/3以上は、関連領域で実務経験を持ちます。					
担当者から一言	講義はオムニバス形式で幅広い領域にわたりますが、全て欠席することなく積極的に参加してください。毎回担当する教員が入れ替わりますが、とりまとめは黒田（6号館6510）です。					

授業科目名	四日市公害論			科目コード	371003	授業コード	426501
担当教員	森 康則			科目ナンバリング	EFC2001		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる 専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる						
授業のねらい	四日市市は、四日市ぜんそくを引き起こした都市環境問題と、その対策と改善の歴史を体感してきました。その観点から四日市市は、都市環境学を学ぶうえで、全国的にも象徴的な都市ということが出来ます。本講義では、都市部特有の大気・水・廃棄物などの環境問題、エネルギーや水供給などのインフラストラクチャーなど、都市生活の維持に必要な知識を、身近な事例を交えながら学修します。						
到達目標	本講義では、環境問題、特に都市環境に関する専門知識や技術を習得するとともに、都市環境問題の社会的課題や特徴について学修していきます。具体的には、現代社会における都市部の大気環境、水環境をはじめ、エネルギーシステム、廃棄物処理システム、水供給システムなど、都市環境の維持に必要な知識を、身近な事例を交えながら学修し、さらに防災やインフラストラクチャーの整備についての理解を深めます。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 都市環境とは 第3講 都市の大気環境と水環境 第4講 都市環境のモニタリング 第5講 都市災害 第6講 都市のインフラストラクチャー 第7講 都市のエネルギー供給システム 第8講 都市の水供給システム 第9講 都市の廃棄物処理システム 第10講 四日市ぜんそく 1 第11講 四日市ぜんそく 2 第12講 施設見学 1 第13講 施設見学 2 第14講 グループワーク 第15講 まとめ 2025年12月頃の週末に、四日市市内の環境学習施設での開講を予定しており、基本的には開講場所での現地集合、現地解散になります。開講場所の中には、交通不便地が含まれており、交通費や交通手段が必要になる場合があります。 現時点では、2025年12月7日（日）、12月20日（土）、12月21日（日）を予定していますが、履修登録人数等によっては変更になる場合があります。詳細は2025年10月上旬頃に、履修登録者に対してMoodleかUNIPAでアナウンスします。						
テキスト・教材（参考文献）	なし						
事前・事後学習	シラバスの次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は、その講義内容に関する復習をしてください（90分）。						
成績評価方法	（1）各回の講義後の小テスト 60点 （2）レポート課題 40点 計 100点						
授業内の課題・提出方法	講義中に講義内容に関連する小テストを行い、提出を求めます。また、施設見学等に関するレポート課題を出しますので、Moodleにて提出を求めます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義中に小テストの採点および答え合わせを行います。レポート課題については、Moodleにコメントを付けます。						
アクティブラーニング	座学による講義内容だけでなく、環境保全施設の見学等などに関するレポートやグループワークを実施することで、能動的に学修する機会を得ます。						
実務経験のある教員	担当教員には、都市環境規制に関する実務経験があります。						
担当者から一言	本講義では、環境保全施設の見学などを通じて、座学だけでは得られない、新たな刺激を感じていただきたいと思います。						

授業科目名	基礎演習 a	科目コード	371101	授業コード	423207
担当教員	片山 清和	科目ナンバリング	ESS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる				
授業のねらい	ホームページは今や企業だけでなく一般の人も作成しており、情報発信の主要な手段となっています。ホームページはHTMLで構造を記述され、スタイルシートでレイアウトやデザインが記述されています。さらにインタラクティブ性を持たせるためにJavaScriptが使用されています。 この演習では、電卓アプリやおみくじアプリやカレンダーアプリ制作を通し、アプリの画面をデザインし、それを実現したり、機能実現のためのアルゴリズムを考え、HTML、スタイルシート、JavaScriptを用いてプログラミングすることでその機能を実				
到達目標	①アルゴリズムを考えることができる ②HTMLタグ、スタイルシートを使って画面デザインを実現できる ③JavaScriptを使って処理の機能を実現できる				
授業計画	第1講 ガイダンス、HTML（1） 第2講 HTML（2） 第3講 スタイルシート（1） 第4講 スタイルシート（2） 第5講 JavaScript（1） 第6講 JavaScript（2） 第7講 JavaScript（3） 第8講 電卓アプリ制作（1） 第9講 電卓アプリ制作（2） 第10講 電卓アプリ制作（3） 第11講 おみくじアプリ制作（1） 第12講 おみくじアプリ制作（2） 第13講 カレンダーアプリ制作（1） 第14講 カレンダーアプリ制作（2） 第15講 カレンダーアプリ制作（3）				
テキスト・教材（参考文献）	<テキスト> なし（必要に応じて配布します） <参考文献> 赤 間公太郎、狩野咲、鈴木清敬 「世界一わかりやすい HTML5 & CSS3 コーディングとサイト制作の教科書 [改訂2版]」 技術評論社 ￥2,948（税込）				
事前・事後学習	講義前には、これまでに学習した内容を復習すること（60分） 講義後には、学習した内容を十分に復習すること（120分）				
成績評価方法	授業への取り組み姿勢や提出などによって総合的に評価する。				
授業内の課題・提出方法	<課題> 完成した作成したソースコードをMoodleに提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> その場でソースコードを見ながら、誤りを修正してもらいます。				
アクティブラーニング	課題、実習、プレゼンテーション				
実務経験のある教員					
担当者から一言	アルゴリズムを考えることは、プログラミングでは最重要事項で、卒業研究においてアプリ作成やAI研究のために必要です。多くの経験を通してしか身につかないため、根気が要る地味な作業ですが、興味深いアプリ制作で楽しめる演習になるように目指します。				

授業科目名	基礎演習 a			科目コード	381101	授業コード	413209
担当教員	黒田 淳哉、足立 明信、柳瀬 元志、柳澤 翔士			科目ナンバリング	EISS3001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている 専門家に求められる倫理を身に付け、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働できる						
授業のねらい	環境情報学部の「メディア表現領域」には、映像・音情報・光情報の研究室に加えて「情報技術領域」との境界にあるデジタルコンテンツ研究室が存在します。1年次に「メディア表現領域」を選択した学生がそれぞれの担当教員からオムニバス形式で基礎を学び、理解することをねらいとしています。						
到達目標	・映像・音響・照明・3Dモデリングに関する基礎知識を身につける。 ・仲間と適切なコミュニケーションを取りつつ、制作活動に積極的に取り組むことができる。						
授業計画	第1講 ガイダンス（スタジオの利用について） 第2講 映像1「映像作品ができるまで」 第3講 映像2「作品鑑賞」 第4講 映像3「業界用語の基礎知識」 第5講 映像4「企画を立てよう」 第6講 音響1「スタジオの音響機器説明・取り扱い方法」 第7講 音響2「PAシステムの構成」 第8講 音響3「ミキサーの使い方」 第9講 音響4「エフェクターの使い方」 第10講 照明1「明るさ知る～光の種類と特性」 第11講 照明2「色～色の客観的な表現と伝達～」 第12講 照明3「光の方向と効果～印象を操る照明技術～」 第13講 デジタルコンテンツ1「メディアとコンピュータの関係性」 第14講 デジタルコンテンツ1「実写と3DCG①」 第15講 デジタルコンテンツ2「実写と3DCG②」						
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	関心を持った内容は、教員に積極的に相談し、自ら制作・探索を行うことで学びを深めてください（180分）。						
成績評価方法	定期試験を行いません。各回の講義・実習ごとに取り組み態度と成果で評価し、合算します。						
授業内の課題・提出方法	授業ごとに課題を課しますので、講義時やMoodleで提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleや翌週の講義でフィードバックを行います。疑問に思ったことは積極的に発言・質問して下さい。						
アクティブラーニング	実習・体験を交えて実践的に学ぶ機会に富む科目です。						
実務経験のある教員	担当教員は、関連領域で実務経験を持ちます。						
担当者から一言	講義ごとに担当教員が変わりますが、すべての講義に積極的に参加してください。全体の取りまとめは黒田（6号館6510）が行います。また、スタジオでの実習では怪我防止のため、室内用シューズと作業用手袋を必ず用意してください。詳細は、第1回目のガイダンスで説明します。						

授業科目名	基礎演習 a		科目コード	371101	授業コード	423209
担当教員	廣住 豊一、牧田 直子、野呂 達哉		科目ナンバリング	ESS2001		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる					
授業のねらい	基礎演習では、専門演習で行う実践的な調査研究に向けて必要な「基礎スキル」を身に付ける。この授業は3人の担当教員の授業を順に受講する。次の6項目は、基礎演習aとbを通して学ぶものであり、扱うテーマや項目は担当教員によって異なる。①研究の進め方と実験室の使い方、②レポート作成、③プレゼンテーション（質疑応答を含む）、④文献・論文講読（研究倫理）、⑤野外調査・実験実習、⑥データ処理（表、グラフの作成）。					
到達目標	記録をつけることを習慣化する。研究の進め方と実験室の使い方を理解し、測定したデータの正しい取り扱いや計算の方法を学ぶ。表・グラフ等のデータ整理の方法を身につける。科学論文・レポートの形式を学び、作成できる。					
授業計画	第1講 ガイダンス、これから研究を始めるにあたって（廣住） 第2講 農作物や食品の品質測定（廣住） 第3講 有効数字と実験データの計算（廣住） 第4講 表計算ソフトによる実験データの計算（廣住） 第5講 表やグラフによる実験データのまとめ方（廣住） 第6講 科学論文の構成（牧田） 第7講 科学論文の読み方（牧田） 第8講 科学論文の検索方法（牧田） 第9講 引用の仕方（研究倫理）（牧田） 第10講 参考文献のまとめ方（牧田） 第11講 生物多様性モニタリングとその意義（野呂） 第12講 身近な自然の生物調査（野呂） 第13講 種の同定と標本の作製（野呂） 第14講 生物リストの作成とその評価（野呂） 第15講 調査結果のまとめとレポート作成（野呂）					
テキスト・教材（参考文献）	各担当教員から自作のテキストや参考資料を配布する。参考となる文献があれば授業時間中に紹介する。					
事前・事後学習	授業での学習内容、調査や実験での実施内容をノートにまとめ、レポートなどを作成する（90分）。担当教員から指示された課題に取り組む（90分）。					
成績評価方法	3人の担当教員で1人33.3%を配分する。受講態度および実験ノート・レポート・プレゼンテーション等によって評価する。					
授業内の課題・提出方法	課題の提出にはMoodle等を活用する。課題およびその提出方法は担当教員ごとに指示する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	実験ノートやレポート、プレゼンテーションファイル等は適宜内容を確認し、添削や指導を行う。					
アクティブラーニング	フィールドワーク、実験・実習、グループワーク、レポート、プレゼンテーション					
実務経験のある教員						
担当者から一言	基礎演習では、これから始まる専門演習に向けて、環境科学専攻に共通して必要になる知識や技術を身につけてもらうため、3人の担当教員の授業を順に受講してもらいます。これからの調査・研究の基礎になりますので、しっかりと取り組んでください。					

授業科目名	基礎演習 b		科目コード	371102	授業コード	423607
担当教員	片山 清和		科目ナンバリング	ESS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる					
授業のねらい	卒業研究・制作を遂行する上でアルゴリズムを考え、それをプログラミング言語でコーディングすることが必須です。具体的にはAIに関する卒業研究ではプログラミング言語としてPythonが、卒業制作ではプログラミング言語としてHTML、CSS、JavaScriptが必要になります。 この演習では、卒業制作の基礎として、アプリ開発の流れを修得します。具体的には、卒業要件判定アプリ制作を通して、アプリ画面のデザイン設計、集計・判定のアルゴリズムの考案とコーディングするスキルを身につけてます。 また、AI研究の基礎とし					
到達目標	①アルゴリズムを考え、それをJavaScriptやPythonでコーディングできる ②HTMLタグ、スタイルシートを使って画面デザインを実現できる					
授業計画	第1講 ガイダンス、HTMLの復習 第2講 スタイルシートの復習 第3講 JavaScriptの復習 第4講 第5講 JavaScript (1) 第6講 JavaScript (2) 第7講 JavaScript (3) 第8講 卒業要件判定アプリ制作 (1) 第9講 卒業要件判定アプリ制作 (2) 第10講 卒業要件判定アプリ制作 (3) 第11講 卒業要件判定アプリ制作 (4) 第12講 卒業要件判定アプリ制作 (5) 第13講 手書き数字判定AIコーディング (1) 第14講 手書き数字判定AIコーディング (2) 第15講 手書き数字判定AIコーディング (3)					
テキスト・教材 (参考文献)	<テキスト> なし (必要に応じて配布します) <参考文献> 赤 間公太郎、狩野咲、鈴木清敬 「世界一わかりやすい HTML5 & CSS3 コーディングとサイト制作の教科書 [改訂2版]」 技術評論社 ¥2,948 (税込)					
事前・事後学習	講義前には、これまでに学習した内容を復習すること (60分) 講義後には、学習した内容を十分に復習すること (120分)					
成績評価方法	授業への取り組み姿勢や提出などによって総合的に評価する。					
授業内の課題・提出方法	<課題> 完成した作成したソースコードをMoodleに提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> その場でソースコードを見ながら、誤りを修正してもらいます。					
アクティブラーニング	課題、実習、プレゼンテーション					
実務経験のある教員						
担当者から一言	アルゴリズムを考えることは、プログラミングでは最重要事項で、卒業研究・制作においてアプリ作成やAI研究のために必須です。多くの経験を通してしか身につかないため、根気が要る地味な作業ですが、興味深いアプリ制作やAIコーディングで楽しめる演習になるように目指します。					

授業科目名	基礎演習 b		科目コード	371102	授業コード	423608
担当教員	黒田 淳哉、足立 明信、柳瀬 元志、前川 督雄		科目ナンバリング	ESS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	・専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 ・メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。					
授業のねらい	環境情報学部「メディア表現領域」には、映像・音情報・光情報の研究室に加えて「情報技術領域」との境界にあるデジタルコンテンツ研究室が存在します。1年次に「メディア表現領域」を選択した学生がそれぞれの担当教員からオムニバス形式で基礎を学び、理解することをねらいとしています。					
到達目標	・映像・音響・照明・3Dモデリングに関する基礎知識を身につける。 ・仲間と適切なコミュニケーションを取りつつ、制作活動に積極的に取り組むことができる。					
授業計画	第1講 ガイダンス（スタジオの利用について） 第2講 映像1「映像作品ができるまで」 第3講 映像2「作品鑑賞」 第4講 映像3「業界用語の基礎知識」 第5講 映像4「企画を立てよう」 第6講 音響1「スタジオの音響機器説明・取り扱い方法」 第7講 音響2「PAシステムの構成」 第8講 音響3「ミキサーの使い方」 第9講 音響4「エフェクターの使い方」 第10講 照明1「明るさ知る～光の種類と特性」 第11講 照明2「色～色の客観的な表現と伝達～」 第12講 照明3「光の方向と効果～印象を操る照明技術～」 第13講 デジタルコンテンツ1「メディアとコンピュータの関係性」 第14講 デジタルコンテンツ1「実写と3DCG①」 第15講 デジタルコンテンツ2「実写と3DCG②」					
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）					
事前・事後学習	関心を持った内容は、教員に積極的に相談し、自ら制作・探索を行うことで学びを深めてください（180分）。					
成績評価方法	定期試験を行いません。各回の講義・実習ごとに取り組む態度と成果で評価し、合算します。					
授業内の課題・提出方法	授業ごとに課題を課しますので、講義時やMoodleで提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleや翌週の講義でフィードバックを行います。疑問に思ったことは積極的に発言・質問して下さい。					
アクティブラーニング	実習・体験を交えて実践的に学ぶ機会に富む科目です。					
実務経験のある教員	担当教員は、関連領域で実務経験を持ちます。					
担当者から一言	講義ごとに担当教員が変わりますが、すべての講義に積極的に参加してください。全体の取りまとめは黒田（6号館6510）が行います。また、スタジオでの実習では怪我防止のため、室内用シューズと作業用手袋を必ず用意してください。詳細は、第1回目のガイダンスで説明します。					

授業科目名	基礎演習 b		科目コード	371102	授業コード	423606
担当教員	大八木 麻希、野呂 達哉、古山 歩		科目ナンバリング	ESS2002		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる					
授業のねらい	基礎演習では、専門演習で行う実践的な調査研究に向けて必要な「基礎スキル」を身に付ける。この授業は3人の担当教員の授業を順に受講する。次の6項目は、基礎演習 a と b を通して学ぶものであり、扱うテーマや項目は担当教員によって異なる。①研究の進め方と実験室の使い方、②レポート作成、③プレゼンテーション（質疑応答を含む）、④文献・論文講読（研究倫理）、⑤野外調査・実験実習、⑥データ処理（表、グラフの作成）。					
到達目標	記録をつけることを習慣化する。測定したデータを正しく取り扱い、適切な表やグラフを用いてレポートにまとめることができる。学術的なプレゼンテーションの方法を学び、習得する。					
授業計画	第1講 水質データ分析（大八木） 第2講 水質データのまとめ（大八木） 第3講 文献検索（大八木） 第4講 プレゼンテーション作成（大八木） 第5講 プレゼンテーション発表（大八木） 第6講 魚類の分類と形態（古山） 第7講 魚類の計測（古山） 第8講 魚類標本の作成（古山） 第9講 計測データの整理・作図（古山） 第10講 データのまとめ・レポート作成（古山） 第11講 野生動物の調査手法と野外調査の心得（野呂） 第12講 センサーカメラの設置（野呂） 第13講 センサーカメラのデータ回収（野呂） 第14講 データの整理（野呂） 第15講 報告書の作成（野呂）					
テキスト・教材（参考文献）	各担当教員から自作のテキストや参考資料を配布する。参考となる文献があれば授業時間中に紹介する。					
事前・事後学習	授業での学習内容、調査や実験での実施内容をノートにまとめ、レポートなどを作成する（90分）。担当教員から指示された課題に取り組む（90分）。					
成績評価方法	3人の担当教員で1人33.3%を配分する。受講態度および実験ノート・レポート・プレゼンテーション等によって評価する。					
授業内の課題・提出方法	課題の提出にはMoodle等を活用する。課題およびその提出方法は担当教員ごとに指示する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	実験ノートやレポート、プレゼンテーションファイル等は適宜内容を確認し、添削や指導を行う。					
アクティブラーニング	フィールドワーク、実験・実習、グループワーク、レポート、プレゼンテーション					
実務経験のある教員						
担当者から一言	基礎演習では受講生は5回ずつ担当教員が変わります。詳しくは第1講のガイダンスにおいて説明します。ガイダンスには必ず出席してください。					

授業科目名	専門演習 a		科目コード	371103	授業コード	422302
担当教員	足立 明信		科目ナンバリング	ESS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる					
授業のねらい	音に関する技術を多角的に学び、その社会での活用方法を理解する。					
到達目標	卒業研究・卒業制作を見据え、自分の関心テーマや課題を見つける。 好奇心を持ち、自ら調査・学習できる自走可能な状態になる。					
授業計画	第1講 ガイダンス、演習の進め方 第2講 音響測定技術(SPL, FFT, IR計測) 第3講 音響測定技術(電気音響システム・室内音響の測定・評価) 第4講 ANC(アクティブノイズキャンセリング) 第5講 指向性制御技術(ビームフォーミングetc.) 第6講 立体音響技術1 第7講 立体音響技術2 第8講 バイノーラル収音 第9講 室内音響シミュレーション1 第10講 室内音響シミュレーション2 第11講 ProTools実習1(5201教室) 第12講 ProTools実習2(5201教室) 第13講 ProTools実習3(5201教室) 第14講 ProTools実習4(5201教室) 第15講 上級生 卒業研究・制作 中間発表(ディスカッション) ※題材にするトピックは、受講生の理解度・研究の方向性を反映しながら進めます。					
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて提示します。					
事前・事後学習	授業の各トピック毎にレポート課題を科します。180分/週程度を目安に、講義で学んだテーマについて自ら調査する事。					
成績評価方法	レポート課題・提出作品・授業や課外活動への取り組みの姿勢を総合的に評価。 下級生への指導や上級生の卒業制作の補助、学内イベント課外活動への貢献度も加点要素とする。					
授業内の課題・提出方法	Teams・SharePoint・その他記録メディアで提出。随時指定する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題のレビュー及びフィードバックは講義内で行う。					
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク、実習					
実務経験のある教員	現役で、ライブ・コンサートのPA、音響システムのプランニングや調整、レコーディングなどの業務を行っています。ソフトウェア開発の業務も行っているためIT×サウンドエンジニアリング両方の知見があります。					
担当者から一言	音情報研究室では、実習の効率を上げる為にもBYOD(個人所有のPC端末を持ってくる事)を推奨します。					

授業科目名	専門演習 a			科目コード	371103	授業コード	422303
担当教員	大八木 麻希			科目ナンバリング	ESS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。専門技術者に求められる倫理観を身につけている。						
授業のねらい	調査結果を検討するにあたり、文献が大きなウェイトを占めるため、既往の文献にとらわれることなく、しかしじっくり吟味して考察することが重要である。専門性の高い作業であるが卒業研究で大切なポイントであるために、そのためのスキルを身につけてもらいたい。						
到達目標	本セミナーでは調査地での分析結果からデータ整理を行うための専門知識を深める。						
授業計画	第1回 ガイダンス、 第2回 水圏関連文献（邦文）検索 第3回 水圏関連文献（邦文）講読 第4回 水圏関連文献（邦文）発表 第5回 研究・調査進捗中間報告会 第6回 卒論研究テーマに関する文献検索 第7回 卒業研究テーマに関する文献講読 第8回 卒業研究テーマに関する文献発表 第9回 フィールドワーク（施設見学） 第10回 施設見学のまとめ、プレゼン 第11回 フィールドワーク（調査地見学） 第12回 調査地見学のまとめ、プレゼン 第13回 卒業研究対象地の概要まとめ 第14回 卒業研究ポスター作製 第15回 研究・調査進捗報告会② 簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。						
テキスト・教材（参考文献）	テキストなし 資料配布						
事前・事後学習	参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。						
成績評価方法	受講態度50%、レポート50%。						
授業内の課題・提出方法	moodleで提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポートは採点后、返却する。						
アクティブラーニング	実験・実習、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク、レポート						
実務経験のある教員							
担当者から一言	化学分析及びデータ分析は責任を持ち、真摯な姿勢で取り組んでください。						

授業科目名	専門演習 a			科目コード	371103	授業コード	422107
担当教員	片山 清和			科目ナンバリング	ESS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる						
授業のねらい	ホームページは今や企業だけでなく一般の人も作成しており、情報発信の主要な手段となっています。ホームページの中にはデータベースと連携することでウェブサービスを提供しているものがあります。 この講義では、データベースの操作と、PHPを用いてHTML文書を生成することと、PHPを用いてデータベースを操作することを学びます。						
到達目標	PHPとデータベースを連携したアプリを作成できる。						
授業計画	第1講 ガイダンス、復習（1） 第2講 復習（2） 第3講 PHP（1） 第4講 PHP（2） 第5講 PHP（3） 第6講 日記アプリ制作（1） 第7講 日記アプリ制作（2） 第8講 データベース（1） 第9講 データベース（2） 第10講 PHPでのデータベース操作（1） 第11講 PHPでのデータベース操作（2） 第12講 日記アプリ制作（3） 第13講 日記アプリ制作（4） 第14講 日記アプリ制作（5） 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	＜テキスト＞ なし（必要に応じて配布します）						
事前・事後学習	講義前には、これまでに学習した内容を復習すること（60分） 講義後には、学習した内容を十分に復習すること（120分）						
成績評価方法	＜評価＞ 授業への取り組み姿勢や課題提出などによって総合的に評価する。						
授業内の課題・提出方法	＜課題＞ 完成した作成したソースプログラムをMoodleに提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	＜フィードバック＞ その場でソースコードを見ながら、誤りを修正してもらいます。						
アクティブラーニング	課題、実習、プレゼンテーション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	積み重ねの演習ですので、欠席はしないでください。						

授業科目名	専門演習 a		科目コード	371103	授業コード	425204
担当教員	木藤 裕也		科目ナンバリング	ESS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる専門技術者に求められる倫理観を身につけている					
授業のねらい	専門演習aでは、卒業研究に向けて必要な基礎力と応用力を養うことを目的とします。技術的な習得として、深層学習フレームワークを用いたモデル構築や各分野の応用モデルを取り扱う技術を身につけ、自身の研究テーマに応用できる力を育成します。さらに、ゼミ内での発表を通じて、研究内容を的確に伝えるためのプレゼンテーション能力を磨きます。スライド作成や論理的な説明、質疑応答への対応力を高め、卒業研究の実施に必要な総合的な能力を身につけます。					
到達目標	1. 深層学習フレームワークを用いたモデル構築・学習の基礎技術を習得し、AIモデルの応用方法を理解する。 2. 文献調査を通じて研究テーマを設定し、研究計画を立案する能力を身につける。 3. 研究内容を的確に伝えるプレゼンテーションスキルを習得し、論理的な説明や質疑応答に対応できる力を養う。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 興味分野の共有と情報調査 第3講 プレゼンテーション導入 第4講 研究テーマの構想・計画 第5講 研究テーマ発表 第6講 プログラミング導入 第7講 プログラミング技術演習 第8講 プログラミング技術演習 第9講 進捗発表 第10講 プログラミング技術演習 第11講 プログラミング技術演習 第12講 プログラミング技術演習 第13講 中間報告 第14講 中間報告 第15講 まとめ (必要に応じて内容・順序を変更する場合があります)					
テキスト・教材（参考文献）	なし。参考文献は必要に応じて適宜指示します。					
事前・事後学習	演習で学んだ内容や受けたフィードバックの振り返り（90分）。 関連する文献や最新技術トレンドの情報を調査（90分）。					
成績評価方法	定期試験は実施しません。 研究への取り組み姿勢、進捗報告や発表、質疑応答、授業態度などを総合的に評価します（100%）。					
授業内の課題・提出方法	必要に応じて指示します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内では発表内容や質疑応答に対してコメントを行います。また、授業外においても個別面談や電子媒体を通じたフィードバックを実施します。					
アクティブラーニング	授業の最後に進捗報告を行い、定期的に中間発表を実施することで、ゼミ内での相互フィードバックを促進します。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	プログラミングを用いた研究は、自ら手を動かし、試行錯誤を繰り返す中で深化します。日々の積み重ねを大切にしてください。 ゼミでは疑問に思ったことやアイデアは遠慮せずに発言してください。自分の考えを言葉にして伝えることで新たな気づきや成長につながります。					

授業科目名	専門演習 a		科目コード	371103	授業コード	425205
担当教員	黒田 淳哉		科目ナンバリング	ESS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	・専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 ・メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。					
授業のねらい	メディア表現における光の学びを本格的に開始します。前期では、光に関する基礎知識や技術を体験的に学び、後期の応用的な実践に向けた土台を築きます。また、チームでの協力作業を通じて個々の理解を深めると同時に、協調性やプロジェクト遂行能力の向上を目指します。					
到達目標	・プロジェクトに関する計画立案ができ、計画通りに実行することができる。 ・仲間と適切なコミュニケーションがとれる。 ・基礎的な照明システムが構築できる。					
授業計画	第1講 ガイダンス～スタジオの利用について 第2講 照明機器の取り扱い 第3講 光の種類 第4講 色 第5講 フォーカス 第6講 プログラムの方法 第7講 空間照明デザイン 第8講 音楽の分解 第9講 機材セッティング（仕込み）1 第10講 機材セッティング（仕込み）2 第11講 Patch～フォーカス1 第12講 フォーカス2 第13講 プログラム1 第14講 プログラム2 第15講 学部中間発表に参加～まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）					
事前・事後学習	関心を持った内容は、教員に積極的に相談し、自ら制作・探索を行うことで学びを深めてください（180分）。					
成績評価方法	定期試験を行いません。各回の講義・実習ごとに取り組み態度と成果で評価し、合算します。					
授業内の課題・提出方法	授業ごとに課題を課しますので、講義時やMoodleで提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleや翌週の講義でフィードバックを行います。疑問に思ったことは積極的に発言・質問して下さい。					
アクティブラーニング	実習・体験を交えて実践的に学ぶ機会に富む科目です。					
実務経験のある教員	担当教員は舞台・イベント・空間演出の専門家で実務経験を持ちます。					
担当者から一言	チームでタスクをこなしていきます。そのため、特別な理由がない限り講義を欠席しないでください。講義中の発言や質問は積極的に行い、主体的に参加することを期待しています。					

授業科目名	専門演習 a		科目コード	371103	授業コード	425206
担当教員	野呂 達哉		科目ナンバリング	ESS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる					
授業のねらい	生物多様性を把握するための多様な調査手法や標本などの記録に残す方法を学び、調査研究を進める上での基礎となる技術を身につける。					
到達目標	自身の研究対象やテーマを定め、調査手法の検討や調査地を選定し、事前準備などを通して実際に調査計画を立てる。目的に沿って調査と分析を実施し、結果をまとめる。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 研究目的の明確化、研究テーマを考える 第3講 事前の情報収集（文献およびインターネットによる検索） 第4講 調査計画の作成 第5講 調査機器や調査票の事前準備 第6講 フィールドワーク① ルートセンサスによる生物調査 第7講 フィールドワーク② ルートセンサスによる生物調査 第8講 データの整理と報告書の作成 第9講 なごや生物多様性センター見学＊ 第10講 フィールドワーク③ ため池における生物調査 第11講 フィールドワーク④ ため池における生物調査 第12講 データの整理と報告書の作成 第13講 フィールドワーク⑤ 音声によるコウモリ類調査 第14講 データの整理と報告書の作成 第15講 調査結果のまとめ フィールドワークの日程は天候などの理由で変更することがあります。 ＊見学先と調整の上、別日に実施します。					
テキスト・教材（参考文献）	プリントおよび関連資料を配布します。参考図書：「ミシシッピアカミミガメ防除マニュアル（日本カメ自然誌研究会監修）なごや生物多様性保全活動協議会」、「ため池と水田の生き物図鑑 動物編（近藤繁生ら）トンボ出版」など					
事前・事後学習	日頃から書籍や新聞、テレビ、インターネットなどで野生動物の情報をチェックし、必要な情報は保存してください（1日平均20分）。演習の後は、内容についての振り返りを行ってください（毎週40分）。日常生活の中で生物を見つけた際は、日時や場所、写真などの記録をとることを心がけてください。					
成績評価方法	レポート提出を課します。演習における調査、分析、見学に対する姿勢と提出されたレポートの内容から総合的に評価します（100％）。					
授業内の課題・提出方法	演習の内容に即した題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、講義のはじめでディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。					
アクティブラーニング	授業の最後に各受講生が結果や考察を発表して議論します。					
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。					
担当者から一言	野生動物の調査では対象とする動物だけではなく、その動物が生活する生息環境を知ることが大切です。日頃から観察する目を養ってください。また、フィールドワークには思わぬ危険が潜んでいます。細心の注意を払って行動しましょう。					

授業科目名	専門演習 a			科目コード	371103	授業コード	422108
担当教員	廣住 豊一			科目ナンバリング	ESS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる						
授業のねらい	土壌の性質を把握するための土壌断面調査および基本的物理性の測定法を学ぶ。						
到達目標	土壌調査を計画し、実施することができる。土壌の基本的物理性を測定することができる。調査結果をまとめ、正しく報告することができる。						
授業計画	第1講 ガイダンス、土壌調査法の解説 第2講 土壌調査の計画立案 第3講 土壌調査の実施 第4講 三相分布① 乾熱法 第5講 三相分布② 結果のまとめ 第6講 土粒子密度① 土粒子の密度試験 第7講 土粒子密度② 結果のまとめ 第8講 粒度分布① 篩別法 第9講 粒度分布② 沈降法 第10講 粒度分布③ 結果のまとめ 第11講 飽和透水係数① 変水位透水試験 第12講 飽和透水係数② 結果のまとめ 第13講 土壌有機物① 強熱減量試験 第14講 土壌有機物② 結果のまとめ 第15講 土壌調査結果のまとめ 調査・実験の進捗状況に応じて内容は変更されることがある。						
テキスト・教材（参考文献）	なし。必要に応じて資料を配布する。 参考文献：日本ペドロロジー学会編「土壌調査ハンドブック改訂版」博友社(1997年)、地盤工学会編「土質試験—基本と手引き—第二回改訂版」丸善(2010年)、宮崎毅・西村拓編「土壌物理実験法」東京大学出版会(2011年)						
事前・事後学習	調査および各実験の前に測定の方法と原理を確認し、手順書を作成する(90分)。分析結果をまとめた報告書を作成する(90分)。						
成績評価方法	調査および各実験における実施態度・習熟度、調査結果をまとめた報告書などをもとに総合的に評価する(100%)。						
授業内の課題・提出方法	各講で実施した調査および分析の結果をまとめた報告書を作成する。作成した報告書は印刷し、次講開始時に提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された報告書は添削し、次講開始時に返却する。						
アクティブラーニング	フィールドワーク、実験・実習、グループワーク、レポート、プレゼンテーション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	野外での調査や実験室での分析ではささいな油断や不注意がけがや事故につながります。細心の注意をもって調査・実験に臨んでください。調査では長靴・作業服、実験では白衣を必ず着用してください。						

授業科目名	専門演習 a		科目コード	371103	授業コード	424302
担当教員	古山 歩		科目ナンバリング	ESS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。					
授業のねらい	海生哺乳類をはじめとした水生脊椎動物についての基礎的な知識を学ぶとともに、先行研究の紹介を通して、水生脊椎動物の研究を行うにあたっての倫理観や科学的な思考の習得を目指します。					
到達目標	(1) 水圏における脊椎動物に関して基礎的な知識を身につける。 (2) 科学論文の検索方法や読み方を身につけ、自ら情報収集ができるようになる。 (3) 興味のある生物・分野を明確化する。					
授業計画	1. ガイダンス・ゼミの実施方法に関する説明 2. 海生哺乳類の種類と分類 3. 鯨類の形態的特徴 4. 鯨類の生理・生態的特徴 5. 海生哺乳類等希少動物の法令上の取り扱い 6. 水生脊椎動物の生態研究：年齢と成長 7. 水生脊椎動物の生態研究：食性 8. 水生脊椎動物の生態研究：その他 9. 先行研究・文献の調べ方と読み方 10. 研究事例の紹介① 11. 研究事例の紹介② 12. 研究事例の紹介③ 13. 研究事例の紹介④ 14. 研究事例の紹介⑤ 15. まとめ 授業の進捗によって適宜変更する可能性がある。					
テキスト・教材（参考文献）	なし。参考文献は適宜提示する。					
事前・事後学習	予習：興味のある生物や分野について文献やインターネット等で調べる（30分） 復習：授業で出された課題の実施（60分）					
成績評価方法	ゼミでの聴講態度や質問、発表やレポートの内容等に基づいて総合的に評価する（100%）					
授業内の課題・提出方法	必要に応じて適宜指示する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表やレポートに関して授業内でコメントをするほか、必要に応じて添削したものをMicrosoft Teams等を利用して返却する。					
アクティブラーニング	調べ学習を行い、その結果をまとめてパワーポイントで発表する。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	本ゼミで取り扱う生物は、法令によって取り扱いに制限があるものも多く、気軽に調査・研究できるものではありません。研究には必要十分な知識と綿密な計画が必要であり、知識や計画が疎かであれば研究を開始できないこともありえます。緊張感をもって積極的に授業に参加してください。					

授業科目名	専門演習 a		科目コード	371103	授業コード	422304
担当教員	前川 督雄		科目ナンバリング	ESS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる専門技術者に求められる倫理観を身につけている					
授業のねらい	実環境そしてサイバー空間でメディア情報を制御するための専門的な活性の構築をめざします。 対象を見る力、ものをつくる力、メッセージを伝える力、メディアを操る技術をより深め、広げていきます。 また、より本格的な調査・研究を行える活性の構築をめざします。					
到達目標	各個で目標を定めて、アプローチを探索するとともに自学自習を開始する。					
授業計画	第1講 ガイダンス／面談 第2講 目標探索／面談 第3講 目標探索／面談 第4講 目標探索／面談 第5講 目標設定／面談 第6講 目標設定／面談 第7講 アプローチ探索／面談 第8講 アプローチ探索／面談 第9講 アプローチ探索／面談 第10講 見直し／面談 第11講 自学自習／面談 第12講 自学自習／面談 第13講 自学自習／面談 第14講 進捗発表 第15講 面談／後期に向けての課題設定 （各自の方向性・進捗にあわせて異なります） 制作した作品、研究調査した論文で学内コンペに参加します。					
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません。					
事前・事後学習	試行錯誤の数だけ視野が広がり、実感・理解が深まります。思いついたらまず試してみましょう（180分）。 夏休みに課題を出します。					
成績評価方法	定期試験を行いません。 課題への取り組み、進捗等によって総合評価します。 毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をしてもらい、個別指導します。					
授業内の課題・提出方法	毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をもらい、個別指導します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をもらい、個別指導します。					
アクティブラーニング	各自の主體的な目標設定と試行錯誤					
実務経験のある教員						
担当者から一言	広く深く探求してください。 後輩の指導に関与してもらう場合もあります。教えることを通じて自分の理解・技能を深めて下さい。					

授業科目名	専門演習 a		科目コード	371103	授業コード	425207
担当教員	牧田 直子		科目ナンバリング	ESS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる					
授業のねらい	専門演習aでは、基礎演習で習得した実験技術や知識などを基盤とし、野外調査やプランクトンの観察と分類、結果のまとめ方を練習する。実践を繰り返すことにより、顕微鏡操作や分類、記録の取り方、まとめ方を身につけることが目標である。また、学術論文を輪読し、プランクトン研究について学びながら、卒業研究のテーマを決め、卒業研究の研究計画を立てる。					
到達目標	「自主的に実習に取り組める」 自分で考え、積極的に実習を進めよう。 「実習の記録を取り、報告する習慣をつける」 実習をしたらその日のうちに記録し、報告する習慣を身につけよう。					
授業計画	第1講 ガイダンスと野外調査の練習（ビオトープ） 第2講 顕微鏡観察 の練習と図鑑の見方 第3講 溜池でのプランクトン採集（フィールドワーク） 第4講 水田でのプランクトン採集（フィールドワーク） 第5講 プランクトンの観察と分類方法 第6講 溜池のプランクトンの分類実習 第7講 水田のプランクトンの分類実習 第8講 分類結果のまとめ方 第9講 結果の文章の書き方 第10講 付着藻類の観察準備 第11講 付着藻類の観察 第12講 プランクトンの計数方法 第13講 研究倫理 第14講 プランクトンの分類報告 第15講 野外調査のまとめと今後の研究計画					
テキスト・教材（参考文献）	田中正明「日本淡水産動植物プランクトン図鑑〔第2版〕」名古屋大学出版会（2022年） 定価：11,000円（税込） 適宜、プリントを配布する。					
事前・事後学習	(1) 毎日図鑑を見て、プランクトンの図と学名に慣れる（60分以上）。 (2) 分類結果や、フィールドワークで得られたデータをExcelファイルに入力する（60分以上）。 (3) 課題に取り組む（60分）。					
成績評価方法	実験ノート（実習の記録）：75%、課題：25% 実験ノートは毎回確認し、評価する。課題は5回課し、取り組みを評価する。					
授業内の課題・提出方法	(1) 実験ノート：フィールドワーク、実験方法、実習、学名の書き方等、授業でやったことや自習したことは全て実験ノートに書き込む。 提出方法-授業の最後に提出して確認を受ける。 (2) 課題：データのまとめや作文を予定している。実験ノートに書き込む、印刷物を提出する等、課題によって指示する。 提出方法-授業中に提出する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	(1) 実験ノート：授業の最後に確認し、不備があれば指摘して加筆させる。 (2) 課題：授業中に添削もしくは解答例を示す。					
アクティブラーニング	フィールドワーク、実験・実習、ディスカッション、課題・宿題					
実務経験のある教員						
担当者から一言	必ず実験ノートを用意してください。実習や学習した内容は、すべて実験ノートに記録しましょう。 フィールドワークは4年生と一緒に出かけます。					

授業科目名	専門演習 a			科目コード	371103	授業コード	424303
担当教員	柳瀬 元志			科目ナンバリング	ESS3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけ、メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できるようにする						
授業のねらい	2年生の基礎演習で培ったスキルや経験を活かし、映像制作を通して「表現する能力」を発展させます。映像ゼミとして共通テーマを設定し、企画・脚本・撮影・編集を行い10分程度の作品を制作の予定です。 また個人でも専門演習aを履修中に2～3本の自主製作作品を完成させることをねらいとします。また今年度は、基礎的な「読む・書く」の向上や作品鑑賞、個々のプレゼン力アップにも取り組みたいと思います。						
到達目標	企画の立案から企画書作成に始まり、構成案・脚本への落とし込み、また撮影、編集をスムーズに行うなど、企画から完成まで、自力でやり遂げることが到達目標です。 また、チームで制作する際のコミュニケーションやコーディネート力、個人で制作する際のオリジナリティなどを身につけます。 特に「書く」ことのスキルアップを目指します						
授業計画	第1講 ガイダンス ～ゼミの進め方～ 第2講 映像ゼミOBの作品研究① 第3講 映像ゼミOBの作品研究② 第4講 放送局見学（※別枠） 第5講 個人作品制作研究①（企画内容・構成） 第6講 個人作品制作研究②（企画内容・構成） 第7講 映像音響処理技術者資格認定試験勉強会 第8講 個人作品制作研究③（撮影素材プレビュー） 第9講 個人作品制作研究④（撮影素材プレビュー） 第10講 個人作品制作研究⑤（企画内容・構成再検討） 第11講 個人作品制作研究⑥（企画内容・構成再検討） 第12講 個人作品チェック&試写&手直し 第13講 手直し&MA NA録音 第14講 テロップ 第15講 合評 ※進捗状況により、内容の変更入れ替えがあります。						
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて資料を配布						
事前・事後学習	普段からあらゆるメディアに積極的に触れ、自らの映像制作の成長の糧となることを意識して事前事後学習とする。舞台やライブコンサート、読書、ラジオなど映像作品以外にイマジネーションを活性化させる経験を増やしてください。						
成績評価方法	課題への取り組み、完成度、コミュニケーション力、チームワークなど多岐にわたって評価します。 また各自で制作する作品の完成度や本数も評価の対象です。 欠席遅刻は大きくマイナスとします。						
授業内の課題・提出方法	決められた期限までに正しく教員に直接提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業・課題への取り組み：50% 制作への貢献度：50%						
アクティブラーニング	ロケハン・シナハン・撮影交渉・企画、脚本作成・撮影・編集・ナレーション・音効作業など、作品制作に関するすべてを行います。						
実務経験のある教員	映像制作を専門に研究、実践するメンバーとして、現役ディレクターの視点から皆さんに一定レベル以上のクオリティを求めます。						
担当者から一言	欠席遅刻は不可。チームで行動することに対して個人個人が責任を持ってください。 自覚をもってゼミ学習・メンバー間コミュニケーション・作品制作に取り組むこと。						

授業科目名	専門演習 b			科目コード	371104	授業コード	422702
担当教員	足立 明信			科目ナンバリング	ESS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択	必修
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身につけている 正しい科学的知識に基づく環境問題への対処や、社会に役立つ創造的な情報コンテンツの提供ができる 専門家に求められる倫理を身につけ、持続可能な社会の実現に向けて、多様な人々と協働できる						
授業のねらい	音に関する技術を多角的に学び、その社会での活用方法を理解する。						
到達目標	卒業研究・卒業制作を見据え、自分の関心テーマや課題を見つける。 好奇心を持ち、自ら調査・学習できる自走可能な状態になる。						
授業計画	第1講 ガイダンス PBL 1-1 第2講 PBL 1-2 第3講 PBL 1-3 第4講 PBL 1-4 第5講 PBL 1-5 第6講 スタジオ録音実習1 第7講 スタジオ録音実習2 第8講 スタジオ録音実習3 第9講 スタジオ録音実習4 第10講 スタジオ録音実習5 第11講 PBL 2-1 第12講 PBL 2-2 第13講 PBL 2-3 第14講 PBL 2-4 第15講 上級生 卒業研究・制作 研究室発表(ディスカッション) ※PBL=Project Based Learning(課題解決型学習) ※題材にするトピックは、受講生の理解度・研究の方向性を反映しながら進めます。						
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて提示します。						
事前・事後学習	授業の各トピック毎にレポート課題を科します。180分/週程度を目安に、講義で学んだテーマについて自ら調査する事。						
成績評価方法	レポート課題・提出作品・授業や課外活動への取り組みの姿勢を総合的に評価。 下級生への指導や上級生の卒業制作の補助、学内イベント課外活動への貢献度も加点要素とする。						
授業内の課題・提出方法	Teams・SharePoint・その他記録メディアで提出。随時指定する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題のレビュー及びフィードバックは講義内で行う。						
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク、実習、Project Based Learning						
実務経験のある教員	現役で、ライブ・コンサートのPA、音響システムのプランニングや調整、レコーディングなどの業務を行っています。ソフトウェア開発の業務も行っているためIT×サウンドエンジニアリング両方の知見があります。						
担当者から一言	音情報研究室では、実習の効率を上げる為にもBYOD(個人所有のPC端末を持ってくる事)を推奨します。						

授業科目名	専門演習 b			科目コード	371104	授業コード	422703
担当教員	大八木 麻希			科目ナンバリング	ESS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。専門技術者に求められる倫理観を身につけている。						
授業のねらい	調査結果を検討するにあたり、文献が大きなウェイトを占めるため、既往の文献にとらわれることなく、しかしじっくり吟味して考察することが重要である。専門性の高い作業であるが卒業研究で大切なポイントであるために、そのためのスキルを身につけてもらいたい。						
到達目標	本セミナーでは調査地での分析結果からデータ整理を行うための専門知識を深める。						
授業計画	第1回 ガイダンス、 第2回 水圏関連文献（邦文）検索 第3回 水圏関連文献（邦文）講読 第4回 水圏関連文献（邦文）発表 第5回 研究・調査進捗中間報告会 第6回 卒論研究テーマに関する文献検索 第7回 卒業研究テーマに関する文献講読 第8回 卒業研究テーマに関する文献発表 第9回 フィールドワーク（施設見学） 第10回 施設見学のまとめ、プレゼン 第11回 フィールドワーク（調査地見学） 第12回 調査地見学のまとめ、プレゼン 第13回 卒業研究対象地の概要まとめ 第14回 卒業研究ポスター作製 第15回 研究・調査進捗報告会② 簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。						
テキスト・教材（参考文献）	テキストなし 資料配布						
事前・事後学習	参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。						
成績評価方法	受講態度50%，レポート50%						
授業内の課題・提出方法	moodleを利用して提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポートは添削して、本人に個別返却時に解説を行う。						
アクティブラーニング	実験・実習、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク、レポート						
実務経験のある教員							
担当者から一言	分析には責任を持ち、真摯な姿勢で取り組んでください。						

授業科目名	専門演習 b			科目コード	371104	授業コード	422507
担当教員	片山 清和			科目ナンバリング	ESS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる						
授業のねらい	これまでの講義・演習などで獲得した知識・技術・経験を活かして、自分で決めた卒業制作を完成させます。 また、演習時間内で行う全体検討において、自分の制作の進捗状況をプレゼンテーションしたり、他のゼミ生のプレゼンテーションを聞いて議論したりすることで、プレゼンテーション能力だけでなくコミュニケーション能力の向上も図ります。						
到達目標	①卒業制作のテーマを推敲できる。 ②制作の進捗状況を報告・議論できる。 ③制作内容をプレゼンテーションできる。						
授業計画	第1講 ガイダンス、卒業研究・制作のテーマの検討・決定 第2講 卒業制作の計画の立案 第3講 卒業制作の実施、全体検討（1） 第4講 卒業制作の実施、全体検討（2） 第5講 卒業制作の実施、全体検討（3） 第6講 卒業制作の実施、全体検討（4） 第7講 卒業制作の実施、全体検討（5） 第8講 ゼミ内中間発表会の準備 第9講 ゼミ内中間発表会 第10講 卒業制作の実施、全体検討（6） 第11講 卒業制作の実施、全体検討（7） 第12講 卒業制作の実施、全体検討（8） 第13講 卒業制作の実施、全体検討（9） 第14講 卒業制作の実施、全体検討（10） 第15講 卒業制作の中間発表会						
テキスト・教材（参考文献）	＜テキスト＞なし（必要に応じて指示または配布します）						
事前・事後学習	制作の内容・進捗状況に応じて必要な知識や情報を収集すること（90分） 制作や全体検討で生じた問題・課題へ対応すること（90分）						
成績評価方法	＜評価＞授業への取り組み姿勢や卒業制作の進捗状況などによって総合的に評価する。						
授業内の課題・提出方法	＜課題＞週報を提出してもらいます。また、全体検討でのレジメを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	＜フィードバック＞卒業制作の内容や進め方などのアドバイスを授業内だけでなく、授業外でも行います。						
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	卒業制作はテーマを自分で決定し、自分で考えながら進めていきます。目標に向けて主体的に行った活動は卒業後にも必ず役立ちます。教員は演習時間外でも助言します。						

授業科目名	専門演習 b		科目コード	371104	授業コード	425707
担当教員	木藤 裕也		科目ナンバリング	ESS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる専門技術者に求められる倫理観を身につけている					
授業のねらい	「専門演習a」に引き続き、卒業研究に必要な基礎力と応用力を養うことを目的とします。授業では深層学習フレームワークや各分野の応用モデルを取り扱う技術を習得するとともに、ゼミ内での発表を通して、研究内容を的確に伝えるためのプレゼンテーション能力を磨きます。スライド作成の技術、論理的な説明力、質疑応答への対応力を高め、卒業研究の実施に必要な総合的な能力を身につけます。					
到達目標	1. 深層学習フレームワークを用いたモデル構築・学習の基礎技術を習得し、生成モデルや自然言語モデルの応用方法を理解する。 2. 文献調査を通じて研究テーマを設定し、研究計画を立案する能力を身につける。 3. 研究内容を的確に伝えるプレゼンテーションスキルを習得し、論理的な説明や質疑応答に対応できる力を養う。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 夏休みの進捗報告 第3講 卒業研究・個別面談 第4講 卒業研究・個別面談 第5講 進捗発表 第6講 卒業研究・面談 第7講 卒業研究・面談 第8講 卒業研究・面談 第9講 卒業研究・面談 第10講 進捗発表 第11講 卒業研究・面談 第12講 卒業研究・面談 第13講 中間報告 第14講 中間報告 第15講 まとめ (必要に応じて内容・順序を変更する場合があります)					
テキスト・教材（参考文献）	なし。参考文献は必要に応じて適宜指示します。					
事前・事後学習	演習で学んだ内容や受けたフィードバックの振り返り（90分）。 関連する文献や最新技術トレンドの情報を調査（90分）。					
成績評価方法	定期試験は実施しません。 研究への取り組み姿勢、進捗報告や発表、質疑応答、授業態度などを総合的に評価します（100%）。					
授業内の課題・提出方法	必要に応じて指示します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内では発表内容や質疑応答に対してコメントを行います。また、授業外においても個別面談や電子媒体を通じたフィードバックを実施します。					
アクティブラーニング	授業の最後に進捗報告を行い、定期的に中間発表を実施することで、ゼミ内での相互フィードバックを促進します。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	プログラミングを用いた研究は、自ら手を動かし、試行錯誤を重ねる中で深まっていきます。日々の積み重ねを大事にしてください。 ゼミでは疑問に思ったことやアイデアは遠慮せずに発言してください。自分の考えを言葉にして伝えることで新たな気づきや成長につながります。					

授業科目名	専門演習 b			科目コード	371104	授業コード	425708
担当教員	黒田 淳哉			科目ナンバリング	ESS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	・専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 ・メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。						
授業のねらい	専門演習aと同様、チームで目標をプロジェクト化し、目標の達成に向けて取り組みます。目標や意識の設定から計画の立案、そしてタスクの割り振りから実行までをチームで協力して自分たちの力で完結できるようになることを目指します。						
到達目標	・プロジェクトに関する計画立案ができ、計画通りに実行することができる。 ・仲間と適切なコミュニケーションがとれる。						
授業計画	第1講 ガイダンス～イベント制作について 第2講 照明演出 1-1（仕込み） 第3講 照明演出 1-2（仕込み） 第4講 照明演出 1-3（フォーカス） 第5講 照明演出 1-4（プログラム） 第6講 照明演出 1-5（本番） 第7講 照明演出 1-6（本番） 第8講 照明演出 2-1（仕込み） 第9講 照明演出 2-2（仕込み） 第10講 照明演出 2-3（フォーカス） 第11講 照明演出 2-4（プログラム） 第12講 照明演出 2-5（本番） 第13講 照明演出 2-6（本番） 第14講 卒業研究・制作について 1 第15講 卒業研究・制作について 2						
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	興味を持った点について積極的に教員を訪ね、自分で探索するなどしてさらに理解を深めてください（180分）。						
成績評価方法	定期試験をいません。各回の講義・実習ごとに、取り組み態度と成果で評価し、合算します。						
授業内の課題・提出方法	授業ごとに課題を課しますので、講義時やMoodleで提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	疑問に思ったことは積極的に発言・質問して下さい。						
アクティブラーニング	実習・体験を交えて実践的に学ぶ機会に富む科目です。						
実務経験のある教員	担当教員は舞台・イベント・空間演出の専門家で実務経験を持ちます。						
担当者から一言	チームでタスクをこなしていきます。そのため、特別な理由がない限り講義を欠席しないでください。講義中の発言や質問は積極的に行い、主体的に参加することを期待しています。						

授業科目名	専門演習 b		科目コード	371104	授業コード	425709
担当教員	野呂 達哉		科目ナンバリング	ESS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。					
授業のねらい	調査方法の検討や野外調査の事前準備、捕獲調査や記録の残し方、データ分析等、卒業研究を進める上で必要な基礎を身に付ける。					
到達目標	調査計画を立て、目的に沿った調査を実施する。演習を通して自身の研究対象やテーマを定め、進捗状況によっては卒業研究をはじめる。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 哺乳類の調査手法とトラップや調査機器の使い方 第3講 捕獲調査計画の立て方と捕獲許可申請等の書き方 第4講 調査機器や調査票の事前準備 第5講 フィールドワーク① トラップによる哺乳類調査 第6講 フィールドワーク② トラップによる哺乳類調査 第7講 フィールドワーク③ トラップによる哺乳類調査 第8講 なごや生物多様性センター見学＊ 第9講 外部形態の計測と仮剥製の作製 第10講 哺乳類のリスト作成 第11講 調査結果資料の準備 第12講 調査報告・意見交換 第13講 卒業研究に向けた情報収集（文献およびインターネットによる検索） 第14講 卒業研究のテーマを考える 第15講 卒業研究計画とスケジュールの作成 フィールドワークの日程は天候などの理由で変更することがあります。 ＊見学先と調整の上、別日に実施します。					
テキスト・教材（参考文献）	自作プリント、および関連資料配布。参考文献：「アニマル・ウォッチングー日本の野生動物（安間 繁樹）晶文社、1985」、「野生動物管理のためのフィールド調査法：哺乳類の痕跡判定からデータ解析まで」、「カメラトラップによる野生生物調査入門：調査設計と統計解析」					
事前・事後学習	日頃から書籍や新聞、テレビ、インターネットなどで野生動物の情報をチェックし、必要な情報は保存してください（1日平均20分）。また、演習の後は、内容についての振り返りを行ってください（毎週40分）。日常生活の中で生物を見つけた際は、日時や場所、写真などの記録をとることを心がけてください。					
成績評価方法	レポート提出を課します。演習における調査、分析、見学に対する姿勢と提出されレポートの内容から総合的に評価します（100％）。					
授業内の課題・提出方法	演習の内容に即した身近な題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、講義のはじめでディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。					
アクティブラーニング	授業の最後に各受講生が結果や考察を発表して議論します。					
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。					
担当者から一言	哺乳類の捕獲調査は法律に従った許可申請が必要です。罠の設置にも土地管理者の許可が必要です。事前準備の段階でこういった側面も理解しておきましょう。また、フィールドワークには思わぬ危険が潜んでいます。細心の注意を払って行動しましょう。					

授業科目名	専門演習 b			科目コード	371104	授業コード	422508
担当教員	廣住 豊一			科目ナンバリング	ESS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる						
授業のねらい	土壌の性質を把握するための化学的性質の測定法を学ぶ。						
到達目標	土壌の化学的性質を測定することができる。分析結果をまとめ、正しく報告することができる。						
授業計画	第1講 ガイダンス、土壌分析法の解説 第2講 土壌試料の採取 第3講 一般化学性① pH および EC 第4講 一般化学性② 結果のまとめ 第5講 交換性塩基① ショーレンベルガー法 第6講 交換性塩基② 結果のまとめ 第7講 陽イオン交換容量① ホルモル滴定法 第8講 陽イオン交換容量② 結果のまとめ 第9講 有効態リン酸① トルオーグ法 第10講 有効態リン酸② 結果のまとめ 第11講 リン酸吸収係数① リン酸吸収係数測定 第12講 リン酸吸収係数② 結果のまとめ 第13講 アンモニア態窒素① 水蒸気蒸留法 第14講 アンモニア態窒素② 結果のまとめ 第15講 土壌分析結果のまとめ 調査・実験の進捗状況に応じて内容は変更されることがある。						
テキスト・教材（参考文献）	なし。必要に応じて資料を配布する。 参考文献：日本土壌肥料学会「土壌標準分析・測定法」博友社(2004年)、渡辺和彦ほか「環境・資源・健康を考えた土と施肥の新知識」農文協(2012年)、JA全農「だれにもできる土壌診断の読み方と肥料計算」農文協(2010年)						
事前・事後学習	各実験の前に測定の方法と原理を確認し、手順書を作成する(90分)。分析結果をまとめた報告書を作成する(90分)。						
成績評価方法	各実験における実施態度・習熟度、調査結果をまとめた報告書などをもとに総合的に評価する(100%)。						
授業内の課題・提出方法	各講で実施した分析の結果をまとめた報告書を作成する。作成した報告書は印刷し、次講開始時に提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された報告書は添削し、次講開始時に返却する。						
アクティブラーニング	フィールドワーク、実験・実習、グループワーク、レポート、プレゼンテーション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	実験室での分析ではささいな油断や不注意がけがや事故につながります。細心の注意をもって調査・実験に臨んでください。白衣を必ず着用してください。						

授業科目名	専門演習 b		科目コード	371104	授業コード	424605
担当教員	古山 歩		科目ナンバリング	ESS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。					
授業のねらい	海生哺乳類をはじめとした水生脊椎動物についての基礎的な知識を学ぶとともに、先行研究の紹介を通して、水生脊椎動物の研究を行うにあたっての倫理観や科学的な思考の習得を目指します。					
到達目標	(1) 野生動物研究における科学的・社会的な位置付けを理解する。 (2) 調査・研究における注意事項を把握し、フィールドにて適切な行動を取れるようになる。 (3) 実行可能な研究計画の考案と研究の科学的・社会的な意義の説明ができるようになる。					
授業計画	1. ガイダンス 2. 野生動物の研究における学術的・社会的意義 3. 調査・研究における注意事項①：フィールドにおける安全講習 4. 調査・研究における注意事項②：動物倫理 5. 調査・研究における注意事項③：実験における薬品等の取り扱い 6. 研究計画立案にあたってのポイント、研究開始までの流れ 7. 研究内容の考案 8. 先行研究の事例紹介① 9. 先行研究の事例紹介② 10. 先行研究の事例紹介③ 11. 先行研究の事例紹介④ 12. 研究計画立案① 13. 研究計画立案② 14. 研究計画立案③ 15. 研究計画発表 授業の進捗によって適宜変更する可能性がある。					
テキスト・教材（参考文献）	なし。参考文献は適宜提示する。					
事前・事後学習	予習：興味のある生物や分野について文献やインターネット等で調べる（30分） 復習：授業で出された課題の実施（60分）					
成績評価方法	ゼミでの聴講態度や質問、発表やレポートの内容等に基づいて総合的に評価する（100%）					
授業内の課題・提出方法	必要に応じて適宜指示する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	発表やレポートに関して授業内でコメントをするほか、必要に応じて添削したものをMoodle等を利用して返却する。					
アクティブラーニング	プレゼンテーション					
実務経験のある教員						
担当者から一言	本ゼミで取り扱う生物は、法令によって取り扱いに制限があるものも多く、気軽に調査・研究できるものではありません。研究には必要十分な知識と綿密な計画が必要であり、知識や計画が疎かであれば研究を開始できないこともありえます。緊張感をもって積極的に授業に参加してください。					

授業科目名	専門演習 b		科目コード	371104	授業コード	422704
担当教員	前川 督雄		科目ナンバリング	ESS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる専門技術者に求められる倫理観を身につけている					
授業のねらい	前期「専門演習 a」に引き続き、実環境そしてサイバー空間でメディア情報を制御するための専門的な活性の構築、また本格的な調査・研究を行える活性の構築をめざします。					
到達目標	各個で定めた目標を実現するために必要なツール、基礎的な知の体系を見定め、それらを獲得・達成するアプローチを組み立てる。					
授業計画	第1講 ガイダンス／夏休み中の報告 第2講 目標確認／面談 第3講 自学自習／面談（懸賞論文に応募） 第4講 自学自習／面談 第5講 自学自習／面談（大学祭で発表） 第6講 見直し／面談 第7講 自学自習／面談 第8講 自学自習／面談 第9講 自学自習／面談 第10講 自学自習／面談 第11講 自学自習／面談 第12講 四環展発表準備 第13講 四環展発表準備 第14講 四環展発表準備 第15講 総括／面談 （各自の方向性・進捗にあわせて異なります） 制作・開発した作品、研究調査した論文で学内コンペに参加します。					
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません。					
事前・事後学習	試行錯誤の数だけ視野が広がり、実感・理解が深まります。思いついたらまず試してみましょう（180分）。 冬休みに課題を出します。					
成績評価方法	定期試験を行いません。 課題への取り組み、進捗等によって総合評価します。					
授業内の課題・提出方法	毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をしてもらい、個別指導します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をもらい、個別指導します。					
アクティブラーニング	各自の主体的な目標設定と試行錯誤					
実務経験のある教員						
担当者から一言	広く深く探求してください。模索し、試行錯誤できるのはここまでのです。 後輩の指導に関与してもら場合もあります。教えることを通じて自分の理解・技能を深めて下さい。 先輩の卒業研究のサポートをしてもら場合もあります。					

授業科目名	専門演習 b		科目コード	371104	授業コード	425710
担当教員	牧田 直子		科目ナンバリング	ESS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる					
授業のねらい	専門演習 b では、卒業研究のための調査を本格的に開始する。自分で決めた調査対象について十分な余裕を持って調査を進める。論文紹介を通してプランクトン研究の知識を広げ、各自の調査研究に役立てる。プランクトンの分類は、とにかくたくさん観ること、図鑑に慣れることから始まる。計画を立てて自主的に取り組む姿勢を重視する。					
到達目標	「自信を持って調査・研究を進められる」 多少の失敗やうまく行かないことがあっても大丈夫。自由な発想で色々試し、自分の実力にしていこう。 「学名を読める」 プランクトンの名前を覚えるのは大変ですが、見て読めるようになりましょう。					
授業計画	第1講 ガイダンスと研究計画の確認、調査準備 第2講 試料採集（1回目） 第3講 試料採集予備（1回目） 第4講 調査・研究方法の妥当性を検討、文献調査 第5講 試料採集（2回目） 第6講 試料採集予備（2回目） 第7講 調査・研究方法の確認 第8講 調査・研究開始 第9講 調査・研究（継続） 第10講 調査・研究（継続2回目） 第11講 試料採集（3回目） 第12講 試料採集予備（3回目） 第13講 調査・研究（継続3回目） 第14講 調査・研究（継続4回目） 第15講 調査・研究のまとめ					
テキスト・教材（参考文献）	田中正明「日本淡水産動物プランクトン図鑑〔第2版〕」名古屋大学出版会（2022年） 定価：11,000円（税込） 適宜、プリントを配布する。					
事前・事後学習	(1) 自分の調査・研究に近い分野の論文を読み、学習を進める（60分以上）。 (2) プランクトンを分類し、調査・研究を進めながらデータの整理する（90分以上）。 (3) レポートは調査・研究と平行して、書ける部分から書き進めておく（30分以上）。					
成績評価方法	実験ノート（実習の記録）：75%、課題：15%、レポート：10% 実験ノートは毎回確認し、評価する。課題は3回課し、取り組みを評価する。レポートは減点方式で採点する。					
授業内の課題・提出方法	(1) 実験ノート：授業でやったことや自習したことは全て実験ノートに書き込む。 提出方法-授業の最後に提出して確認を受ける。 (2) 課題：プランクトンに関する課題を課す。実験ノートに書き込む、印刷物を提出する等、課題によって指示する。 提出方法-授業中に提出する。 (3) レポート：プランクトン採集と分類結果についてまとめたレポートを作成する。 提出方法-印刷して授業中に提出する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	(1) 実験ノート：授業の最後に確認し、不備があれば指摘して加筆させる。 (2) 課題：授業中に添削もしくは解答例を示す。 (3) レポート：完成までに最低3回は添削し、返却する。未完成のレポートは受け取らない。					
アクティブラーニング	フィールドワーク、実験・実習、ディスカッション					
実務経験のある教員						
担当者から一言	積極的に取り組み、自分の考えで調査を進め、実現させていくことで得られる達成感、探求する楽しみを実感しましょう。自信を持って、のびのびと活動してください。					

授業科目名	専門演習 b			科目コード	371104	授業コード	424701
担当教員	柳瀬 元志			科目ナンバリング	ESS3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけ、かつメディアに関する専門知識・技術を習得して独自の視点で情報発信できるスキルを身につける						
授業のねらい	自らテーマを設け1人2作品の制作を目指すとともに、ゼミ内でもチームで作品制作を行います。ジャンルは問いませんが、しっかりとした企画書、構成案・撮影レベル、編集スキル、選曲センスなどを求めます。特に企画書、構成案といった「書く」ことを重視します。 また卒業研究に向けたテーマのスタートをします。						
到達目標	4年時の卒業制作・研究に向け、自分の力だけで完璧な作品を制作することができるスキルを身につけます。また構成・撮影・編集など後輩を指導できる力を身につけます。						
授業計画	第1講 ガイダンス ～作品制作のロードマップ作製～ 第2講 個人作品テーマ発表 第3講 ゼミ作品テーマ発表 第4講 ゼミ作品企画書 第5講 ゼミ作品構成案① 第6講 ゼミ作品構成案② 第7講 個人作品①プレビュー 第8講 ゼミ作品撮影① 第9講 ゼミ作品撮影② 第10講 ゼミ作品撮影③ 第11講 個人作品②プレビュー 第12講 ゼミ作品編集① 第13講 ゼミ作品編集② 第14講 ゼミ作品MA・NA 第15講 ゼミ作品プレビュー ※授業の進捗状況により、内容の変更入れ替えがあります。						
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて配布						
事前・事後学習	映像作品に限らず様々なメディアに触れ、常に最先端の情報を入手する努力を怠らないこと 新聞を読み、文章構成力、読解力を身につける。						
成績評価方法	授業・課題への取り組み：30％ 作品制作への意欲・参加度：40％ 作品の完成度・レポートの内容など：30％ 定期試験はありません						
授業内の課題・提出方法	必要に応じて課題を出します。担当教員に直接提出を基本とします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業・課題への取り組み：30％ 作品制作への意欲・参加度：40％ 作品の完成度・レポートの内容など：30％ 定期試験は実施しません。その分、授業への取り組みや提出物など普段の姿勢が重視されます。特にチームで制作している場合の遅刻、欠席は認められないものと考えてください。						
アクティブラーニング	専門演習 a に準じます。						
実務経験のある教員	専門演習 a に準じます。						
担当者から一言	卒業制作・研究に向けての大切な取り組みとなります。 時間があっという間に過ぎて、気が付けば3年生も終わってしまうという事にもなりかねません。将来を左右しかねない大切な時期です。心して取り組みましょう						

授業科目名	専門演習 c		科目コード	371105	授業コード	422406
担当教員	足立 明信		科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択 必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる					
授業のねらい	課題発見能力、仮説立案能力、調査能力、意見形成力を育成。 自律的な研究・制作プロジェクト推進能力を身につける。					
到達目標	自ら発見した課題を解決する力を習得する。 計画立案および実行力を向上させる。					
授業計画	第1講 ガイダンス～演習の進め方～プレスト 第2講 卒業研究・制作テーマ決め 個別面談 / 作業 第3講 卒業研究・制作テーマ 研究室内プレゼンテーション 第4講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第5講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第6講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第7講 研究室内 共有会(プレゼンテーション・ディスカッション) 第8講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第9講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第10講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第11講 研究室内 共有会(プレゼンテーション・ディスカッション) 第12講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第13講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第14講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第15講 研究室内 中間発表(プレゼンテーション・ディスカッション) ※各受講生の進捗や取り組みテーマに応じて、PBL(ProjectBasedLearning)を差し込む可能性あり。					
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて提示します。					
事前・事後学習	講義の時間は、進捗報告や相談が中心になります。 各自の研究や制作は講義の時間とは別で180分/週を目安に、十分に時間をかけた研究・制作を行うこと。 専門演習c, dでの成果が卒業研究・制作となる為、GWや夏季休暇中も各自、研究・制作を行う事。					
成績評価方法	研究・制作の成果が70%、取り組み姿勢30%。 研究室下級生への指導や実習補助、学内イベント課外活動への貢献度も加点要素とする。					
授業内の課題・提出方法	Teams・SharePoint・その他記録メディアで提出。随時指定する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバックは講義内もしくはTeamsで行う。					
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク、実習、Project Based Learning、研究、制作					
実務経験のある教員	現役で、ライブ・コンサートのPA、音響システムのプランニングや調整、レコーディングなどの業務を行っています。ソフトウェア開発の業務も行っているのでIT×サウンドエンジニアリング両方の知見があります。					
担当者から一言	音情報研究室では、実習の効率を上げる為にもBYOD(個人所有のPC端末を持ってくる事)を推奨します。					

授業科目名	専門演習 c		科目コード	371105	授業コード	422407
担当教員	大八木 麻希		科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる					
授業のねらい	基礎演習ab、専門演習abで取り組んだ内容を反芻しながら、実践的に卒業論文の執筆に取り組む。卒業論文完成に向けて、必要な知識と情報の収集について身に付ける過程で研究の楽しみに気づくことが出来れば、良い研究につながる。					
到達目標	本セミナーでは調査研究を通じて、自然環境への理解の仕方を各自習得する。					
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 文献（英文）検索 第3回 文献（英文）講読 第4回 文献（英文）発表 第5回 卒業論文目次作成 第6回 中間発表要旨作成①タイトル及び目的 第7回 中間発表要旨作成②概要及び方法 第8回 中間発表要旨作成③結果及び考察 第9回 中間発表プレゼン作成①タイトル及び目的 第10回 中間発表プレゼン作成②概要及び方法 第11回 中間発表プレゼン作成③結果及び考察 第12回 中間発表プレゼン予備発表、添削 第13回 中間発表プレゼン修正、発表 第14回 卒業論文骨子を固める 第15回 卒業研究中間発表会 実験や野外実習を行い、アクティブラーニング要素を含む科目である。					
テキスト・教材（参考文献）	テキストなし 資料配布					
事前・事後学習	参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててほしい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。					
成績評価方法	卒業研究や演習への取り組み姿勢、研究の進捗状況、卒業研究中間発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する（100%）。研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。					
授業内の課題・提出方法	moodleでの提出					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物の添削を含めて個別に対応します。					
アクティブラーニング	実験・実習、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク、レポート					
実務経験のある教員						
担当者から一言	教員はサポート側に徹し、セミナー時間外の指導についても歓迎します。					

授業科目名	専門演習 c			科目コード	371105	授業コード	422204
担当教員	片山 清和			科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる						
授業のねらい	これまでの講義・演習などで獲得した知識・技術・経験を活かして、自分で決めた卒業制作を完成させます。 また、演習時間内で行う全体検討において、自分の制作の進捗状況をプレゼンテーションしたり、他のゼミ生のプレゼンテーションを聞いて議論したりすることで、プレゼンテーション能力だけでなくコミュニケーション能力の向上も図ります。						
到達目標	①卒業制作を遂行できる。 ②制作の進捗状況を報告・議論できる。 ③制作内容をプレゼンテーションできる。						
授業計画	第1講 ガイダンス、卒業制作のテーマの再検討 第2講 卒業制作の計画の立案 第3講 卒業制作の実施、全体検討（1） 第4講 卒業制作の実施、全体検討（2） 第5講 卒業制作の実施、全体検討（3） 第6講 卒業制作の実施、全体検討（4） 第7講 卒業制作の実施、全体検討（5） 第8講 ゼミ内中間発表会の準備 第9講 ゼミ内中間発表会 第10講 卒業制作の実施、全体検討（6） 第11講 卒業制作の実施、全体検討（7） 第12講 卒業制作の実施、全体検討（8） 第13講 卒業制作の実施、全体検討（9） 第14講 卒業制作の実施、全体検討（10） 第15講 卒業制作の中間発表会						
テキスト・教材（参考文献）	＜テキスト＞なし（必要に応じて指示または配布します）						
事前・事後学習	制作の内容・進捗状況に応じて必要な知識や情報を収集すること（90分） 制作や全体検討で生じた問題・課題へ対応すること（90分）						
成績評価方法	＜評価＞授業への取り組み姿勢や卒業制作の進捗状況などによって総合的に評価する。						
授業内の課題・提出方法	＜課題＞週報を提出してもらいます。また、全体検討でのレジメを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	＜フィードバック＞卒業制作の内容や進め方などのアドバイスを授業内だけでなく、授業外でも行います。						
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	卒業制作はテーマを自分で決定し、自分で考えながら進めていきます。目標に向けて主体的に行った活動は卒業後にも必ず役立ちます。教員は演習時間外でも助言します。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	371105	授業コード	425405
担当教員	黒田 淳哉			科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	・専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 ・メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。						
授業のねらい	専門演習cは、卒業制作や研究研究の基盤づくりです。テーマを明確にして、これまでに習得した照明技術や知識をもとに卒業研究を進めていきます。						
到達目標	・自主的に卒業研究の進め方を計画する。 ・計画に沿って卒業研究・制作を進めることができる。 ・専門演習dに向けて、研究・制作の基盤をつくる。						
授業計画	第1講 ガイダンス、卒業研究の概要 第2講 研究テーマの選定1 第3講 研究テーマの選定2 第4講 先行研究の調査とレビュー 第5講 研究計画の立案1 第6講 研究計画の立案2 第7講 研究方法の基礎1 第8講 研究方法の基礎2 第9講 データ分析の基礎1 第10講 データ分析の基礎2 第11講 プレゼンテーション技術1 第12講 プレゼンテーション技術2 第13講 研究進捗の確認とフィードバック 第14講 研究倫理と著作権について 第15講 中間発表						
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	関心を持った内容は、教員に積極的に相談し、自ら調査・制作・探索を行うことで理解を深めてください（180分）。						
成績評価方法	定期試験はありません。各回の講義・実習ごとに、取り組み態度と成果で評価し、合算します。						
授業内の課題・提出方法	授業ごとに課題を課しますので、講義時やMoodleで提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleや翌週の講義でフィードバックを行います。疑問に思ったことは積極的に発言・質問して下さい。						
アクティブラーニング	実習・体験を交えて実践的に学ぶ機会に富む科目です。						
実務経験のある教員	担当教員は舞台・イベント・空間演出の専門家で実務経験を持ちます。						
担当者から一言	卒業研究は自分で考え、探求し、結果を追い求めていきます。毎回の講義でディスカッションを行い、課題を与えますので講義は休まないで下さい。また、セミナーの集大成として相応しい研究内容になるよう計画的に研究を進めて下さい。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	371105	授業コード	425406
担当教員	野呂 達哉			科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。						
授業のねらい	3年次までに習得した知識や技術を参考として目的に沿った研究計画を定め、卒業研究を進める。中間発表会に向けた分かりやすい資料を作成する。						
到達目標	自身の研究対象やテーマを定め、調査計画を立て、卒業研究を実施する。資料の作成や発表の練習を通して教員や他の学生と十分議論を尽くし、中間発表を行う。						
授業計画	第1講 ガイダンス 研究の進め方 第2講 研究テーマの検討 第3講 研究計画の作成 第4講 卒業研究の実施 第5講 卒業研究の実施 第6講 卒業研究の進捗報告・議論 第7講 卒業研究の実施 第8講 卒業研究の進捗報告・議論 第9講 卒業研究の実施 第10講 卒業研究の進捗報告・議論 第11講 卒業研究論文作成 背景と目的 第12講 卒業研究論文作成 方法・途中経過 第13講 卒業研究論文 図表作成 第14講 卒業研究 中間発表会のパワーポイント作成 第15講 卒業研究 中間発表会の発表練習 卒業研究中間発表会						
テキスト・教材（参考文献）	文献の紹介や必要に応じて論文や資料を配布します。						
事前・事後学習	演習の時間に関係なく研究活動を進めてください。演習の時間は研究上の問題点や疑問を皆で議論する場と捉え、出席するよう心がけてください（90分）。演習後は議論した内容をふまえて研究を進めてください（90分）。						
成績評価方法	卒業研究や演習への取り組み、研究の進捗状況、中間発表会での発表内容をもとに総合的に評価します（100%）。演習の時間に関係なく質問、相談等に対応します。						
授業内の課題・提出方法	レポート提出を課します。演習における調査、分析、見学に対する姿勢と提出されたレポートの内容から総合的に評価します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、講義のはじめでディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
アクティブラーニング	授業の最後に各受講生が結果や考察を発表して議論します。						
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。						
担当者から一言	卒業研究は学生生活の集大成です。教員や他の学生とも議論を尽くし、納得のいくものを作りあげましょう。疑問や分からないことがあれば遠慮せずに聞きに来てください。						

授業科目名	専門演習 c		科目コード	371105	授業コード	422205
担当教員	廣住 豊一		科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる					
授業のねらい	これまでの講義・演習・実験などで得た知識・技術・経験を駆使し、自ら設定した研究課題に対して試行錯誤を繰り返しながら自分の力で遂行する。					
到達目標	研究課題を設定できる。設定した研究課題を遂行する研究計画を立案できる。研究の進捗報告および議論ができる。研究の途中経過を適切に発表できる。					
授業計画	第1講 ガイダンス 研究の進め方 第2講 研究課題の検討 第3講 研究計画の策定 第4講 卒業研究の実施 第5講 卒業研究の進捗報告および議論 第6講 卒業研究の実施 第7講 卒業研究の進捗報告および議論 第8講 卒業研究の実施 第9講 卒業研究の進捗報告および議論 第10講 卒業研究の実施 第11講 卒業研究の進捗報告および議論 第12講 卒業研究の実施 第13講 卒業研究の進捗報告および議論 第14講 卒業研究中間発表会の準備 第15講 卒業研究中間発表会の確認 卒業研究中間発表会 作業の進捗状況に応じて内容は変更されることがある。					
テキスト・教材（参考文献）	研究課題に関するすべての文献。研究の遂行には、発生した課題や問題点に対して、自ら調査・検討する態度が求められる。					
事前・事後学習	研究の進捗状況に応じて必要となる知識の収集(90分)。研究を実施した際に発生した課題への対応策の検討(90分)。					
成績評価方法	卒業研究や演習への取り組み姿勢、研究の進捗状況、卒業研究中間発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する(100%)。					
授業内の課題・提出方法	研究を進める際に遭遇するあらゆる問題が課題となる。発生した問題に対しては必要な対策を検討し、教員に相談・報告する。教員から与えられた指示は期限までに必ず実行する。課題への対応が遅れると、研究計画全体の遅延につながる。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。					
アクティブラーニング	フィールドワーク、実験・実習、グループワーク、レポート、プレゼンテーション					
実務経験のある教員						
担当者から一言	自ら課題を発見し、解決方法を探し出す力を身につけることは、社会に出てからも役に立ちます。卒業研究はこれまでの大学生活や研究活動の集大成です。研究室の仲間や後輩と協力しながら、見事に研究を完遂してください。がんばりましょう。					

授業科目名	専門演習 c			科目コード	371105	授業コード	424401
担当教員	古山 歩			科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。						
授業のねらい	自らの研究テーマについて適切に実施し、その遂行の中で専門的な知識・技術・考え方を身につける。						
到達目標	1) 主体的に研究を進められるようになる 2) 得られた結果を適切にまとめ、評価できるようになる 3) 研究結果をわかりやすく発表できるようになる						
授業計画	1. ガイダンス・ゼミの進め方 2. 卒業研究計画と現在の進捗発表 3. 卒業研究の実施 4. 得られたデータの解析 5. 卒業研究の進捗報告 6. 卒業研究の実施 7. 得られたデータの解析 8. 卒業研究の進捗報告 9. 卒業研究の実施 10. 得られたデータの解析 11. 卒業研究中間発表会の準備 12. 卒業研究中間発表会の準備 13. 卒業研究中間発表会の準備 14. 卒業研究中間発表会の準備 15. 卒業研究中間発表会の練習 卒業研究中間発表会 進捗によって適宜変更する。						
テキスト・教材（参考文献）	自らの研究テーマに関わる論文やその他文献。教員から提示することもあるが、基本的には自ら文献を検索し、収集すること。						
事前・事後学習	論文等の文献検索（30分） 研究結果のまとめや報告資料の作成（60分）						
成績評価方法	卒業研究やセミナーへの取り組み姿勢、研究の進捗状況、卒業研究中間発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する（100%）。研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。						
授業内の課題・提出方法	Microsoft Teamsを通じて提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中に研究進捗に応じて適切な助言を行う。また、提出物に関してはMicrosoft Teams上でフィードバックする。						
アクティブラーニング	実験、レポート、プレゼンテーション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	本ゼミで取り扱う生物は、法令によって取り扱いに制限があるものも多く、気軽に調査・研究できるものではありません。研究には必要十分な知識と綿密な計画が必要であり、知識や計画が疎かであれば研究を開始できないこともありえます。緊張感をもって積極的に授業に参加してください。						

授業科目名	専門演習 c			科目コード	371105	授業コード	422408
担当教員	前川 督雄			科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる専門技術者に求められる倫理観を身につけている						
授業のねらい	これまでの講義・演習で培った知識・技術・経験を背景にして、卒業制作あるいは卒業研究を行います。						
到達目標	卒業制作・卒業研究の中間レポートを仕上げ、発表する。						
授業計画	第1講 ガイダンス／卒業制作・卒業研究の目標を設定 第2講 卒業制作・卒業研究 第3講 卒業制作・卒業研究 第4講 卒業制作・卒業研究／4月期総括・見直し 第5講 卒業制作・卒業研究 第6講 卒業制作・卒業研究 第7講 卒業制作・卒業研究／5月期総括・見直し 第8講 卒業制作・卒業研究 第9講 卒業制作・卒業研究 第10講 卒業制作・卒業研究 第11講 卒業制作・卒業研究／6月期総括・見直し 第12講 卒業制作・卒業研究 第13講 卒業制作・卒業研究 第14講 中間発表／中間レポート提出 第15講 夏休み・後期に向けて面談 (7月末に卒業制作・卒業研究の中間レポートを提出)						
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません。						
事前・事後学習	授業時間は教員への報告・相談の場であり、作業時間ではありません。毎日の生活のなかで最高の優先度を置き、最大限の時間をかけて取り組んで下さい。						
成績評価方法	卒業制作・卒業研究への取り組み姿勢および進捗状況を総合的に評価します。定期試験を行いません。						
授業内の課題・提出方法	毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をしてもらい、個別指導します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をもらい、個別指導します。						
アクティブラーニング	各自の主体的な目標設定と試行錯誤						
実務経験のある教員							
担当者から一言	前期でどこまで到達できるかが勝負です。頑張ってください。						

授業科目名	専門演習 c		科目コード	371105	授業コード	425407
担当教員	牧田 直子		科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修/選択 必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる					
授業のねらい	専門演習 c では、卒業研究のための調査を本格的に進める。自分で決めた調査対象について自信を持って調査を進める。これまでに学んだ知識や身につけた実験技術をもとに、各自で創意工夫し、卒業研究のデータをまとめ上げる。研究の最も楽しい時期であり、自分の考えで実習を進めることで、考える力を伸ばし、実力へとつなげたい。					
到達目標	「自信を持って発表できる」 これまでに調査したデータをまとめ、他の人に分かる形で発表できるようにする。					
授業計画	第1講 ガイダンスと研究計画の確認、調査準備 第2講 各自の調査・研究 第3講 各自の調査・研究 第4講 各自の調査・研究 第5講 各自の調査・研究 第6講 各自の調査・研究の中間報告（1回目） 第7講 各自の調査・研究 第8講 各自の調査・研究 第9講 各自の調査・研究 第10講 各自の調査・研究 第11講 各自の調査・研究の中間報告（2回目） 第12講 各自の調査・研究 第13講 各自の調査・研究 第14講 分野ごとの中間発表会の準備 第15講 分野ごとの中間発表会					
テキスト・教材（参考文献）	田中正明「日本淡水産動植物プランクトン図鑑〔第2版〕」名古屋大学出版会（2022年）定価：11,000円（税込） 田中正明・牧田直子「日本産ミジンコ図鑑」共立出版（2017年）定価：7,150円（税込） 適宜、プリントを配布する。					
事前・事後学習	(1) 自分の調査・研究に近い分野の論文を読み、理解を深める（60分以上）。 (2) 調査・研究を進めながら、データの整理をしておく（90分以上）。 (3) 調査・研究のまとめ方を考え、実験方法等、書けるところから報告書もしくは論文用書き進める（30分）。					
成績評価方法	卒業研究やセミナーへの取り組み姿勢、研究の進捗状況、卒業研究中間発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する（100%）。研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。					
授業内の課題・提出方法	(1) 実験ノート：授業でやったことや自習したこと、卒業研究に関する全てを実験ノートに書き込む。 提出方法-授業の最後に提出して確認を受ける。 (2) 卒業論文：実験方法と、6月中旬までに得られた結果についてまとめる。 提出方法-印刷して授業中に提出する。 (3) 卒業研究中間発表会の準備：要旨とパワーポイント資料を作り、発表準備をする。 提出方法-印刷して授業中に提出する。完成版はファイルで提出する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	(1) 実験ノート：授業の最後に確認し、不備があれば指摘して加筆させる。 (2) 卒業論文：完成までに最低4回は添削し、返却する。未完成では受け取らない。 (3) 卒業研究中間発表会の準備：要旨は添削して返却する。パワーポイント資料は授業内で発表してもらい、修正箇所を指示する。					
アクティブラーニング	フィールドワーク、実験・実習、ディスカッション、プレゼンテーション					
実務経験のある教員						
担当者から一言	積極的に取り組み、自分の考えで計画的に調査を進め、データをまとめましょう。各自に合わせて技術面の支援、研究指導をするつもりです。					

授業科目名	専門演習 c			科目コード	371105	授業コード	424402
担当教員	柳瀬 元志			科目ナンバリング	ESS4001		
配当年次	4	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけることとメディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できるスキルを完成させる						
授業のねらい	専門演習abを通じて習得したスキルを活かして、大学生活の集大成となる卒業制作に向けた土台づくりを行います。 また卒業制作の他に、記述形式の卒業研究も各自行います。						
到達目標	自ら定めたテーマに沿って作品制作、卒業計画の方向性を定める。 しっかり準備をしつつ、制作に取り掛かることを目標とし、スケジュールに沿った制作進行を遵守する。						
授業計画	第1講 ガイダンス～卒業制作映像作品及び卒業研究に向けてのロードマップづくり～ 第2講 作品企画書 & 卒業研究テーマ検討 第3講 作品構成案・脚本 & 研究内容発表 第4講 作品・研究制作① 第5講 作品・研究制作② 第6講 作品・研究制作③ 第7講 作品・研究制作④ 第8講 作品・研究制作⑤ 第9講 作品・研究制作⑥ 第10講 卒業制作中間チェック 第11講 作品・研究制作⑦ 第12講 作品・研究制作⑧ 第13講 作品・研究制作⑨ 第14講 作品・研究制作⑩ 第15講 卒業制作中間チェック ※授業の進捗状況により、内容の変更入れ替えがあります。						
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて配布						
事前・事後学習	映画・芝居・ライブ・テレビ・ラジオ・書籍・論文など様々なジャンルから積極的に知識・情報を吸収し、自らのスキルアップに努めること。特に新聞を読む習慣を身につけ、毎日60分くらいはこうしたメディアに触れてください。						
成績評価方法	定期試験はありません。 各個人の作品や研究に取り組む姿勢、内容で評価します。 また出席を重視します。						
授業内の課題・提出方法	担当教員に直接提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	作品・研究の内容を検討し、それぞれに適切な形でフィードバックします。						
アクティブラーニング	各自、必要と思われるアクティブラーニングを行ってください。 特に映像系の作品や書籍・新聞、また見聞を広めるため他者・異文化との積極的な交流を図ってください。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	前期中に卒業制作・研究の70%は完成させる目標で取り組むこと。 今年度はどちらも11月完成を目指します。						

授業科目名	専門演習 d		科目コード	371106	授業コード	422804
担当教員	足立 明信		科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる					
授業のねらい	課題発見能力、仮説立案能力、調査能力、意見形成力を育成。 自律的な研究・制作プロジェクト推進能力を身につける。					
到達目標	自ら発見した課題を解決する力を習得する。 計画立案および実行力を向上させる。					
授業計画	第1講 ガイダンス～卒業研究・制作のテーマの確認 第2講 研究室内 共有会(プレゼンテーション・ディスカッション) 第3講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第4講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第5講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第6講 研究室内 共有会(プレゼンテーション・ディスカッション) 第7講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第8講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第9講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第10講 研究室内 共有会(プレゼンテーション・ディスカッション) 第11講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第12講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第13講 個別進捗報告・相談 / 各自研究・制作 第14講 研究室内 共有会(プレゼンテーション・ディスカッション) 第15講 研究室内 最終発表(プレゼンテーション・ディスカッション) ※各受講生の進捗や取り組みテーマに応じて、PBL(ProjectBasedLearning)を差し込む可能性あり。					
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて提示します。					
事前・事後学習	講義の時間は、進捗報告や相談が中心になります。 各自の研究や制作は講義の時間とは別で180分/週を目安に、十分に時間をかけた研究・制作を行うこと。 専門演習c, dでの成果が卒業研究・制作となる為、GWや夏季休暇中も各自、研究・制作を行う事。					
成績評価方法	研究・制作の成果が70%、取り組み姿勢30%。 研究室下級生への指導や実習補助、学内イベント課外活動への貢献度も加点要素とする。					
授業内の課題・提出方法	Teams・SharePoint・その他記録メディアで提出。随時指定する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	フィードバックは講義内もしくはTeamsで行う。					
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク、実習、Project Based Learning、研究、制作					
実務経験のある教員	現役で、ライブ・コンサートのPA、音響システムのプランニングや調整、レコーディングなどの業務を行っています。ソフトウェア開発の業務も行っているのでIT×サウンドエンジニアリング両方の知見があります。					
担当者から一言	音情報研究室では、実習の効率を上げる為にもBYOD(個人所有のPC端末を持ってくる事)を推奨します。					

授業科目名	専門演習 d			科目コード	371106	授業コード	422805
担当教員	大八木 麻希			科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。専門技術者に求められる倫理観を身につけている。						
授業のねらい	基礎演習ab、専門演習abで取り組んだ内容を反芻しながら、実践的に卒業論文の執筆に取り組む。卒業論文完成に向けて、必要な知識と情報の収集について身に付ける過程で研究の楽しみに気づくことが出来れば、良い研究につながる。						
到達目標	本セミナーでは調査研究を通じて、自然環境への理解の仕方を各自習得する。						
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 卒業論文進捗中間報告会 第3回 卒業研究データまとめ 第4回 卒業研究グラフ作成 第5回 関連文献検索 第6回 関連文献講読 第7回 卒業論文進捗報告会 第8回 関連講演会への参加 第9回 卒業論文作成①目次及び方法 第10回 卒業論文作成②概要及び目的 第11回 卒業論文作成③結果及び考察 第12回 卒業研究発表プレゼン作成①目次及び方法 第13回 卒業研究発表プレゼン作成②概要及び目的 第14回 卒業研究発表プレゼン作成③結果及び考察 第15回 卒業研究発表会 実験や野外実習を行い、アクティブラーニング要素を含む科目である。						
テキスト・教材（参考文献）	テキストなし 資料配布						
事前・事後学習	参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。						
成績評価方法	卒業研究や演習への取り組み姿勢、研究の成果、提出された論文の内容、卒業研究発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する（100%）。						
授業内の課題・提出方法	moodleを利用して提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	添削を行い個別に返却時に解説を行う。						
アクティブラーニング	実験・実習、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク、レポート						
実務経験のある教員							
担当者から一言	最後の最後まで粘り強く取り組むことが良い卒業論文となり、人生の糧となってくれます。全力でサポートさせていただきます。						

授業科目名	専門演習 d			科目コード	371106	授業コード	422605
担当教員	片山 清和			科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められている倫理観を身につけている。 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる。 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信が出来る。						
授業のねらい	これまでの講義・演習などで獲得した知識・技術・経験を活かして、自分で決めた卒業制作を完成させます。 また、演習時間内で行う全体検討において、自分の研究・制作の進捗状況をプレゼンテーションしたり、他のゼミ生のプレゼンテーションを聞いて議論したりすることで、プレゼンテーション能力だけでなくコミュニケーション能力の向上も図ります。						
到達目標	①卒業制作を完成させる。 ②制作の進捗状況を報告・議論できる。 ③制作内容をプレゼンテーションできる。						
授業計画	第1講 ガイダンス、卒業研究・制作のテーマと計画の再確認 第2講 卒業制作の実施、全体検討（1） 第3講 卒業制作の実施、全体検討（2） 第4講 卒業制作の実施、全体検討（3） 第5講 卒業制作の実施、全体検討（4） 第6講 卒業制作の実施、全体検討（5） 第7講 卒業制作の実施、全体検討（6） 第8講 卒業制作の実施、全体検討（7） 第9講 卒業制作の実施、全体検討（8） 第10講 卒業制作の実施、全体検討（9） 第11講 卒業制作の実施、全体検討（10） 第12講 卒業制作の実施、全体検討（11） 第13講 卒業制作の実施、全体検討（12） 第14講 卒業制作の実施、全体検討（13） 第15講 ゼミ内発表会						
テキスト・教材（参考文献）	＜テキスト＞なし（必要に応じて指示または配布します）						
事前・事後学習	制作の内容・進捗状況に応じて必要な知識や情報を収集すること（90分） 制作や全体検討で生じた問題・課題へ対応すること（90分）						
成績評価方法	＜評価＞授業への取り組み姿勢や卒業制作の進捗状況などによって総合的に評価する。						
授業内の課題・提出方法	＜課題＞課題提出はありませんが、全体検討でのレジュメを提出してもらいます。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	＜フィードバック＞卒業制作の内容や進め方などのアドバイスを授業内だけでなく、授業外でも行います。						
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	卒業制作はテーマを自分で決定し、自分で考えながら進めていきます。目標に向けて主体的に行った活動は卒業後にも必ず役立ちます。教員は演習時間外でも助言します。						

授業科目名	専門演習 d			科目コード	371106	授業コード	425805
担当教員	黒田 淳哉			科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる						
授業のねらい	これまでセミナーで得た技術や知識をもとに卒業研究をまとめる。成果をおさめる為に必要なことを自ら考え行動できるようになること。						
到達目標	・卒業研究および制作を完成させる。 ・卒業展にて研究成果の発表を行う。						
授業計画	第1講 ガイダンス、研究計画の再確認 第2講 研究及び制作 1 第3講 研究及び制作 2 第4講 研究及び制作 3 第5講 研究及び制作 4 第6講 研究及び制作 5 第7講 研究及び制作 6 第8講 研究及び制作 7 第9講 研究及び制作 8 第10講 研究及び制作 9 第11講 研究及び制作 10 第12講 卒業研究のまとめ 1 第13講 卒業研究のまとめ 2 第14講 プレゼンテーショントレーニング 1 第15講 プレゼンテーショントレーニング 2						
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	卒業研究を完成させるために必要な事前学習や持ち帰り課題（180分）。						
成績評価方法	卒業研究・制作の完成度で評価します（100%）。						
授業内の課題・提出方法	毎回の講義で成果に対してフィードバックを行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	疑問に思ったことは積極的に発言・質問して下さい。適宜対応します。						
アクティブラーニング	実習・体験を交えて実践的に学ぶ機会に富む科目です。						
実務経験のある教員	担当教員は舞台・イベント・空間演出の専門家で実務経験を持ちます。						
担当者から一言	卒業研究は自分で考え、探求し、結果を追い求めていきます。毎回の講義でディスカッションを行い、課題を与えますので講義は休まないで下さい。また、セミナーの集大成として相応しい研究内容になるよう計画的に研究を進めて下さい。						

授業科目名	専門演習 d		科目コード	371106	授業コード	425806
担当教員	野呂 達哉		科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。					
授業のねらい	中間発表の結果や議論を踏まえ、研究計画を補足しながら卒業研究を進める。卒業論文発表会に向けた分かりやすい資料を作成する。					
到達目標	フィールドワーク等で得られたデータを分析し、論理的な結論を導く。研究内容に沿った分かりやすい図表を作成し、その上で卒業論文を執筆、発表を行う。					
授業計画	第1講 ガイダンス 研究の進め方 第2講 研究計画の確認と補足 第3講 卒業研究の実施 第4講 卒業研究の進捗報告・議論 第5講 卒業研究の実施 第6講 卒業研究の進捗報告・議論 第7講 卒業研究の実施 第8講 卒業研究の進捗報告・議論 第9講 卒業研究論文作成 背景と目的 第10講 卒業研究論文作成 方法・結果 第11講 卒業研究論文 図表作成 第12講 卒業研究論文作成 考察・要旨 第13講 卒業研究 発表用パワーポイント作成 第14講 卒業研究 発表練習 第15講 卒業研究 発表練習 卒業論文発表会					
テキスト・教材（参考文献）	文献の紹介や必要に応じて論文や資料を配布します。					
事前・事後学習	演習の時間に関係なく研究活動を進めてください。演習の時間は研究上の問題点や疑問を皆で議論する場と考え、出席するよう心がけてください（90分）。演習後は議論した内容を踏まえた上で研究を進めてください（90分）。					
成績評価方法	卒業研究や演習への取り組み姿勢、研究の進捗状況、卒業論文発表会での発表内容をもとに総合的に評価します（100%）。演習の時間に関係なく質問、相談等に対応します。					
授業内の課題・提出方法	レポート提出を課します。演習における調査、分析、見学に対する姿勢と提出されたレポートの内容から総合的に評価します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、講義のはじめでディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。					
アクティブラーニング	授業の最後に各受講生が結果や考察を発表して議論します。					
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。					
担当者から一言	卒業研究は学生生活の集大成です。教員や他の学生とも議論を尽くし、納得のいくものを作りあげましょう。疑問や分からないことがあれば遠慮せずに聞きに来てください。					

授業科目名	専門演習 d		科目コード	371106	授業コード	422606
担当教員	廣住 豊一		科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる					
授業のねらい	これまでの講義・演習・実験などで得た知識・技術・経験を駆使し、自ら設定した研究課題に対して試行錯誤を繰り返しながら自分の力で遂行する。					
到達目標	中間発表会で得られた課題を整理し研究計画を改善できる。研究の進捗報告および議論ができる。得られた研究成果を論文にまとめ、わかりやすく発表できる。					
授業計画	第1講 ガイダンス 中間発表会時の議論整理 第2講 研究計画の改定 第3講 研究計画の確認と修正 第4講 卒業研究の実施 第5講 卒業研究の進捗報告および議論 第6講 卒業研究の実施 第7講 卒業研究の進捗報告および議論 第8講 卒業研究の実施 第9講 卒業研究の進捗報告および議論 第10講 卒業研究の実施 第11講 卒業研究の進捗報告および議論 第12講 卒業研究の実施 第13講 卒業研究の進捗報告および議論 第14講 卒業研究発表会の準備 第15講 卒業研究発表会の確認 卒業研究発表会 作業の進捗状況に応じて内容は変更されることがある。					
テキスト・教材（参考文献）	研究課題に関するすべての文献。研究の遂行には、発生した課題や問題点に対して、自ら調査・検討する態度が求められる。					
事前・事後学習	研究の進捗状況に応じて必要となる知識の収集(90分)。研究を実施した際に発生した課題への対応策の検討(90分)。					
成績評価方法	卒業研究や演習への取り組み姿勢、研究の進捗状況、卒業研究中間発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する(100%)。					
授業内の課題・提出方法	研究を進める際に遭遇するあらゆる問題が課題となる。発生した問題に対しては必要な対策を検討し、教員に相談・報告する。教員から与えられた指示は期限までに必ず実行する。課題への対応が遅れると、研究計画全体の遅延につながる。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。					
アクティブラーニング	フィールドワーク、実験・実習、グループワーク、レポート、プレゼンテーション					
実務経験のある教員						
担当者から一言	自ら課題を発見し、解決方法を探し出す力を身につけることは、社会に出てからも役に立ちます。卒業研究はこれまでの大学生活や研究活動の集大成です。研究室の仲間や後輩と協力しながら、見事に研究を完遂してください。がんばりましょう。					

授業科目名	専門演習 d			科目コード	371106	授業コード	424702
担当教員	古山 歩			科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。						
授業のねらい	自らの研究テーマについて適切に実施し、その遂行の中で専門的な知識・技術・考え方を身につける。						
到達目標	1) 主体的に研究を進められるようになる 2) 得られた結果を適切にまとめ、評価できるようになる 3) 研究結果をわかりやすく発表し、論文としてまとめられるようになる						
授業計画	1. ガイダンス・中間発表の振り返り 2. 卒業研究の進捗発表・今後の計画策定 3. 卒業研究の実施 4. 得られたデータの解析 5. 卒業研究の進捗報告 6. 卒業研究の実施 7. 得られたデータの解析 8. 卒業研究の進捗報告 9. 卒業研究の実施 10. 得られたデータの解析 11. 卒業研究の進捗報告 12. 卒業研究の実施 13. 得られたデータの解析 14. 卒業研究発表会の準備 15. 卒業研究発表会の練習 卒業研究発表会 進捗によって適宜変更する。						
テキスト・教材（参考文献）	自らの研究テーマに関わる論文やその他文献。教員から提示することもあるが、基本的には自ら文献を検索し、収集すること。						
事前・事後学習	論文等の文献検索（30分） 研究結果のまとめや報告・発表資料、卒業論文の作成（60分）						
成績評価方法	卒業研究や演習への取り組み姿勢、研究の成果、提出された論文の内容、卒業研究発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する（100%）。研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。						
授業内の課題・提出方法	Microsoft Teamsを通じて提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中に研究進捗に応じて適切な助言を行う。また、提出物に関してはMicrosoft Teams上でフィードバックする。						
アクティブラーニング	実験、レポート、プレゼンテーション						
実務経験のある教員							
担当者から一言	本ゼミで取り扱う生物は、法令によって取り扱いに制限があるものも多く、気軽に調査・研究できるものではありません。研究には必要十分な知識と綿密な計画が必要であり、知識や計画が疎かであれば研究を開始できないこともありえます。緊張感をもって積極的に授業に参加してください。						

授業科目名	専門演習 d			科目コード	371106	授業コード	422806
担当教員	前川 督雄			科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる専門技術者に求められる倫理観を身につけている						
授業のねらい	これまでの講義・演習で培った知識・技術・経験を背景にして、卒業制作あるいは卒業研究を行います。						
到達目標	卒業制作あるいは卒業研究を完成して卒業論文を仕上げるとともに、展示・発表を見事に成し遂げる。						
授業計画	第1講 ガイダンス／面談 第2講 卒業制作・卒業研究 第3講 卒業制作・卒業研究 第4講 卒業制作・卒業研究 第5講 卒業制作・卒業研究 第6講 卒業制作・卒業研究／発表様式・概要／切（10月末） 第7講 卒業制作・卒業研究 第8講 卒業制作・卒業研究 第9講 卒業制作・卒業研究 第10講 卒業制作・卒業研究完成（11月末） 第11講 論文作成 第12講 論文作成 第13講 論文提出（12月末） 第14講 発表準備 第15講 発表準備 1 月末から2月上旬に卒業研究発表会（四環展）での展示・発表						
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません。						
事前・事後学習	授業時間は教員への報告・相談の場であり、作業時間ではありません。毎日の生活のなかで最高の優先度を置き、最大限の時間をかけて取り組んで下さい。						
成績評価方法	卒業制作・卒業研究への取り組み姿勢および成果を総合的に評価します。定期試験を行いません。						
授業内の課題・提出方法	毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をしてもらい、個別指導します。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	毎週、進捗報告と次週に向けた目標設定をもらい、個別指導します。						
アクティブラーニング	各自の主体的な目標設定と試行錯誤						
実務経験のある教員							
担当者から一言	大学生活の集大成です。頑張ってください。						

授業科目名	専門演習 d		科目コード	371106	授業コード	425807
担当教員	牧田 直子		科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる					
授業のねらい	専門演習 d では、卒業研究を論文にまとめ、発表する最終段階に入ります。研究データの追加や再検討を行い、納得のいく内容で、わかりやすくまとめ上げましょう。今までの経験をもとに、社会で応用できる実力へと成長させたい。					
到達目標	「わかりやすく発表し、議論（質疑応答）できる」 自分の考えをわかりやすくまとめて伝え、議論できる。					
授業計画	第1講 ガイダンスと調査・研究の現状確認 第2講 各自の調査・研究 第3講 論文の構成と必要データの照合 第4講 各自の調査・研究（追加データの取得） 第5講 卒業研究論文の下書き完成、確認 第6講 卒業研究論文の下書きの修正 第7講 写真の画像処理 第8講 卒業研究論文の論旨の確認 第9講 卒業研究論文の図表、体裁の修正 第10講 卒業研究論文の読み直し 第11講 卒業研究論文の要旨作成 第12講 卒業研究論文と要旨の完成 第13講 発表原稿とパワーポイント資料の完成 第14講 卒業研究発表会の準備 第15講 卒業研究発表会					
テキスト・教材（参考文献）	田中正明「日本淡水産動植物プランクトン図鑑〔第2版〕」名古屋大学出版会（2022年） 定価：11,000円（税込） 田中正明・牧田直子「日本産ミジンコ図鑑」共立出版（2017年）定価：7,150円（税込） 適宜、プリントを配布する。					
事前・事後学習	(1) データの整理、作図（90分以上）。 (2) 論文の執筆、発表資料等の作成（90分以上）。					
成績評価方法	卒業研究や演習への取り組み姿勢、研究の成果、提出された論文の内容、卒業研究発表会での発表内容などをもとに総合的に評価する（100%）。研究の進捗状況に応じて適切な助言を行う。					
授業内の課題・提出方法	(1) 実験ノート：研究の結果や解析、考察等、卒業研究に関する全てを実験ノートに書き込む。 提出方法-授業の最後に提出して確認を受ける。 (2) 卒業論文：得られた結果について解析を加え、考察して論文にまとめる。 提出方法-印刷して授業中に提出する。完成版は提出期間中に教学課へ提出する。 (3) 卒業研究発表会の準備：要旨とパワーポイント資料を作り、発表準備をする。 提出方法-印刷して授業中に提出する。完成したらファイルで提出する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	(1) 実験ノート：授業の最後に確認し、不備があれば指摘して加筆させる。 (2) 卒業論文：完成までに最低4回は添削し、返却する。未完成では受け取らない。 (3) 卒業研究発表会の準備：要旨は添削して返却する。パワーポイント資料は授業内で発表してもらい、修正箇所を指示する。					
アクティブラーニング	実験・実習、ディスカッション、プレゼンテーション					
実務経験のある教員						
担当者から一言	誰が読んでもわかりやすい論文に仕上げ、発表しましょう。					

授業科目名	専門演習 d			科目コード	371106	授業コード	424801
担当教員	柳瀬 元志			科目ナンバリング	ESS4002		
配当年次	4	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	必修
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できるようにし、かつ専門技術者に求められる高い倫理観を身につける。						
授業のねらい	卒業制作の作品・研究の完成を目指します。 どちらも第三者の鑑賞、批評、評価に値する作品とします。 卒業制作は、その作品のデータや企画書、構成案台本、制作過程の記録なども併せて提出し、卒業研究は4年間の学びの集大成として、映像及びその関連分野の研究をテーマとします。作品・研究とも四環展26で発表を行います。						
到達目標	大学生生活の集大成としての作品、研究を目指します。 生涯において最初で最後の卒業作品として、後悔のない内容や取り組み（制作プロセス）と共に、自他ともに誇れるクオリティの高い作品・研究を完成させます。						
授業計画	第1講 作品・研究の見直し 第2講 ロードマップとのずれの修正・変更 第3講 卒業制作・研究① 第4講 卒業制作・研究② 第5講 卒業制作中間チェック 第6講 卒業制作・研究③ 第7講 卒業制作・研究④ 第8講 卒業制作・研究⑤ 第9講 卒業制作・研究⑥ 第10講 卒業制作・研究全員プレビュー&チェック① 第11講 卒業制作・研究全員プレビュー&チェック② 第12講 卒業制作・研究完成 第13講 卒業制作・研究ゼミ内プレゼンテーション 第14講 四環展シミュレーション① 第15講 四環展シミュレーション②						
テキスト・教材（参考文献）	適宜指示します						
事前・事後学習	映像表現や、各種展示会、映画・美術鑑賞など様々な方法で努力することを望みます。 特に新聞を読む習慣をつけてください。これら様々なメディアに1日60分程度は接してください。						
成績評価方法	卒業作品・研究の内容はもちろん、作品に取り組む姿勢や提出物、締め切りの順守なども評価の対象とします。						
授業内の課題・提出方法	担当教員に直接提出						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	各個人に直接フィードバック						
アクティブラーニング	専門演習 c に準じます。						
実務経験のある教員	誰が見ても納得のいく、作品・研究となるよう大学生活最後の1年に取り組んでください。 ここでの経験は、この先必ず役に立ちます。						
担当者から一言	四日市大学で学んだ4年間の集大成として、また映像研究室で学んだことをもとに、完成を目指して制作・研究に励んでください。また、自分だけでなく周囲の評価も大切です。作るだけで満足せず、より高みを目指してください。 なにより計画的に制作、研究をして時間管理が大切なことをお忘れなく。						

授業科目名	地球環境学総論			科目コード	371201	授業コード	422409
担当教員	廣住 豊一			科目ナンバリング	ENE2001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	分野必修
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる						
授業のねらい	地球温暖化・気候変動・自然災害・海洋汚染・大気汚染などを含めた地球規模の環境問題について、地球科学的な観点から学ぶ。						
到達目標	現在の生じている地球規模の環境問題について、地球科学的な側面からその発生メカニズムを理解し、対策を考えることができる。						
授業計画	第1講 ガイダンス、地球環境と地球システム 第2講 地球環境の成り立ち① 宇宙のなかの地球 第3講 地球環境の成り立ち② 地球環境の歴史 第4講 地球環境の基礎知識① 大気の構造と流れ 第5講 地球環境の基礎知識② 海水と海洋の動き 第6講 地球環境の基礎知識③ 地球規模の水循環 第7講 地球環境の基礎知識④ 気候変動と異常気象 第8講 地球温暖化① 地球の気温変動と温室効果 第9講 地球温暖化② 地球温暖化の要因と影響 第10講 地球温暖化③ 地球温暖化への対策 第11講 オゾン層とオゾンホール① 第12講 オゾン層とオゾンホール② 第13講 オゾン層とオゾンホール③ 第14講 大気環境と大気汚染① 第15講 大気環境と大気汚染② 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	なし。各講の講義内容に関連した書き込み式の資料を配布する。						
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する(90分)。ミニレポートで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する(90分)。						
成績評価方法	毎回の授業内で行うミニレポートの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とする。						
授業内の課題・提出方法	毎回の授業内で理解度ををはかるためのミニレポートを実施する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内で実施したミニレポートは次の講義までに添削して返却する。次回授業でミニレポートの解説を行う。						
アクティブラーニング	ミニレポート、コメントシート						
実務経験のある教員							
担当者から一言	この授業では地球規模の環境問題について扱います。「地球をまるごとひとつ」というと、とてつもなく大きく感じますが、この機会に視野を世界まで大きく広げてみてください。						

授業科目名	生態学	科目コード	371202	授業コード	422206
担当教員	大八木 麻希	科目ナンバリング	ENE2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	分野必修
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる				
授業のねらい	人類誕生の遥か昔から途切れることなく続いてきた生物活動の営みを理解するとともに、人間とのかかわりで生物多様性や保全活動が重要視されている。そこで、環境分野を学ぶための基礎となる科学的視点を身に付けてもらいたい。				
到達目標	生物基礎と社会情勢の両面から生態系を考える多角的な視点を養う。				
授業計画	第1講 ガイダンス、生態学とは 第2講 生物圏と生態学 第3講 生物種の系統と進化 第4講 生物の生活資源と個体群 第5講 個体群の成長過程と密度効果 第6講 生物群集と生態系 第7講 種間競争と種の共存 第8講 生活史の進化と多様性 第9講 生態系における物質循環 第10講 バイオドーム森林の地理的植生 第11講 植生の遷移 第12講 生物多様性 第13講 人間活動とのかかわり 第14講 バイオマニュピレーション 第15講 伊勢湾の生態系				
テキスト・教材（参考文献）	原登志彦「大学生のための生態学入門」共立出版、2017年、2640円				
事前・事後学習	授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。				
成績評価方法	小レポート30%、試験70% 小レポートは毎回添削後、本人へ返却します。				
授業内の課題・提出方法	授業終了時に対面で提出。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートは講義内で解説を行います。				
アクティブラーニング					
実務経験のある教員					
担当者から一言	積極的に取り組む姿勢の学生を歓迎します。				

授業科目名	環境保全学			科目コード	371203	授業コード	423806
担当教員	野呂 達哉			科目ナンバリング	ENE2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	分野必修
授業の位置づけ	環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる						
授業のねらい	生物多様性の消失や気候変動が引き起こす問題とその背景を理解するとともに、問題解決のために現在行われている取り組みについて知識を深める。						
到達目標	環境問題の原因や背景とそれらについての多様な考え方や取り組みについて理解すると同時に、授業内でのディスカッションを通して、環境問題を身近な問題として捉える契機とする。						
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 生物にとっての環境とは 第3講 人による環境改変の歴史 第4講 生物の絶滅、その歴史と現在 第5講 生物多様性とは 第6講 生物多様性を脅かす危機 第7講 生物資源と遺伝資源 第8講 生態系サービスの概念 第9講 生物多様性条約とCOP10 第10講 気候変動と生物多様性 第11講 持続可能な社会に向けた取り組み- ESDとSDGs、ネイチャーポジティブ 第12講 保全生物学の考え方 第13講 環境アセスメント 第14講 環境保全のために私たちができること 第15講 まとめ 定期試験						
テキスト・教材（参考文献）	自作プリント、および関連資料配布。また、映像、スライドなども併用する。参考文献：「生物多様性という名の革命（デヴィッド・タカーチ）日経BP社、2006」、「最新 日本の外来生物（自然環境研究センター）平凡社、2019」など。						
事前・事後学習	前回までの内容を復習した上で講義に臨んでください（毎週30分）。また、講義後に分からないことや関心を持ったことについては書籍やインターネットなどで調べ、自分の中で整理してください（1日平均30分）。						
成績評価方法	授業に対する積極性（50%）、期末試験（50%）を元に総合的に評価します。授業に対する積極性は小レポートの提出や授業内でのディスカッションへの参加、発言によって評価します。						
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した身近な題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、講義のはじめでディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。						
アクティブラーニング	複雑な問題について多様な意見を取り上げディスカッションします。						
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。						
担当者から一言	環境保全は社会や他人に任せるだけではなく、自身の参加が不可欠です。保全の取り組みへの学生の積極的な参加を期待します。						

授業科目名	環境化学		科目コード	371204	授業コード	424802
担当教員	牧田 直子		科目ナンバリング	EEB2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる					
授業のねらい	物質の成り立ちや化学反応を理解し、環境に関する事柄を化学的に考える力を養うことを目標とする。具体的には、資源、大気、酸性雨、オゾン層破壊、地球温暖化、燃料等の化学について学ぶ。物質を構成している原子や化学反応における量の関係、エネルギー、光の性質等について学習し、各種の反応や現象のメカニズムの理解へと発展させる。内容には物理化学および有機化学の基礎も含む。 関連科目は「化学概論」、「環境化学実験」など。					
到達目標	(1) 構造式や分子の形から、その物質の性質が考えられる。 (2) 燃焼反応などの化学反応式が書ける。 (3) オゾンや酸素の役割、温室効果のメカニズムなどが化学的に説明できる					
授業計画	第1講 ガイダンス、元素の周期表（復習） 第2講 原子の構造 第3講 携帯電話と資源循環 第4講 地球の空気と大気圏 第5講 大気汚染物質の化学 第6講 酸性雨の化学 第7講 太陽からの放射（光） 第8講 成層圏オゾンの生成 第9講 オゾン層の破壊と対策 第10講 炭素の化学・定量 第11講 分子の形 第12講 分子の振動と温室効果 第13講 燃焼とエネルギー 第14講 化学反応のエネルギー 第15講 燃料の化学 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	教科書：A Project of the American Chemical Society、大西洋、和田昭英訳「実感する化学上巻 原著第10版 地球感動編」(株)NTS（2025）、4、180円（税込み）					
事前・事後学習	化学は積み上げ科目であり、土台（先に学習したこと）が大事になる。教科書をよく読み、わからないままにしないことが重要である。 (1) 予習・復習のために宿題プリントを配るので、解答する（90分）。 (2) 教科書を読む（60分）。各回の講義に該当する教科書のページ数を記載した講義計画を初回の授業で配布する。 (3) ノートの見直し、まとめ（30分）。					
成績評価方法	宿題プリント（12回分）：30%、定期試験：70%					
授業内の課題・提出方法	(1) 演習プリント：その日の授業の理解度と出席を確認することが目的であり、毎回授業中に取り組む。 提出方法-授業終了後に教室で提出する。 (2) 宿題プリント：授業の復習と次回の予習を含めた内容で第2講から12回分課す。 提出方法-翌週の授業開始後10分以内に教室で提出する。遅れたものは受け取らない。欠席・遅刻の予定がある者は前日までに提出すればよい。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出された演習プリントと宿題プリントは、翌週の授業で返却する。 宿題の評価は正解率ではなく、解答率（問題数に対する解答数）に準じて採点し、プリントに明記する。					
アクティブラーニング	課題・宿題					
実務経験のある教員						
担当者から一言	これまで使用していたテキストの改訂版が今年の2月出版される予定です。テキスト入手後に授業内容を再考するので、授業計画を変更する場合があります、ガイダンスでお知らせします。 講義で分からなかったことは聞きましょう。授業後の質問、プリントの事前提出・受取は6号館4階6412室へ。					

授業科目名	自然調査法		科目コード	371206	授業コード	422607
担当教員	大八木 麻希		科目ナンバリング	EEB2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる					
授業のねらい	20世紀後半の高度経済成長期の負の遺産として浮上してきた環境問題。21世紀には環境問題を改善する手法の確立や環境負荷を減らす産業の試みが行われている。その中で、環境そのものの現状把握として、生物調査を含めた環境調査が行われている。さまざまな開発に伴う自然環境についての生物調査は注目される分野であり、これらへの理解は社会環境へも応用的理解も有している。現代の問題に、生物調査法を通じて、幅広く対応できる人材を育成していきたい。					
到達目標	本講義では、自然調査法についての理論及び実際の方法について、生物学・生態学の知識をふまえて学ぶ。そこで、自然調査法について、自身で柔軟的な視野で考え、科学的に理論を組み立てることが出来ることを目標とする。					
授業計画	第1講 ガイダンス、生物季節観測 第2講 森林① 植生調査 第3講 森林② 森林管理 第4講 森林③ 竹林問題 第5講 森林④ シカ害 第6講 森林⑤ 土壌生物調査 第7講 淡水圏① 湖沼の水生植物 第8講 淡水圏② 湖沼の動植物プランクトン 第9講 淡水圏③ 水生昆虫分類 第10講 淡水圏④ 生物学的水質判定法 第11講 海洋① 海洋生物調査 第12講 海洋② 音響機器 第13講 海洋③ 魚類形態 第14講 海洋④ 魚類観察 第15講 海洋⑤ 干潟ベントス調査 定期試験 簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。					
テキスト・教材（参考文献）	なし 参考文献 柴田英昭「生態学フィールド調査法シリーズ1 森林集水域の物質循環調査法」共立出版（2015）2000円 小池伸介ほか「生態学フィールド調査法シリーズ9 大型陸上哺乳類の調査法」共立出版（2017）2600円					
事前・事後学習	授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。					
成績評価方法	小レポート30%、試験70% 小レポートは毎回添削後、本人へ返却します。					
授業内の課題・提出方法	講義終了時に提出。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	添削後本人へ返却し、講義内で解説を行う。					
アクティブラーニング	実験・実習、グループワーク、フィールドワーク、レポート					
実務経験のある教員						
担当者から一言	重要語句の暗記ではなく、多角的・柔軟的な科学的視点を持つという意識を持って取り組んでほしい。簡易な実習を実施予定。					

授業科目名	地域環境論		科目コード	371207	授業コード	422207
担当教員	千葉 賢		科目ナンバリング	EEP2001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる 地域の多様な環境問題の現実を学び、理論的な専門知識と現実問題とのギャップを埋める。					
授業のねらい	現実の環境問題に対処してきた多数の専門家を招聘して講義を行う。本講義に参加することで、自然環境、社会環境、地域環境、環境教育、環境とエネルギーの問題などについて、幅広い知識を得られる。多分野の専門家に会うことが出来、その経験談・苦労話を聞けることが本講義の魅力である。専門家の話を聞き、今後、自分としてどのように環境問題に対処してゆけば良いのかを考える機会にして欲しい。自分の進路を考える機会にもなる。					
到達目標	毎週異なる講師から環境問題に関する講義を聞き、それに対する自分の見識を簡潔にレポートにまとめる訓練を行う。幅広い環境問題に関する知識を身に付け、それに対する自分の意見を持つことが到達目標である。					
授業計画	(各講義のタイトルは仮題。講師の都合でタイトルと順番の変更あり。) 第1講 ガイダンス、北勢地域の環境問題、千葉 第2講 伊勢湾のプラスチックゴミ問題、千葉 第3講 三重県の廃棄物問題とサーキュラーエコノミー、(外部講師) 第4講 名古屋市のブラゴミ対策、(外部講師) 第5講 藤前干潟の保全とゴミ問題、(外部講師) 第6講 海岸の清掃活動とウミガメ保護、(外部講師) 第7講 SDGsと食品ロス、(外部講師) 第8講 四日市市のESD教育、(外部講師) 第9講 音楽による里山文化の発信、(外部講師) 第10講 三重県の地球温暖化対策、(外部講師) 第11講 企業と環境対策(外部講師) 第12講 三重県の林業と今後、(外部講師) 第13講 北勢地域における地域農業の展開、(外部講師) 第14講 伊勢湾の貧栄養問題と下水処理場の管理運転、(外部講師) 第15講 伊勢湾の水質環境、千葉					
テキスト・教材(参考文献)	なし。毎回の講義で資料を配布する。					
事前・事後学習	シラバスを参照して次回の講義内容を確認し、インターネット等を利用して、予備的な知識を得ること(180分)。予備的に調べたサイトや図書があれば、その名称と内容の両方をレポートに書くことで加点する。					
成績評価方法	毎回の講義後に、自分と環境問題の関係性(自分の生活とどのように関わっているか)を考慮した講義内容評価のミニレポートを作成して提出させる。1回6点満点×15回=90点(優秀レポートには加点)して成績評価する。遅刻者は減点する。期末試験はない。					
授業内の課題・提出方法	教員が課題の用紙を配布するので、それを教員の研究室前のポストに期限までに提出する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	次の授業までに提出された課題を採点・評価して学生に返却する。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	話題を提供していただく講師の皆様にご感謝の気持ちを持って講義に参加してください。本講義は公開授業のため、一般市民の方々も聴講されます。履修する人は、マナーに気を付けてください。					

授業科目名	環境エネルギー論		科目コード	371208	授業コード	426101
担当教員	森 康則		科目ナンバリング	ENE3001		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	・環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。 ・専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 ・地域の持続的発展のために貢献できる。					
授業のねらい	現代の生活になくてはならないエネルギーの原理や歴史を学び、身のまわりにあるエネルギーの価値について理解を深めます。また、世界がカーボンニュートラルを目指す中で、利用拡大が求められている再生可能エネルギーについても学びます。最終的に、将来の日本がどのような電源で構成することが望まれるか、自分なりの意見を持てることを目指します。					
到達目標	環境問題、エネルギー問題に関する専門知識や技術を習得するとともに、これらの観点から、グローバルまたはローカルな社会的課題について、理解を深めます。具体的には、火力や原子力といった従来型エネルギーだけでなく、再生可能エネルギー、新エネルギーも含めて、これらの歴史的背景、エネルギー技術の原理、またこれらの利用に伴う環境問題について、学修します。					
授業計画	第1講 ガイダンス・エネルギーとは 第2講 エネルギーの基礎 第3講 エネルギーの歴史 第4講 火力発電 1 第5講 火力発電 2 第6講 原子力発電 1 第7講 原子力発電 2 第8講 再生可能エネルギー 1 第9講 再生可能エネルギー 2 第10講 施設見学 1 第11講 施設見学 2 第12講 施設見学 3 第13講 施設見学 4 第14講 グループワーク 第15講 まとめ 2025年6月頃の週末に、四日市市内、川越町内の環境学習施設、エネルギー施設での開講を予定しています。基本的には開講場所での現地集合、現地解散になります。開講場所の中には、交通不便地が含まれています。若干の交通費や交通手段が必要になる場合があります。 現時点では、2025年6月7日（土）、2025年6月14日（土）、2025年6月22日（日）の3日間を予定していますが、開講日時、開講場所は、履修登録人数等によって変更になる場合があります。詳細は、2025年4月下旬頃に、履修登録者に対して、MoodleかUNIPAでアナウンスします。					
テキスト・教材（参考文献）	なし					
事前・事後学習	シラバスの次の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は、その講義内容に関する復習をしてください（90分）。					
成績評価方法	（1）各回の講義後の小テスト 60点 （2）レポート課題 40点 計 100点					
授業内の課題・提出方法	講義中に講義内容に関連する小テストを行い、提出を求めます。また、施設見学等に関するレポート課題を出しますので、Moodleにて提出を求めます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義中に小テストの採点および答え合わせを行います。レポート課題については、Moodleにコメントを付けます。					
アクティブラーニング	座学による講義内容だけでなく、エネルギー施設の見学等により、実際に発電が行われている現場を間近に体験することにより、能動的に学修する機会を得ます。					
実務経験のある教員	担当教員には、石油代替エネルギー開発に関する研究の実務経験があります。					
担当者から一言	本講義では、滅多に見ることのできないエネルギー施設の見学などを通じて、座学だけでは得られない、新たな刺激を感じていただきたいと思います。					

授業科目名	資源循環論		科目コード	371209	授業コード	421504
担当教員	森 康則		科目ナンバリング	ENE3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	・環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。 ・専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 ・地域の持続的発展のために貢献できる。					
授業のねらい	我々の生活に不可欠な資材やエネルギーの基盤となる多様な資源について、その獲得・加工・貯蔵・利用・廃棄など、循環とそれらに関わる諸問題を、ローカルレベル（生活圏）からグローバルレベルに至るまで、さまざまな視点で学びます。					
到達目標	環境問題、特に廃棄物問題に関する専門知識や技術を習得するとともに、これらの観点から、グローバルまたはローカルな持続的発展のための社会的課題について、学修します。具体的には、我々の生活・社会を支えている資源と、その獲得・加工・貯蔵・利用・再生・廃棄・処分という一連の流れと付随する問題、ひいては、資源循環に関する社会的課題について、理解します。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 廃棄物処理の歴史 第3講 3Rとは 第4講 廃棄物の減量 第5講 資源循環1 第6講 資源循環2 第7講 資源循環3 第8講 廃棄物の区分 第9講 一般廃棄物 第10講 廃棄物の処理1 第11講 廃棄物の処理2 第12講 廃棄物の処理3 第13講 特殊な廃棄物の処理 第14講 廃棄物処理・資源循環に係る法規 第15講 まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	なし					
事前・事後学習	シラバスの次回の講義内容を確認し、その講義内容に関する予習を行い（90分）、講義終了後は、その講義内容に関する復習をしてください（90分）。各講義の小テストや期末課題は、講義内容またはそれに関連する内容から出題します。					
成績評価方法	（1）各回の講義後の小テスト 5点×15回＝75点 （2）期末課題 25点 計100点					
授業内の課題・提出方法	各回の講義後に小テストを行い、Moodleにて提出を求めます。提出期限後はMoodleが遮断され、提出できなくなりますので、注意してください。詳細については、MoodleやUNIPAを使って、アナウンスします。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleで提出された小テストには質問欄を設けています。適宜、次回講義時にその回答やフィードバックを行います。					
アクティブラーニング	受講者からの質問や意見の中で、着眼点が良いものがあれば、講義やMoodleの中で紹介するなど、受講者内での共有を図ります。					
実務経験のある教員	担当教員には、廃棄物規制に関する実務経験があります。					
担当者から一言	本講義はオンライン方式ですので、講義を進めていくうえでの必要なアナウンスをMoodleやUNIPAを通じて行います。くれぐれも見落としのないように注意してください。また、自分のペースで学習ができる反面、自律的に受講しないと単位取得まで到達しません。みなさんの受講に対する自律的な姿勢に期待しています。					

授業科目名	地理情報システム論		科目コード	371210	授業コード	425502
担当教員	野呂 達哉		科目ナンバリング	ENE3003		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる。 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。					
授業のねらい	フィールドワーク等における環境データの収集から分析までの流れを理解する。					
到達目標	データを収集し、自然環境の現状や人間活動の影響を分析・評価することができる。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 環境データとは 第3講 フィールドでの環境データ収集法1 第4講 フィールドでの環境データ収集法2 第5講 データ分析の基本 第6講 Excelによるデータ管理 第7講 データの可視化 第8講 Excelによるグラフと表の作成 第9講 統計処理の手法 第10講 データベースの活用 第11講 データベースの構築 第12講 GISによるデータ分析 第13講 データ処理を活用した報告書の作成 第14講 データを扱う上での注意点 第15講 まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	田中絵里子・小林貴之, 2018. 「データ処理の手法と考え方」 共立出版.					
事前・事後学習	復習は必ずしてください。					
成績評価方法	小テスト（20点）ならびに中間テスト（80点）で評価します。					
授業内の課題・提出方法	講義の内容に即した題材から出題します。課題は基本的に授業内の提出とします。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出物のフィードバックは必要に応じて行います。提出課題の中からいくつかの題材を選び、講義のはじめでディスカッションします。質問や意見など遠慮せず積極的に発言してください。					
アクティブラーニング	複雑な問題について多様な意見を取り上げディスカッションします。					
実務経験のある教員	環境保全関係の機関で実務していた経験から現場での実例や課題などを紹介します。					
担当者から一言	環境保全は社会や他人に任せるだけではなく、自身の参加が不可欠です。保全の取り組みへの学生の積極的な参加を期待します					

授業科目名	環境倫理学		科目コード	371211	授業コード	421503
担当教員	廣住 豊一		科目ナンバリング	EEP2002		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる					
授業のねらい	環境科学専攻で開講されるより専門的な各科目の内容に円滑に接続できるようにするため、環境問題やSDGsについて全般的な内容を幅広く学ぶ。					
到達目標	現在の環境問題に関する概略を知り、その解決策について考えることができる。					
授業計画	第1講 持続可能な社会に向けて 第2講 地球環境の基礎知識 第3講 いま地球で起きていること 第4講 地球温暖化と脱炭素社会 第5講 エネルギー問題 第6講 生物多様性・自然共生社会 第7講 地球規模の環境問題 第8講 循環型社会の構築 第9講 地域に関する環境問題 第10講 化学物質による環境問題 第11講 災害と放射性物質による環境問題 第12講 持続可能な社会に向けたアプローチ 第13講 環境活動とパブリックセンター 第14講 企業の環境への取り組み 第15講 個人やNPOによる活動と連携 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	東京商工会議所編著「改訂10版環境社会検定試験eco検定公式テキスト」日本能率協会マネジメントセンター（2025年1月発売予定）定価：2,600円+税（予定） 東京商工会議所編著「2025年版環境社会検定試験eco検定公式問題集」日本能率協会マネジメントセンター（2025年4月発売予定）定価：2,000円+税（予定）					
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、テキストの該当する箇所を予習する（90分）。演習で取り組んだ問題のうち自己採点で不正解だった問題について、その内容をテキストで復習する（90分）。					
成績評価方法	演習問題に対する取り組み状況(30%)、定期試験(70%)。					
授業内の課題・提出方法	各回の理解内容をはかるため、公式問題集に掲載されている関連の問題に取り組む。答案を自己採点し、授業終了時に提出する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業時間中に演習問題の答え合わせと解説を行う。					
アクティブラーニング	授業内で演習問題を実施する。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	eco検定（環境社会検定試験）は環境問題に関して基礎的・必須的な内容について一通り学習することができます。eco検定は就職活動でも活かすことができます。ぜひeco検定を受験して合格を目指してみてください。					

授業科目名	環境政策			科目コード	371212	授業コード	422301
担当教員	鬼頭 浩文			科目ナンバリング	EEP2003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる						
授業のねらい	環境を守ることはとても大切なことだが、環境改善の努力が他の環境破壊を生んだり、資源の無駄づかいを発生させたりすることがある。環境政策を考える場合、ある環境問題を解決する対策のメリットとデメリットを、総合的に冷静に比較することが求められる。この講義はオムニバス形式で進め、地元や海外のローカルな環境問題からグローバルな問題まで多面的に取り上げ、環境政策について学習していく。						
到達目標	環境問題の持つ難しさや環境改善の手法を多面的に理解することを通し、環境政策に関する問題を総合的に考える力を身につけ、最終的には地域の持続的発展に貢献する力を身につけることが到達目標である。						
授業計画	第1講 ガイダンス・環境政策の概観：4/8 第2講 豊島から学ぶ「ごみ問題」：4/15 第3講 循環型社会とリサイクル：4/22 第4講 災害ゴミの処理：4/29 第5講 四日市公害と中国における大気汚染①：5/13 第6講 四日市公害と中国における大気汚染②：5/20 第7講 四日市公害と中国における大気汚染③：5/27 第8講 四日市公害と中国における大気汚染④：6/3 第9講 映像でみる四日市公害①：6/10 第10講 映像でみる四日市公害②：6/17 第11講 再生可能エネルギーって本当にエコ？：6/24 第12講 他にもエコな取り組みがエコじゃないかも？：7/1 第13講 地球温暖化の基礎知識&アルゴア：7/8 第14講 グレートリセット7/15 第15講 まとめと光害7/22						
テキスト・教材（参考文献）	講義でプリントを配布する。						
事前・事後学習	シラバスをもとにインターネットなどで事前に情報収集（毎回1時間程度）しておくことが望ましい。講義終了後は、講義を振り返るだけでなく、各自で事前に調べたこと、考えたことも踏まえ、しっかりと数時間かけて自分の考えをまとめて提出する。						
成績評価方法	小レポート5点×15回として全体の75%、学期末試験25%の配分で、総合的に評価する。						
授業内の課題・提出方法	テーマごとに完成させたレジュメをMoodleなどで提出する。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題に対してMoodle上でコメントを書く。						
アクティブラーニング	毎回の授業において、レジュメへの書き込みを完成させ、授業終了後に自分の考えをまとめる課題を課す。						
実務経験のある教員							
担当者から一言	仕事の上でも、生活でも、とても大切な環境問題と政策を、多面的に学ぶのがこの講義の目的である。講義では、環境問題を冷静に幅広い視点で考える方法を身につけていく。						

授業科目名	環境保全とツーリズム		科目コード	371213	授業コード	423604
担当教員	富田 与、浅井 雅、高田 晴美		科目ナンバリング	EEP2004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている					
授業のねらい	「観光」や「旅行」を考える視点には、旅人としての視点、場所という視点、観光地にいる（観光産業に関わるなど）人々の視点と、様々な見方、問題の捉え方があります。この授業では、「観光」や何らかの「旅」という行為や訪れる地域について、文学・文化・歴史・人類学などの様々な観点で分析し、ツーリズムの本質に迫ることをもくろみます。この科目は富田、浅井、高田の3名の教員がそれぞれの専門性や持ち味を生かして行います。その視点や手法の多様性を生かして、ツーリズムについて考えていきましょう。					
到達目標	「観光」にもいろいろなあり方があることを知る。 旅人が観光に求めるものについて考える。 その上で、各地域が観光地として魅力を持つための条件について考える。					
授業計画	第1講 ガイダンス、〈ツーリズム〉を考える視点（9/25） 第2講 東海道・街道とツーリズム（10/2） 第3講 アート（浮世絵）とツーリズム（10/9） 第4講 西行・松尾芭蕉の旅（10/16） 第5講 伊勢講・富士講（10/23） 第6講 聖地巡礼①（10/30） 第7講 聖地巡礼②（11/6） 第8講 聖地巡礼③（11/13） 第9講 だんじり／山車（11/20） 第10講 だんじり／山車（11/27） 第11講 小泉八雲（外国人）とツーリズム（12/4） 第12講 外国人が見た日本（12/11） 第13講 ジオパーク（12/18） 第14講 アート（国際芸術祭）とツーリズム（1/8） 第15講 まとめに代えて（1/15）					
テキスト・教材（参考文献）	友原嘉彦編著『クリエイティブツーリズムー「あの人」に会いに行く旅』古今書院（2022年）3, 200円 授業はテキストを使用する回としない回があります。					
事前・事後学習	（事前）テキストの次の回で取り上げる章の論文を読んでおく。（90分） （事後）講義のトピックスに合わせて、紹介された旅のあり方についてもっと調べる。（90分）					
成績評価方法	・毎回の課題 60% ・期末レポート 40%					
授業内の課題・提出方法	毎回の授業で、小レポートなどの課題を出します。 課題の提出方法は、担当教員によってこととなります（Moodle、forms、紙など）。各回の担当教員の指示に従ってください。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題で書かれた皆さんのコメント等について、授業内で紹介したりします。					
アクティブラーニング	回によってはディスカッションなど。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	皆さんはどんな旅が好きですか？ 旅に何を求めますか？ 旅のあり方は人それぞれ。旅の成果も人それぞれ。そんな「旅」を、単なるイベントとして楽しむだけでなく、学問的に考えてみませんか？ そこからは、旅をする側だけでなく、旅人をもてなす側としての示唆も得られるかもしれません。					

授業科目名	環境社会学	科目コード	371214	授業コード	425604
担当教員	平 春来里	科目ナンバリング	EEP2005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる。				
授業のねらい	環境社会学は「環境」と「社会」にまたがる問題を、あらゆる角度から捉える学問である。この分野を学ぶにあたり、まずは各年代・各地域で生じてきた環境問題を理解する必要がある。特に日本の環境社会学が公害問題を端緒として発展してきた過程を体系的に学ぶ。同時に、環境問題に対し、社会学や環境社会学からどのようにアプローチするのかという方法論への理解を深める。これにより問題を多角的に分析し、実践的に解決に取り組むための思考力を養うことを目的とする。				
到達目標	①日本における環境問題の歴史とともに、環境社会学の視点と方法論を十分に理解し自らの言葉で説明することができる。 ②環境社会学の視点をを用いて、環境問題に関して解決策を現実に即して考察することができる。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 「環境の時代」と環境社会学 第3講 環境問題の歴史 ～19世紀以前～20世紀の環境問題～ 第4講 環境問題の歴史 ～20世紀の環境問題～ 第5講 環境問題の歴史 ～現代の環境問題～ 第6講 日本の環境問題 ～鉱害・公害問題のはじまり～ 第7講 水俣病と被害構造論 ～「被害」はどのようにうまれるか～ 第8講 四日市公害① ～訴訟と判決の社会的意義～ 第9講 四日市公害② ～生活史と運動から捉える～ 第10講 新幹線公害 ～公共事業による公害とは～ 第11講 生活環境主義 ～自然との「距離」とは～ 第12講 順応的ガバナンス～試行錯誤の環境保全～ 第13講 原発事故 ～被害／避難の不可視性、負の記憶のを紡ぐ・伝える～ 第14講 地域社会とエネルギー転換 ～「公正」なエネルギー転換とは～ 第15講 授業のまとめ 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	教科書は指定しません。授業開始前にMoodle上でその日のレジュメを配布し、それを元に進めます。 【参考文献】 鳥越皓之・常谷博明 編著「よくわかる環境社会学（第2版）」ミネルヴァ書房（2017）				
事前・事後学習	事前学習として次回の授業のテーマとなっている環境問題についてネット等で情報収集することが望ましい。（90分） 授業後には、授業資料や、Moodle上にアップされたその日の授業内容に関連する文献、論文、新聞記事等で復習をすること。（90分）				
成績評価方法	・授業内で課すレポート（授業期間内に1本のレポート課題の提出）：30% ・定期試験：70%				
授業内の課題・提出方法	・コメントペーパーは授業後に示すGoogleフォームで毎回提出 ・レポート、定期試験はMoodle上に提出				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	コメントペーパーは全体での共有が可能かどうか許可をとったうえで、次回の授業の冒頭で時間をとって回答する				
アクティブラーニング	授業中のディスカッションと授業期間内でのレポート提出では、独自の視点に基づいた積極的な問題提起や意見を重視する。				
実務経験のある教員					
担当者から一言	時に「やっかいな問題」といわれる環境問題について、社会学的な観点から理解を深めつつ、未だ「正しい」答えのない問題に向き合う方法論を学びます。授業への積極的な参加や発言を期待します。				

授業科目名	環境法		科目コード	371215	授業コード	423405
担当教員	中西 紀夫		科目ナンバリング	EEP3004		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる					
授業のねらい	本講義のねらいは、都市の公害・環境に関係する法の基礎を学ぶことです。つまり、国民に安全かつ健康で文化的な生活ができる快適な環境の都市をつくるための学びです。これは憲法25条の「生存権」や13条の「幸福追求権」との関係でも重要です。また、都市計画必要となる環境対策については現代社会の変化を踏まえながら、分かりやすく解説します。					
到達目標	本講義では、都市の公害・環境対策の関連法を体系的に理解することを目標としています。具体的には、時代別に学んでいくことにより、法の制定経緯および骨子を概観することにつながります。最終的には、都市の公害・環境対策に関わる仕事の実践的な法処理技術の取得まで対応できる人材育成を目指しています。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 公害と法 第3講 環境法の伝統的な法体系 第4講 憲法との関係 第5講 行政法との関係 第6講 民法との関係 第7講 刑法との関係 第8講 都市の環境対策と法規制 第9講 公害・環境規制法 第10講 都市開発と環境アセスメント 第11講 廃棄物・リサイクル対策 第12講 私法的な救済方法 第13講 条例による規制とその問題点 第14講 環境のための3R 第15講 まとめ 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	下記の著書のこの科目の部分を最新版に編集したものと、必要に応じて新聞などを印刷して配布します。なお、ほかに補足資料が必要な部分は、対応しますので安心してください。 参考文献：中西紀夫著『社会環境と法』嵯峨野書院（2010年11月30日）					
事前・事後学習	毎回、予習90分と復習90分をお願いします。内容は、テキストを読むこと及び自筆ノートや確認問題のチェックなどです。また、発展的な学び方を希望される方は、上述の参考文献や自分に合った六法を購入しておくとういでしょう。					
成績評価方法	成績は、次のような評点配分です。 受講態度 30%：授業中に行うテキストの講読の出来や質問の受け答えはもとより、小テストの結果も含む。 定期試験 70%：すべて持込可					
授業内の課題・提出方法	課題のある場合は、Moodleを使用する予定です。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中に小テストを実施した場合は、5段階評価を付けて2週間以内に返却します。					
アクティブラーニング	必要に応じて、適語補充形式や択一式などの確認問題を実施して、講義内容を理解できたかどうかの確認をしてもらっています。					
実務経験のある教員	四日市市EMS内部環境監査員(ISO14001) や本学の環境管理責任者・内部環境監査員(ISO14001)での経験で得た知識を、この授業でも生かしています。					
担当者から一言	授業中は私語厳禁とします。また、こちらの許可を得ない中座や勝手にスマホを見ることなども、もちろん禁止です。学生さんも体調等の問題や諸活動で、こちらも臨機応変な対応が必要となることもあります。中座や退室は私の許可を取ってください。出席する以上は、集中して受講しましょう。					

授業科目名	都市環境論		科目コード	371216	授業コード	423104
担当教員	倉田 英司		科目ナンバリング	EEP3005		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる					
授業のねらい	都市計画を知るには、現在どのような目的に向けて、都市計画が進められ、人々が関わっているのかについて把握することが求められる。都市計画の実態を知るために、都市計画の成り立ち、構造、仕組み、実態、課題等を体系的かつ論理的に学ぶ。これらの学びを通して、地域活動やまちづくりに関わる、政策遂行や社会動向に関心を持ち、組織や社会に生かせることを目指す。					
到達目標	地域の課題や活動、新聞記事やニュース内容、都市計画に関する図書について、理解が早まること。					
授業計画	1. ガイダンス 2. 都市形成のメカニズム 1 3. 都市形成のメカニズム 2 4. 現代社会における課題 5. 都市計画におけるハード面とソフト面 6. 住宅に関する都市計画 7. 環境に関する都市計画 8. 観光に関する都市計画 9. 交通に関する都市計画 10. 総合的な都市計画 11. 将来課題を見据えた都市計画 12. 都市、農村・山村・漁村連携を見据えた都市計画 13. 都市間連携による都市計画 14. 広域的連携による都市計画 15. まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて資料を配布します。					
事前・事後学習	事前学習では、毎日、新聞やニュースを見る（30分）。 地元のまちづくり活動を調べる(30分)。 都市計画に関する図書を読む（60分）。 事後学習では、レジュメやノートを見直し必要事項を覚える。また、不明なキーワード等は、調べる（90分）。					
成績評価方法	以下のような配分で評価する。 ① 講義時に提示する課題への提出状況及び受講態度 70% ② 最終レポート 30%					
授業内の課題・提出方法	毎回の講義後にレポートを提出してもらう。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	レポートは次回講義にて、適宜コメントする。					
アクティブラーニング	ミニッツペーパー、プレゼンテーション、フィールドワーク					
実務経験のある教員	行政での委員経験があります。 講義では地方自治体やまちづくり関係の事例を取り上げます。					
担当者から一言	三重県や全国の様々な地域を事例として、私たちの生活と密接な関係にある都市計画とは何なのかを学びます。知識提供だけでなく、自分自身で地域を読み解く力を養成します。					

授業科目名	海洋学		科目コード	371217	授業コード	422305
担当教員	千葉 賢		科目ナンバリング	EEE2001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる 大気科学、海洋物理・化学・生態学・生物学の基礎を学ぶ。その上で、伊勢湾の海洋学的な特徴と伊勢湾の抱える環境問題を学び、その改善方法を考える。					
授業のねらい	最初に地球規模の大気と海洋の現象を物理的な観点から学ぶ。それに基づき、地球温暖化の仕組みや海流の発生原理などを学ぶ。続いて、沿岸海洋の物理として、潮汐や潮汐流の発生原理を学ぶ。次に水中光の物理に触れながら、それに左右される基礎生産と、基礎生産を底辺とした海洋生態系の仕組みと変動機構について学ぶ。海洋生物群については、分類学的な観点から理解を進め、その生態と生活史などを学ぶ。これらの学習の中に、地球規模や伊勢湾等の日本沿岸の環境問題を織り込み、環境問題の発生の仕組みを理論から理解できるようにする。また、授業の最後には伊勢湾の環境問題について学び、地域の持続的発展に繋がる伊勢湾の将来について考えさせる。					
到達目標	大気科学と海洋学の基礎知識を得て、地球温暖化、海洋酸性化、サンゴの白化、海洋プラスチックなどの地球規模の環境問題と、伊勢湾の水質や漁業資源などの地域の環境問題などを理解できるようになる。					
授業計画	第1講 ガイダンス、海洋学とは 第2講 海洋の大きさと海水の物性 第3講 大気と海洋（大気の熱力学） 第4講 大気と海洋（大気中の水循環と地球温暖化問題） 第5講 大気と海洋（コリオリカとエクマン輸送と漁場の関係） 第6講 大気と海洋（風成循環と海流と北太平洋のゴミ集積問題） 第7講 潮汐と潮汐流（埋め立てと潮汐流の変化） 第8講 水中の光環境と基礎生産（光の散乱現象と空や海の色との関係） 第9講 水中の光環境と基礎生産（透明度、有光層、赤潮、青潮） 第10講 海洋生態系と栄養段階（生態ピラミッドと生物多様性） 第11講 海洋生態系と栄養段階（生物の生活史と環境問題） 第12講 海洋生物の分類と特徴（磯焼けとサンゴの白化現象） 第13講 海洋生物の分類と特徴（海洋酸性化問題） 第14講 伊勢湾の環境問題（貧酸素問題） 第15講 伊勢湾の環境問題（貧栄養化問題） 期末試験					
テキスト・教材（参考文献）	担当教員が作成した教材を配布する。 【参考文献】 横瀬久芳、「はじめて学ぶ海洋学」、朝倉書店、1800円＋税 日本生態学会編、「海洋生態学」、共立出版、3400円＋税					
事前・事後学習	シラバスを読み、授業週の翌週の内容を把握し、教科書やネットで予備知識を得る（90分）。授業を聴いたら、内容を復習し、理解できなかった部分を教科書やネットで調べる。毎週のレポートに取り組む（90分）。					
成績評価方法	講義毎のレポート（40%）と期末試験（60%）。積極的にレポートに取り組んだ者は加点する。					
授業内の課題・提出方法	教員が課題の用紙を配布するので、それを教員の研究室前のポストに期限までに提出する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	次の授業までに提出された課題を採点・評価して学生に返却する。期末試験もレポートの問題の中から主に出題する。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	地球温暖化や海洋プラスチック汚染などの地球規模の環境問題や、身近な伊勢湾で起きている環境問題を理解する上で、この授業は役立つはずです。					

授業科目名	生物分類学		科目コード	371218	授業コード	424203
担当教員	古山 歩		科目ナンバリング	EEE2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる					
授業のねらい	海洋をはじめとする水圏環境には微小なプランクトンから大型の鯨類まで多種多様な生物が生息し、生態系の中でそれぞれの生物が関わり合いながら生活しています。海洋生物は分類群や生息環境によって形態や生態も様々です。海の中にどのような生物が生息し、どのように生活しているかを知ることは、海洋生態系を理解し、保全する上で非常に重要です。この授業では、藻類や水生種子植物などの海洋植物、甲殻類や軟体類などの海洋無脊椎動物、魚類や哺乳類などの海洋脊椎動物といった幅広い分類群について、形態や生態を解説するとともに、それぞれの主					
到達目標	1) 海洋環境の特性と海洋生態系の構造を理解する 2) それぞれの分類群の形態的・生態的特徴を理解する 3) 海洋生物と人間との関わりについて知る					
授業計画	1. ガイダンス・海洋区分と海洋環境 2. 海洋生物の概要（生活様式的分類・系統的分類） 3. 海洋植物の分類と特徴 4. 海洋植物の生殖 5. 主要な海洋植物 6. 植物プランクトン 7. 海洋動物の分類と特徴 8. 海洋動物の行動と生態 9. 海洋動物の呼吸と循環 10. 海洋動物の生殖と繁殖 11. 無脊椎動物の概要と主要な種 12. 脊椎動物の概要と主要な種：魚類① 13. 脊椎動物の概要と主要な種：魚類② 14. 脊椎動物の概要と主要な種：爬虫類・哺乳類 15. まとめ 期末試験					
テキスト・教材（参考文献）	教科書は指定しない。資料は適宜配布する。 参考図書：水産 712 海洋生物学（文部科学省著作教科書、海文堂出版）					
事前・事後学習	事前学習：興味のある海洋生物について分類群や特徴を調べる（30分） 事後学習：授業で紹介した分類群や生物について人間との関わりについて調べる（60分）					
成績評価方法	授業での課題（20%）、期末試験（80%）で評価する。 授業には、原則、毎回出席するものとし、授業中の課題については特段の事由がない限り欠席者を考慮しない。					
授業内の課題・提出方法	課題は授業中にプリント、あるいは授業後にMoodleで回収する。どちらの提出方法にするかは課題に合わせて適宜指示する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題提出の翌週の授業冒頭に口頭でフィードバックする。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	海洋生物は非常に多様で、それぞれの生物がおもしろい形態・生態を有しています。残念ながら、この授業では、時間の都合上、膨大に存在する海洋生物のうち主要な一部のものしか解説することができません。海にはどのような生物が生息しているのか、自分でも積極的に調べて、海洋生物や生態系について理解を深めてもらえると良いと思います。					

授業科目名	海洋調査法		科目コード	371219	授業コード	426103
担当教員	古山 歩		科目ナンバリング	EEE2003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる					
授業のねらい	四日市大学の単独航海として三重大学の勢水丸をお借りして、2泊3日で伊勢湾や周辺の海域に出て、水質・底質・生物調査などを行う。そのような実習と事前事後授業を通じて、伊勢湾の環境問題についての知識を増やし、伊勢湾の環境保全の大切さを理解できるようにする。海洋調査法の基本を体験し、その後のゼミ活動や他授業で役立てられるようにする。船内で規律ある団体生活を体験し、班分けで活動することで、協調性などの社会人基礎力も養成する。					
到達目標	伊勢湾の環境問題を理解できるようになる。海洋調査とデータ整理の基本技術を知る。観測内容を報告書にまとめる力を身に着ける。					
授業計画	第1講 ガイダンス、伊勢湾の概要：環境・主要な生物・水産業について（学内教室・事前授業） 第2講 伊勢湾の概要：環境・主要な生物・水産業について（学内教室・事前授業） 第3講 実習オリエンテーション（実習開会式含む）（勢水丸船内・実習1日目） 第4講 海洋調査実習（勢水丸船内・実習1日目） 第5講 海洋調査実習（船内実習1日目） 第6講 海洋調査実習（船内実習1日目） 第7講 観測データ分析（船内実習1日目） 第8講 海洋調査実習（勢水丸船内・実習2日目） 第9講 海洋調査実習（船内実習2日目） 第10講 海洋調査実習（船内実習2日目） 第11講 海洋調査実習（船内実習2日目） 第12講 海洋調査実習（船内清掃など）（船内実習3日目） 第13講 海洋調査実習（実習終了式含む）（船内実習3日目） 第14講 実習報告書の書き方（学内教室・事後授業） 第15講 実習報告書の書き方（学内教室・事後授業）					
テキスト・教材（参考文献）	なし。資料を配布する。					
事前・事後学習	事前授業資料を授業に先立ち配布するので予習すること（180分）。事前授業では反転授業の形式を採用して、学生に予習したことを発表させるので、予習は必須である。					
成績評価方法	実習への取り組み姿勢（70%）と実習報告書（30%）により評価する。実習に参加しない者、実習報告書を提出しない者には単位を与えない。事前事後授業についても、特別の事情がある場合を除いて、出席を必須とする。					
授業内の課題・提出方法	勢水丸で観測したデータをエクセル等でまとめて、それをワード文書に貼り付けて報告書を作成する。提出はメール添付を予定している。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	報告書は最後の授業後に提出させるので、そのフィードバックは特に考えていないが、希望する者には採点した報告書を開示する。実習時のフィードバックは現場で行う。					
アクティブラーニング	事前授業は反転授業（学生が調べたことを発表し、互いに学ぶ）形式で行う。 勢水丸での実習は、班分けして調査、食事の準備と片付け、清掃等を行う。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	伊勢湾は生物生産の高い豊かな海です。内湾での水産業は伊勢湾に生息する様々な生物を利用して発展してきました。しかしながら近年、イカナゴをはじめとして多くの生物が減少してきています。この実習では、実際に伊勢湾の環境や生物にふれ、伊勢湾での環境問題を実感してもらいたいと思います。					

授業科目名	環境実験・調査 a		科目コード	371220	授業コード	424703
担当教員	廣住 豊一、大八木 麻希		科目ナンバリング	EEE2004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる					
授業のねらい	この授業では、河川・湖沼・海洋などの陸域・海域に広がる水圏環境、森林・農地・都市などを支える基盤となる地圏環境に関する基礎的な調査・測定の方法を学ぶ。					
到達目標	調査・実験を実施する上での安全管理の考え方、基本的な調査器具・実験器具の取り扱いや、試薬の調整方法について身につける。調査・実験の結果をまとめ、正しく報告することができる。					
授業計画	第1講 ガイダンス 安全指導・レポート書き方・実験器具の使い方（廣住） 第2講 水圏環境① 物理指標 水温・pH（大八木） 第3講 水圏環境② 物理指標 浮遊懸濁物質（大八木） 第4講 水圏環境③ 生物指標 BOD（大八木） 第5講 水圏環境④ 化学指標 窒素（大八木） 第6講 水圏環境⑤ 化学指標 リン（大八木） 第7講 水圏環境⑥ 化学指標 COD（大八木） 第8講 水圏環境⑦ 分析演習 塩水と砂糖水の水質比較（大八木） 第9回 地圏環境① 野外での土壌調査（廣住） 第10回 地圏環境② 土壌のpHとEC（廣住） 第11回 地圏環境③ 三相分布（廣住） 第12回 地圏環境④ 有機物量（廣住） 第13回 地圏環境⑤ 窒素（廣住） 第14回 地圏環境⑥ リン（廣住） 第15回 地圏環境⑦ カリウム（廣住）					
テキスト・教材（参考文献）	なし。各講の講義内容に関連した資料を配布することがある。					
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を予習する(90分)。実験内容をよく見直し、それぞれの実験で配布した資料で復習する(90分)。「環境化学」・「環境化学実験」を履修していることが望ましい。					
成績評価方法	それぞれの実験における実施態度・習熟度、分析結果をまとめたレポートなどをもとに総合的に評価する(100%)。					
授業内の課題・提出方法	各実験ごとに実験レポートを作成する。提出方法は担当教員ごとに指示する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポートは添削し、返却する。					
アクティブラーニング	実験・実習、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク、レポート					
実務経験のある教員						
担当者から一言	実験室での分析ではささいな油断や不注意がけがや事故につながります。細心の注意をもって調査・実験に臨んでください。白衣を必ず着用してください					

授業科目名	陸水学		科目コード	371221	授業コード	424502
担当教員	大八木 麻希		科目ナンバリング	EEE3001		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる					
授業のねらい	日本は古来から水資源が豊かな国であり、恵まれた水環境の中で歴史を刻んできた。しかし、高度経済成長期には公害問題、80年代には富栄養化問題、そして現在ではダム建設の必要性の有無が問われているなど水環境と人との関わりの中で、さまざまな現状と直面している。そこで、陸域の水環境を通じて、理解を深めていきたい。					
到達目標	本講義では、湖沼や地下水などの物質循環を理解するとともに、水域環境の現状と問題点を整理し、環境保全・環境再生や復元のための基礎理論や技術を学ぶことを目標とする。					
授業計画	第1講 ガイダンス、陸水学の歴史 第2講 水資源と水循環 第3講 陸水の環境科学 第4講 湖沼成因 第5講 湖沼分類 第6講 湖沼の生物的特性 第7講 湖沼の化学的特性 第8講 湖沼の物理的特性 第9講 湖沼堆積物 第10講 古陸水学的手法 第11講 水田 第12講 ダム湖 第13講 地下水 第14講 陸水域の災害 第15講 陸水環境の保全と管理 レポート試験 簡易な実習後、添削し返却を行うため、アクティブラーニング要素を含む科目である。					
テキスト・教材（参考文献）	テキスト 松本嘉孝ほか、身近な水の環境科学（第2版）、朝倉書店、2022、2600円＋税 参考文献 西條八束・三田村緒佐武「新編湖沼調査法」講談社（2016）3400円					
事前・事後学習	授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。					
成績評価方法	小レポート 40% レポート 60%					
授業内の課題・提出方法	講義の最後に課題を提示して、時間内に回答して提出する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートについては、毎回採点し返却時に解説を行う。					
アクティブラーニング	実習、レポート					
実務経験のある教員						
担当者から一言	各講義では計算や簡易な実習を行うので積極的な学生の履修を望む。					

授業科目名	森林学	科目コード	371222	授業コード	426502
担当教員	山田 容三	科目ナンバリング	EEE3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる				
授業のねらい	地球規模の森林環境について、多角的な視点を培うのに必要な幅広い基礎知識を養うとともに、問題の発見・解決に取り組むための思考力を身につけて、多様な人と協働できる教育を行います。限りある資源問題、地球温暖化問題、人口問題を抱える現在、求められるのは持続可能な社会システムの早急な実現です。この講義では、陸上での自然資源と自然環境表である森林環境を対象を絞って、現実的な問題解決を目指して「環境保全と資源利用のバランス」をどのように取るべきか環境倫理の視点から考える力を身につけることを目的とします。				
到達目標	限りある資源と環境の実情を把握し、環境倫理的な考え方を修得し、現在に生きる自分達がどうすべきか考え、人の意見をよく聞いて、まとめの時間でのグループディスカッションを進めながら問題を解決する能力を身につけます。				
授業計画	第1講：ガイダンス、森林の遷移 第2講：気候と土壌 第3講：森林の炭素吸収 第4講：森林生態系 第5講：森林と水 まとめ①、小レポート 第6講：森林の気象緩和 第7講：森林のレクリエーション機能 第8講：人と森林の歴史 第9講：エネルギー革命と森林 第10講：環境倫理、森林美学 まとめ②、小レポート 第11講：持続可能な森林管理 第12講：森林管理の理念、森林の健全性 第13講：森林管理の技術、ゾーニング 第14講：私たちにできること、森林認証 第15講：まとめ③ 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	<テキスト> 山田容三, 2021, 『SDGs時代の森林管理の理念と技術』昭和堂				
事前・事後学習	講義に関連するトピックスについて、文献やインターネット等で検索して事前学習（30分）を行う。 また、1日の講義後に気になった項目を文献やインターネット等で検索して事後学習（30分）を行う。				
成績評価方法	<評価> 定期試験（6割）と講義への参加の態度と小レポート（4割）から成績評価を行う。				
授業内の課題・提出方法	<課題> 1日の講義の最後にまとめを行い、グループ・ディスカッションを行なった上で、各自の意見を小レポートで提出してもらいます。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> 小レポートは次の日の講義で適宜コメントします。				
アクティブラーニング	まとめの時間のグループ・ディスカッション、小レポート				
実務経験のある教員					
担当者から一言	身近でありながら遠い存在の森林について、みんなで一度考えてみましょう。				

授業科目名	土壤学	科目コード	371223	授業コード	424403
担当教員	廣住 豊一	科目ナンバリング	EEE3003		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる				
授業のねらい	土壌は、農業・林業などによる生産機能だけでなく、環境変化に対する緩衝機能や環境汚染に対する浄化機能など、有益で重要なさまざまな機能を持っている。この講義では、土壌の基本的な性質や機能を学ぶだけでなく、土壌が地球環境や生態系のなかでどのような地位を占め、どのような役割を果たしているかを学ぶ。また、三重県の土壌についても紹介する。				
到達目標	土壌の成り立ちや構造、土壌のもつ性質や機能を理解する。土壌を地球にある有限な資源のひとつとして捉え、地球環境のなかで土壌が果たす役割について考えることができる。				
授業計画	第1講 ガイダンス 土壌とは何か？ (土壌の成り立ち) 第2講 土壌の生成 ―月に土壌はあるか？ 第3講 土壌の分類 ―世界の土、日本の土、三重の土 (土壌のつくり) 第4講 土壌の構造 ―土は何でできている？ 第5講 土壌生物と土壌有機物 ―土のなかの生き物たち 第6講 土壌のpHと温度 ―住み心地はいかが？ (土壌のはたらき) 第7講 土壌の保水性 ―水もちの良さはどう決まる？ 第8講 土壌の排水性 ―水はけのよい土わるい土 第9講 土壌の保肥性 ―土はどうやって栄養を蓄える？ (土壌の種類と特徴) 第10講 いろいろな土壌① 森林の土壌 第11講 いろいろな土壌② 水田の土壌 第12講 いろいろな土壌③ 畑地の土壌 第13講 いろいろな土壌④ 施設・草地・樹園地の土壌 (環境と土壌) 第14講 土壌の浄化機能と土壌汚染 ―土壌を守る 第15講 土壌の劣化と保全 ―土壌を育む 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	なし。各講の講義内容に関連した書き込み式の資料を配布する。 参考文献：松中照夫著「土壌学の基礎」農文協(2004年)、久馬一剛編著「最新土壌学」朝倉書店(1997年)、安西徹郎・犬伏和之編「土壌学概論」朝倉書店(2001年)などを推奨する。				
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する(90分)。ミニレポートで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する(90分)。「化学概論」・「生物学概論」・「地学概論」・「環境化学」・「生態学」・「食糧生産学」を履修していることが望ましい。				
成績評価方法	毎回の授業内で行うミニレポートの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とする。				
授業内の課題・提出方法	毎回の授業内で理解度をはかるためのミニレポートを実施する。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内で実施したミニレポートは次の講義までに添削して返却する。次回授業でミニレポートの解説を行う。				
アクティブラーニング	ミニレポート、コメントシート				
実務経験のある教員					
担当者から一言	私たちの足もとにある土壌は地球の歴史とともに育まれてきました。長い時間の流れに想いを馳せながら、これから土壌とどう付き合っていくのか考えてみてください。なお、本科目は三重創生ファンタジスタ（ベーシック）資格の認定対象科目です。				

授業科目名	食糧生産学		科目コード	371224	授業コード	421305
担当教員	廣住 豊一		科目ナンバリング	EFE2001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる					
授業のねらい	世界人口の増加による食糧需要の増大、気候変動やバイオエネルギーとの競合などによる食糧供給の不安定化、生産にともなう環境の汚染や破壊など食糧への関心が高くなっている。この講義では、農業・水産業・畜産業などの食糧生産の基礎を学ぶ。					
到達目標	世界の食糧事情と食糧生産システムについて理解する。農業・水産業・畜産業など食糧生産に関する産業の基礎を理解する。食糧生産に関する環境問題について考えることができる。					
授業計画	第1講 ガイダンス、現在の食糧事情と生産体系 第2講 農業① 農耕の起源と作物 第3講 農業② 日本の農業と作物生産の特徴 第4講 農業③ 作物生育と栽培環境・栽培管理 第5講 農業④ 稲作と水田農業 第6講 農業⑤ 野菜・果樹・花の生産 第7講 水産業① 日本の漁業の歴史と特徴 第8講 水産業② 漁業の仕事と制度 第9講 水産業③ 養殖と栽培漁業 第10講 水産業④ 海洋の資源と環境の保全 第11講 畜産業① 畜産業と畜産物 第12講 畜産業② 世界と日本の畜産業 第13講 食糧生産と環境問題 第14講 新しい食糧生産技術 第15講 これからの食糧生産 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	なし。各講の講義内容に関連した書き込み式の資料を配布する。 参考文献：八木宏典監修「知識ゼロからの現代農業入門」（2018年）、濱田武士監修「知識ゼロからの現代漁業入門」（2017年）、八木宏典監修「知識ゼロからの畜産入門」（2018年）などを推奨する。					
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する(90分)。ミニレポートで添削された内容をよく見直し、各回の講義で配布した資料で復習する(90分)。					
成績評価方法	毎回の授業内で行うミニレポートの合計点と定期試験のどちらか低い方を最終評定とする。					
授業内の課題・提出方法	毎回の授業内で理解度をはかるためのミニレポートを実施する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業内で実施したミニレポートは次の講義までに添削して返却する。次回授業でミニレポートの解説を行う。					
アクティブラーニング	ミニレポート、コメントシート					
実務経験のある教員						
担当者から一言	毎日の食卓に並ぶ料理の食材は、化学・物理学・生物学・地球科学の科学的知識と現場で培われた実践的経験を駆使して栽培・飼育・採取・捕獲されたものです。普段から、ひとつひとつの食材をよく観察し、どのようにして食卓に並んだのか考えながら、感謝しておいしくいただきます。					

授業科目名	食品微生物学		科目コード	371225	授業コード	423407
担当教員	荏田 修一		科目ナンバリング	EFE2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる					
授業のねらい	微生物は地球環境の形成に重大な役割を持っており、様々な環境問題について解決する手段とし活用が期待されている。そこで、微生物学の基礎を学ぶとともに、環境中での各種微生物の働きについて事例紹介をふまえて知り、活用への理解を深める。					
到達目標	本講義では、環境微生物について、多角的に捉え、理解を深めていくことを目的とする。現在地球規模で問題となっているさまざまな課題への自身の考えを正しく持つことを目標とする。					
授業計画	第1回 ガイダンス、微生物学の歴史 第2回 微生物の分類 第3回 環境中の微生物分布 第4回 物質循環に関わる環境微生物 第5回 微生物の構造 第6回 微生物の栄養と増殖 第7回 微生物の代謝 第8回 微生物の増殖制御と殺菌 第9回 各圏の環境微生物の働き 第10回 極限環境微生物 第11回 微生物による排水処理 第12回 微生物による汚泥処理 第13回 食糧生産と微生物 第14回 環境モニタリング 第15回 微生物とバイオエネルギー 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	環境微生物学，久保幹ほか，化学同人，3000円+税					
事前・事後学習	授業計画に示した各回のテーマを、参考文献などで予習して、重点、問題点等を検討した上で授業に臨むことを推奨する（90分）。また、毎回、授業を振り返り、新しく学んだことをまとめること、さらに、課題を課すので、調べた上、提出すること。関連するニュースや書籍に日頃から関心を持ち、講義の理解に役立ててもらいたい。さらに、講義後には復習し講義内容の定着化を心掛けること（90分）。					
成績評価方法	課題50%、試験50%					
授業内の課題・提出方法	講義の最後に関連する問題や課題を解き、Moodle上で提出する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題については毎回コメントをMoodle上で伝え、多くがの学生が疑問や難解と感じたことを解説をします					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員	大関（株）総合研究所で微生物を扱う業務についていた					
担当者から一言						

授業科目名	食品衛生学		科目コード	371226	授業コード	423807
担当教員	荏田 修一		科目ナンバリング	EFE2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる					
授業のねらい	風通しや日当たりなどの住まいの快適さ、水や食事など食生活の質といった生活環境が、私たちの生命や健康に影響を与えることは古くから知られていた。この講義は生活者側の視点から、生活環境が人の健康や暮らしにどのような影響を与えるかを学ぶ。					
到達目標	人の健康と病気のしくみについて理解する。安全で快適な住まいや労働環境について理解する。水や食事等の食生活が健康に与える影響を理解する。わが国において健康と生活を守るしくみがどのように成り立っているか理解する。生活に関わる地域環境問題について理解する。					
授業計画	第1回 ガイダンス、安全で快適な暮らしと生活環境 第2回 人の健康・病気と有害物質の影響 第3回 大気・空気環境と生活や労働に適した温熱条件 第4回 水と生活のかかわり 第5回 食生活と健康 第6回 食品と微生物 第7回 食品の変質① 腐敗と化学的変質 第8回 食品の変質② 変質の防止 第9回 食中毒① 食中毒の概要と発生状況 第10回 食中毒② 微生物による食中毒 第11回 食中毒③ 自然毒・化学物質による食中毒 第12回 有害物質による食品汚染 第13回 汚水や廃棄物の処理 第14回 生活環境問題① 大気汚染・水質汚濁 第15回 生活環境問題② 土壌汚染・地盤沈下・感覚公害 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	なし。各講の講義内容に関連した資料を配布する					
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を参考文献などで予習する(90分)。授業の振り返りと、この授業で分かったことを簡単にまとめ、Moodle上に提出すること。毎回の授業で課題を課すので、課題について調べ学習をすること。また、各回の講義で配布した資料で復習すること(90分)					
成績評価方法	課題の評価 50%、最終試験 50%					
授業内の課題・提出方法	毎回の授業内で理解度をはかるため、授業で理解したことをMoodle上に提出する。また課題についてもMoodle上に提出すること					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題については、評価を含め、Moodle上でコメントをする。その上で疑問や理解度が足りない部分については、解説を行う					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員	大関（株）総合研究所で微生物を扱う業務についていた					
担当者から一言						

授業科目名	環境実験・調査b		科目コード	371227	授業コード	424102
担当教員	大八木 麻希、廣住 豊一		科目ナンバリング	EFE2004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる					
授業のねらい	私たちが生活するうえでの身の回りの環境について、科学的現象として実験をふまえて、正しい知識を身に付ける。					
到達目標	調査・実験を実施する上での安全管理の考え方、基本的な調査器具・実験器具の取り扱いや、試薬の調整方法について身につける。調査・実験の結果をまとめ、正しく報告することができる。					
授業計画	第1回 ガイダンス、実験の心構え・準備 第2回 生活環境① 洗浄実験 合成洗剤の働き（大八木） 第3回 生活環境② ミネラルウォーターの硬度測定（大八木） 第4回 生活環境③ 硬水と軟水の抽出率の違い（大八木） 第5回 生活環境④ 溶液の密度測定（大八木） 第6回 生活環境⑤ 清涼飲料水の糖度・酸度測定（大八木） 第7回 生活環境⑥ 食品部位によるDNA抽出量の違い（大八木） 第8回 生活環境⑦ プラスチック類の分類（大八木） 第9講 都市環境① 気温と湿度（廣住） 第10講 都市環境② 雨量と酸性雨（廣住） 第11講 都市環境③ 風（廣住） 第12講 都市環境④ 花粉・粉じん・PM2.5（廣住） 第13講 都市環境⑤ 照度（廣住） 第14講 都市環境⑥ 騒音（廣住） 第15講 都市環境⑦ 不快指数と暑さ指数（廣住）					
テキスト・教材（参考文献）	なし。各講の講義内容に関連した資料を配布することがある。					
事前・事後学習	シラバスの授業計画をよく確認し、関連する内容を予習する(90分)。実験内容をよく見直し、それぞれの実験で配布した資料で復習する(90分)。「環境化学」・「環境化学実験」を履修していることが望ましい。					
成績評価方法	それぞれの実験における実施態度・習熟度、分析結果をまとめたレポートなどをもとに総合的に評価する(100%)。					
授業内の課題・提出方法	各実験ごとに実験レポートを作成する。提出方法は担当教員ごとに指示する。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	提出されたレポートは添削し、返却する。					
アクティブラーニング	実験・実習、グループワーク、ディスカッション、フィールドワーク、レポート					
実務経験のある教員						
担当者から一言	実験室での分析ではささいな油断や不注意がけがや事故につながります。細心の注意をもって調査・実験に臨んでください。白衣を必ず着用してください。					

授業科目名	農産物流論	科目コード	371228	授業コード	423804
担当教員	川崎 綾子	科目ナンバリング	EFE3001		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる				
授業のねらい	本講義では流通論の概念や論理を理解した上で、小売企業の流通活動について考察する。 考察を通じて流通論の理解を深めることを、本講義のねらいとする。				
到達目標	流通論の論理や枠組みについて理解した上で、企業の流通活動に対する改善案や新たな流通戦略を提示できる。 流通論の用語を駆使した、論理的なレポートの作成能力をもつ。 資料から必要な証拠を収集し、説得力のあるレポートを書く力を有する。				
授業計画	1 ガイダンス / 単位取得に関する注意事項 2 流通とは / 生産者、商業者、消費者の視点 3 百貨店と総合スーパー / チェーン・オペレーション 4 食品スーパー / 日本市場特有のニーズ 5 コンビニエンス・ストア / 立地・時間・品揃えという価値 6 ディスカウント・ストア / 規模の経済 7 SPA / 伝統的な分業体制とのちがい 8 商店街とショッピングセンター / 開発業者とテナントの関係 9 流通構造と日本型取引慣行 / 映画産業の事例 10 日本型の商慣行と、その崩壊 / 流通系列化 11 農産物流論 / 卸売市場とは 12 付加価値 / 青果物の流通 13 青果物の流通 (2) 14 青果物と食品の流通 15 Amazonの流通システム、イオンの歴史 定期試験				
テキスト・教材 (参考文献)	教科書はなし。資料を配布する。 (参考資料：石原武政・竹村正明・細井謙一編著『1からの流通論 (第2版)』碩学舎)				
事前・事後学習	レポートへの解答、書籍やインターネットの閲覧などを通して、用語の予習や復習、流通戦略の立案練習に取り組むことが望ましい (毎週3時間程度)。				
成績評価方法	中間レポート 50% 定期試験 50%				
授業内の課題・提出方法	① 出席確認の質問への解答は、講義中にmoodleから提出すること。 ② 中間レポートも、moodleから提出してもらう予定。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	中間レポートについては、講義中にコメントする。 優秀な中間レポートは、講義中に紹介する場合がある。				
アクティブラーニング	出席確認の課題についても、優秀な解答は講義中に紹介する場合がある。				
実務経験のある教員					
担当者から一言	院生レベルのレポートを要求しますが、1から教えますので真面目に努力できる人なら大丈夫です。ただし分量が少なすぎたり、自分の意見と外部情報の境界が分かりづらいレポートは大幅な減点となります。 ※2回以上、私語の注意を受けた人には原則、単位を認めません。 また許可された時間以外にスマホを使用した場合、2回目の注意を受けた時点でその日は原則、欠席扱いとなります				

授業科目名	農業経営論	科目コード	371229	授業コード	421406
担当教員	鶴田 利恵	科目ナンバリング	EFE3002		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている 地域の持続的発展のために貢献できる 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる				
授業のねらい	この講義では、日本および国際的な農業問題やビジネスの変化について理解していきます。日本の農業問題では第二次世界大戦後の改革から始まり、高度経済成長期やグローバル化が進む中で、日本の農業問題やビジネスがどのように進展していったのかを学びます。国際的な視点からはGATT(貿易と関税に関する一般協定)やTPPなどの自由貿易協定の中で農業問題がどのように捉えられてきたのかを理解します。また、実際にどのような農業経営が行われているのかいくつかの事例を見ていきます。				
到達目標	日本及び世界における農業の経済的側面に関する基本的な知識と問題点を理解し、将来の展望を考える力を培う。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 日本の農業の現状1:農地、農家、農業産出額 第3講 日本の農業の現状2:農業生産の縮小と食糧自給率の低下 第4講 日本の農政1:戦後改革と農業、食糧制度 第5講 日本の農政2:高度成長と農業、農業基本法、総合農政 第6講 日本の農政3:グローバル化と農業経営 第7講 農業経営の事例（1） 第8講 農業経営の事例（2） 第9講 世界の食糧事情と問題点 第10講 穀物貿易の特質 第11講 農業保護政策 第12講 輸出競争とGATT農業交渉 第13講 WTO農業協定とドーハ開発アジェンダ 第14講 地域連携協定と農業問題 第15講 講義のまとめ				
テキスト・教材（参考文献）	プリントを配布します				
事前・事後学習	日頃からテレビ、新聞、インターネットなどなんでも良いので経済ニュースに触れておくこと(毎日1時間以上。まとめてでも小刻みでも構いません。電車の中でネットでニュースを見るのもOKです)。講義後は、その日のテキストを必ず読み返す(90分以上)。				
成績評価方法	小テスト20%、期末テスト80%により評価します。				
授業内の課題・提出方法	毎回Moodleで小テストを行います。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小テストの結果や、講義中及び講義終了後の質問には適宜コメントします。				
アクティブラーニング	小テスト、質問やディスカッション				
実務経験のある教員					
担当者から一言	質問や意見はおおいに歓迎です。ただし、私語、携帯電話の使用は禁止します。特に、注意をしても私語や携帯電話の使用をやめない場合には、退出(もちろん欠席扱い)を命じるか、もしくは携帯電話を没収します。				

授業科目名	メディア情報と文化		科目コード	371301	授業コード	422608
担当教員	前川 督雄		科目ナンバリング	EMI2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 分野必修
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる					
授業のねらい	私たちににとって最古であり、かつ根本をなすメディアは、自身の身体である。目で見て、耳で聴き、手で触り、空気を感じた情報から心・表情・言葉・コミュニケーションが生まれ、文化が育った。人間固有の文化である祈り・祭りから様々な表現が分化して、歌・音楽・舞踊・美術・文芸などの芸術として発展して、多様なメディアとその上に載る感性情報の展開を導いた。 本授業では、人類社会の基層にある文化について学び、メディア情報と文化との関連性を理解するとともに、人間にとってメディアとは何なのかを考える。					
到達目標	メディア情報の歴史、人間文化の歴史の中で自分の立つ位置、現代のメディア情報の世界の中で自分の立つ位置について考えを深める。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 人間と文化 人間と動物の違い 第3講 人間と文化 人類はどのように世界にひろがったのか 第4講 人間と文化 文化をつくる脳の働き 第5講 人間と文化 原初の生活と文化 第6講 人間と文化 文化の進化 第7講 人間と文化 文化の多様性 第8講 文化の諸相 文明の生態史観 第9講 文化の諸相 文化の伝播と発展 第10講 文化の諸相 文化の衝突 第11講 文化の諸相 文化相対主義 第12講 文化の諸相 神と祭り 第13講 文化の諸相 日本文化の多層性 第14講 文化の諸相 日本と世界 第15講 まとめ 定期試験 (内容・順序を必要に応じて変更することがあります)					
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません。 必要に応じて資料を配付します。また、講義中に参考とする音楽・映像の視聴を行います。					
事前・事後学習	毎回の講義で提示した事例・理論を振り返り（90分）、鵜呑みにすることなく自分でも調べ直して、理解を深めるとともによく考えて下さい（90分）。					
成績評価方法	次の配分で総合評価します。 受講態度、学習意欲、小レポート等（40%） 定期試験（60%）					
授業内の課題・提出方法	小レポートを課すことがあり、教室で提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	小レポートで示された重要な論点をその後の講義で採り上げます。					
アクティブラーニング	授業中に意見交換を行います。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	この講義では知識の獲得よりも、自分で感じ、考えることを特に重視します。					

授業科目名	脳・音・光の科学 I		科目コード	371302	授業コード	422208
担当教員	前川 督雄		科目ナンバリング	EMI2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 分野必修
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる					
授業のねらい	私たちが見、聴き、感じ、話し、表現する諸活動について学びます。 感覚と脳は、生物が環境の様子をうかがい、環境に働きかける仕組みが進化するなかで育まれてきました。 (1) 感覚と脳の仕組みと機能の概要を学びます。 (2) 音の物理、聴覚の生理・心理の基礎を学びます。 (3) 光の物理、視覚の生理・心理の基礎を学びます。					
到達目標	(1) 見、聴き、感じ、話し、表現する諸活動の根源にある脳について、基礎的な知識を得る。 (2) 音と聴覚に関わる学問・技術の基盤となる知識を得る。 (3) 光と視覚に関わる学問・技術の基盤となる知識を得る。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 脳 感覚と脳 第3講 脳 脳の構造と機能 第4講 音・光 物理 音とは？ 第5講 音・光 物理 光とは？ 第6講 音・光 物理 波の伝播・反射・吸収 第7講 音・光 物理 波の屈折・回折・干渉ほか 第8講 音 生理 聴覚① 耳の構造と機能 第9講 音 生理 聴覚② 内耳の働き 第10講 光 生理 視覚① 眼球の構造と機能 第11講 光 生理 視覚② 網膜・視細胞の働き 第12講 光 心理 視力 第13講 光 心理 色覚 第14講 音・光 心理 波の周波数の聴こえ方／見え方 第15講 音・光 心理 心理評価実験とメディア規格の策定 定期試験 (内容・順序を必要に応じて変更することがあります)					
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません。 講義中にプリントを配付します。 〈参考文献〉 山内昭雄・鮎川武二「感覚の地図帳」講談社（2001年） 池谷裕二監修「脳と心のしくみ」新星出版社（2016年） 仁科工ミ・河合徳枝「音楽・情報・脳」（2013年）					
事前・事後学習	授業中に演習問題を出し、次回の最初に答え合わせをします。授業内容を復習する（90分）とともに、配布した資料を熟読し、不明点を自分で調べて理解を深めて下さい（90分）。 後期の「メディア表現の科学」（「脳・音・光の科学II」）で継続した内容の授業を行います。					
成績評価方法	次の配分で総合評価します。 受講態度、学習意欲、授業中の演習問題等（45%） 定期試験（55%）					
授業内の課題・提出方法	授業内に確認テストを課し、教室で提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中の演習問題等について、事後（次回など）に解説を行います。					
アクティブラーニング	参考となる音楽・映像の視聴を行うことがあります。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	学際的・総合的な内容になります。復習をしながら授業を進めますが、続けて休むとついて行くのが大変になります。					

授業科目名	ソフトウェア論		科目コード	371303	授業コード	424304
担当教員	池田 幹男		科目ナンバリング	EMI2003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 分野必修
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる					
授業のねらい	コンピュータソフトウェアの役割について学びます。ソフトウェアについて理解するにはその動作原理であるアルゴリズムを理解する必要があります。実際にソフトウェア作成するためにはプログラミング言語について理解する必要があります。また、ソフトウェアの基盤を担っている基本ソフトウェア（オペレーティングシステム）についても理解していることが望ましいです。この授業ではアルゴリズム、基本ソフトウェアの基礎について理解することを目指します。					
到達目標	ソフトウェアの動作原理を理解する。基本ソフトウェアであるOSの基本について理解する。ITパスポートのテクノロジー分野のソフトウェアに関する項目を理解する。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 ソフトウェアは何ができるか 第3講 応用ソフトウェアと基本ソフトウェアとデバイスドライバ 第4講 応用ソフトウェアの実行 第5講 プログラミング言語 第6講 コンパイラとインタプリタ 第7講 アルゴリズム 第8講 アルゴリズムとフローチャート（1） 第9講 アルゴリズムとフローチャート（2） 第10講 アルゴリズムとフローチャート（3） 第11講 基本ソフトウェアとは 第12講 基本ソフトウェアの働き（ファイルシステム） 第13講 基本ソフトウェアの働き（マルチタスク） 第14講 デバイスドライバ 第15講 まとめ 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	指定しない。教材はMoodleを通じて呈示します。					
事前・事後学習	教育支援システム(Moodle)に呈示されている資料や参考サイトを見て予習(90分)し、インターネットを通じて関連項目を調査して復習(90分)します。					
成績評価方法	Moodleでの課題と小テストなど40%、定期試験60%で評価します。					
授業内の課題・提出方法	Moodleを通じて、課題を提出します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通じて評価等をフィードバックします。					
アクティブラーニング	ミニッツペーパー					
実務経験のある教員						
担当者から一言	「情報科学概論」「ハードウェア概論」をあわせて履修することを勧めます。					

授業科目名	メディアの歴史		科目コード	371304	授業コード	422306
担当教員	黒田 淳哉		科目ナンバリング	EMS2001		
配当年次	1	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる					
授業のねらい	テレビ・ラジオ・新聞・雑誌といったマスメディアは、インターネットの普及によって大きく変化しています。インターネットメディアの登場は、情報の発信と受信の形を根本から変え、さらにAIやVR技術の急速な進化が、情報伝達やコミュニケーションのあり方を大きく変容させています。本講義では、文字の発明から現代のメディア社会に至る歴史をたどり、オンデマンド形式で学びます。過去の歩みを踏まえつつ、未来のメディアの可能性と私たちの社会の行方を考察します。					
到達目標	私達は何を望んで今のメディア環境があるのかまた、メディアの進化によって私達の生活や社会はどう変わったかなど、メディアと私達の関りについて歴史から紐解き理解すると共に、変化を続けるメディア環境を生きる私達の今や、未来について考察できるようになることが目標。変遷のあらましを把握することが目的ではなく、過去や現状を理解しつつ、未来に向けて考えを掘り下げることが本講義の最も重要なポイントです。					
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 第2講 文字 第3講 印刷 第4講 ラジオ 第5講 写真 第6講 映画 第7講 プロパガンダ 第8講 テレビ 第9講 モバイルデバイス 第10講 コンテンツメディア 第11講 デジタルコンテンツ 第12講 メディアと芸能 第13講 現在のメディア社会 第14講 メディアと々のつながり 第15講 情報社会とインターネット ※定期試験（レポート）					
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてMoodleでプリントを配布します）					
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提します。 ・予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 ・復習 配布資料や講義ノートを返すなど復習しておくこと（90分）。					
成績評価方法	毎回の講義の課題（40％）、期末レポート試験（60％）により評価します。					
授業内の課題・提出方法	授業の理解度を把握するために、毎回の授業でミニツツペーパーやレポートをMoodleで提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説はMoodleの課題評価で適宜コメントします。					
アクティブラーニング						
実務経験のある教員						
担当者から一言	この講義はオンデマンド講義です。課題の提出状況が評価に大きく影響します。動画を計画的に視聴し、課題に取り組んでください。また、Moodleを使った情報共有及び発信が多くなりますので、使えるように準備しておいてください。					

授業科目名	脳・音・光の科学Ⅱ		科目コード	371307	授業コード	421804
担当教員	前川 督雄		科目ナンバリング	EMS2004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる					
授業のねらい	身近な疑問を出発点に、私たちが見、聴き、感じ、話し、表現する諸活動について学びます。特に、表現・演出につながる特徴に注目します。 (1) 感覚・認識に限界があることを学びます。また、脳がもたらす諸機能について学び、心の動き・文化の役割について理解を深めます。 (2) 音の様々な心理的効果とその応用例について学びます。 (3) 目に映る光と影から世界を把握する仕組みを学び、ものが見えるとはどういうことなのかを考えます。					
到達目標	(1) 見、聴き、感じ、話し、表現する諸活動の根源にある脳について、基礎的な知識を得る。 (2) 音と聴覚に関わる学問・技術の基盤となる知識を得る。 (3) 光と視覚に関わる学問・技術の基盤となる知識を得る。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 知覚 他の生き物は世界をどのようにとらえているのか？ 第3講 言語 無意識の世界／自由意志は幻？ 第4講 快感 気持ちイイとはどういう現象なのか？ 第5講 記憶 勉強してもすぐ忘れるのはなぜ？ 第6講 文化 当たり前を共有している仕組み 第7講 祝祭 感性の源 第8講 音 なぜ人間の耳は左右についているのか？ 第9講 音 音の聴こえ方の不思議 第10講 音 音楽はなぜ心地よいのか 第11講 光 錯視／輪郭は実在しない 第12講 光 図と地／不思議な絵 第13講 光 奥行き知覚と立体視 第14講 音・光 その他関連分野 第15講 まとめ 定期試験 (内容・順序を変更することがあります)					
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません。 講義中にプリントを配付します。 〈参考文献〉 山内昭雄・鮎川武二「感覚の地図帳」講談社（2001年） 池谷裕二監修「脳と心のしくみ」新星出版社（2016年） 仁科工ミ・河合徳枝「音楽・情報・脳」（2013年）					
事前・事後学習	前期の「音と光の科学」（「脳・音・光の科学I」）を先行して履修していることが望ましい。 授業中に示す次のキーワードを事前に調べて予習して下さい（90分）。 授業内容を復習するとともに、配布した資料を熟読し、不明点を自分で調べて理解を深めて下さい（90分）。					
成績評価方法	次の配分で総合評価します。 受講態度・学習意欲・授業中の演習問題等（45%） 定期試験（55%）					
授業内の課題・提出方法	授業内に復習課題を課し、教室で提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中の演習問題等について、事後（次回など）に解説を行います。					
アクティブラーニング	体験型の演習や参考となる音楽・映像の視聴を行うことがあります。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	学際的・総合的な内容になります。復習をしながら授業を進めますが、続けて休むとついて行くのが大変になります。					

授業科目名	次世代メディア社会		科目コード	371310	授業コード	421103
担当教員	前川 督雄		科目ナンバリング	EMS3002		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる専門技術者に求められる倫理観を身につけている					
授業のねらい	メディアを作る人の心、作品を創る人の心を考える講義です。 現代日本人は様々なメディアの存在が不可欠な日常生活を送っています。次々と新しいメディア製品・サービスが発売され、作品群が発表されます。次に何が来ようとしているのか、時代の変遷に関わらず大切なことは何なののでしょうか。偉大な先人たちは何を求めて、何に努めていて、何を守っていたのでしょうか。次世代のメディア社会について、ユーザとして、観客・視聴者として、読者として、あるいはクリエイター・アーティストとして、よく考えましょう。					
到達目標	一流のプロフェッショナルが持つクリエイティビティの有り様を知り、自分の次の一步を考察する。					
授業計画	第1講 ガイダンス／講義の概要 第2講 映画制作現場 第3講 コンピュータグラフィックス 第4講 音楽の楽しみ方の移り変わり 第5講 ジョブズは世界を変えた 第6講 世界を変えたジョブズ 第7講 制作プロデューサーの見る景色 第8講 アニメーション制作現場 第9講 炎と花火 第10講 メディア進化の要因 第11講 メディアアート 第12講 バーチャルリアリティ 第13講 庭づくり 第14講 近未来予測 第15講 まとめ 定期試験 (内容・順序を必要に応じて変更することがあります)					
テキスト・教材 (参考文献)	テキストはありません。 講義中に、参考にする映像・音楽を視聴します。					
事前・事後学習	毎回の講義で示す事例を振り返るとともに調べて (90分)、自分自身の課題にどう活かしていけるか考えて下さい (90分)。 前後して「メディア情報産業論」 (3年次後期開講) とあわせて受講することで、より多面的な理解が得られるでしょう。					
成績評価方法	次の配分で総合評価します。 受講態度、学習意欲、小レポート等 (40%) 定期試験 (60%)					
授業内の課題・提出方法	小レポートを教室で提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義中に、小レポートの内容などについて意見交換を行います。					
アクティブラーニング	意見交換を行います。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	「次世代メディア情報／社会」では主に個人の視点から、「メディア情報産業論」 (3年次後期開講) では主に社会的な見地からメディア情報を捉えます。					

授業科目名	コンピュータ音楽論		科目コード	371311	授業コード	422209
担当教員	柳澤 翔士		科目ナンバリング	EMS3003		
配当年次	3	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる専門技術者に求められる倫理観を身につけている					
授業のねらい	コンピュータを使ったモノづくりが近年、当たり前になりつつあります。この講義では、3Dでの設計・造形や、コンピュータを使った音の合成について座学と自習で学びます。					
到達目標	Fusion360を使用して、3Dでの設計や造形を学び、自分のアイデアを形にする方法を習得する。また、コンピュータを使用し、自分で様々な音を合成する方法の習得を目指す。					
授業計画	1. ガイダンス 2. 立体造形1 3. 立体造形 2 4. 立体造形 3 5. 立体造形 4 6. 立体造形5/立体出力の概要 7. 立体出力1 8. 立体出力2 9. 立体出力3 10. 音の創作1 11. 音の創作2 12. 音の創作3 13. 音の創作4 14. 音の創作5 15. まとめ ※全ての講義にパソコン実習を含みます					
テキスト・教材（参考文献）	授業中に指示する。 ノートと筆記具、ファイルを必ず持ってくる事。					
事前・事後学習	授業ノートの整理(60分)配布資料やテキストでの予習(30分)講義で出た小課題の回答・予習(90分)					
成績評価方法	授業中の課題提出(50%) 受講態度(50%)					
授業内の課題・提出方法	基本は学内提出フォルダを使用し、必要に応じてムードルやメールを指示。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	翌週以降に講評できるものは講評する。 当日可能な場合は、全体での講評を行う。					
アクティブラーニング	パソコン実習					
実務経験のある教員	3Dプリンターと3D CADを用いた機械パーツ製作業務経験者 音楽作品提供業務経験者					
担当者から一言	自分の考えを、コンピュータを使って表現していく方法は、様々あります。この講義では、立体造形とDTMの中でも音の創作を学びます。新しい事に挑戦してみましょう。					

授業科目名	コンピュータグラフィックス		科目コード	371312	授業コード	421805
担当教員	山本 努武		科目ナンバリング	EMS3004		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修/選択 選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる					
授業のねらい	本講座では、Blenderの基礎を15回にわたり学び、オリジナルの3DCGオブジェクトのモデリングと簡単なアニメーション制作技術を習得します。前半（1～7回）は基本操作やモデリングを学び、メッシュ編集やモディファイアを活用しながらオリジナルオブジェクトを制作。マテリアルやテクスチャの設定方法も習得します。後半（8～15回）はライティングやレンダリングを学び、アニメーション制作に挑戦。キーフレームを使った動きの設定、カメラワーク、リギングを実践し、各自の作品を制作します。					
到達目標	講座の到達目標は、オリジナルの3DCGオブジェクトのモデリングと簡単なアニメーションの作成です。3DCGの基礎として、まずモデリングの概念を理解し、頂点・辺・面の操作やモディファイアの活用を学びます。次に、マテリアルやテクスチャを用いた質感設定、ライティングやカメラワークによる演出技術を習得。さらに、アニメーションの基礎としてキーフレームや補間の概念を学び、カメラアニメーションやリギングによるキャラクターの動きを実践します。これらを通じて、3DCG制作の基本的なワークフローを理解し、創造的な表現ができるようになることを目指します。					
授業計画	1. 基礎操作とモデリング基礎（1～7回） 第1回目 1-1. Blenderの基本操作 第2回目 1-2. モデリングの基礎（メッシュ編集） 第3回目 1-3. シンプルなオブジェクトを作る 第4回目 1-4. モディファイアの活用 第5回目 1-5. オリジナルオブジェクトのモデリング（前編） 第6回目 1-6. オリジナルオブジェクトのモデリング（後編） 第7回目 1-7. マテリアルとテクスチャ 2. ライティング・レンダリング・アニメーション（8～15回） 第8回目 2-1. ライティングの基礎 第9回目 2-2. カメラとレンダリング 第10回目 2-3. アニメーションの基礎 第11回目 2-4. シンプルなオブジェクトアニメーション 第12回目 2-5. カメラアニメーション 第13回目 2-6. リギングの基礎（ボーンとウェイトペイント） 第14回目 2-7. オリジナルアニメーションの作成と発表（前編） 第15回目 2-7. オリジナルアニメーションの作成と発表（後編）					
テキスト・教材（参考文献）	教員が毎回スライドやデータを提示します。 個々に気に入った書籍を購入しても構いません。					
事前・事後学習	授業で使用するアプリケーション"blender"は無料でインストールすることができますので、授業で行った操作の復習を毎週45分～1時間程度行うことをお勧めします。					
成績評価方法	・ 授業参加態度・実習過程: 60% ・ 成果物の品質: 40%					
授業内の課題・提出方法	学内ファイルサーバへデータを提出					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	LINE、Zoomなどを用いて適宜質問やフィードバックに応じます。					
アクティブラーニング	作品制作					
実務経験のある教員						
担当者から一言	20名の履修制限があります。希望者が多い場合は、初回授業で抽選を行いますので、欠席・遅刻をしないようにして下さい。					

授業科目名	感性と創造			科目コード	371314	授業コード	425608
担当教員	黒田 淳哉			科目ナンバリング	ESP2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。						
授業のねらい	文化が生まれるところには、はじめに「遊び」があります。その遊びが社会的に評価され、継続することにより文化として定着していきます。音楽の文化や、現在のSNS化も元を正せば、ちょっとした工夫や遊びの延長上に花開いたものです。本講義では、遊びの感覚でメディア作品制作を体験することから始め、最終的には作品制作を通して自分自身の感性と向き合い、個々の創造力を育むことを目的としています。						
到達目標	・メディアの作品制作に必要な各ステップを経験する。 ・仲間と適切なコミュニケーションを取りつつ、制作に積極的に取り組むことができる。 これらを到達目標としながら、自分の中にある隠れた一面や才能の発見を指します。						
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要～写真1 第2講 写真2 第3講 発表～講評（プレゼンテーション） 第4講 絵コンテ（企画・構成） 第5講 絵コンテ（グループワーク） 第6講 絵コンテ（グループワーク） 第7講 発表～ディスカッション 第8講 発表～ディスカッション 第9講 ストップモーションムービー（グループワーク） 第10講 ストップモーションムービー（グループワーク） 第11講 ストップモーションムービー（グループワーク） 第12講 発表～講評（プレゼンテーション） 第13講 発表～講評（プレゼンテーション） 第14講 作品鑑賞～分析 第15講 まとめ						
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）						
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提します。 予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを返すなど復習しておくこと（90分）。						
成績評価方法	講義内でいくつかメディアの作品づくりに挑戦してもらいます。その作品の完成に向けた取り組みや、作品の完成度などから総合的に評価します。(100%)						
授業内の課題・提出方法	提出した作品は、講義内の発表時に講評を行います。						
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義でいくつか作品をグループに分かれて制作します。それぞれの作品を完成させることが課題です。また、完成した作品は、講義内で発表してもらいます。						
アクティブラーニング	ディスカッション、プレゼンテーション、グループワーク						
実務経験のある教員	担当教員は、関連領域で実務経験を持ちます。						
担当者から一言	毎回の講義で習得する知識や技術を積み上げて進めていきますので、特別な理由がない限り欠席しないでください。講義内での発言や質問など、積極的な参加を期待します。						

授業科目名	表現と思想	科目コード	371315	授業コード	424103
担当教員	柳瀬 元志	科目ナンバリング	ESP2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。				
授業のねらい	企画・立案、構成、演出、撮影、編集、MAやNA等、プロが映像作品を制作するステップを学んだり、静止画と文章を組み合わせでストーリーを構成する授業などを行います。特に制作した作品を発表する「プレゼンテーション」の機会を設け、「つくる」だけでなくメディアに必要な「伝える」ことの大切さ、言語化を体験して身につけることを狙いとしています。				
到達目標	プロの方法論による作品制作の演習を通じて、モノづくりの楽しさ、むつかしさを体験するとともに、専門課程につながる知識や技術の習得、自己表現のスキルアップを目指します。				
授業計画	第1講：ガイダンス ～作品制作の進め方 クリエイティビティとは何か～ 第2講：同世代の制作した映像作品を鑑賞 第3講：フォトエッセイ～静止画と文章で構築する世界線～ 第4講：フォトエッセイプレゼンテーション 第5講：基本的な機材の扱い方とカメラサイズ・動き 第6講：作品の企画立案 第7講：撮影実習① 第8講：撮影実習② 第9講：撮影実習③ 第10講：撮影素材合同プレビュー 第12講：編集① 第13講：編集② 第14講：編集③ 第15講：作品合同プレビュー&まとめ ※作品の進捗状況により、内容の変更・入れ替えがあります。				
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じて、テキスト及び参考文献や資料を配布します。				
事前・事後学習	制作授業以外にも、自ら継続的に創作活動を行う意識を持ってください。日々様々なメディアを利用して、話題となっているイベントや展覧会、映画、CM、舞台、テレビ番組、小説、配信番組、ライブコンサートなど、スキルアップにつながる行動をどん欲に行う習慣を身につけてください。				
成績評価方法	授業・課題への取り組む姿勢 30% 課題制作への意欲・参加度 30% 作品内容・完成度 20% 試験に代わる課題、もしくはレポート 20%				
授業内の課題・提出方法	教員に直接手渡し、もしくはメール、教学課提出BOX MOODLEなど、適切な方法を指示します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要に応じて採点、返却します。				
アクティブラーニング	映像作品の制作に関する基礎基本的な静止画の撮影、文章表現、機材を用いての撮影体験やシミュレーションを行います。				
実務経験のある教員	中京テレビをはじめ、在名各テレビ局で番組制作の経験あり。現在も現役ディレクターとして企画から完パケまでを手掛けている。				
担当者から一言	使用する機材の台数の関係上、18名を上限として定員を設けます。普段から多種多様な作品に触れ、美術鑑賞や観劇など自分自身の「見る目」を養ってください。グループで行う作業が数多くあります。「遅刻」「欠席」をしないよう責任と自覚をもって取り組んでください。				

授業科目名	映像概論	科目コード	371316	授業コード	424204
担当教員	柳瀬 元志	科目ナンバリング	ESP2003		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信ができる。				
授業のねらい	映像の歴史や現在地、そして新たな方向性など、映像の大枠をつかむことを軸に様々な角度から映像を追求していきます。座学はもちろん、各界で活躍するクリエイター（脚本家・ドキュメンタリストなど）を招いて講義を行い、演習や映像制作、プレゼンテーションなどを通じて映像のリアルを学びます。				
到達目標	①映像に関する基礎知識や最新情報を身につけ、日常生活でも常に映像に反応できるアンテナが張れるようになる。 ②授業を通じて一通りの映像制作のノウハウを学び、知識とスキル向上させる				
授業計画	第1講 ガイダンス ～映像概論のススメ方～ 第2講 映像の歴史 ～誕生から現在～ 第3講 世界で評価される日本映画・前編 第4講 世界で評価される日本映画・後編 第5講 世界で評価される日本映画・その撮影技法と感想 第6講 テレビ番組ができるまで ～企画・取材・撮影・編集～ 第7講 失敗しないインタビューのノウハウ 第8講 台本・脚本の作り方（外部講師） 第9講 作品鑑賞①（サイレント映画にみる映像構成とルール） 第10講 作品鑑賞②（地元をテーマにしたドキュメンタリー） 第11講 ローカルメディアの使命と役割 第12講 新聞はオワコンか 第13講 CMの変遷 第14講 メディアの役割と課題 第15講 ドキュメンタリー論（外部講師） ※授業の進捗状況により、内容の変更や入れ替えがあります				
テキスト・教材（参考文献）	必要に応じてテキストや資料を配布				
事前・事後学習	ジャンルを問わず、毎日映像に触れる時間を持つ。見ることをすなわち学習です。さらに読書にも親しむこと。文字情報を脳内で映像に変換する練習を積んでください。とにかく、よく見てよく読む。これが映像制作の事前・事後学習です。				
成績評価方法	授業取り組む姿勢：30%（出席率や授業態度など） 課題への取り組み：30%（内容のクオリティー、締め切り順守） 定期試験もしくは試験に代わるレポート：40% 必要に応じてフィードバックします。				
授業内の課題・提出方法	必要に応じて課題を出します。 提出方法は教員に直接手渡し、授業課の提出用レターケース、MOODLEのなかで最も効率よく提出できる方法を課題ごとに選択します。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	必要に応じてフィードバックします。 授業内で合評することもあります。				
アクティブラーニング	プレゼンテーション・グループワーク・ディスカッション・ディベート・フィールドワークなど、概論として座学の中に人前で発表する時間も設けます				
実務経験のある教員	テレビ番組のディレクターとして35年の経験。現在も名古屋の民放で現役としてスポーツ中心に取材をしている。現場で培ったノウハウを中心に授業を行います。				
担当者から一言	現役ディレクターとして、映像の面白さ奥深さを伝えていきます。また希望者にはテレビ局の見学ツアーも行っています。 生放送直前の緊張感あるスタジオや、プロ集団による放送テクニック、皆さんと同じくらいの年齢のスタッフが働く現場など、リアルに体験する場を設けます。				

授業科目名	照明概論		科目コード	371317	授業コード	426102
担当教員	黒田 淳哉、足立 明信		科目ナンバリング	ESP2004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	専門技術者に求められる倫理観を身につけている メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる					
授業のねらい	音響と照明に関する基礎技術を「集中講義」で身につけます。機材の取り扱いから始まり、プロの制作現場に必要な技術を実践的に学びます。ライブコンサートにおける音響や照明技術を学びたい学にとっては必須の講義であり、後学期に開講の「音響照明概論」と併せて受講することをお勧めします。 ※ 本講義は「音響照明概論」の後に履修することが望ましい。					
到達目標	・音響と照明の機材を適切に取り扱うことができる。 ・音と光の演出に必要な技術を身につける。 ・仲間と協力しながら建設的な取り組みができる。					
授業計画	<1日目：7/19（土）1限～5限予定> 第1講 照明1「ガイダンス～機材の説明～光の種類」 第2講 照明2「カラーチューニング」 第3講 照明3「機材セッティングについて」 第4講 照明4「照明制御システムの理解」 第5講 照明5「照明プログラミング」 <2日目：7/20（日）1限～5限予定> 第6講 音響1「音響仕込み図の読み方」 第7講 音響2「出力系(スピーカー等)のセッティング」 第8講 音響3「入力系(マイク等)のセッティング」 第9講 音響4「ミキサーの設定」 第10講 音響5「スピーカーの音質調整」 <3日目：8/2（日）1限～5限予定> 第11講 調整1 第12講 調整2 第13講 リハーサル 第14講 本番 第15講 まとめ					
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）					
事前・事後学習	予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくこと（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを返すなど復習しておくこと（90分）。					
成績評価方法	定期試験はありません。各回の講義・実習ごとに取り組み態度と成果で評価し、合算します。					
授業内の課題・提出方法	授業ごとに課題を課しますので、講義時やMoodleで提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題等のフィードバックは講義時に適宜コメントします。					
アクティブラーニング	ディスカッション、グループワーク、実習					
実務経験のある教員	担当教員は、関連領域で実務経験を持ちます。豊富な経験と知識をもとに、音響と照明に関する基礎技術をわかりやすく指導します。					
担当者から一言	・履修定員を設けるため、受講希望数が多い場合は抽選をいいます。 ・本講義は3日間の「集中講義」であるため、遅刻や欠席が、評価に大きく影響します。 ・怪我を防ぐために、室内のシューズと作業用の手袋を用意してください。					

授業科目名	音響概論		科目コード	371318	授業コード	424704
担当教員	黒田 淳哉、足立 明信		科目ナンバリング	ESP2005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	・専門技術者に求められる倫理観を身につけている。 ・メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる					
授業のねらい	音響と照明に関する、それぞれの基礎知識を「オンデマンド授業」で講義します。光と音の性質を知ることから始まり、演出法や理論、メカニズムやシステムに関する内容を扱います。音響・照明を用いたメディア表現を目指す学生にとってこの講義は基礎となるものであり、それぞれの入門として位置づけられます。2年前期開講の「音響照明技術」とあわせて履修することを推奨します。 ※「響照明技術」より前に履修することが望ましいです。					
到達目標	光と音の性質や理論に関する基礎知識や、機材の構造や原理が理解できるようになること。さらには、音響や照明の専門用語や単位、計算方法について理解できるようになること。					
授業計画	第1講 ガイダンス、授業の概要 第2講 照明1「光源」 第3講 照明2「光の単位」 第4講 音響1「音とは」 第5講 音響2「マイクとスピーカー」 第6講 照明3「色彩と照明」 第7講 照明4「色温度と演色性」 第8講 音響3「電気の基礎」 第9講 音響4「音を制御する機器」 第10講 照明5「照明配光と陰影効果」 第11講 照明6「映像照明」 第12講 音響5「音のデジタル処理」 第13講 音響6「PA（コンサート・舞台音響）」 第14講 照明7「照明制御システム」 第15講 音響7「録音（コンテンツ制作）」					
テキスト・教材（参考文献）	なし。（必要に応じてプリントを配布します）					
事前・事後学習	毎回、講義の最後に課題を提します。 予習 課題についてインターネットや書籍で調べてくること（90分）。 復習 配布資料や講義ノートを返すなど復習しておくこと（90分）。					
成績評価方法	毎回の講義の課題（40％）、定期試験（60％）により評価します。					
授業内の課題・提出方法	レポート、テストの解説はMoodleやオンデマンド動画内で適宜コメントします。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説はMoodleを使って適宜コメントします。					
アクティブラーニング	オンデマンド、Moodle					
実務経験のある教員	担当教員は、関連領域で実務経験を持ちます。豊富な経験と知識をもとに、音響と照明に関する基礎技術をわかりやすく指導します。					
担当者から一言	この講義はオンデマンド講義です。課題の提出状況が評価に大きく影響します。動画を計画的に視聴し、課題に取り組んでください。					

授業科目名	ハードウェア論		科目コード	371323	授業コード	422705
担当教員	片山 清和		科目ナンバリング	EIF2001		
配当年次	1	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。					
授業のねらい	文書作成、表・グラフ作成、データ分析、プレゼンテーションを行うことは、在学中だけでなく社会に出てからもよくあります。この講義では、文書作成ツール、表計算ツール、プレゼンテーション作成ツールとしてWord、Excel、PowerPointの実習を行います。実習は、与えられたデータを編集・加工することで課題を完成させるもので、主体的に学び、わからないところを教員に聞いて解決する形で行います。					
到達目標	① Wordを用いてレポートや論文を作成できる ② Excelを用いて表やグラフを作成できる ③ Excelを用いてデータ分析のためにデータ抽出やクロス集計ができる ④ PowerPointを用いて効果的な視覚資料を作れ、プレゼンテーションの準備ができる					
授業計画	第1講 ガイダンス、Word (1) 第2講 Word (2) 第3講 Word (3) 第4講 Word (4) 第5講 Excel (1) 第6講 Excel (2) 第7講 Excel (3) 第8講 Excel (4) 第9講 Excel (5) 第10講 Excel (6) 第11講 PowerPoint (1) 第12講 PowerPoint (2) 第13講 PowerPoint (3) 第14講 総合演習問題 (1) 第15講 総合演習問題 (2)					
テキスト・教材（参考文献）	<テキスト> 「情報リテラシー」 (Windows11、Office2021対応) FOM出版 2, 200円 (税込) 「30時間でマスター Word&Excel2021」 実教出版 1, 100円 (税込)					
事前・事後学習	<事前学習> テキストを読んで実習内容を理解する。(30分) <事後学習> 課題を完成させる。(150分)					
成績評価方法	提出物(100%)。定期試験行いません					
授業内の課題・提出方法	<課題> 作成したファイルをMoodleで提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	<フィードバック> Moodleを通して個別にコメントします。					
アクティブラーニング	課題・宿題、実習					
実務経験のある教員						
担当者から一言	コンピュータ教室での実習では積み重ねで進めるので、欠席すると次の実習が困難になります。WordやPowerPointで技能を身に付けるために、課題をやや多くしているので授業時間内では完成しません。授業外で時間を作って課題をしっかり行ってください。					

授業科目名	プログラミング		科目コード	371324	授業コード	422109
担当教員	足立 明信		科目ナンバリング	EIF2002		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。					
授業のねらい	プログラミングは、環境科学/情報技術/メディア表現の各分野を学ぶ上で、非常に有効な手段となり得る。こういった目的に対してプログラミングという手段が有効であるかを把握し、目的を達成する手段としてのプログラミングを学ぶ。プログラミングにはさまざまな手法や言語があるが、その中でも幅広い分野で使用されている言語のPythonを例に、プログラミングの基本を学ぶ。					
到達目標	プログラミングとはどういうものかを理解し、基本的なプログラミングができるようになること。 プログラミングに必要な情報を自ら調べて自ら学べる、自走可能な状態になること。					
授業計画	第1講 ガイダンス・プログラミング言語Pythonでできる事・実習環境について 第2講 画面出力・型・変数・算術演算子 第3講 比較演算子・論理演算子 第4講 データ構造1(リスト) 第5講 データ構造2(辞書・タプル・集合) 第6講 制御フロー1(if文) 第7講 制御フロー2(for文) 第8講 制御フロー3(while文、continue、break) 第9講 関数 (関数定義・引数・戻り値・デフォルト引数) 第10講 クラス・オブジェクト1 (オブジェクト思考の概念について) 第11講 クラス・オブジェクト2 (クラス定義・クラス変数・コンストラクタ・スコープについて) 第12講 ライブラリの利用1(標準ライブラリ) 第13講 ライブラリの利用2(外部(非標準)ライブラリ) 第14講 ライブラリの利用3(ファイルの操作(テキスト, CSV, エクセル)) 第15講 まとめ～プログラミング技術を使った課題の解決方法について 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	松浦健一郎 著, 司ゆき 著「Python[完全]入門」SBクリエイティブ(2021)					
事前・事後学習	講義内だけでなく、講義時間以外でも課題や予習・復習を行うこと。(180分/週) 実習環境はWebブラウザを使用してプログラミング及びその実行を行う事ができる、Google社のColaboratoryというサービスを利用します。 各自、初回の講義の前にGoogleアカウントを作成の上、ログイン情報を忘れずにメモしておくこと。					
成績評価方法	「提出物」(40%)、「定期試験」(60%)					
授業内の課題・提出方法	講義内に課題を示し、Googleドライブでのファイル共有での提出とする。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は翌週の講義内で行うものとする。 教員から個別のフィードバックは行わないので、解説を聞いても不明な点は講義内で質問をすること。					
アクティブラーニング	プログラミング実習					
実務経験のある教員	現役で民間企業にてAIを用いた画像検査のパッケージソフトの開発を行っている。ECサイトやWebアプリケーション、スマホアプリケーション、車載ナビゲーションシステムなど開発に携わった経験あり。					
担当者から一言	「プログラム実習基礎」が履修済みである必要はありません。 実習教室のコンピューターの数に限りがありますので、受講希望者多数の場合は第一回の講義で抽選を行い受講者を絞る可能性があります。					

授業科目名	コンピュータ動作論		科目コード	371325	授業コード	424803
担当教員	池田 幹男		科目ナンバリング	EIF2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	環境情報学を構成する環境科学と情報技術とメディア表現の基礎を修得したうえで、専門分野に求められる深い学識と技術を身に付けている					
授業のねらい	コンピュータでのソフトウェア開発やシステム構築には、多くの人や時間、費用がかかります。大規模なものになると、それらにかかるものが非常に大きくなります。この授業ではソフトウェア開発、システム構築で必要とされる様々なことについて学びます。					
到達目標	プログラム開発における、ソフトウェアモデリング、要件定義、システム設計、ソフトウェア設計、実装、検証と動作確認、プロジェクト管理、通信を学ぶ。 位置づけとしては、卒業研究・開発に臨めるようにする。					
授業計画	第1講 ガイダンス ソフトウェア工学とは 第2講 ソフトウェア開発とは1 第3講 ソフトウェア開発とは2 第4講 基本的なルール 第5講 ウォータフォール型開発モデル1 第6講 ウォータフォール型開発モデル2 第7講 ウォータフォール型開発モデル3 第8講 ウォータフォール型開発モデル4 第9講 ウォータフォール型開発モデル5 第10講 アジャイル型開発モデル1 第11講 アジャイル型開発モデル2 第12講 アジャイル型開発モデル3 第13講 プロジェクトマネジメント 第14講 セキュリティ 第15講 まとめ 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	飯村 結香子 (著), 大森 久美子 (著), 西原 琢夫 (著), 川添 雄彦 (監修)「ずっと受けたかったソフトウェアエンジニアリングの新人研修 第3版」2, 200円、翔泳社、ISBN-13 : 978-4798157566					
事前・事後学習	教育支援システム(Moodle)に呈示されている資料や参考サイトを見て予習(90分)し、インターネットを通じて関連項目を調査して復習(90分)します。					
成績評価方法	Moodleでの課題と小テストなど40%、定期試験60%で評価します。					
授業内の課題・提出方法	Moodleを通じて、ディスカッションを行い、課題を提出します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	Moodleを通じて評価等をフィードバックします。					
アクティブラーニング	ミニッツペーパー					
実務経験のある教員						
担当者から一言	「情報科学概論」「ハードウェア概論」をあわせて履修することを勧めます。					

授業科目名	システム管理論		科目コード	371326	授業コード	423506
担当教員	足立 明信		科目ナンバリング	EIF2004		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。					
授業のねらい	「プログラミング実習応用1」で学習したプログラミング技術の基礎をもとに、発展的な課題に取り組む。 プログラミング技術を環境科学/情報技術/メディア表現の各分野での活用する為の知識と、応用の足掛かりを身につける。					
到達目標	プログラミング技術を使って目的を実現する事ができる。 また、その為の手段を自ら見つける事ができる。					
授業計画	第1講 ガイダンス・実習環境について IDEの使い方・デバッグ 第2講 プログラミング実習応用1 復習/ローカル環境での演習1 第3講 プログラミング実習応用1 復習/ローカル環境での演習2 第4講 ファイル操作(CSVファイル, テキストファイル, エクセルファイル) 第5講 Webサーバー構築(Flask) 第6講 NumPyの基本 第7講 NumPy応用例(画像処理) 第8講 モジュール・パッケージ・コマンドライン引数 第9講 OpenCVで画像処理 第10講 データ分析(Pandas, Matplotlib) 第11講 機械学習(scikit-learn) 第12講 オープンデータ分析 第13講 GUIプログラミング(tkinter) 第14講 その他ライブラリ 第15講 まとめ・自由課題 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	松浦健一郎 著, 司ゆき 著「Python[完全]入門」SBクリエイティブ(2021) ※プログラミング実習応用1 で使用した参考書と同一					
事前・事後学習	講義内だけでなく、講義時間以外でも課題や予習・復習を行うこと。(180分/週) 本講義では「プログラミング実習応用1」とは違い、Webブラウザを使ったGoogle社のColaboratoryでの実習ではありません。ローカル(手元にあるコンピューター)のPython環境を用いて実習を行います。授業外でもPython環境をインストールされたコンピューターで自習が出来るよう、環境を整えることを推奨します。					
成績評価方法	「提出物」(70%)、「定期試験」(30%)					
授業内の課題・提出方法	講義内に課題を示し、MoodleもしくはTeamsでの提出とする。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	課題の解説は次回の講義内で行うものとする。 教員から個別のフィードバックは行わないので、解説を聞いても不明な点は講義内で質問をすること。					
アクティブラーニング	プログラミング実習					
実務経験のある教員	現役で民間企業にてAIを用いた画像検査のパッケージソフトの開発を行っている。 ECサイトやWebアプリケーション、スマホアプリケーション、車載ナビゲーションシステムなど開発に携わった経験あり。					
担当者から一言	「プログラミング実習応用1」が履修済みである必要がありますが、「プログラム実習基礎」が履修済みである必要はありません。 実習教室のコンピューターの数に限りがありますので、受講希望者多数の場合は第一回の講義で抽選を行い受講者を絞る可能性があります。					

授業科目名	データベースプログラミング		科目コード	371327	授業コード	424705
担当教員	池田 幹男		科目ナンバリング	EIF3001		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。					
授業のねらい	実際のデータベース管理システム（DBMS）に触れることによって、データベースのしくみを理解する。具体的には、リレーショナルデータベース（RDBMS）のひとつであるSQLiteを使用し、表の設計、データの挿入と検索を通して、データベースのしくみを理解する。補助的に Office の Access データベースも使用する。					
到達目標	検索条件をSQL文で書けること。 データの正規化ができること。 データの追加、更新、削除を理解すること。 データベースの基本設計ができること。					
授業計画	第1講 ガイダンス～データベースとは 第2講 さまざまなデータの保存形式 第3講 データベースを操作する言語 第4講 データベースの操作 1 第5講 データベースの操作 2 第6講 データベースの操作 3 第7講 データベースの操作 4 第8講 データベースの操作 5 第9講 データベースの設計 第10講 正規化 1 第11講 正規化 2 第12講 正規化 3 第13講 ER図 1 第14講 ER図 2 第15講 まとめと演習課題 定期試験					
テキスト・教材（参考文献）	テキストは指定しない。 教材はMoodleで提供する。					
事前・事後学習	講義内だけでなく、講義時間以外でも課題や予習・復習を行うこと。 また、Web上の参考サイトも使用して、SQLに慣れること。（週180分）					
成績評価方法	「提出物」（60%）、「定期試験」（40%）					
授業内の課題・提出方法	講義内に課題を示し、教育支援システム（Moodle）に提出する形とする。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	教育支援システム（Moodle）でフィードバックを行う。					
アクティブラーニング	Moodleを使用して、出欠を記録し、ほぼ毎回、課題を提出します。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	現実のシステム開発では、 そもそもデータベースを使用するかどうか。 データベースを使用するとして、どのデータベースソフトを使用するのか。 データベースの構造をどうするかということを決定する。 というようなことが重要になってきます。					

授業科目名	情報システム論		科目コード	371328	授業コード	425607
担当教員	木藤 裕也		科目ナンバリング	EIF3002		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる。					
授業のねらい	データサイエンスは、現代のあらゆる分野で意思決定や問題解決の基盤となる重要なスキルです。本授業では、Excelを用いて、様々な形式のデータを扱うスキルを習得することを目的とします。一般的に用いられることを想定し、読み込み、前処理、集計、可視化といったデータの取り扱いを体系的に学びます。これにより、データの特徴を適切に把握し、洞察を得る能力を養います。さらに、実習を通じてデータ解析の基礎的な知識と技術を深く理解し、研究や業務における実践的なデータ活用能力を構築することを目指します。					
到達目標	1. Excelを用いて様々な形式のデータを適切に読み込み、加工し、可視化を行える。 2. 各形式のデータに応じた適切な前処理と分析手法を実施できる。 3. 実際の現場で求められるようなデータを用いて、基本的な分析や可視化を実現できる。					
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 データの整理と基本的な前処理 第3講 データの集計と分析の基本 第4講 異なるデータの整理方法 第5講 ケーススタディ①：数値データを用いた分析 第6講 データ処理実習①（数値データの整理と加工） 第7講 ケーススタディ②：カテゴリーデータの比較 第8講 データ処理実習②（カテゴリーデータの集計と分析） 第9講 ケーススタディ③：時系列データの解析 第10講 データ処理実習③（時系列データの分析） 第11講 ケーススタディ④：異なる要素間の関係分析 第12講 データ処理実習④（異なる要素間の関係分析の手法） 第13講 総合演習① 第14講 総合演習② 第15講 まとめ （必要に応じて内容・順序を変更する場合があります）					
テキスト・教材（参考文献）	なし。参考文献は必要に応じて適宜指示します。					
事前・事後学習	「データサイエンスⅠ・Ⅱ・Ⅲ」を修得していることを強く推奨します。 これまでの授業で作成したデータや解析手法の復習（30分）。 授業中に行ったデータ解析を確認して課題を完成させる（150分）。					
成績評価方法	定期試験は実施しません。次の配分で評価します。 ・受講態度、課題への取り組み、課題の提出状況（40%）。 ・提出課題（60%）。					
授業内の課題・提出方法	講義内で指示した課題をMoodleを利用して提出します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中に指示した提出課題のフィードバックは次回講義に行います。					
アクティブラーニング	実習、課題・宿題					
実務経験のある教員						
担当者から一言	データは様々な形で存在し、その適切な加工や可視化はどの業界においてもデータを正しく活用するために欠かせません。データを扱うスキルを習得するには、手法の意味を理解することが重要です。課題は授業中に終わらせる必要はありませんので、授業後に意味を理解しながら丁寧に取り組んでください。					

授業科目名	メディア情報産業論		科目コード	371329	授業コード	421502
担当教員	前川 督雄		科目ナンバリング	EIF3003		
配当年次	3	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる専門技術者に求められる倫理観を身につけている					
授業のねらい	Society5.0を視野に入れた、社会のありかたを産業の側面から考える講義です。テレビやアプリ、ゲーム、インターネットなど、私たちはメディア情報産業の恩恵に浴して暮らしています。メディア情報産業は、情報通信技術の発達によってその枠組みを大きく変化させ、また社会インフラとしてその重要性を増してきています。その歴史・背景は、また将来展望はどのようになっているのでしょうか。 この講義では、メディア情報産業の歴史・構造を概観するとともに、現代社会においてメディア情報産業が果たす役割について考えます。					
到達目標	メディア情報産業の歴史・構造を知り、それぞれのメディアが果たしている（果たしてきた）社会的役割とこれからの展望・課題とを考察する。					
授業計画	第1講 ガイダンス／講義の概要 第2講 基礎論 メディア情報が産業になるとはということか 第3講 基礎論 Society5.0に向けて 第4講 産業構造 通信／インターネット／IoT 第5講 産業構造 コンピュータ／アプリ 第6講 産業構造 映画／コンテンツ 第7講 産業構造 テレビ／ラジオ 第8講 産業構造 出版 第9講 産業構造 メディア融合 第10講 産業構造 メタバース／DX／Web3.0 第11講 社会 マスメディアの責務 第12講 事例 メディア利用動向 第13講 事例 メディア情報産業の最新トピックス 第14講 事例 最新の国際展示会レポート／メディア情報技術開発について 第15講 まとめ 定期試験 （内容・順序を必要に応じて変更します）					
テキスト・教材（参考文献）	テキストはありません。 講義中に資料を配付します。 〈参考情報サイト〉 http://edata.jp/you/imi/ 〈参考文献〉 電通総研編「情報メディア白書2025」ダイヤモンド社（2025） 日本経済新聞社編「日経業界地図2026年版」日本経済新聞出版社（2025）					
事前・事後学習	講義内容を復習する（90分）とともに、配布した資料およびURL提示した参考情報を熟読し、不明点を自分で調べて理解を深めて下さい（90分）。 前後して「次世代メディア情報／社会」（3年次前期開講）とあわせて受講することで、より多面的な理解が得られるでしょう。					
成績評価方法	次の配分で総合評価します。 受講態度、学習意欲、小レポート等（40%） 定期試験（60%）					
授業内の課題・提出方法	小レポートを教室で提出してもらいます。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義中に、小レポートの内容などについて意見交換を行います。					
アクティブラーニング	意見交換を行います。					
実務経験のある教員						
担当者から一言	「メディア情報産業論」では主に社会的な見地から、「次世代メディア社会」（3年次前期開講）では主に個人の視点からメディア情報を捉えます。					

授業科目名	日本文化論	科目コード	371406	授業コード	423504
担当教員	永井 博	科目ナンバリング	ECF2003		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0
				必修/選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる				
授業のねらい	いわゆる「日本文化論」は、たとえばお茶やお能などの伝統芸能などを日本に独自の文化として論じる。しかし「日本」の「文化」はどのような文化なのかについて考えるのではなく、むしろ「文化」という概念のもとに何が語られているのかを考えることの方がより大きな問題であると思われる。 この講義では、いろいろな「日本文化論」を取り上げて、「日本」の「文化」がどのように語られ、どのような問題をかたちづくってきたのかについて一緒に考えてみたい。				
到達目標	「文化」という概念が含む問題を自らの中にも根付いている自分の問題としてとらえ、それをどのように克服していくかについて考える糸口を見つけることができることを目標にする。				
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 「文化」概念、「文明」概念について 第3回 「日本文化論」の問題点について 第4回 ブルーノ・タウトの日本文化論について ① 「日本文化私観」 第5回 ブルーノ・タウトの日本文化論について ② 「ニッポン」 第6回 日本の食文化について（お雑煮を例に） 第7回 加藤周一＜雑種文化論＞ ① その背景 第8回 加藤周一＜雑種文化論＞ ② その主張 第9回 加藤周一＜雑種文化論＞ ③ その特徴と問題点 第10回 谷崎潤一郎「陰翳礼讃」 ① その概要 第11回 谷崎潤一郎「陰翳礼讃」 ② その問題点 第12回 三島由紀夫「文化防衛論」 ① その特徴 第13回 三島由紀夫「文化防衛論」 ② 戦後の日本文化論 第14回 坂口安吾「日本文化私観」 ① その内容 第15回 坂口安吾「日本文化私観」 ② その思想史的意味 定期試験				
テキスト・教材（参考文献）	プリントなどの資料を配布する。				
事前・事後学習	予習として、配布する日本文化論のテキストをよく読んでくること。（90分） 復習として、講義の内容を踏まえて上記のテキストをさらによく読むとともに、それらの筆者の他の文章も自分で入手して読むこと。（90分）				
成績評価方法	受講態度50%、定期試験50%を目安に総合的に判断する。				
授業内の課題・提出方法	毎回ミニ・レポートを提出してもらう。提出方法は、ミニ・レポート用紙を配布するので、それを講義の終りに提出してもらう。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	ミニ・レポートは、講義を聴いて書いたと思えないもの、何かが書いてあるか意味が分からないもの、また講義の内容を単にまとめただけのものなどは高く評価できない。講義の内容を踏まえ、それをもとに自分の考えを筋道立てて分かりやすく書いているレポートを高く評価する。毎回3点満点で評価し、その点数を記して翌週の講義の際にコメントとともに返却する。				
アクティブラーニング	毎回提出のミニ・レポート。				
実務経験のある教員					
担当者から一言	日本文化論がこれまでにどのような問題を構成してきたか、現在どのような問題をはらんでいるのかについて一緒に考える時間にしたいと思っている。出席して坐っていれば単位が取れると安易に考えないでほしい。ノートをしっかり取る、関連する作品を自分でさがして読むなど、積極的に取り組んでほしい。				

授業科目名	出版文化論	科目コード	371407	授業コード	422101
担当教員	富田 与	科目ナンバリング	ECF2004		
配当年次	2	開講学期	前学期	単位数	2.0
				必修／選択	選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる				
授業のねらい	この講義では、メディア（主にマス・メディア）を挟んだ、（多数）対（多数）のコミュニケーションを見ていきます。発信性はそうしたコミュニケーションを流れる情報にどのようなレトリックを施し、受信者はそうしたレトリックを施された情報にどのように対応していけば良いかを考えていきます。				
到達目標	コミュニケーションの基本的な考え方をリテラシーに結びつける。				
授業計画	第1講 ガイダンス 第2講 コミュニケーションと文化 第3講 言語コミュニケーション 第4講 非言語コミュニケーション 第5講 「旧修辞学」の復権 第6講 新しいプロパガンダの時代 第7講 レトリックを演じる人々 第8講 革命は放映されない 第9講 広告と消費の誘惑 第10講 Instagramのレトリック 第11講 スポーツのメディア表象 第12講 「異なる身体」の表象 第13講 性的マイノリティへのまなざし 第14講 氾濫する英語のレトリック 第15講 まとめ				
テキスト・教材（参考文献）	『メディア・レトリック論』 青沼智（他）著 ナカニシヤ出版 2400円				
事前・事後学習	毎回、予習用の課題を出すのでテキストに従って課題を作成してください。（180分）				
成績評価方法	講義への参加度（発言等）：30% 講義期間中のレポート：30% 最終レポート：40%				
授業内の課題・提出方法	講義期間中の予習課題は、講義中に指名して発表してもらおうのでいつでも発表できるように準備しておいてください。				
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	講義内での発表にその都度コメントします。指名時に発表の準備ができていない場合は、その時間は欠席扱いとします。				
アクティブラーニング	課題の回答に関して毎回議論します。				
実務経験のある教員					
担当者から一言	ここ数年でメディアのあり方が大きく変わってきています。基本的にはテキストの内容に従って進めますが、状況や情勢を見ながら内容を多少変更するかもしれません。				

授業科目名	アジア文化論		科目コード	371408	授業コード	421501
担当教員	加納 光		科目ナンバリング	ECF2005		
配当年次	2	開講学期	後学期	単位数	2.0	必修／選択 選 択
授業の位置づけ	多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる					
授業のねらい	世界のさまざまな文化の比較を通して、その違いや共通点を探り出し、異文化間の相互理解と自文化に対する理解をより深めることをこの授業の最大のねらいとします。世界のさまざまな文化圏にはそれぞれ異なった文化が存在しています。それぞれの文化にはその根底にどのような価値観や行動規範があるのか、そうしたそれぞれの価値体系をさぐることにより、相互、あるいは自文化に対する再評価や問題解決に役立てることが出来ます。そうしたことを学ぶ機会にしたいと考えています。講義中に、受講生自身が特定のテーマについて調べ、レポートにまとめ発					
到達目標	異なる文化や歴史的、社会的背景を比較することにより、文化の多様性や共通性を理解し、それによって異文化間の交流をよりスムーズに行えるようになること。また、異文化間に存在する諸問題の解決方法を自分なりに導き出せるようにすること。					
授業計画	第1講：ガイダンス、講義の概要 第2講：「文化」とは、「比較文化論」とは何か（課題1） 第3講：「異文化理解」その1 第4講：「異文化理解」その2（課題2） 第5講：「異文化理解」その3 第6講：「異文化理解」その4（課題3） 第7講：「多文化共生社会と異文化コミュニケーション」1 第8講：「多文化共生社会と異文化コミュニケーション」2（課題4） 第9講：「言語文化」の比較（その1） 第10講：「言語文化」の比較（その2）（課題5） 第11講：「日中言語・文化」の比較a 第12講：「日中言語・文化」の比較b（課題6） 第13講：「日中文化」の比較a 第14講：「日中文化」の比較b（課題7） 第15講：「日中文化」の比較c・まとめ（課題8） 定期試験 注 進度および授業内容はクラスの状況に応じて変更する場合があります。					
テキスト・教材（参考文献）	プリント教材（講義内容に応じて、適宜配布します）。					
事前・事後学習	毎回のテーマに関する内容を事前に調べ授業に臨んでください（90分）。授業後は、学習内容の理解を定着させるために再度しっかり復習してください（90分）。事前学習の内容については、毎回の授業終了時に連絡する予定です。					
成績評価方法	定期試験60%、課題レポート40%をもとに、総合的に評価します。授業中もしくは授業後に寄せられた質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。					
授業内の課題・提出方法	講義内における課題は、Moodle、あるいは講義内に直接担当教員に提出すること。どちらの方法で提出するのは、そのつど指示します。					
授業内の課題・提出物のフィードバック方法	授業中の課題や質問に対しては、適宜、授業内で回答していきます。					
アクティブラーニング	小レポート／小テスト					
実務経験のある教員						
担当者から一言	日頃から自国についてはもちろんのこと、世界各国・地域の歴史・文化・社会などに関心に向け、理解を深める取り組みをしてください。なお、遅刻、中座、飲食、私語、携帯の使用は原則禁止します。積極的な授業参加を期待しています。					